



Cisco Spaces リリースノート

初版：2022年7月6日

最終更新：2023年5月16日

シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先：シスコ コンタクトセンター

0120-092-255（フリーコール、携帯・PHS含む）

電話受付時間：平日 10:00～12:00、13:00～17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>

【注意】 シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意（ www.cisco.com/jp/go/safety_warning/ ）をご確認ください。本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

THE SPECIFICATIONS AND INFORMATION REGARDING THE PRODUCTS IN THIS MANUAL ARE SUBJECT TO CHANGE WITHOUT NOTICE. ALL STATEMENTS, INFORMATION, AND RECOMMENDATIONS IN THIS MANUAL ARE BELIEVED TO BE ACCURATE BUT ARE PRESENTED WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED. USERS MUST TAKE FULL RESPONSIBILITY FOR THEIR APPLICATION OF ANY PRODUCTS.

THE SOFTWARE LICENSE AND LIMITED WARRANTY FOR THE ACCOMPANYING PRODUCT ARE SET FORTH IN THE INFORMATION PACKET THAT SHIPPED WITH THE PRODUCT AND ARE INCORPORATED HEREIN BY THIS REFERENCE. IF YOU ARE UNABLE TO LOCATE THE SOFTWARE LICENSE OR LIMITED WARRANTY, CONTACT YOUR CISCO REPRESENTATIVE FOR A COPY.

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

NOTWITHSTANDING ANY OTHER WARRANTY HEREIN, ALL DOCUMENT FILES AND SOFTWARE OF THESE SUPPLIERS ARE PROVIDED "AS IS" WITH ALL FAULTS. CISCO AND THE ABOVE-NAMED SUPPLIERS DISCLAIM ALL WARRANTIES, EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, THOSE OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT OR ARISING FROM A COURSE OF DEALING, USAGE, OR TRADE PRACTICE.

IN NO EVENT SHALL CISCO OR ITS SUPPLIERS BE LIABLE FOR ANY INDIRECT, SPECIAL, CONSEQUENTIAL, OR INCIDENTAL DAMAGES, INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, LOST PROFITS OR LOSS OR DAMAGE TO DATA ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THIS MANUAL, EVEN IF CISCO OR ITS SUPPLIERS HAVE BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

Any Internet Protocol (IP) addresses and phone numbers used in this document are not intended to be actual addresses and phone numbers. Any examples, command display output, network topology diagrams, and other figures included in the document are shown for illustrative purposes only. Any use of actual IP addresses or phone numbers in illustrative content is unintentional and coincidental.

All printed copies and duplicate soft copies of this document are considered uncontrolled. See the current online version for the latest version.

Cisco has more than 200 offices worldwide. Addresses and phone numbers are listed on the Cisco website at www.cisco.com/go/offices.

The documentation set for this product strives to use bias-free language. For purposes of this documentation set, bias-free is defined as language that does not imply discrimination based on age, disability, gender, racial identity, ethnic identity, sexual orientation, socioeconomic status, and intersectionality. Exceptions may be present in the documentation due to language that is hardcoded in the user interfaces of the product software, language used based on standards documentation, or language that is used by a referenced third-party product.

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: <https://www.cisco.com/c/en/us/about/legal/trademarks.html>. Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1721R)

© 2019–2023 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.



目次

Full Cisco Trademarks with Software License ?

第 1 章

概要 1

Cisco Spaces の概要 1

Cisco Spaces ライセンスパッケージ 3

Cisco Spaces : 製品の機能 4

第 1 部 :

2023 7

第 2 章

2023 年 4 月 9

今回のリリースでの新機能 9

このリリースでの変更点 9

不具合 10

未解決の不具合 10

解決済みの不具合 10

第 3 章

2023 年 3 月 11

今回のリリースでの新機能 11

このリリースでの変更点 11

不具合 13

未解決の不具合 13

解決済みの不具合 13

第 4 章

2023 年 2 月 15

今回のリリースでの新機能	15
このリリースでの変更点	15
不具合	16
未解決の不具合	16
解決済みの不具合	17

第 5 章	2023 年 1 月	19
	今回のリリースでの新機能	19
	このリリースでの変更点	19
	不具合	19
	未解決の不具合	20
	解決済みの不具合	20

第 II 部 :	2022	21
----------	-------------	----

第 6 章	2022 年 12 月	23
	今回のリリースでの新機能	23
	このリリースでの変更点	23
	不具合	25
	未解決の不具合	25
	解決済みの不具合	25

第 7 章	2022 年 11 月	27
	今回のリリースでの新機能	27
	このリリースでの変更点	27
	不具合	28
	解決済みの不具合	29

第 8 章	2022 年 10 月	31
	今回のリリースでの新機能	31
	このリリースでの変更点	31

不具合	32
未解決の不具合	32
解決済みの不具合	33

第 9 章	2022 年 9 月	35
	今回のリリースでの新機能	35
	このリリースでの変更点	36
	不具合	37
	解決済みの不具合	37

第 10 章	2022 年 8 月	39
	今回のリリースでの新機能	39
	このリリースでの変更点	39
	不具合	40

第 11 章	2022 年 7 月	43
	今回のリリースでの新機能	43
	このリリースでの変更点	44
	不具合	44

第 12 章	2022 年 6 月	45
	今回のリリースでの新機能	45
	このリリースでの変更点	46
	不具合	47
	シスコバグ検索ツール	47
	未解決の不具合	47
	解決済みの不具合	47

第 13 章	2022 年 5 月	49
	今回のリリースでの新機能	49
	このリリースでの変更点	50

不具合	50
シスコバグ検索ツール	51
未解決の不具合	51
解決済みの不具合	51

第 14 章	2022 年 4 月	53
	今回のリリースでの新機能	53
	このリリースでの変更点	53
	不具合	54
	シスコバグ検索ツール	55
	未解決の不具合	55
	解決済みの不具合	55

第 15 章	2022 年 3 月	57
	今回のリリースでの新機能	57
	このリリースでの変更点	57
	不具合	58
	シスコバグ検索ツール	58
	未解決の不具合	58
	解決済みの不具合	58

第 16 章	2022 年 2 月	59
	今回のリリースでの新機能	59
	このリリースでの変更点	59
	不具合	59
	シスコバグ検索ツール	60
	未解決の不具合	60
	解決済みの不具合	60

第 17 章	2022 年 1 月	61
	今回のリリースでの新機能	61

このリリースでの変更点	61
不具合	61
シスコバグ検索ツール	62
未解決の不具合	62
解決済みの不具合	62

第 III 部 : **2021 年** 63

第 18 章	2021 年 12 月	65
	今回のリリースでの新機能	65
	このリリースでの変更点	65
	不具合	66
	シスコバグ検索ツール	66
	未解決の不具合	66
	解決済みの不具合	66

第 19 章	2021 年 11 月	67
	今回のリリースでの新機能	67
	このリリースでの変更点	67
	不具合	68
	シスコバグ検索ツール	68
	未解決の不具合	68
	解決済みの不具合	69

第 20 章	2021 年 10 月	71
	今回のリリースでの新機能	71
	このリリースでの変更点	71
	不具合	71
	シスコバグ検索ツール	72
	未解決の不具合	72
	解決済みの不具合	72

第 21 章	2021 年 9 月	73
	今回のリリースでの新機能	73
	このリリースでの変更点	75
	不具合	75
	シスコバグ検索ツール	76
	未解決の不具合	76
	解決済みの不具合	76

第 22 章	2021 年 8 月	77
	今回のリリースでの新機能	77
	このリリースでの変更点	77
	不具合	78
	シスコバグ検索ツール	78
	未解決の不具合	78
	解決済みの不具合	79

第 23 章	2021 年 7 月	81
	今回のリリースでの新機能	81
	このリリースでの変更点	81
	不具合	82
	シスコバグ検索ツール	82
	未解決の不具合	82
	解決済みの不具合	82

第 24 章	2021 年 6 月	83
	今回のリリースでの新機能	83
	このリリースでの変更点	84
	不具合	84
	シスコバグ検索ツール	85
	未解決の不具合	85

解決済みの不具合 85

第 25 章

2021 年 5 月 87

今回のリリースでの新機能 87

このリリースでの変更点 87

不具合 88

シスコバグ検索ツール 88

未解決の不具合 88

解決済みの不具合 89

第 26 章

2021 年 4 月 91

今回のリリースでの新機能 91

このリリースでの変更点 92

不具合 92

シスコバグ検索ツール 92

未解決の不具合 93

解決済みの不具合 93

第 27 章

2021 年 3 月 95

今回のリリースでの新機能 95

このリリースでの変更点 96

不具合 97

シスコバグ検索ツール 97

未解決の不具合 97

解決済みの不具合 97

第 28 章

2021 年 2 月 99

今回のリリースでの新機能 99

このリリースでの変更点 100

不具合 100

シスコバグ検索ツール 101

未解決の不具合	101
解決済みの不具合	101

第 29 章	2021 年 1 月	103
	今回のリリースでの新機能	103
	このリリースでの変更点	104
	不具合	105
	シスコバグ検索ツール	105
	未解決の不具合	105
	解決済みの不具合	106

第 IV 部 :	2020	107
----------	-------------	------------

第 30 章	2020 年 12 月	109
	Cisco Spaces の概要	109
	今回のリリースでの新機能	111
	このリリースでの変更点	111
	不具合	111
	シスコバグ検索ツール	112
	未解決の不具合	112
	解決済みの不具合	112

第 31 章	2020 年 11 月	113
	Cisco Spaces の概要	113
	今回のリリースでの新機能	115
	このリリースでの変更点	116
	不具合	117
	シスコバグ検索ツール	117
	未解決の不具合	117
	解決済みの不具合	118

第 32 章**2020 年 10 月 119**

- Cisco Spaces の概要 119
- 今回のリリースでの新機能 121
- このリリースでの変更点 121
- 不具合 123
 - シスコバグ検索ツール 123
 - 未解決の不具合 123
 - 解決済みの不具合 124

第 33 章**2020 年 9 月 125**

- Cisco Spaces の概要 125
- 新機能 : 2020 年 9 月 127
 - Cisco Spaces ダッシュボード 127
- 機能強化 : 2020 年 9 月 128
 - Cisco Spaces ダッシュボード 128
- Cisco Spaces ランタイム 129
 - エンタープライズ キャプティブ ポータルの機能強化 129
- 不具合 129
 - シスコバグ検索ツール 129
 - 未解決のバグ 129
 - 修正されたバグ 130

第 34 章**2020 年 8 月 131**

- Cisco Spaces の概要 131
- 新機能 : 2020 年 8 月 133
 - Cisco Spaces ダッシュボード 133
- 機能強化 : 2020 年 8 月 134
 - Cisco Spaces ダッシュボード 134
 - Cisco Spaces パートナーダッシュボード 135
- Cisco Spaces ランタイム 136

エンタープライズ キャプティブ ポータルの機能強化	136
不具合	136
シスコバグ検索ツール	136
未解決のバグ	137
修正されたバグ	137

第 35 章**2020 年 7 月 139**

Cisco Spaces の概要	139
新機能：2020 年 7 月	141
Cisco Spaces ダッシュボード	141
機能強化：2020 年 7 月	143
Cisco Spaces ダッシュボード	143
Cisco Spaces パートナーダッシュボード	144
Cisco Spaces ランタイム	145
エンタープライズ キャプティブ ポータルの機能強化	145
不具合	145
シスコバグ検索ツール	146
未解決のバグ	146
修正されたバグ	146

第 36 章**2020 年 6 月 147**

Cisco Spaces の概要	147
新機能：2020 年 6 月	149
Cisco Spaces ダッシュボード	149
機能強化：2020 年 6 月	151
Cisco Spaces ダッシュボード	151
不具合	152
シスコバグ検索ツール	153
未解決のバグ	153
修正されたバグ	153

第 37 章**2020 年 5 月 155**

Cisco Spaces の概要 155

新機能 : 2020 年 5 月 157

Cisco Spaces ダッシュボード 157

機能強化 : 2020 年 5 月 158

Cisco Spaces ダッシュボード 158

Cisco Spaces ランタイム 159

エンタープライズ キャプティブ ポータルの Radius 認証 159

不具合 159

シスコバグ検索ツール 160

未解決のバグ 160

修正されたバグ 161

第 38 章**2020 年 4 月 163**

Cisco Spaces の概要 163

新機能 : 2020 年 4 月 164

Cisco Spaces ダッシュボード 164

機能強化 : 2020 年 4 月 165

Cisco Spaces ダッシュボード 165

Cisco Spaces ランタイム 166

ブラウザでの自動入力の問題 166

電話番号データキャプチャフォームのプレースホルダーテキスト 166

不具合 166

シスコバグ検索ツール 166

未解決のバグ 167

修正されたバグ 167

第 39 章**2020 年 3 月 169**

Cisco Spaces の概要 169

新機能 : 2020 年 3 月 170

Cisco Spaces ダッシュボード	170
不具合	172
シスコバグ検索ツール	173
未解決のバグ	173
修正されたバグ	173

第 40 章**2020 年 2 月 175**

Cisco Spaces の概要	175
新機能 : 2020 年 2 月	176
Cisco Spaces ダッシュボード	176
機能強化 : 2020 年 2 月	176
Cisco Spaces ダッシュボード	176
Cisco Spaces ランタイム	177
Instagram によるキャプティブポータル認証	177
不具合	177
シスコバグ検索ツール	178
未解決のバグ	178
修正されたバグ	178

第 41 章**2020 年 1 月 181**

Cisco Spaces の概要	181
新機能 : 2020 年 1 月	182
Cisco Spaces ダッシュボード	182
機能強化 : 2020 年 1 月	183
Cisco Spaces ダッシュボード	183
Cisco Spaces ランタイム	184
アクセスコードベースの認証サポート	184
不具合	184
シスコバグ検索ツール	184
未解決のバグ	185
修正されたバグ	185

第 V 部 :	2019 年	187
第 42 章	2019 年 12 月	189
	Cisco Spaces の概要	189
	新機能 : 2019 年 12 月	190
	Cisco Spaces ダッシュボード	190
	機能強化 : 2019 年 12 月	191
	Cisco Spaces ダッシュボード	191
	不具合	192
	シスコバグ検索ツール	192
	未解決のバグ	192
	修正されたバグ	193
第 43 章	2019 年 11 月	195
	Cisco Spaces の概要	195
	新機能 : 2019 年 11 月	196
	Cisco Spaces ダッシュボード	196
	機能強化 : 2019 年 11 月	198
	Cisco Spaces ダッシュボード	198
	不具合	199
	シスコバグ検索ツール	199
	未解決のバグ	199
	修正されたバグ	200
第 44 章	2019 年 10 月	201
	Cisco Spaces の概要	201
	新機能 : 2019 年 10 月	202
	Cisco Spaces ダッシュボード	202
	機能強化 : 2019 年 10 月	203
	Cisco Spaces ダッシュボード	203

不具合	203
シスコバグ検索ツール	203
未解決のバグ	204
修正されたバグ	204

第 45 章**2019 年 9 月 207**

Cisco Spaces の概要	207
新機能 : 2019 年 9 月	208
Cisco Spaces ダッシュボード	208
機能強化 : 2019 年 9 月	209
Cisco Spaces ランタイム	209
不具合	209
シスコバグ検索ツール	210
未解決のバグ	210
修正されたバグ	211

第 46 章**2019 年 8 月 213**

Cisco Spaces の概要	213
新機能 : 2019 年 8 月	214
Cisco Spaces ダッシュボード	214
Cisco Spaces ランタイム	215
データ収集フォーム	215
機能強化 : 2019 年 8 月	216
Cisco Spaces ダッシュボード	216
不具合	216
シスコバグ検索ツール	216
未解決のバグ	217
修正されたバグ	218

第 47 章**2019 年 7 月 219**

Cisco Spaces の概要	219
------------------	-----

新機能：7月19日	221
Cisco Spaces ダッシュボード	221
機能強化：7月19日	222
Cisco Spaces ダッシュボード	222
不具合	223
シスコバグ検索ツール	223
未解決のバグ	224
修正されたバグ	224

 第 48 章

1.4 225

Cisco Spaces の概要	225
リリース 1.4 の新機能	226
Cisco Spaces ダッシュボード	226
リリース 1.4 の新機能	228
Cisco Spaces ダッシュボード	228
Cisco Spaces ランタイム	231
リリース 1.4 の機能強化	231
Cisco Spaces ダッシュボード	231
Cisco Spaces ランタイム	231
不具合	232
シスコバグ検索ツール	232
未解決のバグ：リリース 1.4	233
修正されたバグ：リリース 1.4	233

 第 49 章

1.3 235

Cisco Spaces の概要	235
リリース 1.3 の新機能	235
Cisco Spaces ダッシュボード	235
Cisco Spaces ランタイム	237
リリース 1.3 の機能強化	237
Cisco Spaces ランタイム	237

不具合	238
シスコバグ検索ツール	238
未解決のバグ：リリース 1.3	238
修正されたバグ：リリース 1.3	238

第 50 章**1.2 239**

Cisco Spaces の概要	239
リリース 1.2 の新機能	240
設定	240
Cisco Spaces コネクタと CMX テザリング	240
行動メトリクス	241
ネットワークロケーションのインポート中の自動更新通知 URL	241
リリース 1.2 の機能強化	241
Cisco Spaces ダッシュボード	241
Cisco Spaces ランタイム	242
不具合	242
シスコバグ検索ツール	242
未解決のバグ：リリース 1.2	243
修正されたバグ：リリース 1.2	243

第 51 章**1.1 245**

Cisco Spaces の概要	245
リリース 1.1 の新機能	245
Cisco Spaces への自動プロビジョニングアクセス	246
行動メトリクスのベンチマーク	246
ネットワークロケーションの地理的位置	247
リリース 1.1 の機能強化	247
アプリへの自動ログイン	247
インストーラ ロール	247
パスワードの有効期限切れの通知	248
不具合	248

シスコバグ検索ツール	248
未解決のバグ：リリース 1.1	249
修正されたバグ：リリース 1.1	250

第 52 章**1.0 253**

Cisco Spaces の概要	253
Cisco Spaces の機能	254
デジタル化に関する統計情報	254
アプリ	254
ロケーション階層	258
モニタリングとサポート	259
チーム	260
設定	260
ワイヤレス ネットワーク ステータス	261
CMX クラウドテザリング	261
ライセンス情報	262
不具合	262
シスコバグ検索ツール	262
未解決のバグ：リリース 1.0	262

付録 A :

サポート情報	265
関連資料	265
通信、サービス、およびその他の情報	266
Cisco バグ検索ツール	266
マニュアルに関するフィードバック	266



第 1 章

概要



(注) **Cisco DNA Spaces** の名称が **Cisco Spaces** に変更されました。現在、新しい名前でドキュメントを更新しています。これには、GUI と対応する手順、スクリーンショット、および URL の更新が含まれます。今後のいくつかのリリースでは、**Cisco DNA Spaces** と **Cisco Spaces** の両方が登場する可能性があります。引き続きご協力のほどよろしくお願いいたします。

- [Cisco Spaces の概要 \(1 ページ\)](#)
- [Cisco Spaces ライセンスパッケージ \(3 ページ\)](#)
- [Cisco Spaces : 製品の機能 \(4 ページ\)](#)

Cisco Spaces の概要

Cisco Spaces は、既存のワイヤレスに加え、Internet of Things (IoT) および Bluetooth Low Energy (BLE) インフラストラクチャを活用して、Cisco Spaces に組み込まれたアプリケーションを通じて実用的な知見を提供し、ビジネスの成果を促進する強力なロケーションサービスプラットフォームです。

この知見には次のものが含まれます。

- **位置分析** : 時間や位置によるロケーションデータのスライスとダイスを行い、ネットワークに接続しているユーザーの行動をより詳細に可視化する機能を提供します。
- **Right Now** : 物理的スペース内のリアルタイムの訪問者数 (Wi-Fi に接続されているデバイスで識別) 、およびこの数を履歴平均と比較する方法を提供します。**Right Now** レポートでは、使用されている認証方法に基づいて、1 人のユーザーに属する複数のデバイスを検出し、それらのデバイスを 1 人の訪問者に属するものとしてカウントできます。また、**Right Now** アプリは、お客様のロケーションに配置されたカメラ、およびこれらのカメラが Cisco Spaces クラウドに接続されているかどうかに基づいて、レポートを提供します。
- **ビジネスインサイト** : 人々がお客様の物理ロケーションに訪れる頻度と、それらのロケーションに滞在する時間を測定する機能を提供します。このデータは、すべてのロケーションにわたり、月単位で比較評価されます。また、ロケーションのパフォーマンスを経時的、グループ別、または業界別に比較評価する機能も用意されています。

- **影響分析**：ネットワークに接続しているユーザーの行動に対する、特定の場所でのイベント、キャンペーン、レイアウト変更の影響を測定する機能を提供します。Cisco Spaces アプリケーションを使用して簡単に**イベント**を作成し、次の項目に基づいてその影響を測定できます。
 - 特定の場所でユーザーが費やした時間
 - イベントの**発生前**、**発生後**、**発生中**など、特定のタイムラインでの頻度

Cisco Spaces アプリケーションには、**キャプティブポータル**、**ロケーションペルソナ**、**エンゲージメント**など、カスタマーエクスペリエンス管理アプリが含まれており、お客様の物理ロケーションに顧客がいるときにリアルタイムで顧客とつながることができます。その他のアプリケーションとして、**アセットトラッキング**アプリ、IoT サービス (BLE) を管理および設定するためのサービスマネージャ、さらにはこのデータを抽出して他のエンタープライズシステムとの関連付けまたは統合を行うためのオープン API フレームワークもあります。

Cisco Spaces は、さまざまなロケーションベースのテクノロジーやインテリジェンスを通じて各種のサービスを利用できる単一のダッシュボードインターフェイスを備えています。また、Cisco Spaces では、お客様の物理的なビジネスロケーションへの訪問者につながり、関係を深めることもできます。小売、製造、サービス業、医療、教育、金融など、さまざまな業界で使用できます。Cisco Spaces のアセットトラッキングアプリケーションは、お客様施設内の資産を監視および管理するためのソリューションを提供します。Cisco Spaces には、これらの知見をアクションに変えるためのさまざまなツールキット、アプリ、およびAPIが用意されています。

Cisco Spaces では、パートナープログラムを通じて、さまざまな業種にわたるさまざまなパートナーアプリケーションにアクセスできます。

Cisco Spaces は、Cisco Catalyst、Cisco AireOS、および Cisco Meraki インフラストラクチャと互換性があります。

記載のサービスに加えて、Cisco Spaces のアプリは、COVID-19 のパンデミックによって増大したビジネス要件に対応できるように強化されています。COVID-19 に伴い重要性が増した特定の要件を満たすために、拡張機能が既存のアプリケーションに組み込まれており、新しいアプリケーションが追加されています。**影響分析**、**位置分析**、**行動メトリクス**、**Right Now** などのアプリの拡張機能を使用すると、ビジネスロケーションに対する COVID-19 の影響を分析し、適切なアクションを実行できます。たとえば、特定の場所のデバイス密度に基づくルールを作成し、その場所の人数が特定の数または密度 (エリアあたりの人数) を超えた場合に自動的に通知を受けられるようになりました。また、**位置分析**アプリでは、組織内の同僚とエグゼクティブ サマリー レポートを共有することもできます。さらに、**行動メトリクス**アプリを使用して、個人またはグループのロケーションに関する COVID-19 ベースの傾向分析を実行できるようになりました。これにより、特定のビジネスロケーションを組織全体と比較したり、特定の業界と比較したりすることもできます。

Cisco Spaces の **Proximity Reporting** アプリでは、影響を受けるデバイスの位置履歴やデバイス近接履歴をすばやく確認できます。ユーザー ID または MAC アドレスに基づいて、過去 14 日間の建物内におけるデバイスの位置に関するレポートが、他のデバイスとの近接度とともに生成されます。レポートをエクスポートし、**共有機能**を使用して共有することもできます。

Proximity Reporting アプリの詳細については、『[Cisco Spaces Proximity Reporting App Configuration Guide](#)』[英語]を参照してください。

同様に、**検出と位置特定**アプリを使用すると、デバイスを特定の数にまとめて、社会的距離のガイドラインに違反している可能性のあるエリアについてチェックし、報告することができます。**検出と位置特定**アプリの詳細については、『[Cisco Spaces Detect and Locate Configuration Guide](#)』[英語]を参照してください。

Cisco Spaces : **IoT サービス**は、Cisco Spaces 内のプラットフォームサービスで、シスコのワイヤレス インフラストラクチャを使用して IoT デバイスを要求、管理、および監視できます。IoT サービスは、複数のベンダー、フォームファクタ、テクノロジープロトコルにまたがって IoT デバイスを管理できるように設計されています。BLE は、IoT サービスを使用した管理に利用できる業界初の技術です。IoT サービスの詳細については、『[Cisco Spaces IoT Services Configuration Guide](#)』[英語]を参照してください。

Cisco Spaces では、サードパーティアプリ、つまり**パートナーアプリ**を Cisco Spaces に統合できます。サードパーティアプリは、Cisco Spaces ダッシュボードにパートナーシップアプリとして表示されます。

セットアップや構成を含む、Cisco Spaces の詳細については、『[Cisco Spaces Configuration Guide](#)』[英語]を参照してください。

Cisco Spaces ライセンスパッケージ

Cisco Spaces は、**See**（基本）、**Act**（高度）、**Extend** という 3 種類のライセンスパッケージで利用できます。アカウントで使用できる機能は、所有する Cisco Spaces ライセンスパッケージのタイプによって異なります。

Cisco Spaces See、Extend、および Act ライセンスに含まれる機能については、『[Cisco Spaces Data Sheet](#)』[英語]を参照してください。

Cisco Smart Licensing

シスコ スマート ライセンシングは、シスコ ポートフォリオ全体および組織全体でソフトウェアをより簡単かつ迅速に一貫して購入および管理できる柔軟なライセンスモデルです。また、これは安全です。ユーザーがアクセスできるものを制御できます。スマートライセンスを使用すると、次のことが可能になります。

- **簡単なアクティベーション**：スマートライセンスは、組織全体で使用できるソフトウェアライセンスのプールを確立します。PAK（製品アクティベーションキー）は不要です。
- **管理の統合**：My Cisco Entitlements（MCE）は、使いやすいポータルですべてのシスコ製品とサービスの完全なビューを提供します。
- **ライセンスの柔軟性**：ソフトウェアはハードウェアにノードロックされていないため、必要に応じてライセンスを簡単に使用および転送できます。



(注) スマートライセンスを使用するには、まず [Cisco Software Central](#) でスマートアカウントを設定する必要があります。

シスコのライセンスの詳細については、『[Cisco Software Licensing Guide](#)』を参照してください。

Cisco Spaces : 製品の機能

Cisco Spaces ユニファイドロケーションクラウドは、複数のセンサーとプロセスからの入力を取得し、データをフィルタ処理してクレンジングし、このデータに基づいて動作するツールキットを提供します。また、パートナー（独立系ソフトウェアベンダー、エンタープライズソフトウェア、およびビジネス成果を上げるためのソリューションパートナー）がこのデータにアクセスできるようにします。

表 1: その他の利点

可視性 : ビジネスインサイト	拡張 : パートナーサービスへ	処理 : デジタル化ツールキットの活用
動作メトリック 人と資産が自分の資産内でどのように動作するか。	パートナー アプリケーションセンター Cisco Spaces App Center を使用して、業種に重点を置いたロケーションベースのサービスアプリケーションを検出します	キャプティブ ポータル 訪問者を取得して識別し、企業のアイデンティティにマッピングします
位置分析 特定の場所および期間における行動パターンは何か。	Partner Firehose API 信頼性の高い、高品質のロケーション、環境、および訪問者データをパートナーに提供し、ユーザーのプライバシーとデータセキュリティを強力に実施します	ロケーションペルソナ 行動に基づいて訪問者をプロフィールおよびセグメント化します

可視性：ビジネスインサイト	拡張：パートナーサービスへ	処理：デジタル化ツールキットの活用
ベンチマーク 業界や組織とパフォーマンスを比較します	パートナーアプリケーションのモニタリング オンプレミスのパートナーアプリケーションからのロケーションデータをエンドツーエンドでモニタリングします モニタリングおよびサポートダッシュボードにより、パートナーアプリケーションをモニタリングおよびサポートします	エンゲージメント 複数のチャンネル（SMS、電子メール、アプリプッシュ、API トリガー、Webex Teams など）を介して訪問者と従業員に通知をトリガーします。
ロケーション階層 ビジネス分類をネットワークインフラストラクチャにマッピングします	ストリーミングデータのエクスポート ビッグデータ、分析、エンタープライズアプリケーションへの取り込みをサポートするように最適化されたカスタマイズ可能なストリーミングエクスポート	資産ロケータ 資産の特定と監視、異常の検出
検出と検索（RSSI） クラウドベースの検出と検索、およびRSSIロケーションコンピューティング Cisco CMX 10を使用したオンプレミスの検出と検索、およびRSSIロケーションコンピューティング	エンタープライズ統合 エンタープライズソフトウェアと統合して、ロケーションデータと関連付けます	検出と検索（詳細） 1. クラウドベースの検出と検索、およびデバイスロケーション履歴によるRSSIロケーションコンピューティング 2. HyperLocationのサポートによるクラウドベースの検出と検索
Right Now（密度トリガーなし） スペース内の人とデバイスの数を監視します	特殊なRTLSアプリケーションのサポート クラウドおよびオンプレミスのFirehose APIを使用した、特殊なパートナーRTLSアプリケーションのサポート	Right Now（密度トリガーあり） スペース内の人数を監視し、密度のしきい値に到達または超過したときに通知を送信します

可視性 : ビジネスインサイト	拡張 : パートナーサービスへ	処理 : デジタル化ツールキットの活用
影響分析 ロケーション動作に対するイベント、キャンペーン、またはレイアウト変更の影響を測定します	Cisco Spaces See 内のすべてを含む	プロキシミティレポート ゾーン、フロア、建物、および他の人との接触があった可能性における健康上の問題の影響を要約します
Cisco DNA Center の統合 Cisco Spaces と Cisco DNA Center の間でフロアマップと階層の同期を維持し、IT の使用例のために Cisco DNA Center にロケーションデータを送信します		屋内 IoT サービス 大規模かつ大幅に低い TCO で IoT デバイスとアプリケーションを導入します。広範な BLE タグ、ビーコン、およびその他のセンサーを導入して使用例を拡大します
カメラメトリック Meraki Video カメラを使用して、リアルタイムの訪問者数の測定値として、足跡の数と履歴の傾向をレポートします。		ハイパーロケーション/FastLocate Cisco Spaces コネクタの使用
OpenRoaming 有線および Wi-Fi ネットワークへのセキュアでシームレスなゲストオンボーディング		Cisco Spaces Extend 内のすべてを含む



第 **1** 部

2023

- 2023 年 4 月 (9 ページ)
- 2023 年 3 月 (11 ページ)
- 2023 年 2 月 (15 ページ)
- 2023 年 1 月 (19 ページ)



第 2 章

2023 年 4 月

- 今回のリリースでの新機能 (9 ページ)
- このリリースでの変更点 (9 ページ)
- 不具合 (10 ページ)

今回のリリースでの新機能

Cisco Spaces のこのリリースに新機能はありません。

このリリースでの変更点

パフォーマンスの最適化

このリリースでは、Cisco Spaces アプリケーションのパフォーマンスが改善されています。アプリケーションのバックエンドパフォーマンスは、データ処理パイプラインを改善し、システムのオーバーヘッドを削減するように最適化されています。

Cisco Spaces ダッシュボード

Cisco Spaces ダッシュボードでは、次の機能強化が加えられました。

IoT エクスプローラ

IoT エクスプローラアプリは、AP センサーデバイスからの X 座標と Y 座標をレポートできるように機能が拡張されました。

Cisco Spaces : コネクタ 3

デフォルトでは、新しい Cisco Spaces : コネクタ 3 インスタンスが追加されると、ロケーションサービスが有効になります。

不具合

不具合では、Cisco Spaces アプリケーションでの予期しない動作について説明します。「未解決の不具合」と「解決済みの不具合」では、このリリースの不具合を示します。

未解決の不具合

ここでは、Cisco Spaces のこのリリースにおける未解決の不具合を示します。

表 2: Cisco Spaces 未解決の不具合

不具合の識別子	不具合の説明
CSCwf16696	アセットトラッキング：ユースケースにインポートするために表示されるアセットの数が、使用可能なアセットよりも多い

解決済みの不具合

ここでは、Cisco Spaces のこのリリースで解決済みの不具合について説明します。

表 3: Cisco Spaces 解決済みの不具合

不具合の識別子	不具合の説明
CSCwe86258	位置分析：カスタムレポートで、編集ウィンドウページから SSID を変更できない
CSCwd00980	OpenRoaming：[ネットワーク設定 (Network Configuration)] セクションに表示される、展開されているコントローラの数が正しくない
CSCwe89680	Cisco Detect & Locate で、Meraki AP がフロアマップに正しく配置されない
CSCwe29576	ロケーションサービスが Cisco Spaces：コネクタ 3 に自動的に追加されない



第 3 章

2023 年 3 月

- 今回のリリースでの新機能 (11 ページ)
- このリリースでの変更点 (11 ページ)
- 不具合 (13 ページ)

今回のリリースでの新機能

新しいソフトウェアリリース

Cisco Spaces : コネクタ 3 の Amazon マシンイメージ (AMI) のバージョンは、Amazon Web Services (AWS) Marketplace に公開されています。詳細については、『[Cisco Spaces: Connector 3 Configuration Guide](#)』を参照してください。

Cisco Spaces : コネクタ 3

デフォルトでは、新しい **Cisco Spaces** : コネクタ 3 インスタンスが追加されると、ロケーションが追加されます。

このリリースでの変更点

Cisco Spaces ダッシュボード

Cisco Spaces ダッシュボードでは、次の機能強化が加えられました。

位置分析

位置分析アプリの GUI が刷新され、ユーザー体験が強化しました。この刷新では、ユーザー体験の向上と、ユーザーが位置分析データから生成できる価値の強化に重点が置かれています。

この刷新は、メトリックの計算や数値には影響しません。

この刷新の主要なメリットは、次のとおりです。

- 2セットのロケーション、SSID、および期間を比較する機能
- タイルやチャートを再配置してレポートビューをカスタマイズする機能
- テンプレートを使用してカスタムレポートを作成する機能



- (注) 刷新されたカスタムレポートには、既存のカスタムレポートとの下位互換性はありません（このリリースより前に作成されたカスタムレポートは Cisco Spaces ダッシュボードに表示されません）。

ロケーション階層 2.0 のグローバル RBAC

ロケーション階層 2.0 は、Cisco Spaces ユーザーがアクセスできるロケーションのみを表示するように機能拡張されました。これらのロケーションへのアクセス可能性は、ロールを作成または編集するか、[管理者管理 (Admin Management)] で Cisco Spaces ユーザーを招待または編集するときに定義されます。



- (注)
- このグローバルロールベースアクセスコントロール (GRBAC) 機能は、ロケーション階層 1.0 でサポートされています。
 - GRBAC 機能は、現在、**Cisco Spaces : 検出と位置特定** アプリユーザー ([Cisco Spaces : 検出と位置特定 (Cisco Spaces: Detect and Locate)] > [ユーザー管理 (User Management)] > [アプリユーザー (App Users)]) ではサポートされていません。

Cisco Spaces ダッシュボードでのスイッチのロケーション統合

Cisco Spaces ダッシュボードでは、[有線ネットワーク (Wired Network)] でスイッチを追加または編集する場合、[ロケーションの追加 (Add locations)] オプションをクリックしてロケーションを選択し、スイッチに関連付けます。

接続のテスト

Cisco Spaces の接続テスト機能は、**Cisco Spaces : コネクタ 3** をサポートするように機能拡張されています。コントローラを追加するときは、接続テスト機能を使用して新しいコントローラのステータスを確認します。



- (注) 接続テスト機能は、**Cisco Spaces : コネクタ 2.x** でサポートされています。

コントローラインポート機能

Cisco Spaces ダッシュボードは、コントローラまたは Cisco スイッチを同じアカウント内の別のコネクタに移動するタスクをサポートするようになりました。

次のコネクタ間でコントローラまたは Cisco スイッチを移動できます。

- Cisco Spaces : コネクタ 2.x から Cisco Spaces : コネクタ 2.x
- Cisco Spaces : コネクタ 2.x から Cisco Spaces : コネクタ 3
- Cisco Spaces : コネクタ 3 から Cisco Spaces : コネクタ 3
- Cisco Spaces : コネクタ 3 から Cisco Spaces : コネクタ 2.x

ソフトウェアリリースの拡張機能

Cisco Spaces : コネクタ 3 ロケーションサービス バージョン 3.0.1.272 がリリースされました。

Cisco Network Services Manager バージョン 3.0.4.13 がリリースされました。

不具合

不具合では、Cisco Spaces アプリケーションでの予期しない動作について説明します。「解決済みの不具合」と「未解決の不具合」では、このリリースの不具合を示します。

未解決の不具合

ここでは、Cisco Spaces のこのリリースにおける未解決の不具合を示します。

表 4: Cisco Spaces 未解決の不具合

不具合の識別子	不具合の説明
CSCwd41670	Cisco DNA Center と Cisco Spaces の間での大規模マップファイル同期のサポート
CSCwe86258	位置分析：カスタムレポートで、編集ウィンドウページから SSID を変更できない

解決済みの不具合

ここでは、Cisco Spaces のこのリリースで解決済みの不具合について説明します。

表 5: Cisco Spaces 解決済みの不具合

不具合の識別子	不具合の説明
CSCwe84200	IoT エクスプローラ：アセット名がデバイスの MAC アドレスによって上書きされる
CSCwe15039	マップサービス UI セクションにフロアマップ画像が表示されない

不具合の識別子	不具合の説明
CSCwe45698	Firehose イベントでは、ゾーンレベルの更新でマップ ID 情報を送信することが予期される



第 4 章

2023 年 2 月

- [今回のリリースでの新機能 \(15 ページ\)](#)
- [このリリースでの変更点 \(15 ページ\)](#)
- [不具合 \(16 ページ\)](#)

今回のリリースでの新機能

Cisco Spaces ダッシュボード

Cisco Spaces ダッシュボードに次の機能が導入されました。

Cisco Spaces : コネクタ 3 での OpenRoaming のサポート

コネクタ 3 での **OpenRoaming** のサポートが有効になりました。Cisco Spaces ダッシュボードから、コネクタ 3 を使用して、次のことを実行できます。

- ホットスポットをサービスとして追加または削除する
- ホットスポットのコントローラを追加または削除する
- デバッグログを有効にして、それらをクラウドにアップロードする

ロケーション階層

ワークスペースを会議室に自動的にマッピングするの新しいバージョン **Cisco Webex** ワークスペース マッピング アルゴリズムが展開されます。

このリリースでの変更点

Cisco Spaces ダッシュボード

Cisco Spaces ダッシュボードでは、次の機能強化が加えられました。

Cisco Webex 統合の一部として、Cisco Spaces は、**Cisco Webex** ナビゲータの永続的な Web アプリとの統合をサポートするようになりました。顧客が **Cisco Webex Control Hub** と Cisco Spaces

の統合をアクティブ化すると、Control Hub で、この統合をサポートする必要な設定が更新されます。



(注) 現在、この統合を利用できるのは **Cisco Smart Workspaces** ユーザーのみです。

Cisco Spaces パートナーダッシュボード

Cisco Spaces パートナーダッシュボードでは、次の機能強化が加えられました。

アプリにアクティブ化がある場合、アプリの削除を許可しない：アプリにアクティブ化がある場合、Cisco Spaces Partner ダッシュボードはアプリの削除をサポートしません。最初にそれぞれのアプリのアクティブ化を削除してから、アプリを削除する必要があります。

不具合

不具合では、Cisco Spaces アプリケーションでの予期しない動作について説明します。「解決済みの不具合」と「未解決の不具合」では、このリリースの不具合を示します。

各不具合について、次の情報が提供されます。

- 識別子：各不具合には、一意の識別子 (ID) が割り当てられます。識別子は CSCxxNNNN というパターンで、*x* は任意の文字 (a ~ z)、*N* は任意の数字 (0 ~ 9) です。これらの ID は、セキュリティアドバイザリ、フィールド通知、その他のシスコのサポートドキュメントなど、シスコのマニュアルでよく使用されます。Technical Assistance Center (TAC) エンジニアまたはその他のシスコのスタッフからも、特定の不具合の ID が提供されます。
- 説明：不具合が発生したときに観察された内容の説明。

未解決の不具合

ここでは、Cisco Spaces のこのリリースにおける未解決の不具合を示します。

表 6: Cisco Spaces 未解決の不具合

不具合の識別子	不具合の説明
CSCwd41670	Cisco DNA Center と Cisco Spaces の間での大規模マップファイル同期のサポート
CSCwe45698	Firehose イベントでは、ゾーンレベルの更新でマップ ID 情報を送信する必要がある

解決済みの不具合

ここでは、Cisco Spaces のこのリリースで解決済みの不具合について説明します。

表 7: Cisco Spaces 解決済みの不具合

不具合の識別子	不具合の説明
CSCwe48569	IoT エクスプローラ: アセットトラッキングのユースケースから BLE タグを削除しても、次の更新でタグが再び追加される
CSCwe34833	SMS Apiserver が同じテナントの 2 つの SMPP ゲートウェイとバインドされない
CSCwe14756	パートナーサイトに渡されるコンテンツタイプが正しくないため、パートナーアプリのアクティブ化に失敗する
CSCwe37381	パートナーアプリがアクティブ化されている場合、そのアプリが削除されると、アプリの設定が破損する
CSCwd13553	Cisco Partner ダッシュボードで、アプリを開いた後に [ホーム (Home)] ページに移動できない
CSCwe20037	Cisco Spaces Prod の統合後、ネットワーク階層の Cisco DNA Center フロアにクライアントが表示されない
CSCwe01529	サブスクリプションの失敗により、Cisco DNA Center にクライアントが表示されない
CSCwe29685	OpenRoaming アプリで読み取り専用アクセス権を持つアプリユーザーの場合、ページが読み込まれない
CSCwd79229	WLC の追加中に、正常に機能している SJC Alpha Cisco Spaces コネクタ 3.0 の「テスト接続」が失敗する
CSCwe38494	エンゲージメントルールで頻度が 1 日に 1 回と設定されている場合、頻度がルールに一致しない



第 5 章

2023 年 1 月

- 今回のリリースでの新機能 (19 ページ)
- このリリースでの変更点 (19 ページ)
- 不具合 (19 ページ)

今回のリリースでの新機能

Cisco Spaces ダッシュボード

Cisco Spaces ダッシュボードに次の機能が導入されました。

ロケーション階層：Cisco Spaces でタグ付けされた Cisco Meraki ネットワークの自動インポートのサポート

CiscoSpaces タグを持つ Cisco Meraki ネットワークは、バックグラウンド同期プロセスの実行中に Cisco Spaces のロケーション階層に自動的にインポートされます。これらのタグ付きネットワークの自動インポートをサポートするには、Meraki 組織がロケーション階層に存在する必要があります。



(注) CiscoSpaces は、Cisco Meraki ネットワークに追加されたタグ名である必要があります。

このリリースでの変更点

Cisco Spaces のこのリリースには拡張機能はありません。

不具合

不具合では、Cisco Spaces アプリケーションでの予期しない動作について説明します。「解決済みの不具合」と「未解決の不具合」では、このリリースの不具合を示します。

各不具合について、次の情報が提供されます。

- 識別子：各不具合には、一意の識別子（ID）が割り当てられます。識別子は CSCxxNNNN というパターンで、*x* は任意の文字（a～z）、*N* は任意の数字（0～9）です。これらの ID は、セキュリティアドバイザリ、フィールド通知、その他のシスコのサポートドキュメントなど、シスコのマニュアルでよく使用されます。Technical Assistance Center（TAC）エンジニアまたはその他のシスコのスタッフからも、特定の不具合の ID が提供されます。
- 説明：不具合が発生したときに観察された内容の説明。

未解決の不具合

Cisco Spaces のこのリリースでは未解決の不具合はありません。

解決済みの不具合

ここでは、Cisco Spaces のこのリリースで解決済みの不具合について説明します。

表 8: Cisco Spaces 解決済みの不具合

不具合の識別子	不具合の説明
CSCwe14553	ダッシュボードにログインしていない Cisco Spaces ユーザーが共有レポートを表示できない



第 **II** 部

2022

- 2022 年 12 月 (23 ページ)
- 2022 年 11 月 (27 ページ)
- 2022 年 10 月 (31 ページ)
- 2022 年 9 月 (35 ページ)
- 2022 年 8 月 (39 ページ)
- 2022 年 7 月 (43 ページ)
- 2022 年 6 月 (45 ページ)
- 2022 年 5 月 (49 ページ)
- 2022 年 4 月 (53 ページ)
- 2022 年 3 月 (57 ページ)
- 2022 年 2 月 (59 ページ)
- 2022 年 1 月 (61 ページ)



第 6 章

2022 年 12 月

- 今回のリリースでの新機能 (23 ページ)
- このリリースでの変更点 (23 ページ)
- 不具合 (25 ページ)

今回のリリースでの新機能

Cisco Spaces のこのリリースに新機能はありません。

このリリースでの変更点

Cisco Spaces ダッシュボード

Cisco Spaces ダッシュボードでは、次の機能強化が加えられました。

IoT Explorer

- ユーザーワークフローのインポート：IoT エクスプローラアプリの機能が拡張され、新しいユーザーまたは既存のユーザーを特定のユースケースにインポートできるようになりました。[ユーザーのインポート (Import Users)] オプションを使用すると、他のユースケースからユーザーをインポートしたり、ユーザーの詳細情報を含む Microsoft Excel (.xlsx) ファイルをアップロードして一度に複数のユーザーを追加することができます。

ユーザーをインポートするには、[IoT エクスプローラ (IoT Explorer)] > [ユースケース (Use Case)] > [ユーザー/ロール (Users/Roles)] > [ユーザーのインポート (Import Users)] を選択します。

- 占有履歴：[占有履歴 (Occupancy History)] タブには、ユーザーのプレゼンスが、検出された占有および検出されなかった占有のタイムラインとともに表示されます。過去 24 時間、7 日間、または 30 日間のタイムラインでこれを表示できます。占有履歴の詳細情報を表示するには、[プレゼンス検出 (Presence Detection)] > [センサー (Sensor)] > [アセット名 (Asset Name)] > [占有履歴 (Occupancy History)] を選択します。



- Cisco Webex およびトリガー API のサポート：SMS と電子メールに加えて、Cisco Webex およびトリガー API を使用したセンサー通知の送信のサポートが追加されました。通知を設定するには、[IoT エクスプローラ (IoT Explorer)] > [ユースケース (Use Case)] > [ルール (Rules)] > [ルールの追加 (Add Rule)] > [アクションセクション (Actions sections)] を選択します。
- ロケーション履歴：アセットトラッキングのユースケースでは、デバイスのロケーション履歴が記録され、X座標とY座標によって地図上に表示されます。過去24時間、7日間、または30日間のタイムラインでこれを表示できます。

マイアカウント

- Cisco Spaces ダッシュボードは機能が拡張され、[サポートアクセスの有効化 (Enable Support Access)] オプションが含まれました。Cisco Spaces の顧客は、[サポートアクセスの有効化 (Enable Support Access)] オプションを使用して、Cisco Spaces サポートチームに対して顧客のアカウントへのアクセスを有効または無効にすることができます。このオプションを有効にすると、Cisco Spaces サポートチームが例外的な状況で問題を検出してデバッグするために役立ちます。
- このオプションは、[マイアカウント (My Account)] > [設定 (Preferences)] セクションで利用できます。アクセスが有効になると、Cisco Spaces サポートチームは顧客の Cisco Spaces アカウントにアクセスできるようになります。



(注) デフォルトでは、[サポートアクセスの有効化 (Enable Support Access)] オプションが有効になっています。

ロケーション階層

ロケーション階層 2.0 は、特定のフロアでリッチマップが利用可能な場合、それらが表示されるように機能が拡張されました。リッチマップをアップロードするオプションは、現在、Cisco Spaces サポートチームによって管理されています。

[3D] トグルボタンをクリックすると、2D フロアマップと 3D フロアマップを切り替えることができます。

不具合

不具合では、Cisco Spaces アプリケーションでの予期しない動作について説明します。「解決済みの不具合」と「未解決の不具合」では、このリリースの不具合を示します。

各不具合について、次の情報が提供されます。

- 識別子：各不具合には、一意の識別子（ID）が割り当てられます。識別子は CSCxxNNNN というパターンで、*x* は任意の文字（a～z）、*N* は任意の数字（0～9）です。これらの ID は、セキュリティアドバイザリ、フィールド通知、その他のシスコのサポートドキュメントなど、シスコのマニュアルでよく使用されます。Technical Assistance Center（TAC）エンジニアまたはその他のシスコのスタッフからも、特定の不具合の ID が提供されます。
- 説明：不具合が発生したときに観察された内容の説明。

未解決の不具合

Cisco Spaces のこのリリースでは未解決の不具合はありません。

解決済みの不具合

ここでは、Cisco Spaces のこのリリースで解決されたバグを示します。

表 9: Cisco Spaces 解決済みの不具合

不具合の識別子	不具合の説明
CSCwd66507	Mapservice UI に重複したキャンパスが表示される



第 7 章

2022 年 11 月

- 今回のリリースでの新機能 (27 ページ)
- このリリースでの変更点 (27 ページ)
- 不具合 (28 ページ)

今回のリリースでの新機能

Cisco Spaces ダッシュボード

Cisco Spaces ダッシュボードに次の機能が導入されました。

データエクスポート機能で新しい宛先がサポートされるようになりました。SFTP に加えて、次の宛先へのデータエクスポートを作成できます。


- Amazon S3
- Microsoft Azure Blob Storage
- Google Cloud Storage
- Box

このリリースでの変更点

Cisco Spaces ダッシュボード

Cisco Spaces ダッシュボードでは、次の機能強化が加えられました。

Spaces コネクタ 3.0 : 有線サポート

Cisco Spaces : コネクタ 3.0 が、メニュー () > [Setup] > [Wired Network] セクションで利用できるようになりました。[Wired Network] で 2.x と 3.0 の両方のコネクタを作成できます。

サービスの関連付け、インスタンスの追跡、メトリックの可視化などのコネクタ 3.0 機能を [Wired Network] セクションで利用できます。

Cisco Spaces ダッシュボード GUI の強化

Cisco Spaces のブランディングの変更に応じて次のセクションが機能強化されています。

- ログインセクション
- ホームページ：トップバナー（Cisco Spaces ロゴ）

ロケーション階層

モデル名が **CW** で始まるアクセスポイントを **ロケーション階層** に自動インポートできるようになりました（Cisco Meraki によって新たに導入されました）。このリリースより前のリリースでは、**MR** および **MX** アクセスポイントモデルのみがサポートされていました。

Cisco Spaces パートナーダッシュボード

Cisco Spaces パートナーダッシュボードでは、次の機能強化が加えられました。

シンガポール地域のサポート

Cisco Spaces パートナーダッシュボードは、シンガポール地域をサポートするように拡張されました。パートナーは、シンガポール地域向けのアプリを作成して公開できるようになりました。

パートナーダッシュボード GUI の強化

Cisco Spaces のブランディングの変更に応じて次のセクションが機能強化されています。

- ログインセクション
- ホームページ：トップバナー（Cisco Spaces ロゴ）

不具合

不具合では、Cisco Spaces アプリケーションでの予期しない動作について説明します。「解決済みの不具合」と「未解決の不具合」では、このリリースの不具合を示します。

各不具合について、次の情報が提供されます。

- 識別子：各不具合には、一意の識別子（ID）が割り当てられます。識別子は **CSCxxNNNNN** というパターンで、*x* は任意の文字（**a**～**z**）、*N* は任意の数字（**0**～**9**）です。これらの ID は、セキュリティアドバイザリ、フィールド通知、その他のシスコのサポートドキュメントなど、シスコのマニュアルでよく使用されます。Technical Assistance Center（TAC）エンジニアまたはその他のシスコのスタッフからも、特定の不具合の ID が提供されます。
- 説明：不具合が発生したときに観察された内容の説明。

Cisco Spaces のこのリリースでは未解決の不具合はありません。

解決済みの不具合

ここでは、Cisco Spaces のこのリリースで解決されたバグを示します。

表 10: *Cisco Spaces* 解決済みの不具合

不具合の識別子	不具合の説明
CSCwd09396	影響分析でページがいつまでもロード中になる



第 8 章

2022 年 10 月

- 今回のリリースでの新機能 (31 ページ)
- このリリースでの変更点 (31 ページ)
- 不具合 (32 ページ)

今回のリリースでの新機能

Cisco Spaces ダッシュボード

Cisco Spaces ダッシュボードに次の新機能が導入されました。

Cisco Spaces ダッシュボードは、**分割ライセンス**をサポートするようになりました。

スマートライセンスに登録されているアカウントには、ライセンスタイプを各ロケーションレベルでアップグレードまたはダウングレードするオプションがあります。[Location Hierarchy] ウィンドウにある [License Level Change] オプションを使用します。



(注) 分割ライセンスを使用するには、アカウントをスマートライセンスに登録する必要があります。

このリリースでの変更点

Cisco Spaces ダッシュボード

Cisco Spaces ダッシュボードでは、次の機能強化が加えられました。

ロケーションベースの RBAC

RBAC が、特定の場所をサポートするように機能強化されました。[Restrict this role to specific locations] オプションを使用すると、ロールの作成中 ([Admin Management] > [Roles] > [Create

Role] およびユーザーの招待フロー中（**[Admin Management]**>**[Invite Admin]**）に特定の場所をサポートされます。

プロフィール

ユーザープロフィール機能が拡張され、**[View Change Log]** オプションが含まれるようになりました。**[View Change Log]** をクリックすると、特定のアカウントの全ユーザーに関するアクティビティの詳細を表示する **[Change Log]** タブが開きます。

Firehose

Firehose の IoT テレメトリーイベントが拡張され、BLE デバイス用に次の 3 つの追加フィールドが含まれるようになりました。

- **[Vendor]** : デバイスが要求される際のベンダー ID。
- **[DeviceModel]** : BLE デバイスのモデル。
- **[UniqueId]** : デバイスの固有の ID。

これらのフィールドには、ビーコンが要求されるときに特定の値が含まれます。

不具合

不具合では、Cisco Spaces アプリケーションでの予期しない動作について説明します。「解決済みの不具合」と「未解決の不具合」では、このリリースの不具合を示します。

各不具合について、次の情報が提供されます。

- **識別子** : 各不具合には、一意の識別子 (ID) が割り当てられます。識別子は **CSCxxNNNNN** というパターンで、*x* は任意の文字 (a ~ z)、*N* は任意の数字 (0 ~ 9) です。これらの ID は、セキュリティアドバイザリ、フィールド通知、その他のシスコのサポートドキュメントなど、シスコのマニュアルでよく使用されます。Technical Assistance Center (TAC) エンジニアまたはその他のシスコのスタッフからも、特定の不具合の ID が提供されます。
- **説明** : 不具合が発生したときに観察された内容の説明。

未解決の不具合

ここでは、Cisco Spaces のこのリリースにおける未解決の不具合を示します。

表 11: Cisco Spaces 未解決の不具合

不具合の識別子	不具合の説明
CSCwd09396	影響分析でページがいつまでもロード中になる

解決済みの不具合

ここでは、Cisco Spaces のこのリリースで解決されたバグを示します。

表 12: Cisco Spaces 解決済みの不具合

不具合の識別子	不具合の説明
CSCwd33465	アプリの取得メニューをクリックしても、デスクトップまたはラップトップのランディングページにリダイレクトされない
CSCwd42802	アクセスコードのセッション継続時間の値がRADIUS応答でコントローラに渡されない
CSCwd23458	HotspotClient : 証明書の有効期限が切れたときにホットスポットをロードできない
CSCwd31231	ユーザー設定とデバイス設定の削除機能が動作しない
CSCwd19227	Meraki OpenRoaming : 証明書の更新プロセスで無効な APIKey が選択される



第 9 章

2022 年 9 月

- 今回のリリースでの新機能 (35 ページ)
- このリリースでの変更点 (36 ページ)
- 不具合 (37 ページ)

今回のリリースでの新機能

ロケーション階層

次の新機能がロケーション階層に導入されました。

ロケーション階層で Meraki MT がサポートされるようになりました。MT センサーからデータを受信するために必要な構成は、Cisco Spaces と Meraki の統合を使用して更新されます。MT センサーはロケーション階層に自動的にインポートされます。

ロケーション階層 2.0 は、機能強化されたベータ版リリースのロケーション階層であり、ユーザーインターフェイスが刷新され、既存のロケーション階層機能とともにパフォーマンスが向上しています。

新機能は次のとおりです。

- 地理位置情報を更新するためのインタラクティブなグローバルマップ
- フロアマップでポリゴンゾーンと AP マーカーを作成および編集するオプション
- 未分類の AP グループ



(注) Cisco Spaces で、メニュー (☰) をクリックし、**[Location Hierarchy]** > **[Beta UI]** を選択してロケーション階層 2.0 を有効にします。**[Beta UI]** トグルボタンを使用すると、ロケーション階層 2.0 とロケーション階層 GUI が切り替わります。

Cisco Spaces ダッシュボード

Cisco Spaces ダッシュボードに次の新機能が導入されました。

Cisco pxGrid クラウド

Cisco Spaces ダッシュボードは、Cisco pxGrid クラウドの導入をサポートするようになりました。Cisco pxGrid クラウドを使用すると、Cisco Identity Services Engine (Cisco ISE) と他のクラウドベースのソリューションとの間でコンテキスト情報を共有できます。

Cisco Spaces ダッシュボードで Cisco pxGrid クラウドを設定するには、[Cisco DNA - Cloud](#) からのトークンが必要です。このトークンを pxGrid クラウドで検証する必要があります。検証に成功すると、アプリが pxGrid クラウドでアクティブ化され、Cisco Spaces ダッシュボードでサービスを使用できるようになります。



-
- (注) 現在、Cisco Spaces では Cisco pxGrid クラウド GUI のサポートのみを利用できます。将来的にはバックエンドの変更が含まれる予定です。
-

Firehose

Firehose に WEBEX テレメトリという新しいイベントが追加されました。このイベントは、ロケーション内の Cisco Webex デバイスからテレメトリデータを受信したときに開始されます。



-
- (注) 現在、Cisco Spaces パートナーダッシュボードでこのイベントを有効にするための GUI サポートは利用できません。バックエンドからこの新しいイベントを有効にするには、[Cisco Spaces サポート](#)にお問い合わせください。
-

このリリースでの変更点

Cisco Spaces ダッシュボード

Cisco Spaces ダッシュボードでは、次の機能強化が加えられました。

- **Meraki ネットワークのカメラゾーンのサポート** : Meraki にカメラゾーンを持つ新しく追加されたネットワークの場合、ゾーンがネットワークとともに [Location Hierarchy] に追加されます。

既存のネットワークの場合、Meraki で追加、変更、または削除されたカメラゾーンは、バックグラウンド同期プロセス中に [Location Hierarchy] と同期されます。



-
- (注) 現在、Cisco Spaces ダッシュボードにカメラゾーンを表示する GUI サポートは利用できません。
-

- **IoT Explorer** : Cisco Spaces ダッシュボードは、IoT Explorer アプリの [Temperature Monitoring] セクションで MT センサーデバイスのインポートをサポートするようになりました。

不具合

不具合では、Cisco Spaces アプリケーションでの予期しない動作について説明します。「解決済みの不具合」と「未解決の不具合」では、このリリースの不具合を示します。

各不具合について、次の情報が提供されます。

- **識別子** : 各不具合には、一意の識別子 (ID) が割り当てられます。識別子は CSCxxNNNNN というパターンで、*x* は任意の文字 (a ~ z)、*N* は任意の数字 (0 ~ 9) です。これらの ID は、セキュリティアドバイザリ、フィールド通知、その他のシスコのサポートドキュメントなど、シスコのマニュアルでよく使用されます。Technical Assistance Center (TAC) エンジニアまたはその他のシスコのスタッフからも、特定の不具合の ID が提供されます。
- **説明** : 不具合が発生したときに観察された内容の説明。

Cisco Spaces のこのリリースでは未解決の不具合はありません。

解決済みの不具合

ここでは、Cisco Spaces のこのリリースで解決されたバグを示します。

表 13: Cisco Spaces 解決済みの不具合

不具合の識別子	不具合の説明
CSCwd19341	検出と位置特定アプリにダッシュボードビューが表示されない
CSCwc46949	ユーザーが複数のロケーションを選択すると、ロケーション分析のカスタムウィジェットがロードされ続ける
CSCwc91835	503 エラーページからレポートボタンをクリックすると、無効な電子メールアドレスが表示される
CSCwc93338	Meraki AP が検出と位置特定で正しく配置されていない
CSCwd02169	フロアマップイメージがレンダリングされず、クライアントが検出と位置特定に表示されない



第 10 章

2022 年 8 月

- [今回のリリースでの新機能 \(39 ページ\)](#)
- [このリリースでの変更点 \(39 ページ\)](#)
- [不具合 \(40 ページ\)](#)

今回のリリースでの新機能

ロケーション階層

Cisco Smart ワークスペースのユースケースをサポートするために、次の新機能がロケーション階層に導入されました。

次のロケーション階層のバックグラウンド同期がサポートされるようになりました。

- Meraki ネットワークまたはフロアロケーションでの Meraki MT センサーデバイスの同期。
- Cisco Webex デバイスと会議室およびデスクとの同期。

このリリースでの変更点

Cisco Spaces パートナーダッシュボード

Cisco Spaces パートナーダッシュボードでは、次の機能強化が加えられました。

[Events] セクションに NETWORK_STATUS_UPDATE という新しいイベントが追加されました。このイベントは、ステータス、最終検知日、タイプ、コネクタ名、IP アドレスなどのネットワーク情報を提供します。

Cisco Spaces ダッシュボード

Cisco Spaces ダッシュボードでは、次の機能強化が加えられました。

OpenRoaming SDK プロファイル

Cisco Spaces は、[Menu] (☰) [Integrations] > [Cisco Spaces SDK] > [Configure Profile] ウィンドウを使用した OpenRoaming Wi-Fi プロファイルの構成をサポートするようになりました。[Configure Profile] ウィンドウで指定した値に基づいて、特定のテナントの顧客固有のプロファイルを作成できます。

この機能強化の前は、プロファイルはバックエンドで手動で更新されていました。

データ エクスポート

データエクスポート設定で、次の追加のデータエクスポートタイプがサポートされるようになりました。

- キャプティブポータル：顧客獲得
- Right Now：人数（カメラ）



(注) Cisco Spaces ダッシュボード SEE ライセンスの顧客アカウントの場合、キャプティブポータル、エンゲージメントおよびロケーションペルソナなどのデータエクスポートタイプはエクスポートできません。ACTライセンスの顧客アカウントの場合、すべてのデータタイプをエクスポートできます。

ロケーション階層

バックグラウンド同期プロセス中に、構成テンプレートネットワークの Meraki スキャン API 通知 URL が自動的に更新されます。

Firehose API

Firehose API の Wi-Fi イベント用に新しいフィールド `openRoamingUserId` が追加されました。このフィールドには、SDK によってオンボーディングされた OpenRoaming ユーザーの ID が含まれます。それ以外の場合、このフィールドの値は `nil` です。

マップサービス

マップサービス API のパフォーマンスが強化され、インポートの履歴とステータスを取得できるようになりました。

不具合

不具合では、Cisco Spaces アプリケーションでの予期しない動作について説明します。「解決済みの不具合」と「未解決の不具合」では、このリリースの不具合を示します。

各不具合について、次の情報が提供されます。

- 識別子：各不具合には、一意の識別子 (ID) が割り当てられます。識別子は `CSCxxNNNNN` というパターンで、`x` は任意の文字 (a ~ z)、`N` は任意の数字 (0 ~ 9) です。これらの ID は、セキュリティアドバイザリ、フィールド通知、その他のシスコのサポートドキュメントなど、シスコのマニュアルでよく使用されます。Technical Assistance Center (TAC) エンジニアまたはその他のシスコのスタッフからも、特定の不具合の ID が提供されます。

- 説明：不具合が発生したときに観察された内容の説明。

Cisco Spaces のこのリリースでは、未解決または解決済みの不具合はありません。



第 11 章

2022 年 7 月

- [今回のリリースでの新機能 \(43 ページ\)](#)
- [このリリースでの変更点 \(44 ページ\)](#)
- [不具合 \(44 ページ\)](#)

今回のリリースでの新機能

Cisco Spaces ダッシュボード

Cisco Spaces ダッシュボードに次の機能が導入されました。

Secure File Transfer Protocol (SFTP) データエクスポート設定が Cisco Spaces ダッシュボードで利用できるようになりました。Cisco Spaces ダッシュボードで、[Menu] アイコン (☰) をクリックし、[Setup] > [Data Export] を選択します。このオプションを使用して、生データを CSV ファイルとして SFTP サーバーに自動エクスポートするように構成します。

エクスポートできるデータの種類は次のとおりです。

- アクセス
- Right Now : 人数 (Wi-Fi)
- エンゲージメント : ルールアクティビティ
- ロケーションペルソナ : ルールアクティビティ
- オープンローミング : ユーザーデータ

VPN を介した SFTP 接続のルーティングの詳細については、[Cisco Spaces のサポート](#)にお問い合わせください。

このリリースでの変更点

マップサービス

Map Service では、次の機能強化が加えられました。

- **Cisco Prime Infrastructure から Cisco DNA Center へのマップ階層移行のサポート**：Cisco Spaces Location Hierarchy は、Cisco Prime Infrastructure から Cisco DNA Center へのネストされたサイトの移行データのインポートをサポートするようになりました。
- **Cisco DNA Center のネストされたサイト階層のサポート**：新しいサイトを Cisco DNA Center から既存のサイト階層の上にある Cisco Spaces にインポートまたは同期できるようになりました。
- **計画されたアクセスポイント (AP) インポートのサポート**：計画された AP を Map Service にインポートできるようになりました。

不具合

不具合では、Cisco Spaces アプリケーションでの予期しない動作について説明します。「解決済みの不具合」と「未解決の不具合」では、このリリースの不具合を示します。

各不具合について、次の情報が提供されます。

- **識別子**：各不具合には、一意の識別子 (ID) が割り当てられます。識別子は CSCxxNNNNN というパターンで、*x* は任意の文字 (a ~ z)、*N* は任意の数字 (0 ~ 9) です。これらの ID は、セキュリティアドバイザリ、フィールド通知、その他のシスコのサポートドキュメントなど、シスコのマニュアルでよく使用されます。Technical Assistance Center (TAC) エンジニアまたはその他のシスコのスタッフからも、特定の不具合の ID が提供されます。
- **説明**：不具合が発生したときに観察された内容の説明。

Cisco Spaces のこのリリースでは、未解決または解決済みの不具合はありません。



第 12 章

2022 年 6 月

- [今回のリリースでの新機能 \(45 ページ\)](#)
- [このリリースでの変更点 \(46 ページ\)](#)
- [不具合 \(47 ページ\)](#)

今回のリリースでの新機能

Cisco Spaces ダッシュボード

Cisco Spaces ダッシュボードに次の機能が導入されました。

IoT Explorer アプリケーション

Internet of Things (IoT) Explorer アプリケーションは、Operational Insights および Cisco Asset Locator アプリケーションの第 3 世代の拡張バージョンです。IoT Explorer アプリケーションは、Cisco Spaces でデバイス主導の IoT ユースケースを検討しているユーザーに迅速な価値をもたらし、ACT ライセンスレベルで IoT サービスに価値を追加するように設計されています。

このアプリケーションは、以下に示す 3 つのユースケースを実現します。

- アセットトラッキング
- スペースの占有/プレゼンス検出
- 温度のモニタリング

これらの各ユースケース内で、ルール/アラートの作成、データログの表示、デバイスまたはセンサーのリアルタイムのロケーションとステータスの表示を行うことができます。IoT Explorer アプリケーションの UI は、ユースケースを簡単に設定できるように設計されています。

このリリースでの変更点

Cisco Spaces ダッシュボード

Cisco Spaces ダッシュボードでは、次の機能強化が加えられました。

Cisco Spaces : コネクタ 3.0

Cisco Spaces : コネクタ 3.0 (このドキュメントの以降のすべての参照ではコネクタと呼ばれます) は、Cisco ワイヤレスコントローラやデータ用のスイッチなどのさまざまなネットワークデバイスに接続する複数のサービスを効率的に管理する機能を備えた完全に再設計されたバージョンのコネクタです。コネクタプラットフォームを使用すると、クラウドに新しいサービスを簡単に追加/削除できます。クラウドからのデバッグ、ログのアップロード、および再起動機能により、高度なトラブルシューティングが可能になります。コネクタは、CPU、メモリ、接続、およびアップ/ダウンステータスを含む各サービスの詳細なメトリックも提供します。

コネクタは Cisco Spaces の次世代コネクタであり、拡張されたユーザーエクスペリエンス、複数のサービスをサポートするアーキテクチャ、シンプルさ、モジュール性、シームレスなアップグレード、およびハイアベイラビリティを提供します。コネクタは、アクティブ/アクティブ高可用性セットアップをサポートします。コネクタ 2.x の以前のリリースとは異なり、高可用性ペアを具体的に設定および監視できます。すべてのサービスとデバイス構成はコネクタレベルで管理されるため、高可用性と簡単にペアリングできます。

コネクタとデバイスのステータスも、各インスタンスからコネクタレベルで集計されるため、簡単に監視できます。コネクタは、高可用性ペアの各インスタンスに完全な可視性を提供します。各インスタンスでのサービスの実行状況、アップグレードステータスなどを表示できます。サービスの再起動など、特定のインスタンスでアクションを実行することもできます。

Right Now

Right Now アプリでは、次の機能強化が行われています。

Right Now アプリは、[Location Hierarchy] に変更があった場合のカウンタの問題に対処するように強化されています。

この機能強化の前に、新しいロケーションの追加、既存のロケーションの削除、または [TimeZone] などの重要なパラメータの更新などの [Location Hierarchy] の変更により、Wi-Fi の古いカウンタまたは誤ったカウンタが導入されました。



-
- (注) この機能強化により、[Location Hierarchy] の変更後にカウンタが無効になるため、現在の日の [Presence] チャートのカウンタがリセットされます (現在の時刻までのすべての既存の数値が削除されます)。
-

マップサービス

Map Service では、次の機能強化が加えられました。

[Map Service] UI からゾーンのリケーションを削除すると、同じものが [Location Hierarchy] から削除されます。

不具合

不具合では、Cisco DNA Spaces アプリケーションでの予期しない動作について説明します。「解決済みの不具合」と「未解決の不具合」では、このリリースの不具合を示します。

各不具合について、次の情報が提供されます。

- 識別子：各不具合には、一意の識別子 (ID) が割り当てられます。識別子は CSCxxNNNN というパターンで、*x* は任意の文字 (a ~ z)、*N* は任意の数字 (0 ~ 9) です。これらの ID は、セキュリティアドバイザリ、フィールド通知、その他のシスコのサポートドキュメントなど、シスコのマニュアルでよく使用されます。Technical Assistance Center (TAC) エンジニアまたはその他のシスコのスタッフからも、特定の不具合の ID が提供されます。
- 説明：不具合が発生したときに観察された内容の説明。

ここでは、次の内容について説明します。

シスコバグ検索ツール

[シスコバグ検索ツール \(BST\)](#) は、シスコ製品とソフトウェアの障害と脆弱性の包括的なリストを管理するシスコバグ追跡システムへのゲートウェイです。BST は、製品とソフトウェアに関する詳細な障害情報を提供します。

未解決の不具合

Cisco Spaces のこのリリースでは未解決の不具合はありません。

解決済みの不具合

Cisco Spaces のこのリリースで解決された不具合はありません。



第 13 章

2022 年 5 月

- 今回のリリースでの新機能 (49 ページ)
- このリリースでの変更点 (50 ページ)
- 不具合 (50 ページ)

今回のリリースでの新機能

Cisco Spaces ダッシュボード

Cisco Spaces ダッシュボードに次の機能が導入されました。

Cisco Webex の統合

Cisco Webex は、Cisco Spaces と統合されました。この統合により、**Webex Control Hub** アカウントの Cisco Webex デバイスは、**Webex Control Hub** と Cisco Spaces 間のクラウド間統合を実行できます。

この統合は以下をサポートします。

- [Webex Control Hub] からの Cisco Webex ワークスペース、デバイス、ワークスペースの場所、フロアの詳細などの Cisco Webex エンティティの同期。同期プロセスは、Cisco Spaces ダッシュボードでトークンが設定された後、3 時間ごとにバックエンドでスケジュールされます。[Setup] > [Webex] を選択して、トークンを設定します。
- Cisco Webex デバイスは、温度、電波品質、占有率などのデバイスデータを送信し、**Cisco Smart Workspaces** で使用されます。



(注) 現在、この統合は **Cisco Smart Workspaces** ユーザーのみを対象としています。

このリリースでの変更点

Cisco Spaces ダッシュボード

Cisco Spaces ダッシュボードでは、次の機能強化が加えられました。

Cisco Spaces のワンタイムアクセスコード

Cisco Spaces は、1 回限りのアクセスコードの作成をサポートするように機能強化されています。[Captive Portal] > [Access Code] > [Create Access Code] を選択して、新しい使い捨てアクセスコードを作成します。生成されたアクセスコードは1回限りの使用です。アクセスコードの作成時に、[Numeric] または [Alphanumeric] オプションのいずれかを選択できます。

新しいアクセスコードのステータスは、[View Access Codes] ウィンドウに [Available] と表示されます。アクセスコードを使用すると、ステータスが [Used] に変わります。

キャプティブ ポータル

Cisco Spaces キャプティブポータルでは、次の機能強化が加えられました。

キャプティブ ポータル ランタイムでのワンタイムアクセスコードのサポート

Cisco Spaces キャプティブポータルでは、1 回限りのアクセスコードがサポートされるようになりました。生成されたアクセスコードは1回限りの使用です。アクセスコードがすでに1回使用されている場合は、次のエラーメッセージが表示されます：アクセスコードが無効です。

不具合

不具合では、Cisco DNA Spaces アプリケーションでの予期しない動作について説明します。「解決済みの不具合」と「未解決の不具合」では、このリリースの不具合を示します。

各不具合について、次の情報が提供されます。

- 識別子：各不具合には、一意の識別子 (ID) が割り当てられます。識別子は CSCxxN/NNNN というパターンで、*x* は任意の文字 (a ~ z)、*N* は任意の数字 (0 ~ 9) です。これらの ID は、セキュリティアドバイザリ、フィールド通知、その他のシスコのサポートドキュメントなど、シスコのマニュアルでよく使用されます。Technical Assistance Center (TAC) エンジニアまたはその他のシスコのスタッフからも、特定の不具合の ID が提供されます。
- 説明：不具合が発生したときに観察された内容の説明。

ここでは、次の内容について説明します。

シスコバグ検索ツール

[シスコバグ検索ツール](#) (BST) は、シスコ製品とソフトウェアの障害と脆弱性の包括的なリストを管理するシスコバグ追跡システムへのゲートウェイです。BSTは、製品とソフトウェアに関する詳細な障害情報を提供します。

未解決の不具合

Cisco Spaces のこのリリースでは未解決の不具合はありません。

解決済みの不具合

ここでは、Cisco Spaces のこのリリースで解決されたバグを示します。

表 14: Cisco Spaces 解決済みの不具合

不具合の識別子	不具合の説明
CSCwb99689	マップフロア API 応答の先祖 ID が null であるため、クライアントが検出と位置特定アプリに表示されない。



第 14 章

2022 年 4 月

- [今回のリリースでの新機能 \(53 ページ\)](#)
- [このリリースでの変更点 \(53 ページ\)](#)
- [不具合 \(54 ページ\)](#)

今回のリリースでの新機能

このリリースに新機能はありません。

このリリースでの変更点

Cisco Spaces ダッシュボード

Cisco Spaces ダッシュボードでは、次の機能強化が加えられました。

Cisco Spaces と Cisco Customer Identity の統合

Cisco Spaces は、ログインワークフローのために Cisco Customer Identity (CCI) アプリケーションと統合されました。Cisco Spaces ユーザーは、ログイン認証のために CCI アプリケーションウィンドウにリダイレクトされ、Cisco Spaces ダッシュボードへのログインに進みます。

新しいワークフローは、次のユーザーに適用されます。

- Cisco ドメインユーザー
- 顧客ドメインの非 SSO ユーザー

CCI 統合の導入により、[Switch Users] オプションを使用して、Cisco Spaces のログインウィンドウで異なる電子メールアドレスを切り替えることができるようになりました。



(注) 顧客ドメインの SSO ユーザーは、既存のログインワークフローを引き続き使用できます。

位置分析

Location Analytics に、フィルタリングされたロケーションの階層パスが表示されるようになりました。フィルタリングされたロケーションパスは、ホームページで使用可能なウィジェットと、[Path] ウィジェットを除く [Custom Reports] セクションに表示されます。

Cisco Spaces パートナーダッシュボード

Cisco Spaces パートナーダッシュボードでは、次の機能強化が加えられました。

パートナーダッシュボードとの CCI 統合

Cisco Spaces パートナーダッシュボードは、ログインワークフロー用の CCI アプリケーションに統合されました。この機能は、Cisco Spaces Cisco Spaces ダッシュボードに似ています。

Cisco Spaces パートナーダッシュボードのユーザーは、Cisco Spaces パートナーダッシュボードのログインウィンドウにある [Switch Users] オプションを使用して、異なる電子メールアドレスを切り替えることができます。

マップサービス

Cisco Spaces [Map Service] では、次の機能強化が加えられました。

GPS マーカーの警告メッセージ

インポートされた場所に無効な GPS マーカーがある場合、[Import History] セクションに表示される GPS マーカーの警告メッセージにはフロア名のみが表示されます。この機能強化により、メッセージは、無効な GPS マーカーを持つフロアの [Import History] セクションの階層全体を表示します。

Cisco Catalyst Wireless 9164I Wi-Fi 6E シリーズ アクセスポイント (AP) サポート

- Cisco Catalyst Wireless 9164I Wi-Fi 6E シリーズ AP サポートが [Map Service] に追加されました。
- [Map Service] を使用して、Cisco Catalyst Wireless 9164I Wi-Fi 6E シリーズ AP を Cisco Spaces にインポートできるようになりました。

不具合

不具合では、Cisco Spaces アプリケーションでの予期しない動作について説明します。「解決済みの不具合」と「未解決の不具合」では、このリリースの不具合を示します。

各不具合について、次の情報が提供されます。

- 識別子：各不具合には、一意の識別子 (ID) が割り当てられます。識別子は CSCxxNNNN というパターンで、 x は任意の文字 (a ~ z)、 N は任意の数字 (0 ~ 9) です。これらの ID は、セキュリティアドバイザリ、フィールド通知、その他のシスコのサポートドキュメントなど、シスコのマニュアルでよく使用されます。Technical Assistance Center (TAC) エンジニアまたはその他のシスコのスタッフからも、特定の不具合の ID が提供されます。
- 説明：不具合が発生したときに観察された内容の説明。

ここでは、次の内容について説明します。

シスコバグ検索ツール

[シスコバグ検索ツール](#) (BST) は、シスコ製品とソフトウェアの障害と脆弱性の包括的なリストを管理するシスコバグ追跡システムへのゲートウェイです。BSTは、製品とソフトウェアに関する詳細な障害情報を提供します。

未解決の不具合

Cisco Spaces のこのリリースでは未解決の不具合はありません。

解決済みの不具合

ここでは、Cisco Spaces のこのリリースで解決されたバグを示します。

表 15: *Cisco Spaces* 解決済みの不具合

不具合の識別子	不具合の説明
CSCwb33270	Cisco Spaces 同期を手動で実行中に内部エラーが発生。



第 15 章

2022 年 3 月

- [今回のリリースでの新機能 \(57 ページ\)](#)
- [このリリースでの変更点 \(57 ページ\)](#)
- [不具合 \(58 ページ\)](#)

今回のリリースでの新機能

パートナー ダッシュボード

Cisco Spaces パートナーダッシュボードに次の機能が導入されました。

Trace Firehose

Cisco Spaces パートナーダッシュボードに [Trace Firehose] と呼ばれる新機能が導入されました。この機能は、[Your Apps] > [App Tile] > [More] > [Trace Firehose] で利用できます。この機能には、Cisco Spaces パートナーダッシュボードから [Firehose] データを表示するための次の 2 つのオプションがあります。

- [Download historical data] : 過去 24 時間の時間別データをダウンロードするには、このオプションを使用します。必要なタイムスロットを選択して、選択したタイムスロット内にトリガーされた Firehose イベントを含むテキストファイルをダウンロードします。
- [Download present data] : このオプションを使用して、Cisco Spaces パートナーダッシュボード UI で 5 分間、firehose イベントのライブストリームを表示します。

このリリースでの変更点

Mapservice

Cisco Spaces **Mapservice** では、次の機能強化が加えられました。

計画されたアクセスポイントの [Mapservice] および [Location Hierarchy] へのインポートはサポートされていません。

不具合

不具合では、Cisco DNA Spaces アプリケーションでの予期しない動作について説明します。「解決済みの不具合」と「未解決の不具合」では、このリリースの不具合を示します。

各不具合について、次の情報が提供されます。

- 識別子：各不具合には、一意の識別子（ID）が割り当てられます。識別子は CSCxxNNNN というパターンで、*x* は任意の文字（a～z）、*N* は任意の数字（0～9）です。これらの ID は、セキュリティアドバイザリ、フィールド通知、その他のシスコのサポートドキュメントなど、シスコのマニュアルでよく使用されます。Technical Assistance Center（TAC）エンジニアまたはその他のシスコのスタッフからも、特定の不具合の ID が提供されます。
- 説明：不具合が発生したときに観察された内容の説明。

ここでは、次の内容について説明します。

シスコバグ検索ツール

シスコバグ検索ツール（BST）は、シスコ製品とソフトウェアの障害と脆弱性の包括的なリストを管理するシスコバグ追跡システムへのゲートウェイです。BST は、製品とソフトウェアに関する詳細な障害情報を提供します。

未解決の不具合

ここでは、Cisco Spaces のこのリリースにおける未解決の不具合を示します。これまでのリリースで未解決で、まだ解決されていない不具合は、修正されるまで、今後のすべてのリリースに適用されます。

表 16: Cisco Spaces 未解決の不具合

不具合の識別子	不具合の説明
CSCwb30644	Meraki と統合されている場合、Openroaming の統計が表示されない。

解決済みの不具合

Cisco Spaces のこのリリースで解決された不具合はありません。



第 16 章

2022 年 2 月

- 今回のリリースでの新機能 (59 ページ)
- このリリースでの変更点 (59 ページ)
- 不具合 (59 ページ)

今回のリリースでの新機能

Cisco Spaces のこのリリースに新機能はありません。

このリリースでの変更点

パートナー ダッシュボード

Cisco Spaces パートナーダッシュボードでは、次の機能強化が加えられました。

マルチテナントクラウドアプリケーションの場合、[Integration Details] タブに、ライブアプリの API キーが次のように表示されるようになりました。

- アプリが [Live] 状態の場合にのみ、本番 API キーを更新してコピーできます。
- [Live] 状態のアプリのサンドボックスと運用前 API キーを更新してコピーするには、パートナーはアプリの新しいバージョンを作成し、アプリの [Draft] バージョンでキーをコピーして更新する必要があります。

不具合

不具合では、Cisco Spaces アプリケーションでの予期しない動作について説明します。「解決済みの不具合」と「未解決の不具合」では、このリリースの不具合を示します。

各不具合について、次の情報が提供されます。

- 識別子：各不具合には、一意の識別子（ID）が割り当てられます。識別子は CSCxxNNNNN というパターンで、*x* は任意の文字（a～z）、*N* は任意の数字（0～9）です。これらの ID は、セキュリティアドバイザリ、フィールド通知、その他のシスコのサポートドキュメントなど、シスコのマニュアルでよく使用されます。Technical Assistance Center（TAC）エンジニアまたはその他のシスコのスタッフからも、特定の不具合の ID が提供されます。
- 説明：不具合が発生したときに観察された内容の説明。

ここでは、次の内容について説明します。

シスコバグ検索ツール

[シスコバグ検索ツール（BST）](#) は、シスコ製品とソフトウェアの障害と脆弱性の包括的なリストを管理するシスコバグ追跡システムへのゲートウェイです。BST は、製品とソフトウェアに関する詳細な障害情報を提供します。

未解決の不具合

Cisco Spaces のこのリリースでは未解決の不具合はありません。

解決済みの不具合

Cisco Spaces のこのリリースで解決された不具合はありません。



第 17 章

2022 年 1 月

- 今回のリリースでの新機能 (61 ページ)
- このリリースでの変更点 (61 ページ)
- 不具合 (61 ページ)

今回のリリースでの新機能

Cisco Spaces のこのリリースに新機能はありません。

このリリースでの変更点

ダッシュボード

Cisco Spaces パートナーダッシュボードでは、次の機能強化が加えられました。

行動メトリクス

行動メトリクスが機能強化され、[Sub Vertical] レベルのベンチマーク指標が表示されるようになりました。これは、副業種が定義されているカテゴリ平均メトリックとアカウントに適用されます。

副業種が定義されていない場合、カテゴリの平均指標は業種の階層レベルのベンチマークに基づいて計算されます。

不具合

不具合では、Cisco Spaces アプリケーションでの予期しない動作について説明します。「解決済みの不具合」と「未解決の不具合」では、このリリースの不具合を示します。

各不具合について、次の情報が提供されます。

- 識別子：各不具合には、一意の識別子 (ID) が割り当てられます。識別子は CSCxxNNNNN というパターンで、x は任意の文字 (a ~ z)、N は任意の数字 (0 ~ 9) です。これらの

ID は、セキュリティアドバイザリ、フィールド通知、その他のシスコのサポートドキュメントなど、シスコのマニュアルでよく使用されます。Technical Assistance Center (TAC) エンジニアまたはその他のシスコのスタッフからも、特定の不具合の ID が提供されます。

- 説明：不具合が発生したときに観察された内容の説明。

ここでは、次の内容について説明します。

シスコバグ検索ツール

[シスコバグ検索ツール](#) (BST) は、シスコ製品とソフトウェアの障害と脆弱性の包括的なリストを管理するシスコバグ追跡システムへのゲートウェイです。BST は、製品とソフトウェアに関する詳細な障害情報を提供します。

未解決の不具合

Cisco Spaces のこのリリースでは未解決の不具合はありません。

解決済みの不具合

Cisco Spaces のこのリリースで解決された不具合はありません。



第 **III** 部

2021 年

- 2021 年 12 月 (65 ページ)
- 2021 年 11 月 (67 ページ)
- 2021 年 10 月 (71 ページ)
- 2021 年 9 月 (73 ページ)
- 2021 年 8 月 (77 ページ)
- 2021 年 7 月 (81 ページ)
- 2021 年 6 月 (83 ページ)
- 2021 年 5 月 (87 ページ)
- 2021 年 4 月 (91 ページ)
- 2021 年 3 月 (95 ページ)
- 2021 年 2 月 (99 ページ)
- 2021 年 1 月 (103 ページ)



第 18 章

2021 年 12 月

- 今回のリリースでの新機能 (65 ページ)
- このリリースでの変更点 (65 ページ)
- 不具合 (66 ページ)

今回のリリースでの新機能

Cisco Spaces のこのリリースに新機能はありません。

このリリースでの変更点

ダッシュボード

Cisco Spaces ダッシュボードでは、次の機能強化が加えられました。

Right Now

- [Right Now WiFi] は、訪問者と見なされない除外されたデバイスの数、またはデータ処理中にフィルタ処理されたデバイスの数を表示できるように機能強化されました。
- 除外されたデバイスの数は、[Right Now Wifi] の [Note] セクションにメッセージとして表示されます。

キャプティブ ポータル ランタイム

- [Access Code Authentication] : アクセスコードレベルで設定された [Session Duration] と [Bandwidth Limit] が、キャプティブポータルによって考慮されるようになりました。認証中に、値はコントローラに渡され、セッションの継続時間と帯域幅についてコントローラで行われたデフォルト設定を上書きします。

パートナー ダッシュボード

Cisco Spaces パートナーダッシュボードでは、次の機能強化が加えられました。

[Event Notification] : Cisco Spaces パートナーがすでにアクティブ化されているアプリに新しいイベントを追加すると、顧客がアクセス許可を受け入れて新しいイベントにサブスクライブした場合にのみ、Firehose API を介して送信されます。この機能強化の前は、新しいイベントに顧客の許可は必要ありませんでした。

- アプリタイトルに [New Permission Required] 通知メッセージが表示されます。これらの新しいアプリイベントにサブスクライブするには、新しいアプリのアクセス許可をクリックして同意する必要があります。
- 新しいイベントがアプリに追加されたことを示す電子メール通知も顧客に送信されます。

不具合

不具合では、Cisco Spaces アプリケーションでの予期しない動作について説明します。「解決済みの不具合」と「未解決の不具合」では、このリリースの不具合を示します。

各不具合について、次の情報が提供されます。

- 識別子：各不具合には、一意の識別子 (ID) が割り当てられます。識別子は CSCxxNNNNN というパターンで、 x は任意の文字 (a ~ z)、 N は任意の数字 (0 ~ 9) です。これらの ID は、セキュリティアドバイザリ、フィールド通知、その他のシスコのサポートドキュメントなど、シスコのマニュアルでよく使用されます。Technical Assistance Center (TAC) エンジニアまたはその他のシスコのスタッフからも、特定の不具合の ID が提供されます。
- 説明：不具合が発生したときに観察された内容の説明。

ここでは、次の内容について説明します。

シスコバグ検索ツール

[シスコバグ検索ツール \(BST\)](#) は、シスコ製品とソフトウェアの障害と脆弱性の包括的なリストを管理するシスコバグ追跡システムへのゲートウェイです。BST は、製品とソフトウェアに関する詳細な障害情報を提供します。

未解決の不具合

Cisco Spaces のこのリリースでは未解決の不具合はありません。

解決済みの不具合

Cisco Spaces のこのリリースで解決された不具合はありません。



第 19 章

2021 年 11 月

- 今回のリリースでの新機能 (67 ページ)
- このリリースでの変更点 (67 ページ)
- 不具合 (68 ページ)

今回のリリースでの新機能

Cisco Spaces のこのリリースに新機能はありません。

このリリースでの変更点

ダッシュボード

Cisco Spaces ダッシュボードでは、次の機能強化が加えられました。

コントローラからのアクセスポイントの部分的なインポート

- この機能強化以前は、[AP prefix] オプション ([Connect WLC/Catalyst 9800 Directly] または [Connect via Spaces Connector] のいずれか) を使用してロケーションを追加していた場合に、
 - AP の数がライセンス制限を超えると、AP のインポートが許可されませんでした。この機能強化により、ライセンス制限に従って AP をインポートできるようになりました。
 - ライセンス制限に達すると、コントローラで使用可能なライセンス制限を超える AP はロケーション階層と同期されませんでした。この機能拡張により、[Unconfigured] にある AP よりも、共通のプレフィックスを持つ AP が優先されるようになりました。[Unconfigured] にある AP は同期プロセス中に削除され、コントローラで共通のプレフィックスを持つ AP の同期が優先されます。

影響分析

- アカウントで使用可能な訪問データが 30 日未満の場合、イベントの作成は制限されます。このシナリオでは、デフォルトのデータが表示されます。

Mapservice

Mapservice では、次の機能強化が加えられました。

- Cisco DNA Center から Mapservice への重複ペイロードのインポートが制限されます。[Import History] セクションに、「Warning: Import ignored due to no changes in request payload」というエラーメッセージが表示されます。



- (注) Cisco Spaces では、ロギングに Apache の Java ライブラリ「log4j」を使用するようになりました。脆弱性 CVE-2021-44228 は現在、Apache の「log4j」のバージョン 2.0 ~ 2.14.1 に影響します。この脆弱性に対処するため、Cisco Spaces で Apache の「log4j」バージョンが 2.16.0 にアップグレードされました。

不具合

不具合では、Cisco Spaces アプリケーションでの予期しない動作について説明します。「解決済みの不具合」と「未解決の不具合」では、このリリースの不具合を示します。

各不具合について、次の情報が提供されます。

- 識別子：各不具合には、一意の識別子 (ID) が割り当てられます。識別子は CSCxxNNNNN というパターンで、*x* は任意の文字 (a ~ z)、*N* は任意の数字 (0 ~ 9) です。これらの ID は、セキュリティアドバイザリ、フィールド通知、その他のシスコのサポートドキュメントなど、シスコのマニュアルでよく使用されます。Technical Assistance Center (TAC) エンジニアまたはその他のシスコのスタッフからも、特定の不具合の ID が提供されます。
- 説明：不具合が発生したときに観察された内容の説明。

ここでは、次の内容について説明します。

シスコバグ検索ツール

シスコバグ検索ツール (BST) は、シスコ製品とソフトウェアの障害と脆弱性の包括的なリストを管理するシスコバグ追跡システムへのゲートウェイです。BST は、製品とソフトウェアに関する詳細な障害情報を提供します。

未解決の不具合

Cisco Spaces のこのリリースでは未解決の不具合はありません。

解決済みの不具合

Cisco Spaces のこのリリースで解決された不具合はありません。



第 20 章

2021 年 10 月

- 今回のリリースでの新機能 (71 ページ)
- このリリースでの変更点 (71 ページ)
- 不具合 (71 ページ)

今回のリリースでの新機能

Cisco Spaces のこのリリースに新機能はありません。

このリリースでの変更点

ロケーション分析

Cisco Spaces ダッシュボードでは、次の機能強化が加えられました。

- 滞在時間が 5 分未満の訪問は除外されます。この設定は、訪問者数と訪問数の水増しにつながる短時間の一時的な訪問者を除外するのに役立ちます。
- 滞在時間が 1440 分を超える訪問は除外されます。この設定は、常にオンになっているデバイスを除外して、平均滞在時間の水増しを防ぐのに役立ちます。

不具合

不具合では、Cisco Spaces アプリケーションでの予期しない動作について説明します。「解決済みの不具合」と「未解決の不具合」では、このリリースの不具合を示します。

各不具合について、次の情報が提供されます。

- 識別子：各不具合には、一意の識別子 (ID) が割り当てられます。識別子は CSCxxNNNNN というパターンで、*x* は任意の文字 (a ~ z)、*N* は任意の数字 (0 ~ 9) です。これらの ID は、セキュリティアドバイザリ、フィールド通知、その他のシスコのサポートドキュ

メントなど、シスコのマニュアルでよく使用されます。Technical Assistance Center (TAC) エンジニアまたはその他のシスコのスタッフからも、特定の不具合の ID が提供されます。

- 説明：不具合が発生したときに観察された内容の説明。

ここでは、次の内容について説明します。

シスコバグ検索ツール

シスコバグ検索ツール (BST) は、シスコ製品とソフトウェアの障害と脆弱性の包括的なリストを管理するシスコバグ追跡システムへのゲートウェイです。BST は、製品とソフトウェアに関する詳細な障害情報を提供します。

未解決の不具合

Cisco Spaces のこのリリースでは未解決の不具合はありません。

解決済みの不具合

ここでは、Cisco Spaces のこのリリースで解決されたバグを示します。

表 17: Cisco Spaces 解決済みの不具合

不具合の識別子	不具合の説明
CSCvu98859	新しい構成を適用すると、[Button Click] データや [Movement] データなどのテレメトリが 18 時間以上にリセットされる
CSCvv16880	ゲートウェイの展開ワークフロー中に、タイミングの問題により、AP が「needs config mode (設定モードが必要)」として誤って分類されることがある
CSCvz89535	Mapservice のマップのインポート/同期が、場所を変更して同じファイルを再インポートすると失敗する
CSCvz89525	同じ DNAC マップファイルに対して再同期が行われると、Mapservice のフロアマップイメージが空白として表示される



第 21 章

2021 年 9 月

- 今回のリリースでの新機能 (73 ページ)
- このリリースでの変更点 (75 ページ)
- 不具合 (75 ページ)

今回のリリースでの新機能

ダッシュボード

スマートライセンスとの統合：シスコスマートライセンスは、ソフトウェアのアクティブ化と管理の方法を合理化する柔軟なライセンスモデルです。このソリューションを使用すると、ライセンスのステータスとソフトウェアの使用傾向を簡単に追跡できます。Cisco Spaces でシスコスマートライセンスを有効にするには、Cisco Smart Software Manager (CSSM) を使用して設定されたスマートアカウントが必要です。Cisco Spaces ダッシュボードダッシュボードで、**[Profile] アイコン** > **[Activate Smart License]** の順に選択して、シスコスマートライセンスをアクティブ化します。

- **ライセンスのアップグレード/ダウングレード**：シスコスマートライセンスをアクティブ化した後、Cisco Spaces ライセンスをアップグレードまたはダウングレードできます。これを行うには、**[Profile] アイコン** > **[License info]** > **[Select License Level]** の順に選択します。
- **トライアルサポート**：シスコスマートライセンスをアクティブ化した後、Cisco Spaces サポートチームに連絡して、トライアルサポートを有効にすることができます。トライアルモードが有効になっている場合、スマートエージェントは、CSSM へのライセンスの使用状況の更新を行いません。

詳細については、「[Cisco Smart License](#)」を参照してください。

行動メトリクス

[Workspaces] 分野：[Workspaces] 分野向けに、キャンパスレベルの計算が実装されています。以前は、ロケーション階層のネットワークノードを使用してメトリクスを取得していました。[Workspaces] 分野について報告されるデータの品質を向上させるために、キャンパスノードを

使用して訪問を追跡し、知見を得ることができます。企業や大学のほとんどのリアルタイム環境では、人々はキャンパス内にある近接する建物間を往来します。ネットワーク間を移動する人々のこのような行動から、訪問を追跡して知見を得るための単一の連続したスペースであるキャンパスノードに移行する必要性が高まっています。

- [Location] オプションからキャンパスノードを選択すると、キャンパスの平均が、[Workday Duration]、[Employee Frequency]、[Density Index]、[Entry Time]、[Exit Time] チャートに表示されます。
- 新しいフロアおよびゾーンレベルのチャートが追加されています。ネットワークロケーションを選択して、次のチャートを表示できます。
 - フロア/ゾーン別プレゼンス
 - フロア/ゾーン別シェア (%)
 - フロア/ゾーン別密度
 - フロア/ゾーン別訪問時間



(注) デフォルトでは、キャンパスとグループのロケーションデータはルートレベルのビューに表示されます。ロケーション階層でキャンパスロケーションが定義されていない場合は、ネットワークのロケーションデータが表示されます。

[Education] 分野：行動メトリクスアプリに [Education] という新しい分野のサポートが追加されています。すべての主要なチャートは、学生のメトリクスに基づいた情報を反映しています。[Education] 分野のチャートで使用されるすべてのメトリクスは、[Workspaces] 分野のチャートと同様です。

Cisco Spaces SDK

Cisco Spaces ソフトウェア開発キット (SDK) は、OpenRoaming テクノロジーを活用して、ユーザーによる操作を必要とせずに、シームレスかつ安全にユーザーを Wi-Fi ネットワークに接続します。Cisco Spaces SDK により、iOS または Android アプリケーションの開発者は、バックエンドシステムで検証できる任意の ID を使用して iOS および Android デバイスを設定できます。また、Cisco Spaces SDK を使用すると、開発者は、iOS および Android の通知フレームワークを介して、ユーザーに関する詳細情報を追加し、デバイス上でユーザーと直接関わり合うことができます。

SDK 構成セクションには、ハンバーガーメニューアイコン > [Integrations] > [Cisco Spaces SDK] からアクセスできます。これにより、ネイティブアプリ (iOS および Android) を Cisco Spaces に登録できます。

詳細については、「[Cisco Spaces SDK Integration](#)」 [英語] を参照してください。

このリリースでの変更点

ダッシュボード

Cisco Spaces ダッシュボードでは、次の機能強化が加えられました。

- [Connect via Meraki Login] ウィジェットが Cisco Spaces ダッシュボードから削除されました。
- すでに Cisco Meraki ログイン情報を使用して接続している既存のユーザーは引き続き有効であり、Cisco Spaces ダッシュボードで [Connect via Meraki Login] ワイヤレス ネットワーク オプションを表示できます。
- [Connect via API] キーが、Cisco Spaces を Meraki アカウントと統合するために推奨される方法です。

行動メトリクス

[Workspaces] 分野の次のチャートとオプションは、行動メトリクスアプリから削除されました。

- [Top & Bottom]、[Important]、[Pinned Locations] オプション
- [Occupancy Index] チャートとすべての [Line] チャート

Right Now

Right Now アプリが有線デバイスをサポートするようになりました。[Settings] メニューの [Include Wired Devices] オプションを使用して、アクティブな訪問者の一部として有線デバイスを含めることができます。デフォルトでは、有線デバイスは除外されます。

不具合

不具合では、Cisco Spaces アプリケーションでの予期しない動作について説明します。「解決済みの不具合」と「未解決の不具合」では、このリリースの不具合を示します。

各不具合について、次の情報が提供されます。

- 識別子：各不具合には、一意の識別子 (ID) が割り当てられます。識別子は CSCxxNNNNN というパターンで、*x* は任意の文字 (a ~ z)、*N* は任意の数字 (0 ~ 9) です。これらの ID は、セキュリティアドバイザリ、フィールド通知、その他のシスコのサポートドキュメントなど、シスコのマニュアルでよく使用されます。Technical Assistance Center (TAC) エンジニアまたはその他のシスコのスタッフからも、特定の不具合の ID が提供されます。
- 説明：不具合が発生したときに観察された内容の説明。

ここでは、次の内容について説明します。

シスコバグ検索ツール

シスコバグ検索ツール (BST) は、シスコ製品とソフトウェアの障害と脆弱性の包括的なリストを管理するシスコバグ追跡システムへのゲートウェイです。BSTは、製品とソフトウェアに関する詳細な障害情報を提供します。

未解決の不具合

ここでは、Cisco Spaces のこのリリースにおける未解決の不具合を示します。

表 18: Cisco Spaces 未解決の不具合

不具合の識別子	不具合の説明
CSCvu98859	新しい構成を適用すると、[Button Click] データや [Movement] データなどのテレメトリが 18 時間以上にリセットされる
CSCvv16880	ゲートウェイの展開ワークフロー中に、タイミングの問題により、AP が「needs config mode (設定モードが必要)」として誤って分類されることがある

解決済みの不具合

Cisco Spaces のこのリリースで解決された不具合はありません。



第 22 章

2021 年 8 月

- [今回のリリースでの新機能 \(77 ページ\)](#)
- [このリリースでの変更点 \(77 ページ\)](#)
- [不具合 \(78 ページ\)](#)

今回のリリースでの新機能

パートナー ダッシュボード

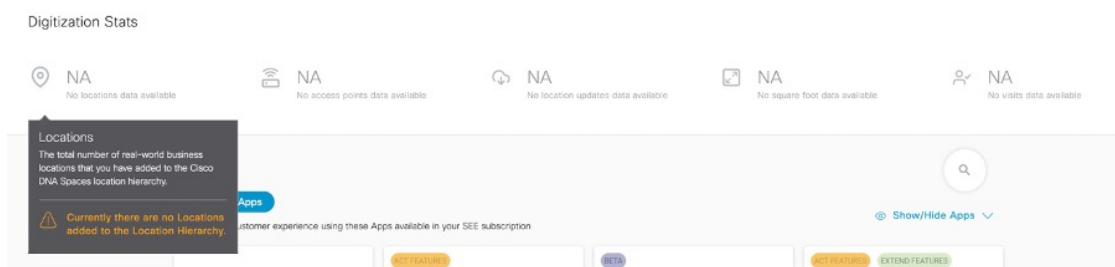
Single Tenant Cloud と呼ばれる新しいアプリタイプが Cisco Spaces - パートナーダッシュボードに導入されました。パートナーが顧客ごとに1つの展開を希望する場合は、Single Tenant Cloud アプリをお勧めします。

このリリースでの変更点

ダッシュボード

Cisco Spaces ダッシュボードのホームページの [Digitization Stats] セクションで、次の機能強化が加えられました。

- [Visitors] カウンタは、[Digitization Stats] セクションから削除されました。
- [Digitization Stats] セクションを1つの行として表示できるようになりました。
- 次の図に示すように、任意のカウンタをクリックするか、カーソルを合わせて、対応する情報を含むツールヒントを表示できるようになりました。



不具合

不具合では、Cisco Spaces アプリケーションでの予期しない動作について説明します。「解決済みの不具合」と「未解決の不具合」では、このリリースの不具合を示します。

各不具合について、次の情報が提供されます。

- 識別子：各不具合には、一意の識別子（ID）が割り当てられます。識別子は CSCxxNNNNN というパターンで、*x* は任意の文字（a～z）、*N* は任意の数字（0～9）です。これらの ID は、セキュリティアドバイザリ、フィールド通知、その他のシスコのサポートドキュメントなど、シスコのマニュアルでよく使用されます。Technical Assistance Center（TAC）エンジニアまたはその他のシスコのスタッフからも、特定の不具合の ID が提供されます。
- 説明：不具合が発生したときに観察された内容の説明。

ここでは、次の内容について説明します。

シスコバグ検索ツール

[シスコバグ検索ツール](#)（BST）は、シスコ製品とソフトウェアの障害と脆弱性の包括的なリストを管理するシスコバグ追跡システムへのゲートウェイです。BSTは、製品とソフトウェアに関する詳細な障害情報を提供します。

未解決の不具合

ここでは、Cisco Spaces のこのリリースにおける未解決の不具合を示します。

表 19: Cisco Spaces 未解決の不具合

不具合の識別子	不具合の説明
CSCvu98859	新しい構成を適用すると、[Button Click] データや [Movement] データなどのテレメトリが 18 時間以上にリセットされる
CSCvv16880	ゲートウェイの展開ワークフロー中に、タイミングの問題により、AP が「needs config mode（設定モードが必要）」として誤って分類されることがある

解決済みの不具合

Cisco Spaces のこのリリースで解決された不具合はありません。



第 23 章

2021 年 7 月

- 今回のリリースでの新機能 (81 ページ)
- このリリースでの変更点 (81 ページ)
- 不具合 (82 ページ)

今回のリリースでの新機能

このリリースに新機能はありません。

このリリースでの変更点

ダッシュボード

Cisco Spaces ダッシュボードの [Monitor] セクションでは、次の機能強化が加えられました。

- [Connectors] と [Controllers] の表の上部には、アクティブでないデバイスの数ではなく、テナントのアクティブなコネクタとコントローラの数が表示されています。
- UTC は、UTC タイムゾーンを示すために、[Last Modified]、[Last Heard] などのすべての時間関連ラベルに追加されました。

Description	Control Channel Status	Control Channel Last Heard(UTC)	Data Channel Status
MyConnector	Active	Aug 16, 2021, 06:45 am	Active

- NMSP メッセージレートグラフが計算される期間が 24 時間から 30 日に延長されました。

不具合

不具合では、Cisco Spaces アプリケーションでの予期しない動作について説明します。「解決済みの不具合」と「未解決の不具合」では、このリリースの不具合を示します。

各不具合について、次の情報が提供されます。

- 識別子：各不具合には、一意の識別子（ID）が割り当てられます。識別子は CSCxxNNNN というパターンで、*x* は任意の文字（a～z）、*N* は任意の数字（0～9）です。これらの ID は、セキュリティアドバイザリ、フィールド通知、その他のシスコのサポートドキュメントなど、シスコのマニュアルでよく使用されます。Technical Assistance Center（TAC）エンジニアまたはその他のシスコのスタッフからも、特定の不具合の ID が提供されます。
- 説明：不具合が発生したときに観察された内容の説明。

ここでは、次の内容について説明します。

シスコバグ検索ツール

シスコバグ検索ツール（BST）は、シスコ製品とソフトウェアの障害と脆弱性の包括的なリストを管理するシスコバグ追跡システムへのゲートウェイです。BST は、製品とソフトウェアに関する詳細な障害情報を提供します。

未解決の不具合

ここでは、Cisco Spaces のこのリリースにおける未解決の不具合を示します。

表 20: Cisco Spaces 未解決の不具合

不具合の識別子	不具合の説明
CSCvu98859	新しい構成を適用すると、[Button Click] データや [Movement] データなどのテレメトリが 18 時間以上にリセットされる
CSCvv16880	ゲートウェイの展開ワークフロー中に、タイミングの問題により、AP が「needs config mode（設定モードが必要）」として誤って分類されることがある

解決済みの不具合

Cisco Spaces のこのリリースで解決された不具合はありません。



第 24 章

2021 年 6 月

- [今回のリリースでの新機能 \(83 ページ\)](#)
- [このリリースでの変更点 \(84 ページ\)](#)
- [不具合 \(84 ページ\)](#)

今回のリリースでの新機能

パートナー ダッシュボード

ロールベースのアクセス制御は、Cisco Spaces - パートナーダッシュボード ユーザーに対して導入されました。パートナーは、Cisco Spaces - パートナーダッシュボード を通じて次のいずれかのロールをユーザーに割り当てることができるようになりました。

- **[PartnerDashboardReadWrite]** : 読み取りおよび書き込みアクセス許可を持つ Cisco Spaces - パートナーダッシュボード ユーザーは、Cisco Spaces - パートナーダッシュボード で次のアクションを実行できます。
 - パートナーアプリの作成、編集、プレビュー、削除
 - パートナーアプリの構成を表示する
 - パートナーアプリの送信、アクティブ化、および更新
 - パートナーアプリのコピーを作成する
 - すべての Cisco Spaces - パートナーダッシュボード ユーザーのロールを変更する
- **PartnerDashboardReadOnly** : 読み取り専用権限を持つ Cisco Spaces - パートナーダッシュボード ユーザーは、次のアクションに制限されます。
 - パートナーアプリの構成を表示する
 - パートナーアプリのプレビューとアクティブ化



- (注) パートナーは、Cisco Spaces ダッシュボードからのみ新規ユーザーを Cisco Spaces - パートナーダッシュボードに招待できます。これにより、新しいユーザーは Cisco Spaces ダッシュボードと Cisco Spaces - パートナーダッシュボードの両方にアクセスできます。

このリリースでの変更点

ダッシュボード

Cisco Spaces ダッシュボードの次のアプリに対して、ロケーション固有のロールベースのアクセス制御が導入されました。

- エンゲージメント
- ロケーションペルソナ
- キャプティブポータル

デフォルトでは、Cisco Spaces ダッシュボード管理者はこれらのアプリにアクセスでき、特定の場所の上記のアプリのいずれかに読み取り/書き込みまたは読み取り専用アクセスを割り当てることができます。これらのアクセス許可は、選択したアプリを使用するようにユーザーを招待する際に特定の場所に割り当てることも、後で特定のアプリの [User Management] ウィンドウを使用して変更することもできます。

ロケーション分析

[Location Analytics] では、ホームページとカスタムレポートセクションの下に、[Dwell Time] チャートと [Dwell Time Breakdown] チャートの代わりに、[Dwell Time Distribution] チャートが表示されます。

[Dwell Time Distribution] チャートには、滞留時間の合計、訪問回数の合計、および滞留範囲のさまざまなカテゴリについて記録された訪問の割合が表示されます。

不具合

不具合では、Cisco Spaces アプリケーションでの予期しない動作について説明します。「解決済みの不具合」と「未解決の不具合」では、このリリースの不具合を示します。

各不具合について、次の情報が提供されます。

- 識別子：各不具合には、一意の識別子 (ID) が割り当てられます。識別子は CSCxxNNNN というパターンで、 x は任意の文字 (a ~ z)、 N は任意の数字 (0 ~ 9) です。これらの ID は、セキュリティアドバイザリ、フィールド通知、その他のシスコのサポートドキュメントなど、シスコのマニュアルでよく使用されます。Technical Assistance Center (TAC) エンジニアまたはその他のシスコのスタッフからも、特定の不具合の ID が提供されます。

- 説明：不具合が発生したときに観察された内容の説明。

ここでは、次の内容について説明します。

シスコバグ検索ツール

[シスコバグ検索ツール](#) (BST) は、シスコ製品とソフトウェアの障害と脆弱性の包括的なリストを管理するシスコバグ追跡システムへのゲートウェイです。BSTは、製品とソフトウェアに関する詳細な障害情報を提供します。

未解決の不具合

ここでは、Cisco Spaces のこのリリースにおける未解決の不具合を示します。

表 21 : Cisco Spaces 未解決の不具合

不具合の識別子	不具合の説明
CSCvu98859	新しい構成を適用すると、[Button Click] データや [Movement] データなどのテレメトリが 18 時間以上にリセットされる
CSCvv16880	ゲートウェイの展開ワークフロー中に、タイミングの問題により、AP が「needs config mode (設定モードが必要)」として誤って分類されることがある

解決済みの不具合

Cisco Spaces のこのリリースで解決された不具合はありません。



第 25 章

2021 年 5 月

- 今回のリリースでの新機能 (87 ページ)
- このリリースでの変更点 (87 ページ)
- 不具合 (88 ページ)

今回のリリースでの新機能

ダッシュボード

- [Map Service] : Cisco Spaces ダッシュボードから Cisco Spaces コネクタのスイッチを設定できるようになりました。[Setup] > [Wired Network] > [Add Switches] を選択して、新しい有線スイッチを追加し、既存の Cisco Spaces コネクタにマップします。詳細については、『[Cisco Spaces Connector Configuration Guide](#)』を参照してください。
- プロファイルベースの **Open Roaming** : Cisco Spaces ダッシュボードで、Cisco AireOS シリーズ、Cisco Catalyst シリーズ コントローラ、および Cisco Meraki ネットワーク用のプロファイルベースの OpenRoaming を設定できるようになりました。
- センサー : Cisco Spaces ダッシュボードからセンサーをオンボードし、これらのセンサーを OpenRoaming プロファイルにマッピングできるようになりました。
 - クレームセンサー : [Setup] > [Sensors] > [Claim Sensors] を選択します。
 - センサーを **OpenRoaming SSID** に接続 : [OpenRoaming] > [Sensors] を選択します。

このリリースでの変更点

ダッシュボード

- **タイトルの再設計** : Cisco Spaces ダッシュボードが拡張され、カウントの詳細を予測するアプリケーション用の追加のタイトルが表示されるようになりました。さらに、ライセンスベースの機能に関する詳細を提供するバナーが各タイトルに表示されます。

- **キャプティブポータル** : Cisco Spaces ダッシュボードの [Captive Portals] セクションから、データ キャプチャ フォーム フィールドと認証フィールドのカスタムラベルを設定できるようになりました。

キャプティブランタイム

キャプティブ ポータル ランタイムは、GUI でカスタムラベルをサポートできるようになりました。これらのラベルは Cisco Spaces ダッシュボードで設定でき、これらのカスタムラベルはランタイム GUI に表示されます。

パートナー ダッシュボード

Cisco Spaces パートナーダッシュボードでは、次の機能強化が加えられました。

- アプリの作成中または編集時に、[Push Channels] 構成がマスクされるようになりました。
- アプリの作成中に、Cisco OAuth URL フィールドに事前入力されます。パートナーは、これらのデフォルトの Cisco OAuth URL を使用するか、アプリのアクティベーションのために編集するかを選択できます。

不具合

不具合では、Cisco Spaces アプリケーションでの予期しない動作について説明します。「解決済みの不具合」と「未解決の不具合」では、このリリースの不具合を示します。

各不具合について、次の情報が提供されます。

- **識別子** : 各不具合には、一意の識別子 (ID) が割り当てられます。識別子は CSCxxNNNNN というパターンで、*x* は任意の文字 (a ~ z)、*N* は任意の数字 (0 ~ 9) です。これらの ID は、セキュリティアドバイザリ、フィールド通知、その他のシスコのサポートドキュメントなど、シスコのマニュアルでよく使用されます。Technical Assistance Center (TAC) エンジニアまたはその他のシスコのスタッフからも、特定の不具合の ID が提供されます。
- **説明** : 不具合が発生したときに観察された内容の説明。

ここでは、次の内容について説明します。

シスコバグ検索ツール

シスコバグ検索ツール (BST) は、シスコ製品とソフトウェアの障害と脆弱性の包括的なリストを管理するシスコバグ追跡システムへのゲートウェイです。BST は、製品とソフトウェアに関する詳細な障害情報を提供します。

未解決の不具合

ここでは、Cisco Spaces のこのリリースにおける未解決の不具合を示します。

表 22: Cisco Spaces 未解決の不具合

不具合の識別子	不具合の説明
CSCvu98859	新しい構成を適用すると、[Button Click] データや [Movement] データなどのテレメトリが 18 時間以上にリセットされる
CSCvv16880	ゲートウェイの展開ワークフロー中に、タイミングの問題により、AP が「needs config mode (設定モードが必要)」として誤って分類されることがある

解決済みの不具合

Cisco Spaces のこのリリースには、修正された不具合はありません。



第 26 章

2021 年 4 月

- 今回のリリースでの新機能 (91 ページ)
- このリリースでの変更点 (92 ページ)
- 不具合 (92 ページ)

今回のリリースでの新機能

キャプティブランタイム

Facebook を使用したソーシャル認証 : Cisco Spaces では認証プロセス中に Cisco Spaces バックエンドに保存された名、姓、性別、電子メール ID など、公開されているユーザーデータを削除できるようになりました。

公開されているユーザーデータを Cisco Spaces から削除するには、Facebook 開発者アカウントでそのアプリの [Data Deletion Callback URL] を設定します。[Data Deletion Callback UR] の形式は [\[https://<live_domain>/p/<customerName>/fb_revoke\]](https://<live_domain>/p/<customerName>/fb_revoke) です。たとえば、https://splash.dnaspaces.io/p/ciscotest/fb_revoke などです。詳細な手順については、Cisco Spaces コンフィギュレーションガイドの「Working with the Captive Portal App」の章を参照してください。

ユーザーデータを Cisco Spaces から削除するには、アプリユーザーは Facebook プロファイル設定ページで次の操作を行う必要があります。

1. **[Settings & Privacy] > [Settings] > [Apps and Websites] > [Active]** をクリックして、サインインしたアプリを削除します。
2. **[Settings & Privacy] > [Settings] > [Apps and Websites] > [Removed]** をクリックして、データ削除リクエストを送信します。

ダッシュボード

Cisco Spaces ダッシュボードの次のアプリに対して、ロールベースのアクセス制御が導入されました。

- エンゲージメント

- ロケーションペルソナ
- OpenRoaming

デフォルトでは、Cisco Spaces ダッシュボード管理者はこれらのアプリにアクセスできます。これらの各アプリの [User Management] オプションを使用して、ダッシュボード管理者は個々のアプリへのユーザーアクセスを管理できます。

このリリースでの変更点

マップサービス

ロケーションのタイムゾーンは、ソースマップファイルに記載されている対応する緯度と経度の値から取得されるようになりました。このタイムゾーン値は、マップのインポート中に Cisco Spaces バックエンドに保存されます。

タイムゾーンは、そのロケーションに対応する [Location Info] ページの [Location Hierarchy] に表示されます。インポートされたソースマップファイルに存在する情報に基づくロケーションの住所も、[Location Info] ページに表示されます。

不具合

不具合では、Cisco Spaces アプリケーションでの予期しない動作について説明します。「解決済みの不具合」と「未解決の不具合」では、このリリースの不具合を示します。

各不具合について、次の情報が提供されます。

- 識別子：各不具合には、一意の識別子 (ID) が割り当てられます。識別子は CSCxxNNNN というパターンで、*x* は任意の文字 (a ~ z)、*N* は任意の数字 (0 ~ 9) です。これらの ID は、セキュリティアドバイザリ、フィールド通知、その他のシスコのサポートドキュメントなど、シスコのマニュアルでよく使用されます。Technical Assistance Center (TAC) エンジニアまたはその他のシスコのスタッフからも、特定の不具合の ID が提供されます。
- 説明：不具合が発生したときに観察された内容の説明。

ここでは、次の内容について説明します。

シスコバグ検索ツール

[シスコバグ検索ツール](#) (BST) は、シスコ製品とソフトウェアの障害と脆弱性の包括的なリストを管理するシスコバグ追跡システムへのゲートウェイです。BST は、製品とソフトウェアに関する詳細な障害情報を提供します。

未解決の不具合

ここでは、Cisco Spaces のこのリリースにおける未解決の不具合を示します。

表 23: Cisco Spaces 未解決の不具合

不具合の識別子	不具合の説明
CSCvu98859	新しい構成を適用すると、[Button Click] データや [Movement] データなどのテレメトリが 18 時間以上にリセットされる
CSCvv16880	ゲートウェイの展開ワークフロー中に、タイミングの問題により、AP が「needs config mode (設定モードが必要)」として誤って分類されることがある

解決済みの不具合

Cisco Spaces のこのリリースには修正されたバグはありません。



第 27 章

2021 年 3 月

- 今回のリリースでの新機能 (95 ページ)
- このリリースでの変更点 (96 ページ)
- 不具合 (97 ページ)

今回のリリースでの新機能

パートナー ダッシュボード

Cisco Spaces - パートナーダッシュボードに次の機能が導入されました。

- [Partner self-onboarding] : Cisco Spaces アカウントでパートナー権限が有効になっていない場合でも、Cisco Spaces - パートナーダッシュボードにログインできます。セルフオンボーディングの導入により、Cisco Spaces - パートナーダッシュボードに最初にログインしたときに表示される [Spaces Partner Onboarding] ダイアログボックスで、次のオプションからアカウントタイプを選択できます。
 - [I want to create apps for my organization] : 組織の内部専用のアプリを作成する場合は、このオプションを選択して [Continue] をクリックします。このオプションでは、アプリを Cisco Spaces - パートナー アプリケーションセンターに公開することはできません。
 - [I'm a developer who provides solutions to Cisco Spaces customers] : グローバルな顧客向けの Cisco Spaces - パートナー アプリケーションセンターにアプリケーションを作成して公開する場合は、このオプションを選択して [Continue] をクリックします。
- [Retrieve forgotten password] : Cisco Spaces - パートナーダッシュボードログインウィンドウからパスワードを取得または変更できるようになりました。
- [Partner Onboarding] : Cisco Spaces - パートナーダッシュボードの新しい [Partner Onboarding] タイルを使用して、[Partners Onboarding Helper] ウィンドウを表示できます。

[Partners Onboarding Helper] ウィンドウには、Cisco Spaces - パートナーダッシュボードの使用方法を説明するビデオとドキュメントが含まれています。これには、[Onboarding

Process]、[IoT Service Marketplace]、および Cisco Spaces - パートナー アプリケーション センターのパートナーアプリの構成に関する情報が含まれます。

- [Location Anchor Update] : 新しいイベント [LOCATION_ANCHOR_UPDATE] が、Cisco Spaces - パートナーダッシュボードの [Events] セクションに追加されます。

Partner Firehose API

Cisco Spaces - Partner Firehose API では、次の機能強化が加えられました。

- [Location Anchor Update] : WayFinding のユースケースをサポートするために、新しいイベント LOCATION_ANCHOR_UPDATE が追加されました。

このリリースでの変更点

ダッシュボード

Cisco Spaces ダッシュボードでは、次の機能強化が加えられました。

- **SSID 設定の機能強化** : SSID ウィンドウ ([Dashboard] > [Captive Portals] > [SSIDs]) に次の更新が加えられました。
 - [Import/Configure SSID] をクリックして SSID を作成すると、[Wireless Network] ドロップダウンリストのオプションが次のように変更されます。
 - オプションの [Meraki] が [Cisco Meraki] に変更されました。
 - オプション [CUWN] が [Cisco AireOS/Cisco Catalyst 9800] に変更されました。
 - [Cisco Aironet SSID] セクションの名前が [Cisco AireOS/Cisco Catalyst 9800 SSID] に変更されました。Cisco Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラの SSID および RADIUS サーバーの設定手順も表示できます。[Configure Manually] リンクをクリックして、これらの手順を表示します。
- **密度ルール** : [Actions] セクションで、密度ルールの通知頻度の新しいオプションを選択できるようになりました。新しく追加されたオプションは、[15 Minutes]、[30 Minutes]、[45 Minutes] に [Once] です。

マップサービス

Cisco Spaces の [Map Service] では、次の機能強化が加えられました。

- [Map Service] では、[Cisco Prime Infrastructure] のマップファイルを使用して、通常の AP とともに計画モードの AP をインポートできるようになりました。これらのインポートされた AP は、[Location Hierarchy] と [Map Service] の両方の下に表示されます。

不具合

不具合では、Cisco Spaces アプリケーションでの予期しない動作について説明します。「解決済みの不具合」と「未解決の不具合」では、このリリースの不具合を示します。

各不具合について、次の情報が提供されます。

- 識別子：各不具合には、一意の識別子 (ID) が割り当てられます。識別子は CSCxxNNNN というパターンで、x は任意の文字 (a ~ z)、N は任意の数字 (0 ~ 9) です。これらの ID は、セキュリティアドバイザリ、フィールド通知、その他のシスコのサポートドキュメントなど、シスコのマニュアルでよく使用されます。Technical Assistance Center (TAC) エンジニアまたはその他のシスコのスタッフからも、特定の不具合の ID が提供されます。
- 説明：不具合が発生したときに観察された内容の説明。

ここでは、次の内容について説明します。

シスコバグ検索ツール

[シスコバグ検索ツール](#) (BST) は、シスコ製品とソフトウェアの障害と脆弱性の包括的なリストを管理するシスコバグ追跡システムへのゲートウェイです。BST は、製品とソフトウェアに関する詳細な障害情報を提供します。

未解決の不具合

ここでは、Cisco Spaces のこのリリースにおける未解決の不具合を示します。

表 24: Cisco Spaces 未解決の不具合

不具合の識別子	不具合の説明
CSCvu98859	新しい構成を適用すると、[Button Click] データや [Movement] データなどのテレメトリが 18 時間以上にリセットされる
CSCvv16880	ゲートウェイの展開ワークフロー中に、タイミングの問題により、AP が「needs config mode (設定モードが必要)」として誤って分類されることがある

解決済みの不具合

ここでは、Cisco Spaces のこのリリースで解決されたバグを示します。

表 25: Cisco Spaces 解決済みの不具合

不具合の識別子	不具合の説明
CSCvv91424	特定のルール的一致数またはスキップ数がしきい値を超えると、密度ルールレポートが表示されない
CSCvx97571	マップサービスとロケーション階層の位置の不一致



第 28 章

2021 年 2 月

- 今回のリリースでの新機能 (99 ページ)
- このリリースでの変更点 (100 ページ)
- 不具合 (100 ページ)

今回のリリースでの新機能

ダッシュボード

Cisco Spaces ダッシュボードに次の機能が導入されました。

- ロールベースのアクセス制御は、次のアプリに導入されています。
 - **Business Insights**
 - 影響分析
 - カメラメトリック

デフォルトでは、Cisco Spaces ダッシュボード管理者はこれらのアプリにアクセスできます。これらの管理者は、[Admin Management] オプションを使用して、これらのアプリへのユーザーアクセスを管理できます。



(注) Cisco Spaces ダッシュボードでは、[Business Insights]、[Impact Analysis]、および [Camera Metrics] アプリタイトルは、アプリにアクセスできないユーザーに対して無効に表示されます。



(注) Cisco Spaces ダッシュボードの **Right Now** アプリで静的デバイスフィルタリングが無効になりました。

パートナー ダッシュボード

Cisco Spaces パートナーダッシュボードに次の機能が導入されました。

- アプリのアクティブ化中に、IoT サービスで定義されたグループを表示できるようになりました。ただし、これらのグループは、次のイベントのいずれかを選択した場合にのみ表示されます。

- **IOT_TELEMETRY**
- **IOT_USER_ACTION**
- **BLE_RSSI_UPDATE**

アプリのアクティブ化中に選択したグループを管理するには、[Activation] ウィンドウで、[Groups] タブをクリックします。ここで、グループを追加または編集できます。



- (注)
- この機能を使用するには、指定した Cisco Spaces アカウントの IoT サービスを有効にする必要があります。この機能を使用するには、Cisco Spaces ダッシュボードと Cisco Spaces - パートナーダッシュボード for EXTEND アカウントの両方から IoT サービスを有効にする必要があります。
 - Cisco Spaces ダッシュボードと Cisco Spaces - パートナーダッシュボードの両方で実行されたアクティベーションのアプリのアクティベーション中に、上記のグループを確認できます。

このリリースでの変更点

Partner Firehose API

Cisco Spaces Partner Firehose API には、次の機能強化が加えられました。

- PIR トリガー情報を含む IoT テレメトリーイベント：PIR センサーがトリガーされると、PIR トリガーと PIR タイムスタンプに関連する情報が [IoT Telemetry] イベントの下で更新されます。

不具合

不具合では、Cisco Spaces アプリケーションでの予期しない動作について説明します。「解決済みの不具合」と「未解決の不具合」では、このリリースの不具合を示します。

各不具合について、次の情報が提供されます。

- 識別子：各不具合には、一意の識別子（ID）が割り当てられます。識別子は `CSCxxNNNNN` というパターンで、`x` は任意の文字（`a～z`）、`N` は任意の数字（`0～9`）です。これらの ID は、セキュリティアドバイザリ、フィールド通知、その他のシスコのサポートドキュメントなど、シスコのマニュアルでよく使用されます。Technical Assistance Center（TAC）エンジニアまたはその他のシスコのスタッフからも、特定の不具合の ID が提供されます。
- 説明：不具合が発生したときに観察された内容の説明。

ここでは、次の内容について説明します。

シスコバグ検索ツール

シスコバグ検索ツール（BST）は、シスコ製品とソフトウェアの障害と脆弱性の包括的なリストを管理するシスコバグ追跡システムへのゲートウェイです。BSTは、製品とソフトウェアに関する詳細な障害情報を提供します。

未解決の不具合

ここでは、Cisco Spaces のこのリリースにおける未解決の不具合を示します。

表 26: Cisco Spaces 未解決の不具合

不具合の識別子	不具合の説明
CSCvu98859	新しい構成を適用すると、[Button Click] データや [Movement] データなどのテレメトリが 18 時間以上にリセットされる
CSCvv16880	ゲートウェイの展開ワークフロー中に、タイミングの問題により、AP が「needs config mode（設定モードが必要）」として誤って分類されることがある
CSCvv28936	[Detect & Locate] で、Kontakt BLE デバイスをフィルタリングするオプションを提供する。
CSCvv34216	コネクタが HA ペアで再起動すると、ControllerChannel と APChannel がコネクタ間で分割される
CSCvv64362	カスタム AP グループの GRPC とアプリホストを自動有効にするオプションを提供する
CSCvv91424	特定のルール的一致/スキップ数がしきい値を超えると、密度ルールレポートが表示されない

解決済みの不具合

ここでは、Cisco Spaces のこのリリースで解決されたバグを示します。

表 27: Cisco Spaces 解決済みの不具合

不具合の識別子	不具合の説明
CSCvw96992	CP ランタイム : CPF フィールドはフォーマットのみを検証し、数字は検証しません。



第 29 章

2021 年 1 月

- [今回のリリースでの新機能 \(103 ページ\)](#)
- [このリリースでの変更点 \(104 ページ\)](#)
- [不具合 \(105 ページ\)](#)

今回のリリースでの新機能

Right Now

次の機能が Right Now アプリに導入されています。

- **ロール別アクセス制御** : Right Now アプリでは、アクセスを Cisco Spaces ダッシュボードユーザーに制限するために、ロールベースのアクセスが実装されました。Cisco Spaces ダッシュボード管理者ロールの場合、Right Now アプリへのアクセスはデフォルトで提供されます。その他のロールについては、[Admin Management] オプションを使用して個別にアクセスを割り当てる必要があります。[Right Now] タイルは、Right Now アプリへのアクセス権のない Cisco Spaces ユーザーアカウントでは無効になっています。
- **[RFID] または [BLE] タグ** : [RFID] および [BLE] タグがアクティブな訪問者の一部として表示されるようになりました。[Settings] メニューの [Include BLE Tags] および [Include RFID Tags] オプションを使用して、[RFID] または [BLE] タグをアクティブな訪問者として含めることができます。デフォルトでは、[BLE] または [RFID] タグは除外されます。

パートナー ダッシュボード

Cisco Spaces パートナーダッシュボードに次の機能が導入されました。

- **IoT イベントのアクセス許可** : アプリのアクティブ化中に、[iot_telemetry] または [iot_user_action] イベントのいずれかを選択すると、[IOT Device Data] と呼ばれる新しい句が [Permissions] ウィンドウの下に追加されます。
- **Firehose API** を使用してこれらのイベントを消費するには、その Cisco Spaces アカウントに対して IOT サービスを有効にする必要があります。IoT サービスが有効になっていない

場合、[IOT Devices Data] の下に次のメモが表示されます：Spaces サポートチームに連絡できるようにするために、この機能を使用していません。

- 上記の変更は、Cisco Spaces パートナーダッシュボードと Cisco Spaces ダッシュボードの両方から実行されるアクティベーションに適用されます。

このリリースでの変更点

Right Now

Right Now アプリでは、次の機能強化が加えられました。

- 訪問者構成グラフ：このグラフは、SSID に基づいて訪問者数の内訳を表示するように拡張されています。
- 訪問者の分類化：[Categorize Visitors] という新しいタブが [Right Now] > [Settings] メニューに追加されました。[Guest] や [Employee] などのタイプに基づいて、または SSID に基づいてカスタムカテゴリに基づいて訪問者をカテゴリ化できるようになりました。これらのカテゴリ化は、[Visitor Composition] チャートに表示されます。デフォルトのカテゴリは [auto] に設定されています。このカテゴリを選択すると、訪問者はそのロケーションでの訪問者の行動に基づいてカテゴリ化されます。
- 静的デバイスフィルタリング：継続的にアクティブなデバイスは静的デバイスとして識別され、アクティブな訪問者数には含まれません。
- Map view：マップビューが拡張され、訪問者数とともにフロアマップが表示されるようになりました。フロアレベルにいる推定訪問者数も Map view にプロットされます。ゾーンプロットは、ポリゴンゾーンがフロアマップに追加されている場合にのみ、フロアマップビューで実行できます。ゾーンが追加されていない場合は、フロアマップのみが表示されます。



-
- (注) すべてのロケーションのチャート、主要なロケーションのチャート、および新規訪問者対リピーター訪問者のチャートで表示される訪問者は削除されます。
-

Cisco Spaces ダッシュボード

アクセスコードマネージャセクションでは、次の機能強化が加えられました。

- [Spaces Connector] を通じてオンボーディングされたお客様は、[WLC/Catalyst 9800 Direct] オプションで [Access Code Manager] を使用してアクセスコードを作成/管理できるようになりました。

不具合

不具合では、Cisco Spaces アプリケーションでの予期しない動作について説明します。「解決済みの不具合」と「未解決の不具合」では、このリリースの不具合を示します。

各不具合について、次の情報が提供されます。

- 識別子：各不具合には、一意の識別子 (ID) が割り当てられます。識別子は CSCxxNNNN というパターンで、x は任意の文字 (a ~ z)、N は任意の数字 (0 ~ 9) です。これらの ID は、セキュリティアドバイザリ、フィールド通知、その他のシスコのサポートドキュメントなど、シスコのマニュアルでよく使用されます。Technical Assistance Center (TAC) エンジニアまたはその他のシスコのスタッフからも、特定の不具合の ID が提供されます。
- 説明：不具合が発生したときに観察された内容の説明。

ここでは、次の内容について説明します。

シスコバグ検索ツール

[シスコバグ検索ツール](#) (BST) は、シスコ製品とソフトウェアの障害と脆弱性の包括的なリストを管理するシスコバグ追跡システムへのゲートウェイです。BST は、製品とソフトウェアに関する詳細な障害情報を提供します。

未解決の不具合

ここでは、Cisco Spaces のこのリリースにおける未解決の不具合を示します。これまでのリリースで未解決で、まだ解決されていない不具合は、修正されるまで、今後のすべてのリリースに適用されます。

表 28: Cisco Spaces 未解決の不具合

不具合の識別子	不具合の説明
CSCvu98859	新しい構成を適用すると、[Button Click] データや [Movement] データなどのテレメトリが 18 時間以上にリセットされる
CSCvv16880	ゲートウェイの展開ワークフロー中に、タイミングの問題により、AP が「needs config mode (設定モードが必要)」として誤って分類されることがある
CSCvv28936	[Detect & Locate] で、Kontakt BLE デバイスをフィルタリングするオプションを提供する。
CSCvv34216	コネクタが HA ペアで再起動すると、ControllerChannel と APChannel がコネクタ間で分割される

不具合の識別子	不具合の説明
CSCvv64362	カスタム AP グループの GRPC とアプリホストを自動有効にするオプションを提供する
CSCvv91424	特定のルール的一致/スキップ数がしきい値を超えると、密度ルールレポートが表示されない

解決済みの不具合

このリリースで修正されたバグはありません。



第 **IV** 部

2020

- 2020年12月 (109 ページ)
- 2020年11月 (113 ページ)
- 2020年10月 (119 ページ)
- 2020年9月 (125 ページ)
- 2020年8月 (131 ページ)
- 2020年7月 (139 ページ)
- 2020年6月 (147 ページ)
- 2020年5月 (155 ページ)
- 2020年4月 (163 ページ)
- 2020年3月 (169 ページ)
- 2020年2月 (175 ページ)
- 2020年1月 (181 ページ)



第 30 章

2020 年 12 月

- [Cisco Spaces の概要](#) (109 ページ)
- [今回のリリースでの新機能](#) (111 ページ)
- [このリリースでの変更点](#) (111 ページ)
- [不具合](#) (111 ページ)

Cisco Spaces の概要

Cisco Spaces は、既存のワイヤレスに加え、Internet of Things (IoT) および Bluetooth Low Energy インフラストラクチャを活用して、Cisco Spaces に組み込まれたアプリケーションを通じて実用的な知見を提供し、ビジネスの成果を促進する強力なロケーションサービスプラットフォームです。

この知見には次のものが含まれます。

- **位置分析**：時間や位置によるロケーションデータのスライスとダイスをを行い、ネットワークに接続しているユーザーの行動をより詳細に可視化する機能を提供します。
- **Right Now**：物理的スペース内のリアルタイムの訪問者数（Wi-Fi に接続されているデバイスで識別）、およびこの数を履歴平均と比較する方法を提供するレポート。**Right Now** レポートでは、使用されている認証方法に基づいて、1 人のユーザーに属する複数のデバイスを検出し、それらのデバイスを 1 人の訪問者に属するものとしてカウントできます。また、**Right Now** アプリは、お客様のロケーションに配置されたカメラ、およびこれらのカメラが Cisco Spaces クラウドに接続されているかどうかに基づいて、レポートを提供します。
- **Business Insights**：人々がお客様の物理ロケーションを訪れる頻度と、それらのロケーションに滞在する時間を測定する機能を提供します。このデータは、すべてのロケーションにわたり、月単位で比較評価されます。また、ロケーションのパフォーマンスを経時的、グループ別、または業界別に比較評価する機能も用意されています。
- **影響分析**：ネットワークに接続しているユーザーの行動に対する、特定の場所でのイベント、キャンペーン、レイアウト変更の影響を測定する機能を提供します。Cisco Spaces アプリケーションを使用して簡単にイベントを作成し、次の項目に基づいてその影響を測定できます。

- 滞留時間
- [Before]、[After]、[During] などの特定のタイムラインでの頻度

Cisco Spaces には、**キャプティブポータル**、**ロケーションペルソナ**、**エンゲージメント**などのカスタマーエクスペリエンス管理アプリが含まれており、物理的な場所にいる顧客とリアルタイムでつながることができます。また、その他のアプリケーションとして、**Asset Tracking** アプリ、**Internet of Everything (IoT)** サービス (**Bluetooth Low Energy**) を管理および設定するためのサービスマネージャ、さらにはこのデータを抽出して他のエンタープライズシステムとの関連付けまたは統合を行うためのオープン API フレームワークもあります。

Cisco Spaces は、さまざまなロケーションベースのテクノロジーやインテリジェンスを通じて各種のサービスを利用できる単一のダッシュボードインターフェイスを備えています。また、Cisco Spaces では、お客様の物理的なビジネスロケーションへの訪問者となつたり、関係を深めることもできます。ワークスペース、小売、製造、ホスピタリティ、ヘルスケア、教育、金融サービスなど、さまざまな業界で使用されています。Cisco Spaces のアセットトラッキングアプリケーションは、お客様施設内の資産を監視および管理するためのソリューションを提供します。Cisco Spaces には、これらの知見をアクションに変えるためのさまざまなツールキット、アプリ、および API が用意されています。

Cisco Spaces では、パートナープログラムを通じて、さまざまな業種にわたるさまざまなパートナーアプリケーションにアクセスできます。

Cisco Spaces は、Cisco Catalyst、Cisco AireOS、および Cisco Meraki インフラストラクチャと互換性があります。

記載されているサービスに加えて、Cisco Spaces アプリの範囲は、世界的なパンデミックである COVID-19 によって生じるビジネス要件を満たすために拡張されました。拡張機能は既存のアプリケーションに基づいて構築されており、COVID-19 と関連する特定の要件を満たすために新しいアプリケーションが追加されています。Impact Analytics、Location Analytics、行動メトリクス、RightNow などのアプリの拡張機能を使用すると、ビジネス拠点に及ぼす COVID-19 の影響を分析し、適切なアクションを実行できます。たとえば、特定の場所のデバイス密度に基づくルールを作成し、その場所の人数が特定の数または密度（エリアあたりの人数）を超えた場合に自動的に通知を受けられるようになりました。Location Analytics アプリには、エグゼクティブサマリーレポートを組織内の同僚と共有する機能が追加されました。さらに、行動メトリクスアプリを使用して、個人またはグループのロケーションに関する COVID-19 ベースの傾向分析を実行できるようになりました。これにより、特定のビジネスロケーションを組織全体と比較したり、特定の業界と比較したりすることもできます。

Cisco Spaces の **Proximity Reporting** アプリでは、影響を受けるデバイスの位置履歴やデバイス近接履歴をすばやく確認できます。ユーザー ID または MAC アドレスに基づいて、過去 14 日間の建物内におけるデバイスの位置に関するレポートが、他のデバイスとの近接度とともに生成されます。このレポートは、共有機能を使用してエクスポートまたは共有することもできます。同様に、検出と位置特定アプリには、デバイスを特定の数にクラスタ化して、ソーシャルディスタンスのガイドラインに違反している可能性のある領域を確認して報告する機能が追加されました。

セットアップや構成を含む、Cisco Spaces の詳細については、『[Cisco Spaces Configuration Guide](#)』[英語]を参照してください。

今回のリリースでの新機能

パートナー ダッシュボード

Cisco Spaces パートナーダッシュボードに次の機能が導入されました。

パートナーは、Cisco Spaces パートナーダッシュボードで次のタスクを実行できます。

- アプリをコピー、表示、または削除する
- 米国と EU 領域内および間でアプリをコピーする
- [New]、[Testing]、[Submitted] の状態のアプリを削除する
- [View] オプションを使用して、アプリのすべての構成を表示する

このリリースでの変更点

パートナー ダッシュボード

Cisco Spaces パートナーダッシュボードでは、次の機能強化が加えられました。

- API キー：クラウドアプリの場合、API キーは **Live** アプリと **Draft** アプリの両方で同じになります。Draft アプリ（クラウド）の API キーの `[_draft]` サフィックスが削除されました。
- Draft アプリ：アプリが同じ Cisco Spaces アカウントを使用して作成およびアクティブ化されている場合、ドラフト構成が適用されます。
- Live アプリ：アプリが異なる Cisco Spaces アカウントを使用して作成およびアクティブ化された場合、ライブ設定が適用されます。

不具合

不具合では、Cisco Spaces アプリケーションでの予期しない動作について説明します。「解決済みの不具合」と「未解決の不具合」では、このリリースの不具合を示します。

各不具合について、次の情報が提供されます。

- 識別子：各不具合には、一意の識別子 (ID) が割り当てられます。識別子は `CSCxxNNNNN` というパターンで、`x` は任意の文字 (a ~ z)、`N` は任意の数字 (0 ~ 9) です。これらの ID は、セキュリティアドバイザリ、フィールド通知、その他のシスコのサポートドキュメントなど、シスコのマニュアルでよく使用されます。Technical Assistance Center (TAC) エンジニアまたはその他のシスコのスタッフからも、特定の不具合の ID が提供されます。
- 説明：不具合が発生したときに観察された内容の説明。

ここでは、次の内容について説明します。

シスコバグ検索ツール

シスコバグ検索ツール (BST) は、シスコ製品とソフトウェアの障害と脆弱性の包括的なリストを管理するシスコバグ追跡システムへのゲートウェイです。BSTは、製品とソフトウェアに関する詳細な障害情報を提供します。

未解決の不具合

ここでは、Cisco Spaces のこのリリースにおける未解決の不具合を示します。これまでのリリースで未解決で、まだ解決されていない不具合は、修正されるまで、今後のすべてのリリースに適用されます。

表 29: Cisco Spaces 未解決の不具合

不具合の識別子	不具合の説明
CSCvu98859	新しい構成を適用すると、[Button Click] データや [Movement] データなどのテレメトリが 18 時間以上にリセットされる
CSCvv16880	ゲートウェイの展開ワークフロー中に、タイミングの問題により、AP が「needs config mode (設定モードが必要)」として誤って分類されることがある。
CSCvv28936	[Detect & Locate] で、Kontakt BLE デバイスをフィルタリングするオプションを提供する。
CSCvv34216	コネクタが HA ペアで再起動すると、ControllerChannel と APChannel がコネクタ間で分割される
CSCvv64362	カスタム AP グループの GRPC とアプリホストを自動有効にするオプションを提供する
CSCvv91424	特定のルール的一致/スキップ数がしきい値を超えると、密度ルールレポートが表示されない

解決済みの不具合

ここでは、Cisco Spaces のこのリリースで解決されたバグを示します。

このリリースで修正されたバグはありません。



第 31 章

2020 年 11 月

- [Cisco Spaces の概要](#) (113 ページ)
- [今回のリリースでの新機能](#) (115 ページ)
- [このリリースでの変更点](#) (116 ページ)
- [不具合](#) (117 ページ)

Cisco Spaces の概要

Cisco Spaces は、既存のワイヤレスに加え、Internet of Things (IoT) および Bluetooth Low Energy (BLE) インフラストラクチャを活用して、Cisco Spaces に組み込まれたアプリケーションを通じて実用的な知見を提供し、ビジネスの成果を促進する強力なロケーションサービスプラットフォームです。

この知見には次のものが含まれます。

- **位置分析**：時間や位置によるロケーションデータのスライスとダイスをを行い、ネットワークに接続しているユーザーの行動をより詳細に可視化する機能を提供します。
- **Right Now**：物理的スペース内のリアルタイムの訪問者数（Wi-Fi に接続されているデバイスで識別）、およびこの数を履歴平均と比較する方法を提供するレポート。Right Now レポートでは、使用されている認証方法に基づいて、1 人のユーザーに属する複数のデバイスを検出し、それらのデバイスを 1 人の訪問者に属するものとしてカウントできます。
- **Business Insights**：人々がお客様の物理ロケーションに訪れる頻度と、それらのロケーションに滞在する時間を測定する機能を提供します。このデータは、すべてのロケーションにわたり、月単位で比較評価されます。また、ロケーションのパフォーマンスを経時的、グループ別、または業界別に比較評価する機能も用意されています。
- **影響分析**：ネットワークに接続しているユーザーの行動に対する、特定の場所でのイベント、キャンペーン、レイアウト変更の影響を測定する機能を提供します。Cisco Spaces アプリケーションを使用して簡単にイベントを作成し、次の項目に基づいてその影響を測定できます。
 - 滞留時間
 - **Before、After、During** などの特定のタイムラインでの頻度

Cisco Spaces アプリケーションには、**キャプティブポータル**、**ロケーションペルソナ**、**エンゲージメント**などのカスタマーエクスペリエンス管理アプリが含まれており、物理的な場所にいる顧客とリアルタイムでつながることができます。また、その他のアプリケーションとして、**Asset Tracking** アプリ、IoT サービス (BLE) を管理および設定するためのサービスマネージャ、さらにはこのデータを抽出して他のエンタープライズシステムとの関連付けまたは統合を行うためのオープン API フレームワークもあります。

Cisco Spaces は、さまざまなロケーションベースのテクノロジーやインテリジェンスを通じて各種のサービスを利用できる単一のダッシュボードインターフェイスを備えています。また、Cisco Spaces では、お客様の物理的なビジネスロケーションへの訪問者をつなぎ、関係を深めることもできます。ワークスペース、小売、製造、ホスピタリティ、ヘルスケア、教育、金融サービスなど、さまざまな業界で使用されています。Cisco Spaces のアセットトラッキングアプリケーションは、お客様施設内の資産を監視および管理するためのソリューションを提供します。Cisco Spaces には、これらの知見をアクションに変えるためのさまざまなツールキット、アプリ、および API が用意されています。

Cisco Spaces では、パートナープログラムを通じて、さまざまな業種にわたるさまざまなパートナーアプリケーションにアクセスできます。

Cisco Spaces は、Cisco Catalyst、Cisco AireOS、および Cisco Meraki インフラストラクチャと互換性があります。

記載されているサービスに加えて、Cisco Spaces アプリの範囲は、世界的なパンデミックである COVID-19 によって生じるビジネス要件を満たすために拡張されました。拡張機能は既存のアプリケーションに基づいて構築されており、COVID-19 の特定の要件を満たすために新しいアプリケーションが追加されています。Impact Analytics、Location Analytics、行動メトリクス、Right Now などのアプリの拡張機能を使用すると、ビジネス拠点に及ぼす COVID-19 の影響を分析し、適切なアクションを実行できます。たとえば、特定の場所のデバイス密度に基づくルールを作成し、その場所の人数が特定の数または密度 (エリアあたりの人数) を超えた場合に自動的に通知を受けられるようになりました。Location Analytics アプリには、エグゼクティブサマリーレポートを組織内の同僚と共有する機能が追加されました。さらに、行動メトリクスアプリを使用して、個人またはグループのロケーションに関する COVID-19 ベースの傾向分析を実行できるようになりました。これにより、特定のビジネスロケーションを組織全体と比較したり、特定の業界と比較したりすることもできます。

Cisco Spaces の **Proximity Reporting** アプリでは、影響を受けるデバイスの位置履歴やデバイス近接履歴をすばやく確認できます。ユーザー ID または MAC アドレスに基づいて、過去 14 日間の建物内におけるデバイスの位置に関するレポートが、他のデバイスとの近接度とともに生成されます。このレポートは、共有機能を使用してエクスポートまたは共有することもできます。同様に、検出と位置特定アプリには、デバイスを特定の数にクラスタ化して、ソーシャルディスタンスのガイドラインに違反している可能性のある領域を確認して報告する機能が追加されました。

セットアップや構成を含む、Cisco Spaces の詳細については、『[Cisco Spaces Configuration Guide](#)』 [英語] を参照してください。

今回のリリースでの新機能

ロケーション分析

次の機能が Location Analytics アプリに導入されました。

- **[Share report]** : Location Analytics アプリに **[Custom Report]** を共有するオプションが導入されました。Cisco Spaces ユーザーと Cisco Spaces 以外のユーザーの両方とレポートを共有できます。Cisco Spaces 以外のユーザーは、レポートにアクセスするために 1 回限りの登録を実行する必要があります。レポートにアクセスするために必要な権限がない場合は、管理者またはレポートを開始したユーザーにアクセス権をリクエストしてください。削除または取り消されたレポートにはアクセスできません。レポートを取り消すことができるのは、管理者または送信者のみです。
- **[Path widget]** : **[Custom Report]** に **[Path]** と呼ばれる新しいウィジェットが追加されました。パスウィジェットは、ロケーション間の訪問者の移動パターンを示し、同じ **[Network]** 内のさまざまなフロアまたはゾーンでの訪問の割合を表示します。カスタムレポートで、**[Path widget]** の任意のフロアまたはゾーンにカーソルを合わせると、正確な訪問数が表示されます。**[Network]** の下の利用可能なロケーションのみを使用してフィルタ処理することで、パス分析を表示できます。**[Path widget]** は、Cisco Spaces ACT ライセンスアカウントのみで使用できます。

Right Now : 密度ルール

次の機能が **[Density Rules]** 機能に導入されました。

- **[Density Rule]** : **[Density Rule]** オプションでは、ビジネスロケーションに設置された Meraki カメラでキャプチャされた人数に基づいて、ビジネスユーザーへの通知をトリガーするルールを作成することもできます。
- **[Test Rule]** : **[Test Rule]** オプションを使用すると、設定された通知チャンネルをテストできます。ルールで設定されたメッセージは、設定された通知チャンネルを介して配信されます。

Cisco Spaces ダッシュボード

Cisco Spaces ダッシュボードに次の機能が導入されました。

- **[Idle Timeout]** : Cisco Spaces ダッシュボードにログインしているユーザーは、特定の期間だけアイドル状態を維持できます。20分間非アクティブな場合、そのユーザーはダッシュボードから自動的にログアウトされます。アイドルタイムアウトの5分前に通知が表示され、Cisco Spaces アプリケーションが開いているブラウザウィンドウのタイトルが INACTIVE: You will be logged out in 5 mins に変わります。対応するウィンドウで実行されたアクションは、ユーザーのセッションを拡張します。

このリリースでの変更点

IoT デバイスマーケットプレイス

Cisco Spaces ダッシュボードで [IoT Device Marketplace] タイルをクリックすると、[IoT Device Marketplace](#) アプリケーションに自動的にリダイレクトされます。この機能強化が行われる前は、IoT Device Marketplace アプリケーションにログインするにはログイン情報を再度入力する必要がありました。

Cisco Spaces ダッシュボード

Cisco Spaces ダッシュボードに次の変更が加えられました。

- Meraki サービス アカウント ワークフロー : [Connect via Meraki Login] または [Connect via Meraki API] を使用して Meraki に接続すると、[Enable Service Account] ウィンドウが表示され、[Continue with Service Account] オプションと [Continue without Service Account] オプションが表示されます。[Continue with Service Account] を選択すると、サービスアカウントに関する手順が Meraki の設定手順の一部として含まれます。
- Meraki の同期 : Meraki と現在同期されているユーザー数が、[Connect your Meraki] オプション ([Connect via Meraki Login] および [Connect via Meraki API Key]) の下に表示されます。
- [Setup] ウィンドウの機能強化 : [Connect WLC/Catalyst 9800 Directly] と [Connect Via Spaces Connector] の下の [Setup] ウィンドウからマップを管理できるようになりました。次の新しいリンクが導入されました。
 - [Import/Sync Maps] : [Detect & Locate]、[Asset Tracker]、および [IoT Services] とシームレスに連携するために、[Cisco Prime Infrastructure] または [Cisco DNA Center] マップをアップロードします。
 - [Map Upload History] : アップロードされたマップのリストを表示します。ファイル名、ソースタイプ、ステータス、およびその他の関連情報を表示できます。
 - [Manage Map] : [Map Service] アプリケーションに移動して、マップを管理します。
- キャプティブポータルのアセットアップロードの制限 : キャプティブポータルの [Stylesheet editor] > [Asset Library] に新しいアセットをアップロードする場合、添付ファイルごとにサポートされる最大ファイルサイズは 15 MB です。この機能強化が導入される前は、添付ファイルごとにサポートされる最大ファイルサイズは 50 MB でした。
- [Location Hierarchy] : [More Actions] メニューで、[Add Wireless Networks] オプションが削除されました。[Connect Wireless Networks] オプションは、[Go to Setup] オプションとともに追加されます。[Go to Setup] をクリックして [Setup] > [Wireless Networks] ウィンドウに移動し、ワイヤレスネットワークを設定します。

不具合

不具合では、Cisco Spaces アプリケーションでの予期しない動作について説明します。「解決済みの不具合」と「未解決の不具合」では、このリリースの不具合を示します。

各不具合について、次の情報が提供されます。

- 識別子：各不具合には、一意の識別子 (ID) が割り当てられます。識別子は CSCxxNNNN というパターンで、x は任意の文字 (a ~ z)、N は任意の数字 (0 ~ 9) です。これらの ID は、セキュリティアドバイザリ、フィールド通知、その他のシスコのサポートドキュメントなど、シスコのマニュアルでよく使用されます。Technical Assistance Center (TAC) エンジニアまたはその他のシスコのスタッフからも、特定の不具合の ID が提供されます。
- 説明：不具合が発生したときに観察された内容の説明。

ここでは、次の内容について説明します。

シスコバグ検索ツール

[シスコバグ検索ツール](#) (BST) は、シスコ製品とソフトウェアの障害と脆弱性の包括的なリストを管理するシスコバグ追跡システムへのゲートウェイです。BSTは、製品とソフトウェアに関する詳細な障害情報を提供します。

未解決の不具合

ここでは、Cisco Spaces のこのリリースにおける未解決の不具合を示します。これまでのリリースで未解決で、まだ解決されていない不具合は、修正されるまで、今後のすべてのリリースに適用されます。

表 30: Cisco Spaces 未解決の不具合

不具合の識別子	不具合の説明
CSCvt93539	[Right Now] > [Visits by floor] セクションでは、フロア名がチャートの X 軸に表示されない。
CSCvu98859	新しい構成を適用すると、[Button Click] データや [Movement] データなどのテレメトリが 18 時間以上にリセットされる
CSCvv16880	ゲートウェイの展開ワークフロー中に、タイミングの問題により、AP が「needs config mode (設定モードが必要)」として誤って分類されることがある。
CSCvv28936	[Detect & Locate] で、Kontakt BLE デバイスをフィルタリングするオプションを提供する。

不具合の識別子	不具合の説明
CSCvv34216	コネクタが HA ペアで再起動すると、ControllerChannel と APChannel がコネクタ間で分割される
CSCvv64362	カスタム AP グループの GRPC とアプリホストを自動有効にするオプションを提供する
CSCvv91424	密度トリガーの数が多い場合、密度ルールレポートの最近のアクティビティにデータが表示されない

解決済みの不具合

ここでは、Cisco Spaces のこのリリースで解決されたバグを示します。

表 31 : Cisco Spaces 解決済みの不具合

不具合の識別子	不具合の説明
CSCvv74810	読み取り専用の Cisco Spaces ユーザーがダッシュボードにログインすると、[Integrations] ハンバーガーリンクが表示されない。
CSCvw18656	[Map Service] : ユーザーが複数のマップファイルをアップロードしてもアップロードが失敗しない
CSCvu78949	ロケーション名に余分なスペースがあると、ロケーション階層にロケーションをインポートできない
CSCvv60285	ブラウザでページを更新すると、[Home] ページのアクティブな AP リンクが非表示になる
CSCvs79627	Meraki カメラ : ユーザーはカメラ以外のデバイスもインポートできる
CSCvu46143	ユーザーが以前に承諾した招待状を使用しようとしたときに、適切なエラーメッセージを表示する
CSCvv74806	[IOT Device Marketplace] アプリアイコンが、[Switch Apps] メニューに壊れた画像として表示される。



第 32 章

2020 年 10 月

- [Cisco Spaces の概要](#) (119 ページ)
- [今回のリリースでの新機能](#) (121 ページ)
- [このリリースでの変更点](#) (121 ページ)
- [不具合](#) (123 ページ)

Cisco Spaces の概要

Cisco Spaces は、既存のワイヤレスに加え、Internet of Things (IoT) および Bluetooth Low Energy (BLE) インフラストラクチャを活用して、Cisco Spaces に組み込まれたアプリケーションを通じて実用的な知見を提供し、ビジネスの成果を促進する強力なロケーションサービスプラットフォームです。

この知見には次のものが含まれます。

- **位置分析**：時間や位置によるロケーションデータのスライスとダイスをを行い、ネットワークに接続しているユーザーの行動をより詳細に可視化する機能を提供します。
- **Right Now**：物理的スペース内のリアルタイムの訪問者数（Wi-Fi に接続されているデバイスで識別）、およびこの数を履歴平均と比較する方法を提供するレポート。Right Now レポートでは、使用されている認証方法に基づいて、1 人のユーザーに属する複数のデバイスを検出し、それらのデバイスを 1 人の訪問者に属するものとしてカウントできます。
- **Business Insights**：人々がお客様の物理ロケーションに訪れる頻度と、それらのロケーションに滞在する時間を測定する機能を提供します。このデータは、すべてのロケーションにわたり、月単位で比較評価されます。また、ロケーションのパフォーマンスを経時的、グループ別、または業界別に比較評価する機能も用意されています。
- **影響分析**：ネットワークに接続しているユーザーの行動に対する、特定の場所でのイベント、キャンペーン、レイアウト変更の影響を測定する機能を提供します。Cisco Spaces アプリケーションを使用して簡単にイベントを作成し、次の項目に基づいてその影響を測定できます。
 - 滞留時間
 - **Before、After、During** などの特定のタイムラインでの頻度

Cisco Spaces アプリケーションには、**キャプティブポータル**、**ロケーションペルソナ**、**エンゲージメント**などのカスタマーエクスペリエンス管理アプリが含まれており、物理的な場所にいる顧客とリアルタイムでつながることができます。また、その他のアプリケーションとして、**Asset Tracking** アプリ、IoT サービス (BLE) を管理および設定するためのサービスマネージャ、さらにはこのデータを抽出して他のエンタープライズシステムとの関連付けまたは統合を行うためのオープン API フレームワークもあります。

Cisco Spaces は、さまざまなロケーションベースのテクノロジーやインテリジェンスを通じて各種のサービスを利用できる単一のダッシュボードインターフェイスを備えています。また、Cisco Spaces では、お客様の物理的なビジネスロケーションへの訪問者となつたり、関係を深めることもできます。ワークスペース、小売、製造、ホスピタリティ、ヘルスケア、教育、金融サービスなど、さまざまな業界で使用されています。Cisco Spaces のアセットトラッキングアプリケーションは、お客様施設内の資産を監視および管理するためのソリューションを提供します。Cisco Spaces には、これらの知見をアクションに変えるためのさまざまなツールキット、アプリ、および API が用意されています。

Cisco Spaces では、パートナープログラムを通じて、さまざまな業種にわたるさまざまなパートナーアプリケーションにアクセスできます。

Cisco Spaces は、Cisco Catalyst、Cisco AireOS、および Cisco Meraki インフラストラクチャと互換性があります。

記載されているサービスに加えて、Cisco Spaces アプリの範囲は、世界的なパンデミックである COVID-19 によって生じるビジネス要件を満たすために拡張されました。拡張機能は既存のアプリケーションに基づいて構築されており、COVID-19 の特定の要件を満たすために新しいアプリケーションが追加されています。Impact Analytics、Location Analytics、行動メトリクス、Right Now などのアプリの拡張機能を使用すると、ビジネス拠点に及ぼす COVID-19 の影響を分析し、適切なアクションを実行できます。たとえば、特定の場所のデバイス密度に基づくルールを作成し、その場所の人数が特定の数または密度 (エリアあたりの人数) を超えた場合に自動的に通知を受けられるようになりました。Location Analytics アプリには、エグゼクティブサマリーレポートを組織内の同僚と共有する機能が追加されました。さらに、行動メトリクスアプリを使用して、個人またはグループのロケーションに関する COVID-19 ベースの傾向分析を実行できるようになりました。これにより、特定のビジネスロケーションを組織全体と比較したり、特定の業界と比較したりすることもできます。

Cisco Spaces の **Proximity Reporting** アプリでは、影響を受けるデバイスの位置履歴やデバイス近接履歴をすばやく確認できます。ユーザー ID または MAC アドレスに基づいて、過去 14 日間の建物内におけるデバイスの位置に関するレポートが、他のデバイスとの近接度とともに生成されます。このレポートは、共有機能を使用してエクスポートまたは共有することもできます。同様に、検出と位置特定アプリには、デバイスを特定の数にクラスタ化して、ソーシャルディスタンスのガイドラインに違反している可能性のある領域を確認して報告する機能が追加されました。

セットアップや構成を含む、Cisco Spaces の詳細については、『[Cisco Spaces Configuration Guide](#)』 [英語] を参照してください。

今回のリリースでの新機能

Right Now

次の機能が Right Now アプリに導入されています。

- プレゼンスチャート：[Presence Trend] は、[Cumulative Visitors] チャートに置き換えられました。[Presence Trend] チャートは 10 分ごとにプロットされ、ロケーションの占有制限に基づいたロケーションの容量を示します。ロケーションの占有制限は、[Location Hierarchy] から設定されます。
- SSID の除外：[Settings] メニューから、訪問者数の処理から特定の SSID を除外できるようになりました。

このリリースでの変更点

マップサービス

[Location Hierarchy] とインポートされたマップデータとの同期を維持するために、[Map Service] に対して次の機能強化が加えられました。

- Cisco Prime Infrastructure または Cisco DNA Center からエクスポートされ、[Map Service] を使用して Cisco Spaces にインポートされたマップは、[Location Hierarchy] に自動的に表示されます。
- [Location Hierarchy] からロケーションを削除すると、[Map Service] から削除されます。
- AP インポート制限は、Cisco Spaces アカウントの AP ライセンス制限に基づいて導入されています。



(注) ロケーションにマップがある場合は、マップベースのロケーション階層を作成します。ただし、[WLC Direct] > [AP prefix]、[CMX On-Prem Auto-Sync]、または [CMX Manual Upload] を使用してロケーション階層をすでに作成しており、重複する AP を含むマップをインポートしている場合、AP はマップベースの階層に移動されます。

[Map Service] からロケーションを削除すると、対応するアクセスポイントのみが [Location Hierarchy] から削除されます。

ダッシュボード

ホームページおよび [Location Hierarchy] の下の Cisco Spaces ダッシュボードに次の変更が加えられました。

- Cisco Spaces ホームページの拡張機能は次のとおりです。

- [Detect and Locate] : 追跡されたデバイスの数が [Detect and Locate] アプリタイルに表示されるようになりました。
- [Proximity Reporting] : 作成された近接レポートの数が、[Proximity Reporting] アプリタイルに表示されます。
- [Location Hierarchy] には、Cisco Prime Infrastructure または Cisco DNA Center からインポートされたマップで定義されている階層構造が自動的に反映されます。この機能強化をサポートするために、次の変更が加えられました。
 - [Dashboard] では、[Location Hierarchy] > [Add Wireless Networks] で、[CMX On-Prem] または [WLC Direct Connect] > [Import from Maps] を使用して、ロケーションのインポートが制限されます。
 - [Dashboard] では、次の方法を使用して、キャンパス、ビルディング、フロアなどのロケーションのみをロケーション階層に選択的にインポートすることを可能にしています。
 - AP ゾーンの追加
 - ビルディングの追加
 - キャンパスの追加
 - CMX ゾーンの追加
 - フロアの追加



(注) キャンパス、ビルディング、フロアなどのロケーションが [Location Hierarchy] から削除された場合、以前にアップロードしたマップを [Map Service] > [Maps Upload] を使用してアップロードすることにより、[Location Hierarchy] に追加し直すことができます。

ロケーション分析

[Location Analytics] で、[Without SSID] フィルタがレポートから削除されます。

行動メトリクス

次のチャートが、ワークスペース分野の [Behavior Metrics] の下に追加されました。これらのチャートは、グループビューとロケーションビューの両方に表示されます。

- [Workday Duration Distribution] : このチャートは、従業員が職場で費やした時間を訪問の割合として表示します。
- [Employee Frequency Distribution] : このチャートは、従業員ごとの職場への訪問回数を示しています。

不具合

不具合では、Cisco Spaces アプリケーションでの予期しない動作について説明します。「解決済みの不具合」と「未解決の不具合」では、このリリースの不具合を示します。

各不具合について、次の情報が提供されます。

- 識別子：各不具合には、一意の識別子 (ID) が割り当てられます。識別子は CSCxxNNNN というパターンで、x は任意の文字 (a ~ z)、N は任意の数字 (0 ~ 9) です。これらの ID は、セキュリティアドバイザリ、フィールド通知、その他のシスコのサポートドキュメントなど、シスコのマニュアルでよく使用されます。Technical Assistance Center (TAC) エンジニアまたはその他のシスコのスタッフからも、特定の不具合の ID が提供されます。
- 説明：不具合が発生したときに観察された内容の説明。

ここでは、次の内容について説明します。

シスコバグ検索ツール

[シスコバグ検索ツール \(BST\)](#) は、シスコ製品とソフトウェアの障害と脆弱性の包括的なリストを管理するシスコバグ追跡システムへのゲートウェイです。BST は、製品とソフトウェアに関する詳細な障害情報を提供します。

未解決の不具合

ここでは、Cisco Spaces のこのリリースにおける未解決の不具合を示します。これまでのリリースで未解決で、まだ解決されていない不具合は、修正されるまで、今後のすべてのリリースに適用されます。

表 32: Cisco Spaces 未解決の不具合

不具合の識別子	不具合の説明
CSCvs79627	Meraki カメラ：ユーザーはカメラ以外のデバイスもインポートできる
CSCvt93539	[Right Now] > [Visits by floor] セクションでは、フロア名がチャートの X 軸に表示されない。
CSCvu78949	ロケーション名に余分なスペースがあると、ロケーション階層にロケーションをインポートできない
CSCvu98859	新しい構成を適用すると、[Button Click] データや [Movement] データなどのテレメトリが 18 時間以上にリセットされる
CSCvv16880	ゲートウェイの展開ワークフロー中に、タイミングの問題により、AP が「needs config mode (設定モードが必要)」として誤って分類されることがある。

不具合の識別子	不具合の説明
CSCvv28936	[Detect & Locate] で、Kontakt BLE デバイスをフィルタリングするオプションを提供する。
CSCvv34216	コネクタが HA ペアで再起動すると、ControllerChannel と APChannel がコネクタ間で分割される
CSCvv60285	ブラウザでページを更新すると、[Home] ページのアクティブな AP リンクが非表示になる
CSCvv64362	カスタム AP グループの GRPC とアプリホストを自動有効にするオプションを提供する
CSCvv74806	[IOT Device Marketplace] アプリアイコンが、[Switch Apps] メニューに壊れた画像として表示される。
CSCvv74810	読み取り専用の Cisco Spaces ユーザーがダッシュボードにログインすると、[Integrations] ハンバーガーリンクが表示されない。
CSCvv91424	[Density Rule Reports] の最近のアクティビティでは、504 エラーが原因で使用可能なデータが表示されない
CSCvv91536	[Density Rule Reports] : Capacity が [Recent Activity] セクションで [capacity] と間違っ綴られている
CSCvw18656	[Map Service] : ユーザーが複数のマップファイルをアップロードしてもアップロードが失敗しない

解決済みの不具合

ここでは、Cisco Spaces のこのリリースで解決されたバグを示します。

表 33: Cisco Spaces 解決済みの不具合

不具合の識別子	不具合の説明
CSCvv56842	Cisco Prime Infrastructure からのマップ生成用に AP9117 BLE アンテナ PID のサポートを追加



第 33 章

2020 年 9 月

- [Cisco Spaces の概要](#) (125 ページ)
- [新機能 : 2020 年 9 月](#) (127 ページ)
- [機能強化 : 2020 年 9 月](#) (128 ページ)
- [Cisco Spaces ランタイム](#) (129 ページ)
- [不具合](#) (129 ページ)

Cisco Spaces の概要

Cisco Spaces は、既存のワイヤレスやIoT (BLE) インフラストラクチャを活用して、実用的な情報を提供し、Space に組み込まれたアプリケーションでビジネスの成果を推進する強力なロケーション サービス プラットフォームです。

Cisco Spaces からの情報には次が含まれます。

- **Location Analytics** は、時間や位置によるロケーションデータの多角的な分析を行い、ネットワークに接続しているユーザーの行動をより詳細に可視化する機能を提供します。
- **Right Now レポート** は、物理的スペース内のリアルタイムの訪問者数 (Wi-Fi に接続されているデバイスで識別) 、およびこの数を履歴平均と比較する方法を提供します。Right Now レポートでは、使用されている認証方法に基づいて、1人のユーザーに属する複数のデバイスを検出し、それらのデバイスを1人の訪問者としてカウントできます。
- **Business Insights** は、人々がお客様の物理拠点に訪れる頻度と、お客様の事業所に滞在する時間を測定する機能を提供します。このデータは、すべてのロケーションにわたり、月単位で比較評価されます。また、ロケーションのパフォーマンスを経時的、グループ別、または業界別に比較評価する機能も用意されています。
- **Impact Analysis** は、現地イベント、キャンペーン、およびレイアウトの変更が行動に及ぼす影響を測定する機能を提供します。ツールを使用してイベントを作成し、費やした時間と頻度への影響の前、後、および最中などの特定のタイムラインに基づいて、このイベントの影響を測定するのは簡単です。

Cisco Spaces アプリケーションには、キャプティブポータル、ロケーションペルソナ、エンゲージメントなどのカスタマーエクスペリエンス管理アプリが含まれており、物理的な場所にいる

顧客とリアルタイムでつながることができます。追加のアプリケーションには、アセットトラッキングアプリ、IoT サービス（Bluetooth Low Energy (BLE)）を管理および設定するためのサービスマネージャ、およびこのデータを抽出して関連付けるか、他のエンタープライズシステムに統合する場合のオープン API フレームワークも含まれます。

Cisco Spaces は、さまざまなロケーションベースのテクノロジーやインテリジェンスを通じて各種のサービスを利用できる単一のダッシュボードインターフェイスを備えています。Cisco Spaces では、お客様の物理的なビジネスロケーションへの訪問者をつなぎ、関係を深めることもできます。ワークスペース、小売、製造、サービス業、医療、教育、金融など、さまざまな業種のビジネスを対象としています。Cisco Spaces のアセットトラッキングアプリケーションは、お客様施設内の資産を監視および管理するためのソリューションを提供します。Cisco Spaces には、これらの知見をアクションに変えるためのさまざまなツールキット、アプリ、および API が用意されています。

Cisco Spaces では、パートナープログラムを通じて、さまざまな業種にわたるさまざまなパートナーアプリケーションにアクセスできます。

Cisco Spaces は、Cisco Catalyst、Cisco AireOS、および Cisco Meraki インフラストラクチャと互換性があります。

上記のサービスに加えて、Cisco Spaces アプリの範囲は、世界的なパンデミックである COVID-19 によって生じるビジネス要件を満たすために拡張されました。拡張機能は既存のアプリケーションに基づいて構築されており、COVID-19 の特定の要件を満たすために新しいアプリケーションが追加されています。Impact Analytics、Location Analytics、Behaviour Metrics、Right Now などのアプリの拡張機能を使用すると、ビジネス拠点に及ぼす COVID-19 の影響を分析し、適切なアクションを実行できます。たとえば、現在の場所のデバイス密度に基づいてルールを作成し、その場所にいる人の数が特定の数または密度（人/エリア）を超えた場合に自動的に通知されるようにすることができます。Location Analytics アプリには、エグゼクティブサマリーレポートを組織内の同僚と共有する機能が追加されました。さらに、個人/グループの場所を対象とした COVID-19 ベースの傾向分析を行動メトリクスアプリを使用して実行できるようになり、特定のビジネス拠点を組織全体および特定の業種のビジネス拠点と比較できます。

Cisco Spaces の Proximity Reporting アプリでは、影響を受けるデバイスの位置履歴やデバイス近接履歴をすばやく確認できます。ユーザー ID または MAC アドレスを入力するだけで、過去 14 日間の建物内のデバイスの位置と、他のデバイスの近接性に関するレポートが生成されます。このレポートは、共有機能を使用してエクスポートまたは共有できます。同様に、検出と位置特定アプリには、デバイスを特定の数にクラスタ化して、ソーシャルディスタンスのガイドラインに違反している可能性のある領域を確認して報告する機能が追加されました。

このリリースの主な機能は次のとおりです。

- 新しいアプリ **IOT Device Marketplace** では、業界やユースケースに合わせて調整されたデバイスについて学習し、注文できます。
- [Density Rule] レポートを表示するように **Right Now** アプリを機能強化しました。
- SEE ライセンスを持つアカウントのパートナーアプリのアクティベーションを制限しました。
- **Location Analytics** アプリのロールベースのアクセスを追加しました。

- Camera Metrics のサンプルレポートを表示できるようにプロビジョニングしました。

新機能 : 2020 年 9 月

Cisco Spaces ダッシュボード

Cisco Spaces ダッシュボードに、次の新機能が追加されました。

IOT デバイスマーケットプレイス

Cisco Spaces ダッシュボードで、新しいアプリ IOT Device Marketplace を利用できるようになりました。このアプリは、ACT ライセンスユーザーのみが利用できます。SEE および EXTEND アカウントの場合、[IOT Device Marketplace] タイルは無効モードで表示されます。

IOT Device Marketplace アプリを使用すると、業界やユースケースに合致したデバイスを調べて、注文することができます。

ホームページで [IOT Device Marketplace] タイルをクリックすると、デバイスを注文できる [IOT Device Marketplace (IDM)] Web サイトにリダイレクトされます。

[IOT Device Marketplace (IDM)] Web サイトのログインページでは、Cisco Spaces アカウントまたは Linked In アカウントを使用してログインできます。[Sign In with Cisco Spaces] オプションを使用してログインしている場合は、ログイン情報と顧客名をもう一度入力する必要があります。業界とユースケースを選択し、選択したユースケースで利用可能な IoT デバイスを表示できます。その後、デバイスの詳細を表示し、見積をリクエストできます。見積リクエストが送信されると、お客様の連絡先とともに対応するベンダーにリダイレクトされ、その後の購入手続きは、お客様とベンダーの間で直接行われ、Cisco Spaces は関与しません。

密度ルールレポート

Cisco Spaces を使用して、各密度ルールの密度ルールレポートを表示できます。[Right Now] アプリでは、[Density Rule] ウィンドウで密度ルール名をクリックすると、そのルールのレポートが表示されます。

[Density Rule] レポートには、次の詳細が含まれます。

- [Rule Summary] : 特定のルールについて通知がトリガーされた合計回数と、通知の数が最も多い上位 3 つの場所を表示します。
- [Recent Activity] : 特定のルールで発生したすべてのアクティビティを、場所、時間、人数、結果などの詳細とともに一覧表示します。最近のアクティビティは上に表示されます。
- [Trigger History] : 特定の暦月の各日における通知の詳細を表示します。デフォルトでは、通知が最近トリガーされた月と累積通知数が表示されます。各日のさまざまなロケーションタイプ（キャンパス、ビルディング、フロア、ゾーン）に関する通知がカレンダーに表示されます。カレンダーの日付をクリックすると、その日のロケーション、時間、人数、結果といった通知の詳細が表示されます。

機能強化 : 2020 年 9 月

Cisco Spaces ダッシュボード

Cisco Spaces ダッシュボードに次の変更が加えられました。

パートナーアプリを取得

[Get Partner Apps] では、SEE ライセンスアカウントに対してアプリのアクティベーションが制限されるようになりました。ただし、これらのアカウントユーザーは App Center でアプリを表示できます。SEE ライセンス アカウント ユーザーがアプリの [Activate App] をクリックすると、エラーメッセージ「ライセンスにはアプリのアクティベーションへのアクセス権がありません」が表示されます。以前は、すべてのライセンスタイプでアプリのアクティベーションが有効になっていました。

RBAC : Location Analytics

Location Analytics アプリでは、ロールベースのアクセスが実装され、ユーザーへのアクセスを制限できるようになりました。[Dashboard Admin] ロールの場合、**Location Analytics** へのアクセスはデフォルトで提供されます。その他のロールについては、[Admin Management] オプションを使用して個別にアクセスを割り当てる必要があります。ただし、Location Analytics のロールへの割り当ては、DNASpaces サービスの割り当てと同時に行う必要があります。たとえば、Location Analytics への読み取りおよび書き込みアクセスと、DNASpaces への読み取り専用アクセスを持つロールを作成できます。[Location Analytics] タイルは、Location Analytics へのアクセス権のない Cisco Spaces ユーザーアカウントでは無効になります。



(注) [Dashboard Admin]、[Dashboard Read]、および [Dashboard Read & Write] の役割を持つ既存のアカウントは、以前と同様に引き続き [Location Analytics] にアクセスできます。

この拡張機能をサポートするために、新しいオプション LocationAnalytics が、[Admin Management] > [Roles] > [Create New Roles] の [APPS] で使用できるようになりました。

カメラメトリック

カメラメトリックについては、次の変更が加えられています。

- まだ Meraki カメラを設定していないか、Meraki カメラのデータがない Cisco Spaces ユーザーアカウントの場合、サンプルレポートが表示されます。
- まだ Meraki カメラを設定していない Cisco Spaces ユーザーアカウントの場合、「Looks like you haven't setup your Meraki Camera (Meraki カメラが設定されていないようです)」という通知が、Meraki カメラの設定ウィンドウに移動するための [Setup Guide] リンクとともに表示されます。

Cisco Spaces ランタイム

Cisco Spaces ランタイムに次の変更が加えられました。

エンタープライズ キャプティブ ポータルの機能強化

Cisco Spaces では、エンタープライズ キャプティブ ポータルに対して次のサポートが提供されるようになりました。

- トリガー API を使用して通知を API エンドポイントに送信するためのサポート。
- キャプティブポータルのユーザにそのアクションに基づいてタグを付けるためのサポート。

不具合

不具合では、Cisco Spaces アプリケーションでの予期しない動作について説明します。「解決済みの不具合」と「未解決の不具合」では、このリリースの不具合を示します。

各不具合について、次の情報が提供されます。

- 識別子：各不具合には、一意の識別子 (ID) が割り当てられます。識別子は CSCxxNNNNN というパターンで、x は任意の文字 (a ~ z)、N は任意の数字 (0 ~ 9) です。これらの ID は、セキュリティアドバイザリ、フィールド通知、その他のシスコのサポートドキュメントなど、シスコのマニュアルでよく使用されます。Technical Assistance Center (TAC) エンジニアまたはその他のシスコのスタッフからも、特定の不具合の ID が提供されます。
- 説明：不具合が発生したときに観察された内容の説明。

ここでは、次の内容について説明します。

シスコバグ検索ツール

[シスコバグ検索ツール](#) (BST) は、シスコ製品とソフトウェアの障害と脆弱性の包括的なリストを管理するシスコバグ追跡システムへのゲートウェイです。BST は、製品とソフトウェアに関する詳細な障害情報を提供します。

未解決のバグ

表 34: 未解決のバグ

CEETS ID 番号	説明
CSCvq83680	RBAC：特定の場所しかアクセスできない管理ユーザーは、ダッシュボードにログインできない。

CDETS ID 番号	説明
CSCvt29202	デフォルトでは、新しく作成されたアカウントの訪問者数と訪問数がデジタル化統計に表示される。
CSCvs79627	Meraki カメラ : ユーザーは非カメラデバイスもインポートできる。
CSCvu46143	すでに承認された招待状を使用しようとする、適切なエラーメッセージが表示される必要がある。
CSCvt93539	訪問数が少ない場合、[Right Now -Visits by floor] セクションで、フロア名がツールチップテキストに表示されない。
CSCvv22691	非アクティブ化されたユーザーをアクティブ化すると、初回では「My Profile」情報が保存されない。

修正されたバグ

表 35: 修正されたバグ

CDETS ID 番号	説明
	このリリースで修正されたバグはありません。



第 34 章

2020 年 8 月

- [Cisco Spaces の概要](#) (131 ページ)
- [新機能 : 2020 年 8 月](#) (133 ページ)
- [機能強化 : 2020 年 8 月](#) (134 ページ)
- [Cisco Spaces ランタイム](#) (136 ページ)
- [不具合](#) (136 ページ)

Cisco Spaces の概要

Cisco Spaces は、既存のワイヤレスやIoT (BLE) インフラストラクチャを活用して、実用的な情報を提供し、Space に組み込まれたアプリケーションでビジネスの成果を推進する強力なロケーション サービス プラットフォームです。

Cisco Spaces からの情報には次が含まれます。

- **Location Analytics** は、時間や位置によるロケーションデータの多角的な分析を行い、ネットワークに接続しているユーザーの行動をより詳細に可視化する機能を提供します。
- **Right Now** レポートは、物理的スペース内のリアルタイムの訪問者数 (Wi-Fi に接続されているデバイスで識別) 、およびこの数を履歴平均と比較する方法を提供します。Right Now レポートでは、使用されている認証方法に基づいて、1人のユーザーに属する複数のデバイスを検出し、それらのデバイスを1人の訪問者としてカウントできます。
- **Business Insights** は、人々がお客様の物理拠点に訪れる頻度と、お客様の事業所に滞在する時間を測定する機能を提供します。このデータは、すべてのロケーションにわたり、月単位で比較評価されます。また、ロケーションのパフォーマンスを経時的、グループ別、または業界別に比較評価する機能も用意されています。
- **Impact Analysis** は、現地イベント、キャンペーン、およびレイアウトの変更が行動に及ぼす影響を測定する機能を提供します。ツールを使用してイベントを作成し、費やした時間と頻度への影響の前、後、および最中などの特定のタイムラインに基づいて、このイベントの影響を測定するのは簡単です。

Cisco Spaces アプリケーションには、キャプティブポータル、ロケーションペルソナ、エンゲージメントなどのカスタマーエクスペリエンス管理アプリが含まれており、物理的な場所にいる

顧客とリアルタイムでつながることができます。追加のアプリケーションには、アセットトラッキングアプリ、IoT サービス（Bluetooth Low Energy (BLE)）を管理および設定するためのサービスマネージャ、およびこのデータを抽出して関連付けるか、他のエンタープライズシステムに統合する場合のオープン API フレームワークも含まれます。

Cisco Spaces は、さまざまなロケーションベースのテクノロジーやインテリジェンスを通じて各種のサービスを利用できる単一のダッシュボードインターフェイスを備えています。Cisco Spaces では、お客様の物理的なビジネスロケーションへの訪問者につながり、関係を深めることもできます。ワークスペース、小売、製造、サービス業、医療、教育、金融など、さまざまな業種のビジネスを対象としています。Cisco Spaces のアセットトラッキングアプリケーションは、お客様施設内の資産を監視および管理するためのソリューションを提供します。Cisco Spaces には、これらの知見をアクションに変えるためのさまざまなツールキット、アプリ、および API が用意されています。

Cisco Spaces では、パートナープログラムを通じて、さまざまな業種にわたるさまざまなパートナーアプリケーションにアクセスできます。

Cisco Spaces は、Cisco Catalyst、Cisco AireOS、および Cisco Meraki インフラストラクチャと互換性があります。

上記のサービスに加えて、Cisco Spaces アプリの範囲は、世界的なパンデミックである COVID-19 によって生じるビジネス要件を満たすために拡張されました。拡張機能は既存のアプリケーションに基づいて構築されており、COVID-19 の特定の要件を満たすために新しいアプリケーションが追加されています。Impact Analytics、Location Analytics、Behaviour Metrics、Right Now などのアプリの拡張機能を使用すると、ビジネス拠点に及ぼす COVID-19 の影響を分析し、適切なアクションを実行できます。たとえば、現在の場所のデバイス密度に基づいてルールを作成し、その場所にいる人の数が特定の数または密度（人/エリア）を超えた場合に自動的に通知されるようにすることができます。Location Analytics アプリには、エグゼクティブサマリーレポートを組織内の同僚と共有する機能が追加されました。さらに、個人/グループの場所を対象とした COVID-19 ベースの傾向分析を行動メトリクスアプリを使用して実行できるようになり、特定のビジネス拠点を組織全体および特定の業種のビジネス拠点と比較できます。

Cisco Spaces では、影響を受けるデバイスのロケーション履歴とデバイス近接履歴をすばやく確認できる新しい Proximity Reporting アプリが追加されました。ユーザー ID または MAC アドレスを入力するだけで、過去 14 日間の建物内のデバイスの位置と、他のデバイスの近接性に関するレポートが生成されます。このレポートは、共有機能を使用してエクスポートまたは共有できます。同様に、検出と位置特定アプリには、デバイスを特定の数にクラスタ化して、ソーシャルディスタンスのガイドラインに違反している可能性のある領域を確認して報告する機能が追加されました。

このリリースの主な機能は次のとおりです。

- Cisco Spaces ユーザーのプロファイルの詳細を追加および表示できるようにプロビジョニング。
- Cisco Spaces に新しいライセンスタイプ [Extend] を追加。
- 新しいオプション、Cisco Spaces : シスコのワイヤレス インフラストラクチャを使用して IoT デバイスを要求、管理、および監視できるようにする IoT サービス。

- [SMS with Link Verification] 認証のオプトインサポート。
- ロケーション名にカーソルを合わせると [More Actions] メニューが表示されるようにロケーション階層を拡張。
- アクセスポイントのコントローラ IP アドレスを表示するようにプロビジョニング。
- 非実用的なエントリを避けるために、場所に定義できる総面積の値を制限。
- [SEE] ライセンスの下で検出と位置特定アプリを表示。
- ロールを使用した Map Services および DNASpaces への独立したアクセス権の提供をサポート。
- パートナーダッシュボードの利用規約を更新。

新機能 : 2020 年 8 月

Cisco Spaces ダッシュボード

Cisco Spaces ダッシュボードに、次の新機能が追加されました。

Profile Information

Cisco Spaces では、Cisco Spaces ダッシュボードユーザーの名、姓、携帯電話番号などのプロフィール情報の追加をサポートできるようになりました。

- [Account Preferences] ウィンドウの新しいタブ、[My Profile] を使用して、プロフィール情報を追加できます。このウィンドウでは、名、姓、および携帯電話番号を指定できます。携帯電話番号とその確認はオプションです。携帯電話番号を指定すると、[Verify Mobile Number] リンクが表示され、ワンタイムパスワードを使用して携帯電話番号を確認できます。携帯電話番号が確認されると、[Verified] ステータスが表示されます。携帯電話番号を変更すると、[Verify Mobile Number] リンクが再び表示されます。
- Cisco Spaces のログインワークフローが変更され、特定の Cisco Spaces ユーザーのプロフィール情報が利用できない場合に、ログインプロセスの一部として [Update Profile Information] ダイアログボックスが表示されるようになりました。このステップをスキップして、ログインに進むことができます。その後、いつでも [Account Preferences] ウィンドウからプロフィールの詳細を追加できます。ただし、時間情報が提供されるまで、[Profile Information] ダイアログボックスがログインワークフローの一部として表示されます。



(注) SSO ユーザーは、プロフィール情報を編集したり、携帯電話番号を確認したりすることはできません。また、ログイン時に SSO ユーザーに [Update Profile Information] ダイアログボックスは表示されません。

ライセンスタイプの拡張

Cisco Spaces は、新しいライセンスタイプ [Extend] を提供するようになりました。[Extend] ライセンスは、[SEE] ライセンスで利用可能なすべてのアプリと、[Get Partner Apps] > [App Center]にあるパートナーアプリをアクティブ化するためのアクセスを提供します。

Cisco Spaces : IoT サービス（無線）の概要

Cisco Spaces : IoT サービスは、Cisco Spaces 内のプラットフォームサービスであり、シスコのワイヤレス インフラストラクチャを使用して IoT デバイスを要求、管理、および監視できます。IoT サービスは、さまざまなベンダー、フォームファクター、テクノロジープロトコルにわたって IoT デバイスを管理できるように設計されています。Bluetooth Low Energy (BLE) は、IoT サービスを使用して管理できる最初のテクノロジーです。

IoT サービスは、重要なビジネス成果をサポートするデバイスの管理を可能にするハードウェア、ソフトウェア、およびパートナーコンポーネントを網羅しています。IoT サービスは、Cisco Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラ、Cisco Spaces : コネクタ、Cisco Wi-Fi6 アクセスポイント、および Cisco Spaces を利用します。IoT サービスは、企業のモノのインターネット (IoT) 環境における複雑さを管理するための次世代のアプローチです。

IoT サービス を使用して、次の管理アクティビティを実行できます。

- ネットワーク内のサポートされている AP に BLE ゲートウェイを展開します。
- Cisco Spaces : IoT デバイスマーケットプレイスから取得した BLE ビーコンを要求します。
- AP を設定し、フロアビーコンを管理します。
- ロケーション、テレメトリ、バッテリー残量、移動ステータスなどのデバイス属性を監視できます。

機能強化 : 2020 年 8 月

Cisco Spaces ダッシュボード

Cisco Spaces ダッシュボードに次の変更が加えられました。

[SMS with Link Verification] 認証のオプトインサポート。

キャプティブポータルアプリは、認証タイプの [Opt In] オプション ([SMS with Link Verification]) をサポートするようになりました。[Portal] ウィンドウで、[Authentication Type] として [SMS with Link Verification] を選択すると、[Allow users to Opt in to receive message] チェックボックスが表示されます。

ロケーション階層

ロケーション階層の各ロケーションで実行できるアクションを通知するために、ロケーション名にカーソルを合わせると、[More Actions] メニューが数秒間表示されるようになりました。

その後、前述のように3つのドット（省略記号）アイコンをクリックすることで、いつでも [More Actions] メニューにアクセスできます。

コントローラ IP アドレス

Cisco Spaces が [Cisco Spaces Connector] または [WLC Direct Connect] を介して接続されている場合、[Location Hierarchy] で、コントローラの IP アドレスがロケーションの [Access Points] タブに表示されるようになりました。[Access Points] タブで、新しい列 [Controller IP Address] を使用して、コントローラの IP アドレスを表示できるようになりました。

ロケーション情報

[Location Info] タブの [Location Data] ウィンドウでは、非現実的な値を避けるために、位置に指定できる総面積が制限されています。[Total Area] の値を入力すると、平方フィートで 100 ～ 10,000,000 の間、平方メートルで 10 ～ 100,000 の間で許可される面積を示すツールチップが表示されます。

検出と位置特定

Cisco Spaces ダッシュボードで、検出と位置特定アプリが [SEE] ライセンスで使用できるようになりました。以前は、検出と位置特定は [ACT] ライセンスでしか使用できませんでした。しかし、機能は変わりません。

RBAC Map Services

RBAC では、Map Services へのアクセス権を個別に提供するようになったため、マップにアクセスできるユーザーを制限できます。[Map Services] へのアクセスは、以前のように [DNASpaces] の一部として提供されなくなりました。ただし、[MapServices] をロールに割り当てることができるのは [DNASpaces] のみです。たとえば、MapServices への読み取りおよび書き込みアクセスと、DNASpaces への読み取り専用アクセスを持つロールを作成できます。

この拡張機能をサポートするために、新しいオプション [MapServices] が、[APPS] の [Admin Management] > [Roles] > [Create New Role] で使用できるようになりました。ロールを定義するときに [MapService] が割り当てられていない場合、そのロールを持つユーザーには、[Setup] の下に [MapService] オプションが表示されません。



(注) この拡張機能は、新規ユーザーにのみ適用されます。Cisco Spaces の既存のすべてのユーザーは、引き続き [Map Services] に対する完全な権限を持ちます。

Cisco Spaces パートナーダッシュボード

Cisco Spaces パートナーダッシュボードでは、次の機能強化が加えられました。

ご利用条件

Cisco Spaces パートナーダッシュボードの利用規約が変更されました。この更新後の最初のログイン時に、更新された利用規約が表示されるようになりました。ダッシュボードへのアクセスは、利用規約に同意した後にのみ許可されます。

Cisco Spaces ランタイム

Cisco Spaces ランタイムに次の変更が加えられました。

エンタープライズ キャプティブ ポータルの機能強化

Cisco Spaces では、エンタープライズ キャプティブ ポータルに対して次のサポートが提供されるようになりました。

- トリガー API を使用して通知を API エンドポイントに送信するためのサポート。
- キャプティブポータルのユーザにそのアクションに基づいてタグを付けるためのサポート。

不具合

不具合では、Cisco Spaces アプリケーションでの予期しない動作について説明します。「解決済みの不具合」と「未解決の不具合」では、このリリースの不具合を示します。

各不具合について、次の情報が提供されます。

- 識別子：各不具合には、一意の識別子（ID）が割り当てられます。識別子は CSCxxNNNNN というパターンで、*x* は任意の文字（a～z）、*N* は任意の数字（0～9）です。これらの ID は、セキュリティアドバイザリ、フィールド通知、その他のシスコのサポートドキュメントなど、シスコのマニュアルでよく使用されます。Technical Assistance Center（TAC）エンジニアまたはその他のシスコのスタッフからも、特定の不具合の ID が提供されます。
- 説明：不具合が発生したときに観察された内容の説明。

ここでは、次の内容について説明します。

シスコバグ検索ツール

[シスコバグ検索ツール](#)（BST）は、シスコ製品とソフトウェアの障害と脆弱性の包括的なリストを管理するシスコバグ追跡システムへのゲートウェイです。BSTは、製品とソフトウェアに関する詳細な障害情報を提供します。

未解決のバグ

表 36: 未解決のバグ

CDETS ID 番号	説明
CSCvq83680	RBAC : 特定の場所しかアクセスできない管理ユーザーは、ダッシュボードにログインできない。
CSCvt29202	デフォルトでは、新しく作成されたアカウントの訪問者数と訪問数がデジタル化統計に表示される。
CSCvs79627	Meraki カメラ : ユーザーは非カメラデバイスもインポートできる。
CSCvu46143	すでに承認された招待状を使用しようとする、適切なエラーメッセージが表示される必要がある。
CSCvt93539	訪問数が少ない場合、[Right Now -Visits by floor] セクションで、フロア名がツールチップテキストに表示されない。
CSCvv22691	非アクティブ化されたユーザーをアクティブ化すると、初回では「My Profile」情報が保存されない。

修正されたバグ

表 37: 修正されたバグ

CDETS ID 番号	説明
CSCvs97445	ロケーション階層に誤った「ユーザー数」が表示される。



第 35 章

2020 年 7 月

- [Cisco Spaces の概要](#) (139 ページ)
- [新機能 : 2020 年 7 月](#) (141 ページ)
- [機能強化 : 2020 年 7 月](#) (143 ページ)
- [Cisco Spaces ランタイム](#) (145 ページ)
- [不具合](#) (145 ページ)

Cisco Spaces の概要

Cisco Spaces は、既存のワイヤレスやIoT (BLE) インフラストラクチャを活用して、実用的な情報を提供し、Space に組み込まれたアプリケーションでビジネスの成果を推進する強力なロケーション サービス プラットフォームです。

Cisco Spaces からの情報には次が含まれます。

- **Location Analytics** は、時間や位置によるロケーションデータの多角的な分析を行い、ネットワークに接続しているユーザーの行動をより詳細に可視化する機能を提供します。
- **Right Now レポート** は、物理的スペース内のリアルタイムの訪問者数 (Wi-Fi に接続されているデバイスで識別) 、およびこの数を履歴平均と比較する方法を提供します。Right Now レポートでは、使用されている認証方法に基づいて、1人のユーザーに属する複数のデバイスを検出し、それらのデバイスを1人の訪問者としてカウントできます。
- **Business Insights** は、人々がお客様の物理拠点に訪れる頻度と、お客様の事業所に滞在する時間を測定する機能を提供します。このデータは、すべてのロケーションにわたり、月単位で比較評価されます。また、ロケーションのパフォーマンスを経時的、グループ別、または業界別に比較評価する機能も用意されています。
- **Impact Analysis** は、現地イベント、キャンペーン、およびレイアウトの変更が行動に及ぼす影響を測定する機能を提供します。ツールを使用してイベントを作成し、費やした時間と頻度への影響の前、後、および最中などの特定のタイムラインに基づいて、このイベントの影響を測定するのは簡単です。

Cisco Spaces アプリケーションには、キャプティブポータル、ロケーションペルソナ、エンゲージメントなどのカスタマーエクスペリエンス管理アプリが含まれており、物理的な場所にいる

顧客とリアルタイムでつながることができます。追加のアプリケーションには、アセットトラッキングアプリ、IoT サービス（Bluetooth Low Energy (BLE)）を管理および設定するためのサービスマネージャ、およびこのデータを抽出して関連付けるか、他のエンタープライズシステムに統合する場合のオープン API フレームワークも含まれます。

Cisco Spaces は、さまざまなロケーションベースのテクノロジーやインテリジェンスを通じて各種のサービスを利用できる単一のダッシュボードインターフェイスを備えています。Cisco Spaces では、お客様の物理的なビジネスロケーションへの訪問者につながり、関係を深めることもできます。ワークスペース、小売、製造、サービス業、医療、教育、金融など、さまざまな業種のビジネスを対象としています。Cisco Spaces のアセットトラッキングアプリケーションは、お客様施設内の資産を監視および管理するためのソリューションを提供します。Cisco Spaces には、これらの知見をアクションに変えるためのさまざまなツールキット、アプリ、および API が用意されています。

Cisco Spaces では、パートナープログラムを通じて、さまざまな業種にわたるさまざまなパートナーアプリケーションにアクセスできます。

Cisco Spaces は、Cisco Catalyst、Cisco AireOS、および Cisco Meraki インフラストラクチャと互換性があります。

上記のサービスに加えて、Cisco Spaces アプリの範囲は、世界的なパンデミックである COVID-19 によって生じるビジネス要件を満たすために拡張されました。拡張機能は既存のアプリケーションに基づいて構築されており、COVID-19 の特定の要件を満たすために新しいアプリケーションが追加されています。Impact Analytics、Location Analytics、Behaviour Metrics、Right Now などのアプリの拡張機能を使用すると、ビジネス拠点に及ぼす COVID-19 の影響を分析し、適切なアクションを実行できます。たとえば、現在の場所のデバイス密度に基づいてルールを作成し、その場所にいる人の数が特定の数または密度（人/エリア）を超えた場合に自動的に通知されるようにすることができます。Location Analytics アプリには、エグゼクティブサマリーレポートを組織内の同僚と共有する機能が追加されました。さらに、個人/グループの場所を対象とした COVID-19 ベースの傾向分析を行動メトリクスアプリを使用して実行できるようになり、特定のビジネス拠点を組織全体および特定の業種のビジネス拠点と比較できます。

Cisco Spaces では、影響を受けるデバイスのロケーション履歴とデバイス近接履歴をすばやく確認できる新しい Proximity Reporting アプリが追加されました。ユーザー ID または MAC アドレスを入力するだけで、過去 14 日間の建物内のデバイスの位置と、他のデバイスの近接性に関するレポートが生成されます。このレポートは、共有機能を使用してエクスポートまたは共有できます。同様に、検出と位置特定アプリには、デバイスを特定の数にクラスタ化して、ソーシャルディスタンスのガイドラインに違反している可能性のある領域を確認して報告する機能が追加されました。

このリリースの主な機能は次のとおりです。

- [Monitoring and Support] 機能のラベルを [Monitor] に変更し、[Support] タブを削除しました。
- [Right Now on WiFi] の累積訪問数チャートを累積訪問者チャートに置き換えました。
- [Right Now on WiFi] から、すべての場所と主要な場所の「合計訪問者」グラフを削除しました。

- [Right Now on Camera] レポートでは、1 日の累積訪問数チャートが、1 日の累積アクセストレンドに置き換えられます。
- パートナーダッシュボードは、すべてのリージョンで統合されています。
- パートナーダッシュボードによるアプリ承認プロセスの新しいワークフロー。
- パートナーダッシュボードで IOT サービスに対応する新しいイベント。

新機能 : 2020 年 7 月

Cisco Spaces ダッシュボード

Cisco Spaces ダッシュボードに、次の新機能が追加されました。

Proximity Reporting アプリ

新しいアプリである **Proximity Reporting** が Cisco Spaces ダッシュボードのホームページで利用可能になり、近接レポートを生成できるようになりました。現在、アプリはベータ版です。

Proximity Reporting アプリは、COVID-19 のパンデミックの最中に職場に戻る従業員のために、職場の管理者が安全な環境を作成することを支援します。レポート対象ユーザー（監視対象の人）のワイヤレスデバイスは、ワイヤレスネットワークに関連付けられ、物理的な場所にマッピングされます。Proximity Reporting アプリにより、COVID-19 の検査で陽性となった人の動きを追跡できます。

Proximity Reporting アプリの主な機能の一部は次のとおりです。

- 特定の期間（通常は 14 ～ 28 日）に影響を受けた人がいた拠点を把握するのに役立ちます。
- 影響を受けた人と同じ拠点到いた他の人のリストを提供します。
- 影響を受けた人がいつ拠点に出入りしたかを示すタイムラインを提供します。

レポートには次のセクションがあります。

- [Location Summary] : 報告者が特定の期間に通過した拠点の概要を提供します。
- [Proximity Report] :
 - [Proximity Summary] : 報告者がその拠点の他のユーザーに与える影響のサマリーレポートを提供します。
 - [Proximity Tracing] : 報告者と接触した他のユーザーの詳細な履歴を提供します。
- [Daily Journey Report] : さまざまな拠点（キャンパス、ビルディング、フロア）にわたるレポートユーザーの 1 日ごとの行動を、レポートユーザーが各場所で費やした時間とともに視覚的に追跡します。

カメラメトリック

[Camera Metrics] を Cisco Spaces ダッシュボードで利用できるようになりました。このアプリを使用すると、Meraki カメラを使用してキャプチャしたデータに基づくメトリクスレポートを表示できます。このレポートは特定の月に表示されます。

現在、レポートには次の詳細が含まれています。

- [Monthly Footfall] : 1 ヶ月全体の総来訪者数を表示します。
- [Daily Footfall] : 選択した月の各日の総来訪者数を表示します。
- [Footfall Distribution: By hour of day] : 選択した月の 1 時間ごとの平均総来訪者数を表示します。
- [Presence Index : By hour of day] : 選択した月の 1 時間ごとの平均出席者数を表示します。
- [Peak Presence : By hour of day] : このグラフは、ネットワークロケーション用にのみ使用できます。選択した月の 1 日の時間ごとのピーク人数の累計を表示します。また、選択した月の 1 日の時間ごとの平均出席者数も表示されます。



(注) すべてのチャートは、カメラ用に描画されたトリップワイヤラインを経た訪問者の出入りに基づいています。

Right Now Report on Camera

Right Now アプリでは、ロケーションにインストールされている Meraki カメラの Right Now レポートが表示されるようになりました。[Right Now] ウィンドウの左上に表示される [three-line] メニューで、新しいオプション [Right Now on camera] が利用できるようになりました。

レポートには次の詳細が含まれます。



- (注) [# of the people present: Key Cameras Zones] グラフは、カメラの近くにいる人々に基づいており、残りのすべてのグラフは、カメラに対して描かれたトリップワイヤラインを超える人々の出入りに基づいています。
- [# of people present] : 選択したロケーションとその子ロケーションに現在滞在している人の合計数。
 - [# of people present: Key Locations] : 各子ロケーションに現在存在する人の合計数。ロケーションの合計数が 15 以上の場合、上位および下位の 3 つのロケーションのカウントが表示されます。このような場合、最大 3 つの場所をピン留めして、選択した場所の現在の滞在人数を表示できます。このグラフは、ルートの場合のみ表示されます。
 - [# of the people present: Key Cameras] : フィルタリングされたロケーションの各カメラに現在写っている合計人数を示す棒グラフ。カメラの総数が 6 台を超える場合は、上位および下位の 3 つのカメラのカウントが表示されます。このような場合、最大 3 台のカメラをピ

ン留めして、選択したカメラに現在写っている人数を表示できます。このグラフは、ネットワークレベルの拠点に対してのみ表示されます。

- [# of the people present: Key Cameras Zones]：フィルタリングされたロケーション内のカメラに定義されている各カメラゾーンにいる人の合計数。カメラゾーンの総数が6を超える場合は、上位および下位の3つのカメラゾーンのカウン트가表示されます。このような場合、最大3つのカメラゾーンを固定して、選択したカメラゾーンにいる現在の人数を表示できます。このグラフは、ネットワークレベルの拠点に対してのみ表示されます。
- [Cumulative visits during the day]：Right Now レポートで表示されている1日における各時間の合計訪問数を累積的に表示します。たとえば、午前3時の合計訪問者数は、午前0時から午前3時までの訪問者の合計になります。
- [Presence: By Location]：レポート用に選択されたロケーションとその子ロケーションがグローバルマップに表示され、これらのロケーションに現在滞在している訪問者数が [Map View] に表示されます。[List View] を使用して、現在の訪問者数を階層として知ることができます。

機能強化：2020年7月

Cisco Spaces ダッシュボード

Cisco Spaces ダッシュボードに次の変更が加えられました。

モニタリングとサポート

Cisco Spaces ダッシュボードでは、[Monitoring and Support] オプションに次の変更が追加されました。

- [Monitoring and Support] ウィンドウの [Support] タブを削除しました。以前は、チケットの詳細は [Support] セクションに表示されていました。サポート電子メールでチケットのステータスを確認できるようになりました。
- [Monitoring and Support] オプションの名前が [Monitor] に変更されました。

Right Now

Right Now on WiFi レポートに次の変更が加えられました。

- [Cumulative Visits: All Locations] チャート：[Cumulative Visitors: All Locations] に置き換えられました。このグラフには、1日の各時間における累積訪問者が表示されます。累積カウントグラフは、ネットワークロケーションのタイムゾーンに基づいて表示されます。
- [Total Visitors present last 3 hours: All locations] および [Total Visitors present last 3 hours: Key Locations] のグラフが削除されました。

Right Now on Camera

Right Now on Camera レポートに次の変更が加えられました。

- [Cumulative visits during the day] チャートは、[Cumulative Footfall during the day] に置き換えられました。このチャートでは、1日の各時間における累積アクセス数を示します。以前は、1日の各時間の累積訪問数が表示されていました。
- ネットワークロケーションのタイムゾーンは、[Cumulative Footfall during the day] を表示するときに考慮されます。
- [Historical Average] グラフは、[#of people present: Key Locations]、[# of the people presents: Key Cameras]、および [# of the people presents: Key Cameras Zones] チャートから削除されました。

Cisco Spaces パートナーダッシュボード

Cisco Spaces パートナーダッシュボードでは、次の機能強化が加えられました。

パートナー ダッシュボード

パートナーダッシュボードに次の変更が加えられました。

- [Europe] と [Rest of the World] 地域の両方のアプリを作成、管理、公開するための統合ダッシュボード。以前は、[Europe] と [Rest of the World] アプリを作成するための個別のダッシュボードがありました。

この機能をサポートするために、[App Center] ウィンドウの [Choose the Region] 領域に、[Europe Region] および [Rest of the world (except Europe region)] オプションが表示されます。



-
- (注) アプリの作成後、ヨーロッパ向けに作成されたアプリのサンドボックスアクティベーションは、<https://partners.dnaspaces.eu> 自体で実行する必要があります。
-

- ダッシュボードによるアプリ承認プロセスの新しいワークフロー。

アプリを作成してテストしたら、パートナーは [Submit] をクリックして、承認のためにアプリを送信できます。次に、Cisco Spaces チームがアプリを評価し、必要なアクションを実行します。承認されると、アプリのステータスが [Approved] に変更され、パートナーは [Publish] を使用してアプリを公開できます。アプリが公開されると、ライブになり、Cisco Spaces ダッシュボードの [Get Partner Apps] > [App Center] セクションで利用できるようになります。



-
- (注) 以前のように、ヨーロッパ地域向けに公開されたアプリは [<https://dnaspaces.eu>] にのみリストされ、その他の地域向けには [<https://dnaspaces.io>] にリストされます。
-

イベント

次の新しいイベントがパートナーダッシュボードに追加されました。

- [IOT_TELEMETRY] : このイベントは、BLE や RFID などの IOT デバイスからのテレメトリの更新がある場合にトリガーされます。
- [IOT_USER_ACTION] : このイベントは、IOT デバイスでユーザーアクション（ボタンクリックなど）が実行されたときにトリガーされます。
- [DEVICE_COUNT] : このイベントは、そのロケーションでのデバイスの数が増減したときにトリガーされます。

[BLE Manager] が [IOT] サービスに置き換えられたため、イベント [BLE_UPDATE] は削除されました。

Cisco Spaces ランタイム

Cisco Spaces ランタイムに次の変更が加えられました。

エンタープライズ キャプティブ ポータルの機能強化

Cisco Spaces では、エンタープライズ キャプティブ ポータルに対して次のサポートが提供されるようになりました。

- トリガー API を使用して通知を API エンドポイントに送信するためのサポート。
- キャプティブポータルのユーザにそのアクションに基づいてタグを付けるためのサポート。

不具合

不具合では、Cisco Spaces アプリケーションでの予期しない動作について説明します。「解決済みの不具合」と「未解決の不具合」では、このリリースの不具合を示します。

各不具合について、次の情報が提供されます。

- 識別子 : 各不具合には、一意の識別子 (ID) が割り当てられます。識別子は CSCxxNNNN というパターンで、x は任意の文字 (a ~ z)、N は任意の数字 (0 ~ 9) です。これらの ID は、セキュリティアドバイザリ、フィールド通知、その他のシスコのサポートドキュメントなど、シスコのマニュアルでよく使用されます。Technical Assistance Center (TAC) エンジニアまたはその他のシスコのスタッフからも、特定の不具合の ID が提供されます。
- 説明 : 不具合が発生したときに観察された内容の説明。

ここでは、次の内容について説明します。

シスコバグ検索ツール

シスコバグ検索ツール (BST) は、シスコ製品とソフトウェアの障害と脆弱性の包括的なリストを管理するシスコバグ追跡システムへのゲートウェイです。BSTは、製品とソフトウェアに関する詳細な障害情報を提供します。

未解決のバグ

表 38: 未解決のバグ

CDETS ID 番号	説明
CSCvq83680	RBAC : 特定の場所しかアクセスできない管理ユーザーは、ダッシュボードにログインできない。
CSCvt29202	デフォルトでは、新しく作成されたアカウントの訪問者数と訪問数がデジタル化統計に表示される。
CSCvs79627	Meraki カメラ : ユーザーは非カメラデバイスもインポートできる。
CSCvs97445	ロケーション階層に誤った「ユーザー数」が表示される。
CSCvu46143	すでに承認された招待状を使用しようとする、適切なエラーメッセージが表示される必要がある。
CSCvt93539	訪問数が少ない場合、[Right Now -Visits by floor] セクションで、フロア名がツールチップテキストに表示されない。

修正されたバグ

表 39: 修正されたバグ

CDETS ID 番号	説明
CSCvu87384	sub_type イベントは、プロモーションクリックの「プロモーション」としてキャプチャされない。
CSCvv07571	プロモーションとメニューのクリックには、言語ベースのイベントログがない。



第 36 章

2020 年 6 月

- [Cisco Spaces の概要](#) (147 ページ)
- [新機能 : 2020 年 6 月](#) (149 ページ)
- [機能強化 : 2020 年 6 月](#) (151 ページ)
- [不具合](#) (152 ページ)

Cisco Spaces の概要

Cisco Spaces は、既存のワイヤレスやIoT (BLE) インフラストラクチャを活用して、実用的な情報を提供し、Space に組み込まれたアプリケーションでビジネスの成果を推進する強力なロケーション サービス プラットフォームです。

Cisco Spaces からの情報には次が含まれます。

- **Location Analytics** は、時間や位置によるロケーションデータの多角的な分析を行い、ネットワークに接続しているユーザーの行動をより詳細に可視化する機能を提供します。
- **Right Now** レポートは、物理的スペース内のリアルタイムの訪問者数 (Wi-Fi に接続されているデバイスで識別) 、およびこの数を履歴平均と比較する方法を提供します。Right Now レポートでは、使用されている認証方法に基づいて、1人のユーザーに属する複数のデバイスを検出し、それらのデバイスを1人の訪問者としてカウントできます。
- **Business Insights** は、人々がお客様の物理拠点に訪れる頻度と、お客様の事業所に滞在する時間を測定する機能を提供します。このデータは、すべてのロケーションにわたり、月単位で比較評価されます。また、ロケーションのパフォーマンスを経時的、グループ別、または業界別に比較評価する機能も用意されています。
- **Impact Analysis** は、現地イベント、キャンペーン、およびレイアウトの変更が行動に及ぼす影響を測定する機能を提供します。ツールを使用してイベントを作成し、費やした時間と頻度への影響の前、後、および最中などの特定のタイムラインに基づいて、このイベントの影響を測定するのは簡単です。

Cisco Spaces アプリケーションには、キャプティブポータル、ロケーションペルソナ、エンゲージメントなどのカスタマーエクスペリエンス管理アプリが含まれており、物理的な場所にいる顧客とリアルタイムでつながることができます。追加のアプリケーションには、アセットト

ラッキングアプリ、IoT サービス（Bluetooth Low Energy（BLE））を管理および設定するためのサービスマネージャ、およびこのデータを抽出して関連付けるか、他のエンタープライズシステムに統合する場合のオープン API フレームワークも含まれます。

Cisco Spaces は、さまざまなロケーションベースのテクノロジーやインテリジェンスを通じて各種のサービスを利用できる単一のダッシュボードインターフェイスを備えています。Cisco Spaces では、お客様の物理的なビジネスロケーションへの訪問者をつなぎ、関係を深めることもできます。ワークスペース、小売、製造、サービス業、医療、教育、金融など、さまざまな業種のビジネスを対象としています。Cisco Spaces のアセットラッキングアプリケーションは、お客様施設内の資産を監視および管理するためのソリューションを提供します。Cisco Spaces には、これらの知見をアクションに変えるためのさまざまなツールキット、アプリ、および API が用意されています。

Cisco Spaces では、パートナープログラムを通じて、さまざまな業種にわたるさまざまなパートナーアプリケーションにアクセスできます。

Cisco Spaces は、Cisco Catalyst、Cisco AireOS、および Cisco Meraki インフラストラクチャと互換性があります。

上記のサービスに加えて、Cisco Spaces アプリの範囲は、世界的なパンデミックである COVID-19 によって生じるビジネス要件を満たすために拡張されました。拡張機能は既存のアプリケーションに基づいて構築されており、COVID-19 の特定の要件を満たすために新しいアプリケーションが追加されています。Impact Analytics、Location Analytics、Behaviour Metrics、Right Now などのアプリの拡張機能を使用すると、ビジネス拠点に及ぼす COVID-19 の影響を分析し、適切なアクションを実行できます。たとえば、現在の場所のデバイス密度に基づいてルールを作成し、その場所にいる人の数が特定の数または密度（人/エリア）を超えた場合に自動的に通知されるようにすることができます。Location Analytics アプリには、エグゼクティブサマリーレポートを組織内の同僚と共有する機能が追加されました。さらに、個人/グループの場所を対象とした COVID-19 ベースの傾向分析を行動メトリクスアプリを使用して実行できるようになり、特定のビジネス拠点を組織全体および特定の業種のビジネス拠点と比較できます。

Cisco Spaces では、影響を受けるデバイスのロケーション履歴とデバイス近接履歴をすばやく確認できる新しい Proximity Reporting アプリが追加されました。ユーザー ID または MAC アドレスを入力するだけで、過去 14 日間の建物内のデバイスの位置と、他のデバイスの近接性に関するレポートが生成されます。このレポートは、共有機能を使用してエクスポートまたは共有できます。同様に、検出と位置特定アプリには、デバイスを特定の数にクラスタ化して、ソーシャルディスタンスのガイドラインに違反している可能性のある領域を確認して報告する機能が追加されました。

このリリースの主な機能は次のとおりです。

- 新しいアプリ **Proximity Reporting** が Cisco Spaces ダッシュボードで利用可能になり、近接レポートを生成できるようになりました。
- Meraki カメラを使用してキャプチャされたデータを表示するための新しいアプリ **Camera Metrics**。
- Meraki カメラ用の Right Now レポートを表示するための新しい機能 **Right Now on Camera**。

- 新しいアクティビティの **Occupancy** が **Density Rules** に追加され、占有制限に基づいて通知がトリガーされます。
- キャプティブポータルアプリで COVID 19 ポータルテンプレートを提供しました。
- **Location Analytics** では、フロアおよびゾーンレベルのロケーションフィルタリングのサポートが ACT および Extend ライセンスに追加されました。
- **Trigger API** および **Action Tags** はエンタープライズキャプティブポータル（ランタイム）をサポートします。

新機能：2020年6月

Cisco Spaces ダッシュボード

Cisco Spaces ダッシュボードに、次の新機能が追加されました。

Proximity Reporting アプリ

新しいアプリである **Proximity Reporting** が Cisco Spaces ダッシュボードのホームページで利用可能になり、近接レポートを生成できるようになりました。現在、アプリはベータ版です。

Proximity Reporting アプリは、COVID-19 のパンデミックの最中に職場に戻る従業員のために、職場の管理者が安全な環境を作成することを支援します。レポート対象ユーザー（監視対象の人）のワイヤレスデバイスは、ワイヤレスネットワークに関連付けられ、物理的な場所にマッピングされます。**Proximity Reporting** アプリにより、COVID-19 の検査で陽性となった人の動きを追跡できます。

Proximity Reporting アプリの主な機能の一部は次のとおりです。

- 特定の期間（通常は 14 ～ 28 日）に影響を受けた人がいた拠点を把握するのに役立ちます。
- 影響を受けた人と同じ拠点にいた他の人のリストを提供します。
- 影響を受けた人がいつ拠点に出入りしたかを示すタイムラインを提供します。

レポートには次のセクションがあります。

- [Location Summary]：報告者が特定の期間に通過した拠点の概要を提供します。
- [Proximity Report]：
 - [Proximity Summary]：報告者がその拠点の他のユーザーに与える影響のサマリーレポートを提供します。
 - [Proximity Tracing]：報告者と接触した他のユーザーの詳細な履歴を提供します。

- [Daily Journey Report] : さまざまな拠点（キャンパス、ビルディング、フロア）にわたるレポートユーザーの1日ごとの行動を、レポートユーザーが各場所で費やした時間とともに視覚的に追跡します。

カメラメトリック

[Camera Metrics] を Cisco SpacesCisco Spaces ダッシュボードで利用できるようになりました。このアプリを使用すると、Merakiカメラを使用してキャプチャしたデータに基づくメトリクスレポートを表示できます。このレポートは特定の月に表示されます。

現在、レポートには次の詳細が含まれています。

- [Monthly Footfall] : 1 ヶ月全体の総来訪者数を表示します。
- [Daily Footfall] : 選択した月の各日の総来訪者数を表示します。
- [Footfall Distribution: By hour of day] : 選択した月の1時間ごとの平均総来訪者数を表示します。
- [Presence Index : By hour of day] : 選択した月の1時間ごとの平均出席者数を表示します。
- [Peak Presence : By hour of day] : このグラフは、ネットワークロケーション用にのみ使用できます。選択した月の1日の時間ごとのピーク人数の累計を表示します。また、選択した月の1日の時間ごとの平均出席者数も表示されます。



(注) すべてのチャートは、カメラ用に描画されたトリップワイヤラインを経た訪問者の出入りに基づいています。

Right Now Report on Camera

Right Now アプリでは、ロケーションにインストールされている Meraki カメラの Right Now レポートが表示されるようになりました。[RightNow] ウィンドウの左上に表示される [three-line] メニューで、新しいオプション [Right Now on camera] が利用できるようになりました。

レポートには次の詳細が含まれます。



- (注) [# of the people present: Key Cameras Zones] グラフは、カメラの近くにいる人々に基づいており、残りのすべてのグラフは、カメラに対して描かれたトリップワイヤラインを超える人々の出入りに基づいています。
- [# of people present] : 選択したロケーションとその子ロケーションに現在滞在している人の合計数。
 - [#of people present: Key Locations] : 各子ロケーションに現在存在する人の合計数。ロケーションの合計数が 15 以上の場合、上位および下位の 3 つのロケーションのカウントが表

示されます。このような場合、最大3つの場所をピン留めして、選択した場所の現在の滞在人数を表示できます。このグラフは、ルートの場合についてのみ表示されます。

- [# of the people present: Key Cameras]：フィルタリングされたロケーションの各カメラに現在写っている合計人数を示す棒グラフ。カメラの総数が6台を超える場合は、上位および下位の3つのカメラのカウントが表示されます。このような場合、最大3台のカメラをピン留めして、選択したカメラに現在写っている人数を表示できます。このグラフは、ネットワークレベルの拠点に対してのみ表示されます。
- [# of the people present: Key Cameras Zones]：フィルタリングされたロケーション内のカメラに定義されている各カメラゾーンにいる人の合計数。カメラゾーンの総数が6を超える場合は、上位および下位の3つのカメラゾーンのカウントが表示されます。このような場合、最大3つのカメラゾーンを固定して、選択したカメラゾーンにいる現在の人数を表示できます。このグラフは、ネットワークレベルの拠点に対してのみ表示されます。
- [Cumulative visits during the day]：Right Now レポートで表示されている1日における各時間の合計訪問数を累積的に表示します。たとえば、午前3時の合計訪問者数は、午前0時から午前3時までの訪問者の合計になります。
- [Presence: By Location]：レポート用に選択されたロケーションとその子ロケーションがグローバルマップに表示され、これらのロケーションに現在滞在している訪問者数が [Map View] に表示されます。[List View] を使用して、現在の訪問者数を階層として知ることができます。

機能強化：2020年6月

Cisco Spaces ダッシュボード

Cisco Spaces ダッシュボードに次の変更が加えられました。

密度ルール

密度ルールに次の変更が加えられました。

- 密度ルールは、特定のロケーションの占有に基づいて通知をトリガーするように機能強化されています。占有制限を定義でき、占有が占有制限セットの一定のパーセンテージを満たしたときに通知をトリガーするように設定できます。

この機能をサポートするために、[Density Rules] に次の変更が加えられました。

- [When devices are connected to WIFI] の後に表示されるドロップダウンリストで、新しいオプション [Occupancy] が使用できるようになりました。[Occupancy] と条件タイプを選択すると、[Percent] ドロップダウンリストが表示され、通知がトリガーされる占有制限のパーセンテージを指定できます。
- [Location Information] ウィンドウに、収容人数の制限を指定するための人数リスト [Occupancy limit (Max Capacity)] が追加されました。

- SMS、電子メールなどのすべての通知タイプに、次のスマートリンク変数が追加されました。
 - \$buildingName : 通知がトリガーされるロケーションの建物。
 - \$floorName : 通知がトリガーされるロケーションのフロア。
 - \$zoneName : 通知がトリガーされるゾーン。
 - \$deviceCount : 通知がトリガーされるロケーションのデバイス数。
 - \$locationPath : 通知がトリガーされるロケーションのロケーションパス（親階層）。
 - \$TotalCapacity : 通知がトリガーされるロケーションの占有制限。

キャプティブポータルアプリの Covid 19 の機能強化

COVID 19 のビジネス要件をサポートするために、キャプティブポータルアプリで次の機能強化が加えられました。

- [Captive Portals] ウィンドウで、[COVID-19] 固有のポータルテンプレートを使用できるようになりました。
- バナー [COVID-19 Templates] が、Cisco Spaces ホームページの [Captive Portals] タイルに追加されました。

ロケーション分析

Location Analytics レポートに次の変更が加えられました。

- 各チャートの右上に表示されるパーセンテージチャートは、円チャートとして表示されず。以前は、棒グラフが表示されていました。
- ACT および EXTEND ライセンスの場合、フロアとゾーンのレポートを表示できるようになりました。フロアとゾーンは、[Location] ドロップダウンリストで選択できるようになります。

不具合

不具合では、Cisco Spaces アプリケーションでの予期しない動作について説明します。「解決済みの不具合」と「未解決の不具合」では、このリリースの不具合を示します。

各不具合について、次の情報が提供されます。

- 識別子 : 各不具合には、一意の識別子 (ID) が割り当てられます。識別子は CSCxxNNNN というパターンで、*x* は任意の文字 (a ~ z)、*N* は任意の数字 (0 ~ 9) です。これらの ID は、セキュリティアドバイザリ、フィールド通知、その他のシスコのサポートドキュメントなど、シスコのマニュアルでよく使用されます。Technical Assistance Center (TAC) エンジニアまたはその他のシスコのスタッフからも、特定の不具合の ID が提供されます。

- 説明：不具合が発生したときに観察された内容の説明。

ここでは、次の内容について説明します。

シスコバグ検索ツール

シスコバグ検索ツール (BST) は、シスコ製品とソフトウェアの障害と脆弱性の包括的なリストを管理するシスコバグ追跡システムへのゲートウェイです。BSTは、製品とソフトウェアに関する詳細な障害情報を提供します。

未解決のバグ

表 40: 未解決のバグ

CEETS ID 番号	説明
CSCVq83680	RBAC：特定の場所しかアクセスできない管理ユーザーは、ダッシュボードにログインできない。
CSCvt29202	デフォルトでは、新しく作成されたアカウントの訪問者数と訪問数がデジタル化統計に表示される。
CSCvs79627	Meraki カメラ：ユーザーは非カメラデバイスもインポートできる。
CSCvs97445	ロケーション階層に誤った「ユーザー数」が表示される。
CSCvu46143	すでに承認された招待状を使用しようとする、適切なエラーメッセージが表示される必要がある。
CSCvt93539	訪問数が少ない場合、[Right Now -Visits by floor] セクションで、フロア名がツールチップテキストに表示されない。

修正されたバグ

表 41: 修正されたバグ

CEETS ID 番号	説明
CSCvu76687	アプリのアクティブ化サンドボックスリダイレクトでアクティブ化されたアプリタイルをクリックすると、「ページが見つかりません」というエラーが発生する。
CSCvt56362	ロケーション分析：より多くの SSID がある場合、滞留時間と滞留時間の内訳が読み込まれない。
CSCvt90496	アプリの切り替えオプションは、一部のアプリでは利用できない。

CDETS ID 番号	説明
CSCvu49171	URL スマートリンクが Webex 通知で機能しない。
CSCvu49183	sqft/sqmtr 値に基づく密度ルールは、すべてのロケーションタイプで機能する必要がある。
CSCvu43730	パスワードに外国文字と少数の特殊文字が含まれていると、ダッシュボードログインに失敗する。
CSCvt99974	Right Now : [Visitor vs Employee] チャートセクションでは、従業員数の割合が少なく表示される。
CSCvp57525	ロケーション分析：滞留時間の値が小さい場合、滞留時間内訳チャートで滞留時間範囲 % が重複している。



第 37 章

2020 年 5 月

- [Cisco Spaces の概要](#) (155 ページ)
- [新機能 : 2020 年 5 月](#) (157 ページ)
- [機能強化 : 2020 年 5 月](#) (158 ページ)
- [Cisco Spaces ランタイム](#) (159 ページ)
- [不具合](#) (159 ページ)

Cisco Spaces の概要

Cisco Spaces は、既存のワイヤレスやIoT (BLE) インフラストラクチャを活用して、実用的な情報を提供し、Space に組み込まれたアプリケーションでビジネスの成果を推進する強力なロケーション サービス プラットフォームです。

Cisco Spaces からの情報には次が含まれます。

- **Location Analytics** は、時間や位置によるロケーションデータの多角的な分析を行い、ネットワークに接続しているユーザーの行動をより詳細に可視化する機能を提供します。
- **Right Now レポート** は、物理的スペース内のリアルタイムの訪問者数 (Wi-Fi に接続されているデバイスで識別) 、およびこの数を履歴平均と比較する方法を提供します。Right Now レポートでは、使用されている認証方法に基づいて、1人のユーザーに属する複数のデバイスを検出し、それらのデバイスを1人の訪問者としてカウントできます。
- **Business Insights** は、人々がお客様の物理拠点に訪れる頻度と、お客様の事業所に滞在する時間を測定する機能を提供します。このデータは、すべてのロケーションにわたり、月単位で比較評価されます。また、ロケーションのパフォーマンスを経時的、グループ別、または業界別に比較評価する機能も用意されています。
- **Impact Analysis** は、現地イベント、キャンペーン、およびレイアウトの変更が行動に及ぼす影響を測定する機能を提供します。ツールを使用してイベントを作成し、費やした時間と頻度への影響の前、後、および最中などの特定のタイムラインに基づいて、このイベントの影響を測定するのは簡単です。

Cisco Spaces アプリケーションには、キャプティブポータル、ロケーションペルソナ、エンゲージメントなどのカスタマーエクスペリエンス管理アプリが含まれており、物理的な場所にいる

顧客とリアルタイムでつながることができます。追加のアプリケーションには、アセットトラッキングアプリ、IoT サービス（Bluetooth Low Energy (BLE)）を管理および設定するためのサービスマネージャ、およびこのデータを抽出して関連付けるか、他のエンタープライズシステムに統合する場合のオープン API フレームワークも含まれます。

Cisco Spaces は、さまざまなロケーションベースのテクノロジーやインテリジェンスを通じて各種のサービスを利用できる単一のダッシュボードインターフェイスを備えています。Cisco Spaces では、お客様の物理的なビジネスロケーションへの訪問者につながり、関係を深めることもできます。ワークスペース、小売、製造、サービス業、医療、教育、金融など、さまざまな業種のビジネスを対象としています。Cisco Spaces のアセットトラッキングアプリケーションは、お客様施設内の資産を監視および管理するためのソリューションを提供します。Cisco Spaces には、これらの知見をアクションに変えるためのさまざまなツールキット、アプリ、および API が用意されています。

Cisco Spaces では、パートナープログラムを通じて、さまざまな業種にわたるさまざまなパートナーアプリケーションにアクセスできます。

Cisco Spaces は、Cisco Catalyst、Cisco AireOS、および Cisco Meraki インフラストラクチャと互換性があります。

上記のサービスに加えて、Cisco Spaces アプリの範囲は、世界的なパンデミックである COVID-19 によって生じるビジネス要件を満たすために拡張されました。拡張機能は既存のアプリケーションに基づいて構築されており、COVID-19 の特定の要件を満たすために新しいアプリケーションが追加されています。Impact Analytics、Location Analytics、Behaviour Metrics、Right Now などのアプリの拡張機能を使用すると、ビジネス拠点に及ぼす COVID-19 の影響を分析し、適切なアクションを実行できます。たとえば、現在の場所のデバイス密度に基づいてルールを作成し、その場所にいる人の数が特定の数または密度（人/エリア）を超えた場合に自動的に通知されるようにすることができます。Location Analytics アプリには、エグゼクティブサマリーレポートを組織内の同僚と共有する機能が追加されました。さらに、個人/グループの場所を対象とした COVID-19 ベースの傾向分析を行動メトリクスアプリを使用して実行できるようになり、特定のビジネス拠点を組織全体および特定の業種のビジネス拠点と比較できます。

Cisco Spaces では、影響を受けるデバイスのロケーション履歴とデバイス近接履歴をすばやく確認できる新しい Proximity Reporting アプリが追加されました。ユーザー ID または MAC アドレスを入力するだけで、過去 14 日間の建物内のデバイスの位置と、他のデバイスの近接性に関するレポートが生成されます。このレポートは、共有機能を使用してエクスポートまたは共有できます。同様に、検出と位置特定アプリには、デバイスを特定の数にクラスタ化して、ソーシャルディスタンスのガイドラインに違反している可能性のある領域を確認して報告する機能が追加されました。

このリリースの主な機能は次のとおりです。

- アプリを切り替えるための新しいナビゲーションオプションが追加されました。
- Right Now アプリの新機能 [Density Rule] は、お客様のロケーションの訪問者の密度を追跡します。
- ダッシュボードからリリースノートを表示できるようにプロビジョニングしました。
- Cisco Spaces ダッシュボードで Telenor SMS ゲートウェイに対応するようになりました。

- パスワードの有効期限が切れた後でもパスワードを変更できるようにプロビジョニングしました。
- キャプティブポータルルールの帯域幅制限ではカスタマイズに対応するようになりました。
- すべてのルールで [Filter by App Status] オプションを削除しました。
- Cisco CMX の [Manual Upload] および [Auto Sync] オプションが削除されました。
- ルールのリスト基準が変更され、最後に変更されたライブルールが一番上にリストされるようになりました。
- エンタープライズ キャプティブ ポータルの Radius 認証サポートを有効化 (ランタイム) しました。

新機能 : 2020 年 5 月

Cisco Spaces ダッシュボード

Cisco Spaces ダッシュボードに、次の新機能が追加されました。

アプリのメニューを切り替える

ダッシュボードの右上に表示されるアプリランチャ (グリッド) アイコンを使用すると、あるアプリから別のアプリに簡単に移動できるようになりました。以前は、あるアプリから別のアプリに移動するには、Cisco Spaces ホームページに戻る必要がありました。アプリランチャアイコンをクリックすると、ユーザーに対してアクティブ化されたすべての Cisco Spaces アプリが一覧表示されます。

密度ルール

COVID-19 のユースケースの 1 つに対応するため、Right Now アプリに新機能「密度ルール」が導入され、顧客は物理的なロケーションにいる人の数、または特定の広さのスペースにおいて許可される最大容量を追跡できます。設定された制限を超えたときにアラート/通知を受け取ります。このオプションは、[ACT] ライセンスでのみ使用できます。

[Density Rule] オプションを使用すると、ビジネス拠点の一意のデバイスの数に基づいて、ビジネスユーザーへの通知をトリガーするルールを作成できます。SMS、電子メール、webex を介して、またはトリガー API を使用して通知を送信するように設定できます。

[Right Now] ウィンドウの左上に新しい 3 行のメニューアイコンが追加され、次のメニュー項目が含まれます。

- [Right Now on WiFi] : Right Now レポートを表示します。
- [Density Rules] : 密度ルールを作成するためのウィンドウを表示します。

リリースノートリンク

ダッシュボード自体から Cisco Spaces のリリースノートにアクセスできるようになりました。ダッシュボードの右上にある [Cisco Spaces Support] のヘルプアイコンをクリックすると、次の2つのオプションが使用可能になります。

- [Latest Release Note] : Cisco Spaces の最新の月刊リリースノートへのリンク。
- [Release Notes History] : Cisco.com のリリースノートのホームページへのリンクです。ここでは、Cisco Spaces のすべての過去のリリースノートが一覧表示されます。

Telenor SMS ゲートウェイのサポート

Cisco Spaces ダッシュボードは、現在 Telenor SMS ゲートウェイをサポートしています。キャプティブポータルアプリの [Settings] > [SMS] で、[Add SMS Gateway] の [SMS Gateway Type] ドロップダウンリストで新しいオプションである [Telenor] を選択できます。

機能強化 : 2020 年 5 月

Cisco Spaces ダッシュボード

Cisco Spaces ダッシュボードに次の変更が加えられました。

有効期限後のパスワード変更のサポート

Cisco Spaces では、パスワードの有効期限が切れた後でもパスワードを変更できるようになりました。ログイン情報を入力して [Continue] ボタンをクリックすると、パスワードを変更するためのポップアップウィンドウが表示され、以前は、パスワードの有効期限が切れている場合、[Forgot Password] オプションを使用してパスワードをリセットする必要がありました。

キャプティブポータルルールのカスタム手動帯域幅

Cisco Spaces では、キャプティブポータルルールで許可される帯域幅を手動で入力できるようになりました。この機能強化を使用すると、事前定義された値ではなく、設定したい正確な帯域幅を指定できます。帯域幅は、KBPS、MBPS、GBPS、または TBPS で指定できます。

[Captive Portal Rule] ウィンドウの [Show Captive Portal] 領域で、[Bandwidth Limit] チェックボックスをオンにすると、[Show Manual Configuration] リンクが [Bandwidth] スライダーの下に表示されます。このリンクをクリックすると、帯域幅を手動で入力するフィールドが表示されます。これで、リンク名が [Show Slider Configuration] に変更され、これを使用してスライダーに戻ることができます。

「アプリのステータス別にフィルタ処理」オプションを削除

プッシュ通知は Cisco Spaces による通知メカニズムとしてサポートされなくなったため、キャプティブポータルルール、エンゲージメントルール、およびロケーションパーソナルルールの [Filter by App Status] オプションは削除されました。

リストの一番上に更新日順に並べ替えられたアクティブ（ライブ）ルール

[Cisco Rules] ページのリストが拡張され、アクティブ（ライブ）ルールと一時停止されたルールが変更日時に基づいて並べ替えられ、それぞれ上部と下部に表示されます。この変更は、キャプティブポータル、エンゲージメント、ロケーションペルソナ、および Right Now アプリの下のルールセクションに適用されます。

Cisco CMX の手動アップロードおよび自動同期オプションを削除

Cisco Spaces は、Cisco CMX バージョン 10.5 以下をサポートしなくなりました。この機能強化をサポートするために、[Setup] > [Wireless Networks] の [Connect your Wireless Network] ウィンドウが変更されました。[Add New] をクリックし、[Cisco AireOS/Catalyst] をクリックすると、以前表示されていた [Via CMX On-Prem] オプションが削除され、[Connect Via CMX Tethering] に置き換えられます。

この機能強化に基づいて：

- Cisco CMX 10 を使用した Cisco Spaces への既存の接続。バージョン 5 以下は引き続き機能します。
- Cisco CMX 10.5 以前を使用して Cisco Spaces との新しい接続を確立することはできません。Cisco CMX 10.6 以降と Cisco CMX テザリングを使用する必要があります。

Cisco Spaces ランタイム

Cisco Spaces ランタイムに次の変更が加えられました。

エンタープライズ キャプティブ ポータルの Radius 認証

Cisco Spaces は、エンタープライズ キャプティブ ポータルの RADIUS 認証をサポートするように機能強化されました。この機能強化により、エンタープライズ キャプティブ ポータルのキャプティブポータルルールの次の機能を使用できるようになります。

- シームレスなインターネット プロビジョニング
- インターネットの拒否
- セッション期間と帯域幅の拡張

不具合

不具合では、Cisco Spaces アプリケーションでの予期しない動作について説明します。「解決済みの不具合」と「未解決の不具合」では、このリリースの不具合を示します。

各不具合について、次の情報が提供されます。

- 識別子：各不具合には、一意の識別子（ID）が割り当てられます。識別子は CSCxxNNNNN というパターンで、x は任意の文字（a ~ z）、N は任意の数字（0 ~ 9）です。これらの

ID は、セキュリティアドバイザリ、フィールド通知、その他のシスコのサポートドキュメントなど、シスコのマニュアルでよく使用されます。Technical Assistance Center (TAC) エンジニアまたはその他のシスコのスタッフからも、特定の不具合の ID が提供されます。

- 説明：不具合が発生したときに観察された内容の説明。

ここでは、次の内容について説明します。

シスコバグ検索ツール

シスコバグ検索ツール (BST) は、シスコ製品とソフトウェアの障害と脆弱性の包括的なリストを管理するシスコバグ追跡システムへのゲートウェイです。BST は、製品とソフトウェアに関する詳細な障害情報を提供します。

未解決のバグ

表 42: 未解決のバグ

CDETS ID 番号	説明
CSCvq83680	RBAC：特定の場所しかアクセスできない管理ユーザーは、ダッシュボードにログインできない。
CSCvt29202	デフォルトでは、新しく作成されたアカウントの訪問者数と訪問数がデジタル化統計に表示される。
CSCvs79627	Meraki カメラ：ユーザーは非カメラデバイスもインポートできる。
CSCvs97445	ロケーション階層に誤った「ユーザー数」が表示される。
CSCvu43730	パスワードを設定するときは、制限された文字を使用できます。
CSCvu46143	すでに承認された招待状を使用しようとする、適切なエラーメッセージが表示される必要がある。
CSCvp57525	ロケーション分析：滞留時間の値が小さい場合、滞留時間内訳チャートで滞留時間範囲 % が重複している。
CSCvt93539	訪問数が少ない場合、[Right Now -Visits by floor] セクションで、フロア名がツールチップテキストに表示されない。
CSCvt90496	アプリの切り替えオプションは、一部のアプリでは利用できない。
CSCvu49183	sqft/sqmtr 値に基づく密度ルールは、すべてのロケーションタイプで機能する必要がある。
CSCvu49171	URL スマートリンクが Webex 通知で機能しない。

CDETS ID 番号	説明
CSCvt99974	Right Now : [Visitor vs Employee] チャートセクションでは、従業員数の割合が少なく表示される。

修正されたバグ

表 43: 修正されたバグ

CDETS ID 番号	説明
CSCvu39949	EDM が有効なアカウントのロールを編集できない。
CSCvt97747	Firefox ブラウザ : Cisco Spaces ダッシュボードに空白の白い画面が表示される。
CSCvu01155	モニタリングセクションのロケーション階層メニューをクリックすると、ホームページにリダイレクトされる。
CSCvt62394	ユーザーは、総面積単位値を選択せずに総面積値を保存することはできない。



第 38 章

2020 年 4 月

- [Cisco Spaces の概要](#) (163 ページ)
- [新機能 : 2020 年 4 月](#) (164 ページ)
- [機能強化 : 2020 年 4 月](#) (165 ページ)
- [Cisco Spaces ランタイム](#) (166 ページ)
- [不具合](#) (166 ページ)

Cisco Spaces の概要

Cisco Spaces は、ワイヤレスのお客様にロケーション分析、ビジネスインサイト、カスタマーエクスペリエンス管理、アセットトラッキング、Bluetooth Low Energy (BLE) 管理、API などのロケーションベースのサービスを提供するロケーション サービス クラウド プラットフォームです。さまざまなロケーションベースのテクノロジーやインテリジェンスを通じて各種のサービスを利用できる単一のダッシュボード インターフェイスを備えています。Cisco Spaces では、お客様の物理的なビジネスロケーションへの訪問者となつたり、関係を深めることもできます。小売、製造、サービス業、医療、教育、金融など、さまざまな業種のビジネスを対象としています。Cisco Spaces のアセットトラッキング機能は、お客様施設内の資産を監視および管理するためのソリューションを提供します。Cisco Spaces には、これらの知見をアクションに変えるためのさまざまなツールキット、アプリ、および API が用意されています。さらに、Cisco Spaces はパートナープログラムを通じて、さまざまな業界向けのさまざまなアプリを提供しています。Cisco Spaces は、Cisco Catalyst、Cisco AireOS、または Cisco Meraki インフラストラクチャと互換性があります。

このリリースの主な機能は次のとおりです。

- Cisco Spaces と Cisco DNA Center の統合に対応しています。
- 現在レポートが完全に刷新され、新しい [Right Now] アプリが導入されました。
- [Impact Analysis] レポートを使用して、ロケーションでの Covid 19 の影響を分析します。
- [OpenRoaming] アプリに、アクティブユーザー数、[Device by Operating System] チャート、[Data Consumed per User] チャートが追加されました。

新機能 : 2020 年 4 月

Cisco Spaces ダッシュボード

Cisco Spaces ダッシュボードに、次の新機能が追加されました。

Cisco DNA Center の統合

Cisco Spaces は、Cisco DNA Center と統合するように強化されました。この機能強化により、Cisco Spaces で次のことが可能になります。

- Cisco DNA Center からマップを同期するため。
- Cisco DNA Center にロケーション情報を提供するため。

ただし、Cisco Spaces は、Cisco DNA Center に加えて 2020 年 7 月までに利用可能になる予定のオプションのパッケージを使用して、ベータ機能として統合できます。指定された期間が経過したら、アカウントチームに連絡して、Cisco Spaces オプションパッケージを入手してください。

統合の前提条件は次のとおりです。

- Cisco DNA Center バージョン 2.1.1 以降と Cisco Spaces オプションパッケージ。
- Cisco Spaces コネクタを使用して Cisco Spaces に接続されたワイヤレスネットワーク。

この統合をサポートするために、Cisco Spaces ダッシュボードの左上に表示される 3 行メニューで新しいオプションの **[Integrations] > [Cisco DNA Center]** が利用できるようになりました。**[Create Token]** オプションを使用して、インスタンスのトークンを作成できます。その後、Cisco DNA Center でこのトークンを設定して、Cisco Spaces と統合できます。

Right Now

[Right Now] レポートは、行動メトリクスアプリから削除され、Cisco Spaces ダッシュボードで別のアプリとして使用できるようになりました。この機能強化により、非常に高度な [Right Now] レポートの提供が容易になります。[Right Now] レポートには次のチャートが含まれます。

デフォルトでは、レポートには、現在すべてのロケーションにいる訪問者の詳細が表示されません。ネットワークレベルの場所のデータをフィルタ処理できます。

- **[Active Visitors present]** : フィルタ処理されたロケーションの子ロケーションを含む過去 10 分間の訪問者の総数を表示します。
- **Total Visitors present** : フィルタ処理されたロケーションの子ロケーションを含む過去 3 分間の訪問者の総数を表示します。[Workspaces] 分野の場合、データは過去 10 時間のものになります。

- [Active Visitors present in Key Locations]：過去 10 分間に、アクティブな訪問者の数が最も多い上位 3 つのロケーションと、アクティブな訪問者の数が最も少ない下位 3 つのロケーションを表示します。
- [Total Visitors present in Key Locations]：過去 3 時間の訪問者数が最も多い上位 3 つのロケーションと、最も訪問者が少ない下位 3 つのロケーションを表示します。[Workspaces] 分野の場合、データは過去 10 時間のものになります。
- [Visits Cumulative]：1 日の時間ごとの訪問の合計数を累積的に表示します。
- [Composition: First Time and Repeat Visitors]：アクティブな訪問者のうち、新規訪問者と再訪問者の割合を表示します。
- [Composition: Visitor and Employees]：アクティブな訪問者のうち、訪問者と従業員の割合を表示します。
- [Presence: By Location]：フィルタ処理されたロケーションの子ロケーションの内、アクティブな訪問者のロケーション別の数を表示します。ロケーション別の数は、マップビューとリストビューに表示されます。

機能強化：2020年4月

Cisco Spaces ダッシュボード

Cisco Spaces ダッシュボードに次の変更が加えられました。

影響分析

Covid 19 の影響を **Impact Analysis** アプリで分析できることを通知するために、[Covid 19 Analytics] バナーが [Impact Analysis] アプリタイトルに追加されます。影響を測定するために、デフォルトの **Covid19** イベントが [Impact Analysis] ウィンドウで使用できるようになりました。

OpenRoaming

OpenRoaming アプリの [Statistics] ウィンドウの [Custom] タブに、次の新しいオプションが追加されました。

- [Users Active Right Now]：フィルタリングされたロケーションとその子ロケーションから現在インターネットに接続しているユーザーの総数を表示します。
- [Devices by Operating System]：デバイスのオペレーティングシステムに基づいて、指定された日付範囲中にフィルタ処理されたロケーションとその子ロケーションから接続されたデバイスの合計数を示す円グラフを表示します。特定のオペレーティングシステムを搭載したデバイスの合計数は、円グラフでそのオペレーティングシステム名にカーソルを合わせると、円グラフの中央に表示されます。
- [Data Consumed per User]：指定された日付範囲の各日に各ユーザーが消費した平均データを示す棒グラフを表示します。

Cisco Spaces ランタイム

Cisco Spaces ランタイムに次の変更が加えられました。

ブラウザでの自動入力の問題

[Data Capture form] が強化され、顧客獲得時の電話番号の自動入力の問題が解決されました。データキャプチャフォームで、自動入力オプションを使用して電話番号を入力した後、国コードが空白になっていました。ブラウザ、Apple Safari および CNA で発生していたこの問題は修正されました。

電話番号データキャプチャフォームのプレースホルダーテキスト

顧客の獲得中に、[Data Capture form] の [Phone Number] フィールドに間違っただプレースホルダーテキストが表示されていました。これは、ダッシュボードポータルで設定された正しいプレースホルダーを表示するように修正されました。

不具合

不具合では、Cisco Spaces アプリケーションでの予期しない動作について説明します。「解決済みの不具合」と「未解決の不具合」では、このリリースの不具合を示します。

各不具合について、次の情報が提供されます。

- 識別子：各不具合には、一意の識別子 (ID) が割り当てられます。識別子は CSCxxNNNN というパターンで、 x は任意の文字 (a ~ z)、 N は任意の数字 (0 ~ 9) です。これらの ID は、セキュリティアドバイザリ、フィールド通知、その他のシスコのサポートドキュメントなど、シスコのマニュアルでよく使用されます。Technical Assistance Center (TAC) エンジニアまたはその他のシスコのスタッフからも、特定の不具合の ID が提供されます。
- 説明：不具合が発生したときに観察された内容の説明。

ここでは、次の内容について説明します。

シスコバグ検索ツール

シスコバグ検索ツール (BST) は、シスコ製品とソフトウェアの障害と脆弱性の包括的なリストを管理するシスコバグ追跡システムへのゲートウェイです。BST は、製品とソフトウェアに関する詳細な障害情報を提供します。

未解決のバグ

表 44: 未解決のバグ

CDETS ID 番号	説明
CSCvq83680	RBAC : 特定の場所しかアクセスできない管理ユーザーは、ダッシュボードにログインできない。
CSCvp57525	ロケーション分析 : 滞留時間の値が小さい場合、滞留時間内訳チャートで滞留時間範囲 % が重複している。
CSCvs79627	Meraki カメラ : ユーザーは非カメラデバイスもインポートできる。
CSCvs97445	ロケーション階層ページでユーザー数が正しく表示されない。
CSCvt29202	デフォルトでは、新しく作成されたアカウントの訪問者数と訪問数がデジタル化統計に表示される。
CSCvt62394	ユーザーは、総面積単位値を選択せずに総面積値を保存することはできない。
CSCvt65983	退席ルールの時間の選択は、各アカウントの業種訪問の終了時間に従って制限する必要があります。
CSCvu01155	UI : 監視セクションからロケーション階層メニューをクリックすると、ユーザーがホームページにリダイレクトされる。
CSCvt99974	Right Now : [Visitor vs Employee] チャートセクションでは、従業員数の割合が少なく表示される。
CSCvt93539	訪問数が少ない場合、[Right Now -Visits by floor] セクションで、フロア名がツールチップテキストに表示されない

修正されたバグ

表 45: 修正されたバグ

CDETS ID 番号	説明
CSCvt83390	アクセスコードを入力せずにフォームを送信すると、エラーメッセージが表示されない。
CSCvt86059	アクセスコード認証中はローディング画面に T&C テキストが表示される。



第 39 章

2020 年 3 月

- [Cisco Spaces の概要](#) (169 ページ)
- [新機能 : 2020 年 3 月](#) (170 ページ)
- [不具合](#) (172 ページ)

Cisco Spaces の概要

Cisco Spaces は、既存の Wi-Fi インフラストラクチャを活用して実用的な情報を提供し、ビジネスの成果を促進するロケーションプラットフォームです。物理的なビジネス拠点で訪問者をつなぎ、連携できるようにするマルチチャネル エンゲージメントプラットフォームです。小売、製造、サービス業、医療、教育、金融など、さまざまな業種のビジネスを対象としています。Cisco Spaces は、施設内の資産を監視および管理するためのソリューションも提供します。Cisco Spaces は、これらの情報を実行に移すためのさまざまなツールキット、アプリ、および API を提供します。さらに、Cisco Spaces はパートナープログラムを通じて、さまざまな業界向けのさまざまなアプリを提供しています。

このリリースの主な機能は次のとおりです。

- Cisco ワイヤレスコントローラのネットワークに AP を追加するための複数のプレフィックスのサポート。
- [Location Hierarchy] の [Location Info] を移動し、新しい [Zip/postal code] フィールドを追加しました。
- ロケーション選択オプションで複数のロケーションを選択できるようになりました。
- [Engagement] ルールで、アプリと BLE を介した通知のサポートを削除しました。
- [Engagement] および [Location Personas] ルールで、[Exiting Location] を、特定の期間アクセスしていない対象をフィルタ処理する [Away from the Location] オプションに置き換えました。
- [Digitization Stats] の [Square Foot] の値を更新して、ネットワークロケーション用に設定された総面積を表すようにしました。
- Cisco Spaces パートナーダッシュボードのシングルサインオンサポート。

- **Cisco Spaces** パートナーダッシュボードでは、クラウドアプリの場合、顧客定義の OAuth URL の構成をサポートします。

新機能 : 2020 年 3 月

Cisco Spaces ダッシュボード

Cisco Spaces ダッシュボードに、次の新機能が追加されました。

ロケーション情報

[Location Hierarchy] で、ロケーション情報オプションが [More Actions] メニューから移動されました。ロケーションをクリックすると表示されるウィンドウで、ロケーション情報を追加または表示するための新しいタブ [Location Info] が使用できるようになりました。また、新しいフィールド、[Zip/Postal Code] が [Location Information] ウィンドウで使用できるようになり、ロケーションの郵便番号を指定できるようになりました。ロケーション情報フィールドが親ロケーションから継承されている場合、フィールドはオレンジ色で表示されます。

Cisco ワイヤレスコントローラの複数プレフィックスのサポート

シスコワイヤレスコントローラでは、Cisco Spaces を使用して、異なるプレフィックスを持つアクセスポイントを1つのネットワークでグループ化できるようになりました。ネットワークをロケーション階層にインポートした後、ネットワークをクリックして、さまざまなプレフィックスの AP を追加します。ロケーション階層でネットワークロケーションをクリックすると、[Location Info] タブに、そのネットワークにさまざまなプレフィックスの AP を追加するための新しい [Access Points Prefix Used] オプションが表示されます。プレフィックスを追加すると、指定されたプレフィックスを持つ、[unconfigured] のネットワークに属する AP がこのネットワークに移動します。[Access Points Prefix Used] オプションは、ネットワークロケーションでのみ使用できます。ただし、[Access Points Prefix Used] オプションを [Unconfigured] のネットワークに対して使用することはできません。

複数のロケーション選択

Cisco Spaces では、ポータル作成、ルール作成、Cisco Meraki カメラのネットワークのインポートなどのアクティビティに複数の場所を選択できるようになりました。ロケーションを選択すると、その親ロケーションに対応するチェックボックスが青色で強調表示され、選択したロケーションが展開されてその子ロケーションが表示されます。その後、複数の子ロケーションを選択できます。以前は、ロケーションを選択した場合、その子ロケーションを選択するために選択を解除する必要がありました。この拡張機能は、次の機能のロケーション選択オプションに適用されます。

表 46: 複数のロケーションの選択が有効なオプション

機能	影響を受けるウィンドウ/フィールド
[Captive Portals App] > [Portal]	<ul style="list-style-type: none"> ポータルの作成 ポータルのインポート 場所の編集
[Captive Portals App] > [User Management]	ユーザーを招待
ルール (キャプティブポータル、エンゲージメント、ロケーションペルソナ)	<ul style="list-style-type: none"> ロケーションの追加
[Setup] > [Camera]	ネットワークのインポート
パートナーアプリ	<ul style="list-style-type: none"> アプリの設定 アプリのアクティベーション

アプリと BLE による通知のサポートを削除

[Engagement Rule] では、アプリと BLE を介して通知を送信する規定が削除されました。[Create Engagement Rule] ウィンドウの [Actions] 領域で、[Consumer] が使用できた次のオプションが削除されました。

- [Via Push]
- [Via BLE]

[Away from the Location] 機能

[Engagements] と [Location Personas] ルールが強化され、特定の期間行っていなかった訪問をフィルタ処理できるようになりました。たとえば、10分間退席していた場合、その訪問をフィルタ処理するルールを定義できます。[Create New Rule] ウィンドウで、[When a user is on WiFi] で使用できる [Exiting Location] オプションが、[Away from the Location] オプションに置き換えられました。[Away from the Location] オプションを選択すると、[For] ドロップダウンリストが表示され、訪問者がルール別にフィルタ処理する際に必要となる時間を指定します。時間は分単位で指定します。

訪問者がロケーションに物理的に存在していても、[For] ドロップダウンリストで指定された分数の間 Wi-Fi から切断されていれば、訪問者はルールの対象と見なされます。

[Exiting Location] が設定されている既存の [Engagements] または [Location Personas] を編集している場合、[Choose User Activity] ドロップダウンリストが、オプションが選択されていない状態で表示されます。ルールを正常に保存するには、[Choose User Activity] ドロップダウンリストから必要なオプションを選択する必要があります。

デジタル化に関する統計情報

Cisco Spaces ダッシュボードの [Digitization Stats] で、[Square Foot] の値が、[Location Hierarchy] の [Location Info] オプションでネットワークロケーションに設定された総面積を表すようになりました。以前は、[Square Foot] の値は、ロケーションに設定された AP の数に基づいて計算されていました。ただし、[Location Hierarchy] でネットワークロケーションに対して総面積が設定されていない場合、前述のように、[Square Foot] の値は AP に基づいて表示されます。

パートナーダッシュボード：SSO サポート

Cisco Spaces パートナーダッシュボードは、シングルサインオン（SSO）をサポートするようになりました。パートナーダッシュボードアカウントで SSO を有効にする場合は、Cisco Spaces サポートチームにお問い合わせください。

Cisco Spaces の SSO ログインをサポートするために、Cisco Spaces パートナーダッシュボードのログイン画面が刷新されました。[Login] ボタンをクリックすると、[Email] フィールドのみが [Login] ウィンドウに表示され、あわせて [Continue] ボタンが表示されます。ユーザーがパートナーアカウントを持っていて、すでに SSO が有効なドメインにログインしている場合、[Continue] ボタンをクリックすると、ユーザーは [Select Partner] ウィンドウに直接移動します。ユーザーがドメインにログインしていない場合、ログイン認証のために IDP ページにリダイレクトされ、SSO 資格情報を指定してログインできます。

パートナーダッシュボード：OAuth

[Cloud Apps] の場合、Cisco Spaces ダッシュボードが拡張され、[OAuth] 設定がより一般的になり、顧客が定義した OAuth URL の指定がサポートされるようになりました。[App Title] ウィンドウで、[OAuth Base URL] フィールドが 3 つの新しい OAuth URL フィールドに置き換えられ、ログイン、アクセストークン、およびパートナーアプリ情報の URL を個別に指定するようになりました。以前は、ログイン、アクセストークン、パートナーアプリ情報の URL は、このベース URL に基づいて内部的に生成されていました。既存のアプリの場合、3 つの URL フィールドは、ベース OAuth URL に基づいて自動的に入力されます。

[OAuth] チェックボックスが選択されている場合、3 つの OAuth URL フィールドは必須です。

不具合

不具合では、Cisco Spaces アプリケーションでの予期しない動作について説明します。「解決済みの不具合」と「未解決の不具合」では、このリリースの不具合を示します。

各不具合について、次の情報が提供されます。

- 識別子：各不具合には、一意の識別子（ID）が割り当てられます。識別子は CSCxxNNNN というパターンで、*x* は任意の文字（a～z）、*N* は任意の数字（0～9）です。これらの ID は、セキュリティアドバイザリ、フィールド通知、その他のシスコのサポートドキュメントなど、シスコのマニュアルでよく使用されます。Technical Assistance Center（TAC）エンジニアまたはその他のシスコのスタッフからも、特定の不具合の ID が提供されます。
- 説明：不具合が発生したときに観察された内容の説明。

ここでは、次の内容について説明します。

シスコバグ検索ツール

シスコバグ検索ツール (BST) は、シスコ製品とソフトウェアの障害と脆弱性の包括的なリストを管理するシスコバグ追跡システムへのゲートウェイです。BSTは、製品とソフトウェアに関する詳細な障害情報を提供します。

未解決のバグ

表 47: 未解決のバグ

CDETS ID 番号	説明
CSCvq83680	RBAC : 特定の場所しかアクセスできない管理ユーザーは、ダッシュボードにログインできない。
CSCvp57525	ロケーション分析 : 滞留時間の値が小さい場合、滞留時間内訳チャートで滞留時間範囲 % が重複している。
CSCvs79627	Meraki カメラ : ユーザーは非カメラデバイスもインポートできる。
CSCvs97445	ロケーション階層ページでユーザー数が正しく表示されない。
CSCvt29202	デフォルトでは、新しく作成されたアカウントの訪問者数と訪問数がデジタル化統計に表示される。
CSCvt62394	ユーザーは、総面積単位値を選択せずに総面積値を保存することはできない。
CSCvt65983	退席ルールの時間の選択は、各アカウントの業種訪問の終了時間に従って制限する必要があります。

修正されたバグ

表 48: 修正されたバグ

CDETS ID 番号	説明
CSCvs67712	デフォルトでは、別のゲートウェイが設定されていても、最初の SMS ゲートウェイがすべてのルールに表示される。
CSCvs76739	カメラ : meraki カメラページに meraki 認証情報を入力するオプションがない。

CDETS ID 番号	説明
CSCvs37999	マップからのインポート : Mozilla ブラウザでのスクロールの問題により、すべてのフロアを表示できない。
CSCvs67256	CMX トークンの追加中に、「API の追加」呼び出しがキャンセルされ、ページが読み込まれない。
CSCvs90108	SSO が有効なドメインの電子メール ID を使用しているときに、ユーザーはパートナーダッシュボードにログインできない。



第 40 章

2020 年 2 月

- [Cisco Spaces の概要](#) (175 ページ)
- [新機能 : 2020 年 2 月](#) (176 ページ)
- [機能強化 : 2020 年 2 月](#) (176 ページ)
- [Cisco Spaces ランタイム](#) (177 ページ)
- [不具合](#) (177 ページ)

Cisco Spaces の概要

Cisco Spaces は、既存の Wi-Fi インフラストラクチャを活用して実用的な情報を提供し、ビジネスの成果を促進するロケーションプラットフォームです。物理的なビジネス拠点で訪問者をつなぎ、連携できるようにするマルチチャネルエンゲージメントプラットフォームです。小売、製造、サービス業、医療、教育、金融など、さまざまな業種のビジネスを対象としています。Cisco Spaces は、施設内の資産を監視および管理するためのソリューションも提供します。Cisco Spaces は、これらの情報を実行に移すためのさまざまなツールキット、アプリ、および API を提供します。さらに、Cisco Spaces はパートナープログラムを通じて、さまざまな業界向けのさまざまなアプリを提供しています。

このリリースの主な機能は次のとおりです。

- パートナーダッシュボードでは、BLE デバイスの更新を受信するための新しいイベント [BLE Update] が追加されています。
- Instagram によるキャプティブポータル認証に対応しています。
- 異なる色とフォントでコンテンツを表示するように [Access Code] ウィンドウを拡張しました。
- アクセスコードを PDF としてエクスポートできるようになりました。
- 期限切れのアクセスコードを含む複数のアクセスコードを同時に削除できるようになりました。
- 期限切れのアクセスコードの総数を表示するようにプロビジョニングしました。

- 特定の月のすべてのロケーションの統合レポートを表示するため、行動メトリクス小売業分野の新しいチャート、[Retail Experience Grid] を提供するようになりました。
- ネットワークトポロジ API を拡張して、Cisco DNA Center を使用して作成されたネットワーク階層にフロア番号のサポートを提供します。

新機能 : 2020 年 2 月

Cisco Spaces ダッシュボード

Cisco Spaces ダッシュボードに、次の新機能が追加されました。

パートナー ダッシュボード

BLE デバイスの更新を受信するために、新しいイベント [BLE Update] がパートナーダッシュボードの [Events] タブに追加されます。このイベントは、BLE デバイスからのテレメトリの更新があるときにトリガーされます。

機能強化 : 2020 年 2 月

Cisco Spaces ダッシュボード

Cisco Spaces ダッシュボードに次の変更が加えられました。

アクセスコードマネージャ

キャプティブポータルアプリの [Access Code] オプションに次の変更が加えられました。

- アクセスコードウィンドウは、テキストを異なる色とフォントで表示するように拡張されています。
- 複数のアクセスコードを同時に削除できるようになりました。アクセスコードごとにチェックボックスが表示され、一度に複数のアクセスコードを選択して同時に削除することができます。また、期限切れのアクセスコードを削除することもできるようになりました。
- アクセスコードを PDF 形式でエクスポートできるようになりました。[Access Code] ウィンドウの右端に表示される [Export] メニューの下に、新しいオプション [Export as PDF] が表示されます。
- 有効期限が切れたアクセスコードの総数が、[Access Code] ウィンドウの上部に表示されるようになりました。

行動メトリクス

新しいグラフ [Retail Experience Grid] が、[Retail] の行動メトリクスレポートで利用できるようになりました。このグラフは、すべてのロケーションからの月全体の滞在時間と訪問頻度を統合したレポートを示しています。グラフは、ルートロケーションとグループロケーションについてのみ表示されます。滞在時間は X 軸に表示され、訪問頻度は Y 軸に表示されます。

パートナーアプリ：ネットワークトポロジ API

ネットワークトポロジ API が拡張され、Cisco DNA Center を使用して作成されたネットワーク階層にフロア番号のサポートを提供します。ネットワーク階層を作成する場合、Cisco DNA Center はフロア番号をサポートしません。これは Network Topology API に影響を与え、フロア番号はすべてのフロアに対して 1 として返されます。これを解決するために、Network Topology API は、ロケーション階層で設定されたメタデータを使用してフロア番号を上書きするようになりました。

Cisco Spaces ランタイム

Cisco Spaces ランタイムに、次の新機能が追加されました。

Instagram によるキャプティブポータル認証

Cisco Spaces は、キャプティブポータルの認証オプションとして Instagram をサポートするようになりました。顧客獲得時に、顧客は Instagram ログイン情報を使用してキャプティブポータル認証を完了することができます。現在、この機能はダッシュボードでサポートされていません。この機能を利用するには、Cisco Spaces サポートチームに連絡する必要があります。Facebook 開発者アプリを使用して Instagram アプリを作成し、有効な Web サイトの URL を設定する必要があります。次に、キャプティブポータルアプリの [Settings] > [Social Apps] の下にある Cisco Spaces ダッシュボードで Instagram アプリ ID と秘密キーを設定します。

不具合

不具合では、Cisco Spaces アプリケーションでの予期しない動作について説明します。「解決済みの不具合」と「未解決の不具合」では、このリリースの不具合を示します。

各不具合について、次の情報が提供されます。

- 識別子：各不具合には、一意の識別子 (ID) が割り当てられます。識別子は CSCxxNNNNN というパターンで、x は任意の文字 (a ~ z)、N は任意の数字 (0 ~ 9) です。これらの ID は、セキュリティアドバイザリ、フィールド通知、その他のシスコのサポートドキュメントなど、シスコのマニュアルでよく使用されます。Technical Assistance Center (TAC) エンジニアまたはその他のシスコのスタッフからも、特定の不具合の ID が提供されます。
- 説明：不具合が発生したときに観察された内容の説明。

ここでは、次の内容について説明します。

シスコバグ検索ツール

シスコバグ検索ツール (BST) は、シスコ製品とソフトウェアの障害と脆弱性の包括的なリストを管理するシスコバグ追跡システムへのゲートウェイです。BSTは、製品とソフトウェアに関する詳細な障害情報を提供します。

未解決のバグ

表 49: 未解決のバグ

CDETS ID 番号	説明
CSCvq83680	RBAC：特定の場所しかアクセスできない管理ユーザーは、ダッシュボードにログインできない。
CSCvp57525	ロケーション分析：滞留時間の値が小さい場合、滞留時間内訳チャートで滞留時間範囲 % が重複している。
CSCvs79627	Meraki カメラ：ユーザーは非カメラデバイスもインポートできる。
CSCvs76739	カメラ：meraki カメラページに meraki 認証情報を入力するオプションがない。
CSCvs90108	SSO が有効なドメインの電子メール ID を使用しているときに、ユーザーはパートナーダッシュボードにログインできない。
CSCvs97445	ロケーション階層ページでユーザー数が正しく表示されない。
CSCvs67256	CMX トークンの追加中に、「API の追加」呼び出しがキャンセルされ、ページが読み込まれない。

修正されたバグ

表 50: 修正されたバグ

CDETS ID 番号	説明
CSCvs08343	ホットスポットで設定されたコネクタが削除されても、関連するホットスポットは削除されない。
CSCvs69816	CMX テザリング：フロアが削除されると、フロアアクセスポイントがビルディング（ネットワーク）に移動。
CSCvs86351	キャプティブポータル編集ページ：電子メール認証モジュールに不要な「アクセスコード」テキストが表示される。

CDETS ID 番号	説明
CSCvs75816	フロアを削除して再度追加すると、フロアマップがロケーション階層に表示されない。



第 41 章

2020 年 1 月

- [Cisco Spaces の概要](#) (181 ページ)
- [新機能 : 2020 年 1 月](#) (182 ページ)
- [機能強化 : 2020 年 1 月](#) (183 ページ)
- [Cisco Spaces ランタイム](#) (184 ページ)
- [不具合](#) (184 ページ)

Cisco Spaces の概要

Cisco Spaces は、既存の Wi-Fi インフラストラクチャを活用して実用的な情報を提供し、ビジネスの成果を促進するロケーションプラットフォームです。物理的なビジネス拠点で訪問者をつなぎ、連携できるようにするマルチチャネルエンゲージメントプラットフォームです。小売、製造、サービス業、医療、教育、金融など、さまざまな業種のビジネスを対象としています。Cisco Spaces は、施設内の資産を監視および管理するためのソリューションも提供します。Cisco Spaces は、これらの情報を実行に移すためのさまざまなツールキット、アプリ、および API を提供します。さらに、Cisco Spaces はパートナープログラムを通じて、さまざまな業界向けのさまざまなアプリを提供しています。

このリリースの主な機能は次のとおりです。

- Cisco Spaces コネクタでは Cisco 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラに対応するようになりました。
- Cisco Spaces ダッシュボードで、今後の Cisco Edge Device Manager アプリの設定を行うための新しいオプション [View Stream Auth Key] が追加されました。
- キャプティブポータルアプリで、キャプティブポータルの認証タイプとして [Access Code] が追加できるようになりました。
- キャプティブポータルアプリ上のデータキャプチャフォームに生年月日が追加できるようになりました。
- パートナーアプリでは、Cisco Meraki ネットワークの Firehose API のイベント [Device_Locate_Update] に新しいパラメータの [uncertainty] が追加されました。

- パートナーアプリでは、クライアント IP がネットワーク全体で一意的の場合に動作するように Device LookUp API が機能強化されました。
- サンプルレポートと新しいイベント期間オプションを表示するように Impact Analysis アプリを機能強化しました。
- キャプティブポータル（ランタイム）ではアクセスコード認証に対応するようになりました。

新機能 : 2020 年 1 月

Cisco Spaces ダッシュボード

Cisco Spaces ダッシュボードに、次の新機能が追加されました。

Cisco Spaces コネクタに対する Cisco Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラのサポート

Cisco Spaces コネクタは、Cisco Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラをサポートするようになりました。Cisco Spaces ダッシュボードを使用して、Cisco Spaces コネクタ用の Cisco Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラを設定できます。Cisco Spaces ダッシュボードで Cisco Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラを設定するには、**[Setup] > [Wireless Networks]**の下の **[Connect via Spaces Connector]** ウィジェットで、**[Add Controller]** ウィンドウの **[Controller Type]** ドロップダウンリストで新しいオプション **[Catalyst WLC]** を選択できるようになりました。

ストリーム認証キーを表示

Cisco Spaces ダッシュボードでは、新しいオプション **[View Stream Auth Key]** オプションを使用して、AP と Cisco Spaces 間の BLE および ZigBee データストリームを次のアプリ **[End Device Manager]** で使用できるようになりました。**[Connect via Spaces Connector]** ウィジェットで **[View Connectors]** をクリックすると、コネクタの右端のメニューに **[View Stream Auth Key]** が表示されます。**[End Device Manager]** は開発中であり、現在利用できないため、この機能へのアクセスは制限されています。

キャプティブポータル

キャプティブポータルアプリで **[Create New]** をクリックすると表示されるキャプティブポータルウィザードに次の変更が加えられました。

- **[Authentication]** ウィンドウの **[SELECT THE AUTHENTICATION TYPE]** ドロップダウンリストで、**[Access Code]** を使用したキャプティブポータルの認証をサポートする新しいオプションの **[Access Code]** が利用できるようになりました。アクセスコード認証は **[Inline authentication]** をサポートしており、ユーザーはメッセージの受信を選択できます。
- **[Data Capture]** ウィンドウの **[Add Field Element]** で、新しいオプション **[Date of Birth]** を使用して、**[Data Capture]** フォームに **[Date of Birth]** フィールドを含めることができるように

なりました。[Date of Birth] フィールドを追加すると、[User Agreements] ウィンドウの [Enable Age Gating] エリアで [Moderate] オプションを選択できなくなります。

パートナーアプリ

- [FireHose API] : [DEVICE_LOCATION_UPDATE] イベントの場合、イベントの一部である [unc] 値をキャプチャするための新しいパラメータ [uncertainty] が追加されました。この拡張機能は Cisco Meraki 向けです。[unc] 値は、Meraki AP からのデバイスの距離を示します。この値は平方フィートに変換され、変換された値は [uncertainty] パラメータとして渡されます。また、[AP Topology] イベントが拡張され、AP のないフロアがエラーメッセージリストに表示されるようになりました。
- [Device Lookup API] : Device LookUp API が拡張され、clientIP がネットワーク全体で一意的に機能するようになりました。このような場合、顧客はリクエストで remoteIP を指定する必要も、メタデータでネットワークの remoteIP を設定する必要もありません。Device LookUP は、提供された {remoteIP + clientIP} に関連付けられたデバイスが見つからない場合にも、clientIP 固有の LookUp にフォールバックします。

機能強化 : 2020 年 1 月

Cisco Spaces ダッシュボード

Cisco Spaces ダッシュボードに次の変更が加えられました。

影響分析

Impact Analysis アプリに次の変更が加えられました

- [Measure Impact] ウィンドウで、[Choose the event period that you like to measure] 領域から [Same Period Last Year] オプションが削除されました。また、[Daily Average during Past 365 days] オプションの名前を [Period DURING Event] に変更しました。
- エリアを測定するイベント期間を選択する場合、[Choose the event period that you like to measure] に新しいオプション [Period AFTER Event] が追加されました。このオプションを使用すると、イベント期間として日付範囲を指定できます。このオプションの場合、[Impact Analysis] レポートは、「日付範囲が指定される前の同じ期間のデータ」と「日付範囲が指定された後の同じ期間のデータ」を比較するグラフを表示します。たとえば、日付範囲を 2020 年 1 月 1 日から 2020 年 1 月 10 日 (10 日間) に指定する場合、[Impact Analysis] レポートには、2019 年 12 月 22 日から 2019 年 12 月 31 日までの期間 (10 日) のデータと 2020 年 1 月 10 日から 2020 年 1 月 19 日までの期間 (10 日) のデータを含む棒グラフが表示されます。ロケーションの合計数もグラフの下部に表示されます。
- イベントがない場合、または特定の Cisco Spaces アカウントのデータがない場合は、サンプルレポートが表示されます。データが存在する場合は、[Create an Event] ボタンが表示されます。イベントに指定された日付範囲のデータがない場合は、「選択した期間のデー

タがありません」というメッセージが表示されます。将来の日付でイベントを作成すると、「このイベントはまだ完了していません」というメッセージが表示されます。

- 複数のイベントを一度に削除できるようになりました。複数のイベントを選択すると、ウィンドウの下部に [Delete] ボタンが表示されます。

Cisco Spaces ランタイム

Cisco Spaces ランタイムに次の変更が加えられました。

アクセスコードベースの認証サポート

電子メール、SMS、およびソーシャル認証に加えて、Cisco Spaces ランタイムは、アクセスコードを使用したキャプティブポータル認証をサポートするようになりました。キャプティブポータルがアクセスコード認証で設定されている場合、ユーザーはアクセスコードを入力するように UI でプロンプトされます。有効なアクセスコードを入力すると、ユーザーにインターネットが提供されます。

キャプティブポータルアプリのメニューにある [Access Code] を使用して、アクセスコードを生成し、ユーザーと共有できます。

不具合

不具合では、Cisco Spaces アプリケーションでの予期しない動作について説明します。「解決済みの不具合」と「未解決の不具合」では、このリリースの不具合を示します。

各不具合について、次の情報が提供されます。

- 識別子：各不具合には、一意の識別子 (ID) が割り当てられます。識別子は CSCxxNNNN というパターンで、*x* は任意の文字 (a ~ z)、*N* は任意の数字 (0 ~ 9) です。これらの ID は、セキュリティアドバイザリ、フィールド通知、その他のシスコのサポートドキュメントなど、シスコのマニュアルでよく使用されます。Technical Assistance Center (TAC) エンジニアまたはその他のシスコのスタッフからも、特定の不具合の ID が提供されます。
- 説明：不具合が発生したときに観察された内容の説明。

ここでは、次の内容について説明します。

シスコバグ検索ツール

シスコバグ検索ツール (BST) は、シスコ製品とソフトウェアの障害と脆弱性の包括的なリストを管理するシスコバグ追跡システムへのゲートウェイです。BST は、製品とソフトウェアに関する詳細な障害情報を提供します。

未解決のバグ

表 51: 未解決のバグ

CDETS ID 番号	説明
CSCvq83680	RBAC : 特定のロケーションにアクセスできる管理ユーザーは、ダッシュボードにログインできない。
CSCvp57525	ロケーション分析 : 滞留時間の値が小さい場合、滞留時間内訳チャートで滞留時間範囲 % が重複している
CSCvs08343	ホットスポットで設定されたコネクタが削除されても、関連するホットスポットは削除されない。
CSCvs15189	SSOユーザー (A単独) : 重複した「キャプティブポータル」アプリがアプリのドロップダウンボタンに表示される。
CSCvs75816	Map : フロアを再度削除および追加すると、マップはロケーション階層にインポートされない。
CSCvs48740	Map Service : 他の顧客のマップサービスに反映された最後のログインアカウント mapservices データ。
CSCvs79627	Meraki カメラ : ユーザーは非カメラデバイスもインポートできる。
CSCvs76739	カメラ : Meraki カメラページで Meraki 認証情報を提供できない。
CSCvs90108	SSO が有効なドメインの電子メール ID を使用しているときに、ユーザーはパートナーダッシュボードにログインできない。
CSCvs34730	SSO : SSOユーザーがパスワードをリセットしようとした場合、適切なエラーメッセージが表示されない。

修正されたバグ

表 52: 修正されたバグ

CDETS ID 番号	説明
CSCvs34747	SSO : ダッシュボードアカウント選択ページにログインできない
CSCvs34610	SSO : SSO リリースの一環として、任意の電子メールアドレスの自動有効化が行われる
CSCvs15469	招待の再送信機能は、SSO ユーザーのライブから削除された。

CDETS ID 番号	説明
CSCvs25540	Meraki カメラ : AP を含むカメラの詳細は、ロケーションの詳細ページに表示されない。



第 **V** 部

2019 年

- 2019 年 12 月 (189 ページ)
- 2019 年 11 月 (195 ページ)
- 2019 年 10 月 (201 ページ)
- 2019 年 9 月 (207 ページ)
- 2019 年 8 月 (213 ページ)
- 2019 年 7 月 (219 ページ)
- 1.4 (225 ページ)
- 1.3 (235 ページ)
- 1.2 (239 ページ)
- 1.1 (245 ページ)
- 1.0 (253 ページ)



第 42 章

2019 年 12 月

- [Cisco Spaces の概要](#) (189 ページ)
- [新機能 : 2019 年 12 月](#) (190 ページ)
- [機能強化 : 2019 年 12 月](#) (191 ページ)
- [不具合](#) (192 ページ)

Cisco Spaces の概要

Cisco Spaces は、既存の Wi-Fi インフラストラクチャを活用して実用的な情報を提供し、ビジネスの成果を促進するロケーションプラットフォームです。物理的なビジネス拠点で訪問者をつなぎ、連携できるようにするマルチチャネルエンゲージメントプラットフォームです。小売、製造、サービス業、医療、教育、金融など、さまざまな業種のビジネスを対象としています。Cisco Spaces は、施設内の資産を監視および管理するためのソリューションも提供します。Cisco Spaces は、これらの情報を実行に移すためのさまざまなツールキット、アプリ、および API を提供します。

このリリースの主な機能は次のとおりです。

- Cisco Spaces のシングルサインオン (SSO)。
- OpenRoaming アプリの場合、Cisco Spaces ダッシュボードから Cisco Spaces コネクタのホットスポットを追加できるようになりました。
- Cisco Spaces ダッシュボードで OpenRoaming アプリに必要なワイヤレスコントローラ設定を表示できるようにプロビジョニングしました。
- Cisco Spaces パートナーダッシュボードで、アプリごとに発生したアクティベーションの総数を表示できるようにプロビジョニングしました。
- パートナーにリアルタイムのアプリ アクティベーション エクスペリエンスを提供するために、Cisco Spaces パートナーダッシュボードの App Activation ウィザードが Cisco Spaces と同じになるように更新されました。
- Cisco Meraki のカメラを Cisco Spaces と同期するようにネットワーク同期サーバーを強化しました。

- Cisco Spaces パートナー管理ダッシュボードを介してパートナーアプリのステータスを追加し、それによって Cisco Spaces に表示されるパートナーアプリを制御します。

新機能 : 2019 年 12 月

Cisco Spaces ダッシュボード

Cisco Spaces ダッシュボードに、次の新機能が追加されました。

SSO サポートのためのログインウィンドウの変更

Cisco Spaces はシングルサインオン (SSO) をサポートするようになり、ユーザーは SSO ログイン情報を使用して Cisco Spaces にログインできるようになりました。たとえば、シスコのドメインで SSO が有効になっている場合、Cisco Spaces アカウントを持つシスコの従業員は、シスコの電子メールアドレスとパスワードを使用して Cisco Spaces にアクセスできます。シスコの従業員が特定の Web サイトまたはアプリケーションからシスコドメインにすでにログインしている場合、そのシスコの従業員は、シスコの電子メールアドレスを指定するだけで Cisco Spaces にアクセスできます。

Cisco Spaces の SSO ログインをサポートするために、Cisco Spaces のログイン画面が刷新されました。これで、[Login] ボタンをクリックすると、電子メール ID フィールドのみが [Log In] ウィンドウに [Continue] ボタンとともに表示されます。ユーザーがすでに SSO が有効なドメインにログインしている場合、[Continue] ボタンをクリックすると直接 Cisco Spaces ダッシュボードに移動します。特定の Cisco Spaces アカウントが複数の顧客名をサポートしている場合は、[Select Customer] ウィンドウが表示されます。ユーザーがドメインにログインしていない場合、ログイン認証のために IDP ページにリダイレクトされ、SSO 資格情報を指定してログインできます。

Hotspot OpenRoaming

OpenRoaming アプリでは、次のダッシュボードサポートが追加されています。

- [Add Hotspot for Connector] : Cisco Spaces ダッシュボードから Cisco Spaces コネクタのホットスポットを追加できるようになりました。[Setup] > [Wireless Networks] の下の [Connect via Spaces Connector] ウィジェットでは、新しいオプション [Add OpenRoaming] がステップ 2 で利用可能になり、これを使用してホットスポットを設定できます。
- [Controller Configurations] : OpenRoaming アプリを使用するためにワイヤレスコントローラで実行する設定が、Cisco Spaces ダッシュボードに表示されるようになりました。[Setup] > [Wireless Networks] の下の [Connect via Spaces Connector] ウィジェットでは、ステップ 2 で新しいオプション [OpenRoaming Controller Configuration] を使用して構成を表示できます。Cisco AireOS と Cisco Catalyst 9800 シリーズの両方に必要な設定は、個別に表示できます。

パートナーダッシュボード

Cisco Spaces パートナーダッシュボードに、次の新機能が追加されました。

- [Activation Count for Apps] : パートナーダッシュボードでは、アプリごとに、そのアプリで発生したアクティベーションの総数が表示されるようになりました。アプリのアクティベーションの数を表示するには、パートナーダッシュボードで、そのアプリの [Activation] リンクをクリックします。
- [Partner App Activation Flow] : パートナーダッシュボードでは、アプリのアクティベーションフローが Cisco Spaces の場合と同様になりました。したがって、Cisco Spaces ダッシュボードと Cisco Spaces パートナーダッシュボードに表示されるアプリ アクティベーションウィザードは同じです。これにより、アプリのテスト中にパートナーにリアルタイムのアクティベーションエクスペリエンスが提供されます。

ネットワーク同期サーバー

Cisco Spaces ネットワーク同期サーバーは、Cisco Meraki Camera の同期をサポートするように機能強化されました。Cisco Meraki に追加または削除されたカメラは、Cisco Spaces で自動的に同期されます。Cisco Meraki フロアに配置されたカメラは、Cisco Spaces のフロアに移動されません。ネットワークのロケーションにのみ保持されます。

機能強化 : 2019 年 12 月

Cisco Spaces ダッシュボード

Cisco Spaces ダッシュボードに次の変更が加えられました。

パートナー管理ダッシュボード

Cisco Spaces パートナー管理ダッシュボードは、パートナーアプリのステータスを制御するように機能強化されています。パートナーアプリは、次のいずれかのステータスになります。

- LIVE
- APPROVED
- UNDER-REVIEW-COMING-SOON
- UNDER-REVIEW
- NEW

ステータスが LIVE、APPROVED、または UNDER-REVIEW-COMING-SOON のアプリのみが Cisco Spaces ダッシュボードに表示されます。

アプリのステータスは、Cisco Spaces パートナー管理ダッシュボードを使用して、Cisco Spaces サポートチームによって設定されます。パートナーは、各アプリに割り当てるステータスを

Cisco Spaces サポートチームに通知し、ステータスの変更が必要になったときに更新する必要があります。

不具合

不具合では、Cisco Spaces アプリケーションでの予期しない動作について説明します。「解決済みの不具合」と「未解決の不具合」では、このリリースの不具合を示します。

各不具合について、次の情報が提供されます。

- 識別子：各不具合には、一意の識別子 (ID) が割り当てられます。識別子は CSCxxNNNNN というパターンで、*x* は任意の文字 (a ~ z)、*N* は任意の数字 (0 ~ 9) です。これらの ID は、セキュリティアドバイザリ、フィールド通知、その他のシスコのサポートドキュメントなど、シスコのマニュアルでよく使用されます。Technical Assistance Center (TAC) エンジニアまたはその他のシスコのスタッフからも、特定の不具合の ID が提供されます。
- 説明：不具合が発生したときに観察された内容の説明。

ここでは、次の内容について説明します。

シスコバグ検索ツール

シスコバグ検索ツール (BST) は、シスコ製品とソフトウェアの障害と脆弱性の包括的なリストを管理するシスコバグ追跡システムへのゲートウェイです。BST は、製品とソフトウェアに関する詳細な障害情報を提供します。

未解決のバグ

表 53: 未解決のバグ

CDETS ID 番号	説明
CSCvq83680	RBAC：特定の場所にアクセスできる管理ユーザーは、ダッシュボードにログインできない。
CSCvq24076	Right Now：ロケーション階層を変更すると、既存の関連するカウンタがクリアされない。
CSCvp57525	ロケーション分析：滞留時間の値が小さい場合、滞留時間内訳チャートで滞留時間範囲 % が重複している
CSCvs34747	SSO：ダッシュボードアカウント選択ページにログインできない
CSCvs34730	SSO：SSO ユーザーがパスワードをリセットしようとした場合、適切なエラーメッセージが表示されない

CDETS ID 番号	説明
CSCvs34610	SSO : SSO リリースの一環として、任意の電子メールアドレスの自動有効化が行われる
CSCvs15469	招待の再送信機能は、SSO ユーザーのライブから削除された。
CSCvs08343	SSO : いったん追加されたホットスポットは削除できないか、コネクタが削除されても削除されない。
CSCvs15189	SSO ユーザー (A 単独) : 重複した「キャプティブポータル」アプリがアプリのドロップダウンボタンに表示される。
CSCvs25540	Meraki カメラ : AP を含むカメラの詳細は、ロケーションの詳細ページに表示されない。

修正されたバグ

表 54: 修正されたバグ

CDETS ID 番号	説明
CSCvs10018	現在のセッションが見つかりません。ライブダッシュボードに表示されるエラーを再度ログインしてください。
CSCvs05071	Meraki API キー : Meraki の認証後、ワイヤレスネットワークのステータスが接続済みとして表示されなかった。
CSCvr99306	エンゲージメントルール リンク テンプレートは、リンクに対して利用可能な検証がない。プレーンテキストも受け入れる。
CSCvr99286	既存のポータル名のエラーメッセージを使用してポータル名の名前を変更することは正しくない。
CSCvr93655	CMX テザリング : 1 つのフロアのみが追加され、残りはすべてクリアされ、インポートされない。
CSCvr89015	アクティベーション中に間違ったパスワードを入力すると、アクティベーションページがロードされ続ける。
CSCvr88647	すべてのロケーション : 同じ拠点の名前を変更しても、検証メッセージは表示されない。
CSCvr88600	名前変更テキストボックスに表示されている html タグを検索して名前を変更する。
CSCvs36774	Forgot : ユーザーがキャメルケースでメール ID を提供した場合、ユーザーはパスワードをリセットできない。

CDETS ID 番号	説明
CSCvs17068	SSID : ネットワーク名がスペースで始まる場合、Meraki の SSID を削除できない。
CSCvr95954	[captive portal] タイルをクリックすると、ポータルリストページのロード中に数秒間空白のページが表示された。



第 43 章

2019 年 11 月

- [Cisco Spaces の概要](#) (195 ページ)
- [新機能 : 2019 年 11 月](#) (196 ページ)
- [機能強化 : 2019 年 11 月](#) (198 ページ)
- [不具合](#) (199 ページ)

Cisco Spaces の概要

Cisco Spaces は、既存の Wi-Fi インフラストラクチャを活用して実用的な情報を提供し、ビジネスの成果を促進するロケーションプラットフォームです。物理的なビジネス拠点で訪問者をつなぎ、連携できるようにするマルチチャネルエンゲージメントプラットフォームです。小売、製造、サービス業、医療、教育、金融など、さまざまな業種のビジネスを対象としています。Cisco Spaces は、施設内の資産を監視および管理するためのソリューションも提供します。Cisco Spaces は、これらの情報を実行に移すためのさまざまなツールキット、アプリ、および API を提供します。

このリリースの主な機能は次のとおりです。

- 分析の前後に基づいてイベントの影響を測定する新しいアプリの [Impact Analysis]。
- [Monitoring & Support] セクションに、すべてのパートナーアプリの正常性と稼働時間が表示されるようになりました。
- パートナーダッシュボードが拡張され、アクティベーションウィザードの最初のウィンドウとして [Sign up and Onboarding] ウィンドウが表示されるようになりました。
- アクティベーションウィザードからアプリの利用規約をダウンロードするようにプロビジョニングしました。
- パートナーダッシュボードに 2 つの新しい Firehose API イベントを追加し、2 つの既存のイベントを廃止しました。
- サインアップ URL を追加するためのパートナーダッシュボードの新しいテキストフィールドが追加されました。

- パートナーダッシュボードにパートナーのアプリアクティベーションの総数が表示されるようになりました。
- Meraki API キーを使用して接続した場合、Meraki フロアのネットワーク同期サポートが提供されるようになりました。
- 行動メトリクスでは、「ロケーション」と「訪問者」を表示する代わりに、副業種固有の用語が表示されるようになりました。
- [Trigger API] の [Engagement Rule] にカスタム変数を追加するサポートを有効にしました。
- パートナーダッシュボードで、OAuth ベース URL フィールドの検証を有効にし、URL に https プロトコルのみを含めるように注記を追加しました。

新機能 : 2019 年 11 月

Cisco Spaces ダッシュボード

Cisco Spaces ダッシュボードに、次の新機能が追加されました。

影響分析

新しいアプリ [Impact Analysis] を Cisco Spaces ダッシュボードで利用できるようになりました。影響分析は、行ったアクションの効果を分析の前後に基づいて測定する方法です。ビジネス拠点に対するイベントや変更が行動メトリクスに与える影響を確認できます。

これは、特定の期間中のロケーションの指標を分析し、過去 365 日間の日次平均または前年と同じ期間と比較するのに役立ちます。このアプリは、SEE、ACT、および Extend ライセンスタイプで利用できます。

特定の期間のイベントを作成し、イベント期間中のメトリクスを次のメトリクスと比較できます。

- 過去 365 日間の 1 日の平均
- 昨年同時期。

次の指標を比較できます。

- 滞在時間
- 訪問回数

レポートに比較レポートが表示されます。レポートには次のデータが含まれます。

- **訪問時間への影響** : イベントの平均訪問時間と、選択した時間枠の平均訪問時間を分単位で示す棒グラフを表示します。

- [Impact on Visit Count] : イベントの平均訪問回数と、選択した時間枠の平均訪問回数をパーセンテージで示す棒グラフを表示します。

たとえば、[From] を 2019 年 10 月 1 日、[To] を 2019 年 10 月 10 日、ビジネス拠点を B としてイベントを定義できます。比較するには、[Same period last year] を選択します。2019 年 10 月 1 日と 10 日のロケーション B でのパフォーマンスと、2018 年 10 月 1 日と 10 日のロケーション B でのパフォーマンスを示すレポートを取得します。

モニタリングとサポート

[Monitoring & Support] セクションには、顧客がアクティブ化したパートナーアプリの状態が表示されるようになりました。[Monitoring] タブの新しいセクションで、顧客がアクティブ化したすべてのアプリの稼働時間と正常性ステータスを表示する [Partner Apps] を使用できるようになりました。パートナーアプリのステータス概要は、[Summary] セクションに表示されます。

アプリのアクティベーションフロー

パートナーアプリの場合、[App Activation] ウィザードの最初のウィンドウが [Sign up and Onboarding] になります。

[Sign up and Onboarding] ウィンドウで、「<partner name> のアカウントを持っていません」を選択した場合、アカウントにサインアップしたい」というメッセージが表示されると、ウィンドウに [Sign Up] ボタンが表示されます。[Sign Up] ボタンは、パートナーダッシュボードでアプリ用に設定されたサインアップ URL にリダイレクトされます。[Sign Up] ボタンは、パートナーがパートナーダッシュボードの [App Title] タブで [Sign Up URL] フィールドを構成している場合にのみ表示されます。

アプリのアクティベーション条件

パートナーアプリの場合、アクティベーション ウィザードの [Accept Terms & Conditions] ウィンドウに、利用規約をダウンロードするためのリンクが表示されます。利用規約をテキスト形式でダウンロードできます。

パートナーダッシュボード

Cisco Spaces パートナーダッシュボードに、次の新機能が追加されました。

- [Event Types] : 2 つの新しい Fire Hose API イベント、[Device Presence] と [User Presence] がパートナーアプリ用に新たに追加されました。[Device Active] および [Device Passive] イベントは廃止されました。
- [Sign Up URL] フィールド : アプリの [App Title] タブに新しいフィールド [Sign Up URL] が追加され、アクティベーション中に [Sign Up] ボタンをクリックした後に顧客がリダイレクトされる URL を指定します。
- [Total Count of Activated Apps] : パートナーがパートナーダッシュボードにログインすると、特定のパートナーのすべてのアプリで発生したアクティブ化の総数がダッシュボードの右上に表示されます。

ネットワーク同期サーバー

Cisco Spaces が Meraki API キーを使用して Meraki ネットワークに接続されている場合、ネットワーク同期サーバーは、Meraki フロアの同期をサポートするようになりました。したがって、フロアはロケーション階層にインポートされ、ネットワーク同期サーバーによって Cisco Meraki と同期されます。以前は、Meraki API キーを使用して接続すると、フロアがインポートされず、同期が行われませんでした。

機能強化：2019 年 11 月

Cisco Spaces ダッシュボード

Cisco Spaces ダッシュボードに次の変更が加えられました。

行動メトリクス

行動メトリクスレポートでは、小売業の場合、説明に記載されている訪問者とロケーションに関する用語は、ビジネスの副業種に基づいて変更できます。さまざまなサブカテゴリの推奨テキストは、次の表のとおりです。

表 55: さまざまな副業種のテキスト

テキスト	レストラン	ジム	博物館	クラブ	カジノ	金融リテール	自動車ディーラー	デフォルト/その他すべて
ビジター	ダイナー	メンバー	ビジター	メンバー	ゲーマー	カスタマー	カスタマー	ビジター
ロケーション	レストラン	ジム	博物館	クラブ	カジノ	支店	ディーラー	ロケーション

ただし、提案された副業種用語は、リクエストベースでのみ使用されます。この機能を利用したい場合は、Cisco Spaces サポートチームにお問い合わせください。

トリガー API のカスタム変数サポート

[Engagements] ルールでは、Trigger API のメソッド、GET、POST FORM、POST BODY、および POST JSON のカスタム変数を定義できるようになりました。メソッドの変数フィールドをクリックすると、事前定義された変数とともに [Custom Variable] ボタンが表示されます。POST BODY メソッドの場合、現在、POST BODY DATA フィールドのカスタム変数サポートはありませんが、今後のリリースでサポートされる予定です。一方、URI フィールドにはカスタム変数のサポートがありません。

アプリダッシュボード URL の検証

パートナーダッシュボードのアプリの [App Title] タブで、URL に https プロトコルのみを含めるように求めるメモが [OAuth Base URL] フィールドに追加されます。さらに、パートナーダッシュボードは、保存中にこの URL を検証し、検証に失敗した場合、または URL が安全でない場合 (HTTPS)、エラーメッセージを表示するように拡張されています。

不具合

不具合では、Cisco Spaces アプリケーションでの予期しない動作について説明します。「解決済みの不具合」と「未解決の不具合」では、このリリースの不具合を示します。

各不具合について、次の情報が提供されます。

- 識別子：各不具合には、一意の識別子 (ID) が割り当てられます。識別子は CSCxxNNNNN というパターンで、*x* は任意の文字 (a ~ z)、*N* は任意の数字 (0 ~ 9) です。これらの ID は、セキュリティアドバイザー、フィールド通知、その他のシスコのサポートドキュメントなど、シスコのマニュアルでよく使用されます。Technical Assistance Center (TAC) エンジニアまたはその他のシスコのスタッフからも、特定の不具合の ID が提供されます。
- 説明：不具合が発生したときに観察された内容の説明。

ここでは、次の内容について説明します。

シスコバグ検索ツール

[シスコバグ検索ツール](#) (BST) は、シスコ製品とソフトウェアの障害と脆弱性の包括的なリストを管理するシスコバグ追跡システムへのゲートウェイです。BST は、製品とソフトウェアに関する詳細な障害情報を提供します。

未解決のバグ

表 56: 未解決のバグ

CDETS ID 番号	説明
CSCvq83680	RBAC：特定の場所にアクセスできる管理ユーザーは、ダッシュボードにログインできない。
CSCvq24076	Right Now：ロケーション階層を変更すると、既存の関連するカウンタがクリアされない。
CSCvp57525	ロケーション分析：滞留時間の値が小さい場合、滞留時間内訳チャートで滞留時間範囲 % が重複している
CSCvr99306	エンゲージメントルールリンク テンプレートは、リンクに対して利用可能な検証がない。プレーンテキストも受け入れる。

CDETS ID 番号	説明
CSCvr99286	既存のポータル名のエラーメッセージを使用してポータル名の名前を変更することは正しくない。
CSCvr89015	アクティベーション中に間違ったパスワードを入力すると、アクティベーションページがロードされ続ける。
CSCvr88600	名前変更テキストボックスに表示されている html タグを検索して名前を変更する。
CSCvr95954	[captive portal] タイルをクリックすると、ポータルリストページのロード中に数秒間空白のページが表示された。
CSCvs17068	SSID : ネットワーク名がスペースで始まる場合、Meraki の SSID を削除できない。

修正されたバグ

表 57: 修正されたバグ

CDETS ID 番号	説明
CSCvs06204	Cisco Spaces レポートの日付/日が間違っている。
CSCvr21932	RBAC : V3 SNMP バージョンを使用してコントローラを作成できない (コントローラの作成に失敗)
CSCvs10018	現在のセッションが見つかりません。ライブダッシュボードに表示されるエラーを再度ログインしてください。
CSCvs05071	Meraki API キー : Meraki の認証後、ワイヤレスネットワークのステータスが接続済みとして表示されなかった。
CSCvr93655	CMX テザリング : 1 つのフロアのみが追加され、残りはすべてクリアされ、インポートされない
CSCvr88647	すべてのロケーション : 同じ拠点の名前を変更しても、検証メッセージは表示されない。
CSCvr95920	ルール : ユーザーが「インターネットをシームレスにプロビジョニング」オプションを選択した場合、成功メッセージは表示されない。



第 44 章

2019 年 10 月

- [Cisco Spaces の概要](#) (201 ページ)
- [新機能 : 2019 年 10 月](#) (202 ページ)
- [機能強化 : 2019 年 10 月](#) (203 ページ)
- [不具合](#) (203 ページ)

Cisco Spaces の概要

Cisco Spaces は、既存の Wi-Fi インフラストラクチャを活用して実用的な情報を提供し、ビジネスの成果を促進するロケーションプラットフォームです。物理的なビジネス拠点で訪問者をつなぎ、連携できるようにするマルチチャネルエンゲージメントプラットフォームです。小売、製造、サービス業、医療、教育、金融など、さまざまな業種のビジネスを対象としています。Cisco Spaces は、施設内の資産を監視および管理するためのソリューションも提供します。Cisco Spaces は、これらの情報を実行に移すためのさまざまなツールキット、アプリ、および API を提供します。

このリリースの主な機能は次のとおりです。

- Cisco Spaces ダッシュボードメニューはデフォルトで折りたたまれています。
- ソーシャル認証 (ランタイム) を介してのすべての公開ユーザー情報の取得に対応しています。
- 行動メトリクスで、ワークスペース分野の指標計算が強化され、より正確な従業員数と訪問者数が表示されるようになりました。
- Cisco Spaces サポートへのリンクを含む新しいサポートアイコンが Cisco Spaces ダッシュボードに追加され、既存のチャットオプションが削除されました。
- パートナーアプリが Cisco Spaces ダッシュボードで利用できるようになりました。
- パートナーアプリの [Client ID] フィールドが強化され、パートナーが編集できるようになりました。

新機能 : 2019 年 10 月

Cisco Spaces ダッシュボード

Cisco Spaces ダッシュボードに、次の新機能が追加されました。

ダッシュボード表示の変更

Cisco Spaces ダッシュボードは、ユーザーが選択した場合にのみメニューを表示するように変更されています。ログイン後、ダッシュボードにはデジタル化ステータスとアプリを含む単一のペインが表示されるようになりました。Cisco Spaces ダッシュボードの左上に3行のメニューアイコンが表示され、これを使用して Cisco Spaces メニューにアクセスできます。メニュー項目を選択すると、メニューが非表示になり、選択したメニュー項目に対応するウィンドウのみが表示されます。以前は、メニューは常にダッシュボードの左側の別のペインに表示されていました。

パートナーアプリ

Cisco Spaces パートナーダッシュボードと統合されたパートナーアプリは、Cisco Spaces ダッシュボードで利用できるようになりました。アプリは、[Extend] というタイトルで利用可能な [Extended Partner Apps] からアクセスできます。アプリは、内部で割り当てられたオーダー ID に基づいて表示されます。アプリを所有するパートナーの承認を得て、アプリをダウンロードして使用することができます。

Cisco Spaces Support アイコン

Cisco Spaces のドキュメントとサポートへのリンクを提供する新しい [Cisco Spaces ダッシュボード Support] アイコンが、Cisco Spaces ダッシュボードの右上に表示されるようになりました。このアイコンをクリックすると、次のメニュー項目が表示されます。

- [Help Center] : Cisco Spaces の記事へのリンク。
- [Documentation] : cisco.com の Cisco Spaces ドキュメントへのリンク。
- [Support] : Cisco Spaces サポートページへのリンク。このサポートページには、Cisco Spaces サポートチームに連絡するための電話番号と電子メールアドレスが含まれています。また、TAC チケットを提出する規定もあります。

Cisco Spaces ダッシュボードの右下に表示されていたチャットアイコンが削除されました。上記の TAC サポートリンクを使用して、Cisco Spaces サポートチームとさらに連絡を取り合うことができます。

機能強化 : 2019 年 10 月

Cisco Spaces ダッシュボード

Cisco Spaces ダッシュボードに次の変更が加えられました。

パートナーダッシュボード

Cisco Spaces パートナーダッシュボードが拡張され、パートナーが [App Title] タブの [Client ID] フィールドを編集できるようになりました。以前は編集できず、「DNASpaces」として設定されていました。

行動メトリクス

Workspaces 分野の行動メトリクスを計算するアルゴリズムが強化されました。これで、従業員/ゲストの識別は、ユーザーのデバイスが接続されている SSID に依存するようになりました。ゲスト SSID は、Cisco Spaces で設定する必要があります。現在、ゲスト SSID を設定するためのダッシュボードはサポートしていません。ゲスト SSID の設定については、Cisco Spaces サポートチームにお問い合わせください。

不具合

不具合では、Cisco Spaces アプリケーションでの予期しない動作について説明します。「解決済みの不具合」と「未解決の不具合」では、このリリースの不具合を示します。

各不具合について、次の情報が提供されます。

- 識別子 : 各不具合には、一意の識別子 (ID) が割り当てられます。識別子は CSCxxNNNNN というパターンで、*x* は任意の文字 (a ~ z)、*N* は任意の数字 (0 ~ 9) です。これらの ID は、セキュリティアドバイザリ、フィールド通知、その他のシスコのサポートドキュメントなど、シスコのマニュアルでよく使用されます。Technical Assistance Center (TAC) エンジニアまたはその他のシスコのスタッフからも、特定の不具合の ID が提供されます。
- 説明 : 不具合が発生したときに観察された内容の説明。

ここでは、次の内容について説明します。

シスコバグ検索ツール

[シスコバグ検索ツール](#) (BST) は、シスコ製品とソフトウェアの障害と脆弱性の包括的なリストを管理するシスコバグ追跡システムへのゲートウェイです。BST は、製品とソフトウェアに関する詳細な障害情報を提供します。

未解決のバグ

表 58: 未解決のバグ

CDETS ID 番号	説明
CSCvr21932	RBAC : V3 SNMP バージョンを使用してコントローラを作成できない (コントローラの作成に失敗)
CSCvq83680	RBAC : 特定の場所にアクセスできる管理ユーザーは、ダッシュボードにログインできない。
CSCvq24076	Right Now : ロケーション階層を変更すると、既存の関連するカウンタがクリアされない。
CSCvp57525	ロケーション分析 : 滞留時間の値が小さい場合、滞留時間内訳チャートで滞留時間範囲 % が重複している

修正されたバグ

表 59: 修正されたバグ

CDETS ID 番号	説明
CSCvr70362	Generic - CMX Manual Upload : ユーザーはサンプル curl コマンドで MSE テキストを表示できる
CSCvr70310	一般的な問題 : ユーザーはロケーション階層ページのテキストをコピーできない
CSCvq41890	RBAC : ACM ユーザーにログインすると、最初に CP にリダイレクトされ、次に ACM ページが表示される
CSCvq79930	RBAC : トークンの有効期限が切れている場合、アクティベーションリンクをクリックすると、「ユーザーをアクティベートできませんでした」がスローされる。
CSCvq99869	ポータル : アセットを含むポータルをコピーすると、新しく作成されたポータルにアセットが追加されない。
CSCvr31508	セットアップページ : 読み取り専用ユーザーは、Edge ブラウザで Spaces コネクタの新しいトークンを作成できる
CSCvp96608	セットアップ ウィジェット インポート コントローラの数 が Spaces コネクタに対して正しくない。
CSCvq31873	LIVE : Webex チームの URL オプションとエンゲージメントルールのメールオプションを取得できない

CDETS ID 番号	説明
CSCvr48736	データキャプチャ：携帯電話番号のデフォルトの国コードドロップダウンに別の国名が表示される
CSCvq83686	広告ブロッカーが有効になっていると、ダッシュボードを起動できない。
CSCvr12826	ダッシュボードにログインできず、タイプエラーがスローされ、大文字は機能していない。



第 45 章

2019 年 9 月

- [Cisco Spaces の概要 \(207 ページ\)](#)
- [新機能 : 2019 年 9 月 \(208 ページ\)](#)
- [機能強化 : 2019 年 9 月 \(209 ページ\)](#)
- [不具合 \(209 ページ\)](#)

Cisco Spaces の概要

Cisco Spaces は、物理的なビジネス拠点で訪問者とつながり、連携できるようにするマルチチャネル エンゲージメント プラットフォームです。小売、製造、サービス業、医療、教育、金融など、さまざまな業種のビジネスを対象としています。Cisco Spaces は、施設内の資産を監視および管理するためのソリューションも提供します。Cisco Spaces は、これらの情報を実行に移すためのさまざまなツールキット、アプリ、および API を提供します。

このリリースの主な機能は次のとおりです。

- Meraki サービスアカウントを使用した Meraki ネットワーク同期のサポート。
- モバイルユーザーが Wi-Fi およびモバイルネットワーク間で自動的かつシームレスにローミングできるようにする OpenRoaming アプリ。
- ブラジルの場合、データキャプチャフォームに入力された電話番号の市外局番検証、およびソフトまたはハード SMS 認証 (ランタイム) に指定された電話番号。
- [Data Capture] フォーム (ランタイム) の [CPF] フィールドに入力された数値を自動フォーマットできるようにするためのプロビジョニング。
- エンタープライズ キャプティブ ポータル (ランタイム) でのデータキャプチャのサポート。

新機能 : 2019 年 9 月

Cisco Spaces ダッシュボード

Cisco Spaces ダッシュボードに、次の新機能が追加されました。

Meraki のサービス アカウント ワークフロー

組織、ネットワーク、AP などの Meraki ネットワークの詳細は、Meraki サービスアカウントを使用して Cisco Spaces に取得されます。以前は、Meraki の顧客アカウントは、Meraki の詳細の取得と、その後のネットワーク同期に使用されていました。

このサポートを利用するには、Cisco Meraki ネットワークを使用しているお客様は、Meraki カスタマーアカウントから Meraki サービスアカウントを招待する必要があります。フィルタ処理された組織の Cisco Meraki ダッシュボードにある **[Organization] > [Administrators] > [Add Admin]** オプションを使用して、Meraki サービスアカウントを招待できます。Meraki サービスアカウントの電子メール ID については、Cisco Spaces サポートチームにお問い合わせください。

ただし、Cisco Spaces を Cisco Meraki に接続するには、引き続き Meraki カスタマーアカウントを使用する必要があります。お客様の Meraki アカウントは、ユーザーがアクセス可能なロケーション階層にネットワークをインポートするために使用されます。サービスアカウントは、ロケーション階層を最新の状態に保つためのバックグラウンドネットワーク同期に使用されません。

OpenRoaming アプリ

OpenRoaming アプリを選択したお客様は、OpenRoaming アプリを利用できるようになりました。

OpenRoaming アプリを使用すると、モバイルユーザーが Wi-Fi およびモバイルネットワーク間で自動的かつシームレスにローミングできるようになります。ID プロバイダー (IDP) は、顧客が定義した統合メカニズムを通じて Wi-Fi ユーザーを識別および認証し、ユーザーのプロファイルの詳細を Cisco Spaces OpenRoaming プラットフォームと共有します。

Openroaming は、Cisco AireOS と Cisco Meraki ネットワークの両方をサポートします。両方のネットワークで、このアプリを利用するには Cisco Spaces コネクタを使用する必要があります。OpenRoaming を有効にするには、Cisco Spaces サポートチームに連絡する必要があります。

Open Roaming アプリは、収集したデータに基づいてさまざまなレポートを提供します。OpenRoaming 対応ネットワークに接続されているデバイスの総数、インターネットトラフィック (ネットワークを介して発生したデータ交換)、接続の総数、平均訪問時間、固有のデバイスグラフ、IDP ごとのデバイス、月間インターネットトラフィック (特定の月のネットワーク上でのデータ交換)、日次平均訪問時間、および顧客ごとに使用されたデータ (これらは、日次、週次、月次、またはカスタム期間などの特定の期間でフィルタリングできます) がレポートに表示されます。

機能強化：2019 年 9 月

Cisco Spaces ランタイム

Cisco Spaces ランタイムに次の変更が加えられました。

ブラジルの市外局番の検証

ブラジルの電話番号の検証が強化され、市外局番の検証が含まれるようになりました。ダイヤルコード「+55」の電話番号の後には、ブラジルの市外局番のいずれかが続く必要があります。有効な市外局番のみが受け入れられます。たとえば、**00** は有効な市外局番ではないため、**+5500xxxxxxx** は無効です。この検証は、キャプティブポータルでの任意のロケーションで取得された携帯電話番号に適用されます。

CPF フィールドマスキング

[Data Capture] フォームの [CPF] フィールドが拡張され、入力された値が「000.000.000-00」形式に変換されるようになりました。ユーザーが CPF の数値を入力すると、数値は自動的にフォーマットされます。したがって、キャプティブポータルのユーザーは、必要な形式を維持するためにドットやハイフンを手動で追加する必要はありません。

エンタープライズ ポータル データ交換

キャプティブポータルランタイムは、エンタープライズキャプティブポータルと Cisco Spaces 間のデータ交換をサポートするようになりました。これにより、顧客は独自のエンタープライズキャプティブポータルを持ち、収集したデータを Cisco Spaces に保存できます。これにより、顧客はエンドユーザーにパーソナライズされたエクスペリエンスを提供できます。

不具合

不具合では、Cisco Spaces アプリケーションでの予期しない動作について説明します。「解決済みの不具合」と「未解決の不具合」では、このリリースの不具合を示します。

各不具合について、次の情報が提供されます。

- 識別子：各不具合には、一意の識別子 (ID) が割り当てられます。識別子は CSCxxNNNNN というパターンで、x は任意の文字 (a ~ z)、N は任意の数字 (0 ~ 9) です。これらの ID は、セキュリティアドバイザリ、フィールド通知、その他のシスコのサポートドキュメントなど、シスコのマニュアルでよく使用されます。Technical Assistance Center (TAC) エンジニアまたはその他のシスコのスタッフからも、特定の不具合の ID が提供されます。
- 説明：不具合が発生したときに観察された内容の説明。

ここでは、次の内容について説明します。

シスコバグ検索ツール

シスコバグ検索ツール (BST) は、シスコ製品とソフトウェアの障害と脆弱性の包括的なリストを管理するシスコバグ追跡システムへのゲートウェイです。BSTは、製品とソフトウェアに関する詳細な障害情報を提供します。

未解決のバグ

表 60: 未解決のバグ

CDETS ID 番号	説明
CSCvr12826	ダッシュボードにログインできず、タイプエラーがスローされ、大文字は機能していない
CSCvq31873	LIVE : Webex チームの URL オプションとエンゲージメントルールのメールオプションを取得できない。
CSCvr21932	RBAC : V3 SNMP バージョンを使用してコントローラを作成できない (コントローラの作成に失敗)
CSCvq83680	RBAC : 特定の場所にアクセスできる管理ユーザーは、ダッシュボードにログインできない。
CSCvq83686	広告ブロッカーが有効になっていると、ダッシュボードを起動できない。
CSCvq99869	ポータル : アセットを含むポータルをコピーすると、新しく作成されたポータルにアセットが追加されない。
CSCvp96608	セットアップ ウィジェット インポート コントローラの数 Spaces コネクタに対して正しくない。
CSCvq79930	RBAC : トークンの有効期限が切れている場合、アクティベーションリンクをクリックすると、「ユーザーをアクティベートできませんでした」がスローされる。
CSCvq41890	RBAC : ACM ユーザーにログインすると、最初に CP にリダイレクトされ、次に ACM ページが表示される。
CSCvq24076	Right Now : ロケーション階層を変更すると、既存の関連するカウンタがクリアされない。
CSCvp57525	ロケーション分析 : 滞留時間の値が小さい場合、滞留時間内訳チャートで滞留時間範囲 % が重複している

修正されたバグ

表 61: 修正されたバグ

CDETS ID 番号	説明
CSCvr12782	基本サブスクリプションアカウントの WLC Direct ウィジェットのトークンを表示できない。
CSCvr22232	パスワードの有効期限が近づくと、ユーザーはパスワードを変更できなくなる。
CSCvq89946	コネクタコンテナのアップグレードは、qa-dnaspaces クラウドからは機能しない。
CSCvq99180	Cisco Spaces クラウドに表示されるコネクタのステータスが、コネクタの UI ステータスと一致しない。
CSCvr39336	API サーバー：既存のアクティベーションに追加された新しいフロアのイベントの詳細が見当たらない。
CSCvr46654	1 つのアプリを編集集中に接続が切断され、複数のアプリが同じロケーションでアクティブになった。
CSCvr23534	訪問開始時に SSID 情報を受信せず、後から受信した場合、訪問者数が正しくない。



第 46 章

2019 年 8 月

- [Cisco Spaces の概要](#) (213 ページ)
- [新機能 : 2019 年 8 月](#) (214 ページ)
- [Cisco Spaces ランタイム](#) (215 ページ)
- [機能強化 : 2019 年 8 月](#) (216 ページ)
- [不具合](#) (216 ページ)

Cisco Spaces の概要

Cisco Spaces は、物理的なビジネス拠点で訪問者とつながり、連携できるようにするマルチチャネル エンゲージメント プラットフォームです。小売、製造、サービス業、医療、教育、金融など、さまざまな業種のビジネスを対象としています。Cisco Spaces は、施設内の資産を監視および管理するためのソリューションも提供します。Cisco Spaces は、これらの情報を実行に移すためのさまざまなツールキット、アプリ、および API を提供します。

このリリースの主な機能は次のとおりです。

- Cisco Spaces ユーザーアカウントのロールベースのアクセスコントロール。
- エンゲージメントルールの訪問者エンゲージメントレポート。
- 新しい Outlook のパートナー API ドキュメント (パートナーダッシュボード)。
- パートナーアプリ (パートナーダッシュボード) の API キーを更新するためのプロビジョニング。
- Cisco CMX の AP 削除のサポート。
- Meraki の場合、bluetooth デバイスからの位置情報の更新に対応。
- ログ履歴に失敗したログイン試行を表示するための機能強化。
- グラフの精度を最適化するための行動メトリクスレポートの D3 フレームワーク。
- データキャプチャフォーム (ランタイム) に生年月日フィールドを含めることが可能になった。

新機能 : 2019 年 8 月

Cisco Cisco Spaces ダッシュボード

Cisco Spaces ダッシュボードに、次の新機能が追加されました。

ロールベース アクセス コントロール

Cisco Spaces のユーザーアカウント管理機能が強化され、ロールベースのユーザーアカウントが提供されるようになりました。このロールベースのアクセス制御機能を使用すると、個々のアプリへのアクセス権を持つユーザーを招待できるため、さまざまなアプリへのさまざまなアクセス権を持つユーザーロールを作成できるようになります。たとえば、キャプティブポータルアプリでは読み取りと書き込みのパーミッションを持ち、Operational Insights アプリでは読み取り専用のパーミッションを持つユーザーロールを作成できます。Operational Insights と BLE Manager アプリで読み取り専用の別のユーザーロールを作成できます。同様に、提供されるさまざまなサービスを組み合わせて、必要な数のユーザーロールを作成できます。以前は、Cisco Spaces は特定の事前定義されたユーザーロールのみを提供し、カスタムユーザーロールを作成するプロビジョニングはありませんでした。

さらに、キャプティブポータルなどの特定のアプリでは、特定のアプリからユーザーを招待して管理できます。キャプティブポータルアプリには、ユーザーを管理するための [User Management] オプションがあります。キャプティブポータルアプリには、ユーザーロール [Creative User] と [AccessCodeManager] があります。

Cisco Spaces ダッシュボードでは、Cisco Spaces ユーザーを招待する [Users] オプションの名前が [Admin Management] に変更されました。

Cisco Spaces アカウントが作成されると、提供された電子メール ID を持つアカウントに対して Dashboard Admin Role ユーザーが作成されます。このダッシュボード管理者は、他のユーザーを Cisco Spaces に招待できます。

Cisco Spaces は、デフォルトのユーザーロールである Dashboard Admin Role のみを提供します。

- ACT ライセンスの場合、デフォルトでは、Dashboard Admin Role には、サービス、DNASpaces（ダッシュボードの左ペインのメニュー項目、および行動メトリクス、OpenRoaming、Location Analytics、エンゲージメント、ロケーションペルソナの各アプリを含む）、CaptivePortals および OperationsInsights への読み取りおよび書き込みアクセス権が付与されます。
- SEE（基本）ライセンスの場合、デフォルトでは、Dashboard Admin ロールでは DNASpaces にしかアクセスできません。
- Dashboard Admin Role が BLE Manager などの他のサービス（アプリ）へのアクセスを必要とする場合は、Cisco Spaces サポートチームに連絡する必要があります。

エンゲージメントルール：訪問者のエンゲージメントレポート

新しいレポート、[Visitor Engagement]は、エンゲージメントアプリで利用できるようになりました。訪問者エンゲージメントレポートには、設定したエンゲージメントルールに基づいて、訪問者とのエンゲージメントの詳細が表示されます。[Engagement] ウィンドウで3本の平行線アイコンをクリックすると表示されるメニューで、新しいオプションの[Visitor Engagement]が利用できるようになりました。

パートナー ダッシュボード

パートナーダッシュボードで、[API Documentaion] をクリックすると表示されるオンラインヘルプが改良され、別の外観で表示されるようになりました。新しいオンラインヘルプはXMARTによって機能強化されています。

Cisco Spaces パートナーダッシュボードと統合されているパートナーアプリの場合、Cisco Spaces を特定のアプリに接続するための API キーを更新できるようになりました。API キーを定義してから 90 日後に、API キーの更新を推奨するメッセージが表示されます。ただし、API キーの更新はオプションです。API キーにカーソルを合わせると、新しい [Renew] ボタンが表示されるようになりました。Sandbox、Pre Production、Production 環境で個別に API キーを更新できます。

Network Sync サーバー：AP 削除のサポート

ネットワーク同期サーバーでは、Cisco CMX から削除された AP の削除をサポートするようになりました。以前は、そのような AP はバックエンドから手動で削除する必要がありました。

Bluetooth デバイスからの位置情報の更新 (Meraki)

Meraki ネットワークの場合、Cisco Spaces は、Bluetooth デバイスからの位置更新の受信をサポートするようになりました。Bluetooth デバイスからの位置の更新は、行動メトリクスレポートに反映されます。

Cisco Spaces ランタイム

Cisco Spaces ランタイムに、次の新機能が追加されました。

データ収集フォーム

キャプティブポータル [Data Capture] フォームで、生年月日フィールドの追加がサポートされるようになりました。GDPR を有効にしている場合、[Data Capture] フォームに [Date of Birth] フィールドを含めることはできません。生年月日は、[Enable Age Gating] または [Date of Birth] フィールドのいずれかから実行時にキャプチャされます。現在、このフィールドはダッシュボードでサポートされていません。データキャプチャフォームに [Date of Birth] フィールドを追加する場合は、Cisco Spaces サポートチームに連絡する必要があります。

また、[GDPR-Age Gating] および [Strict] モードでは、年齢を選択するためのドロップダウンリストが Date Picker に置き換えられました。

機能強化 : 2019 年 8 月

Cisco Spaces ダッシュボード

Cisco Spaces ダッシュボードに次の変更が加えられました。

ログ履歴拡張

[View History] リンクをクリックすると表示されるログ履歴が拡張され、特定の Cisco Spaces アカウントへの失敗したログイン試行が表示されるようになりました。以前は、成功したログインのみがログに記録されていました。

行動メトリクス

D3 Framework は、行動メトリクスチャートで実装されています。以前は、JQwidget は行動メトリクスチャートで使用されていました。この機能強化により、ギャップのないより正確なチャートを表示できるようになりました。

不具合

不具合では、Cisco Spaces アプリケーションでの予期しない動作について説明します。「解決済みの不具合」と「未解決の不具合」では、このリリースの不具合を示します。

各不具合について、次の情報が提供されます。

- 識別子 : 各不具合には、一意の識別子 (ID) が割り当てられます。識別子は CSCxxNNNNN というパターンで、*x* は任意の文字 (a ~ z)、*N* は任意の数字 (0 ~ 9) です。これらの ID は、セキュリティアドバイザリ、フィールド通知、その他のシスコのサポートドキュメントなど、シスコのマニュアルでよく使用されます。Technical Assistance Center (TAC) エンジニアまたはその他のシスコのスタッフからも、特定の不具合の ID が提供されます。
- 説明 : 不具合が発生したときに観察された内容の説明。

ここでは、次の内容について説明します。

シスコバグ検索ツール

シスコバグ検索ツール (BST) は、シスコ製品とソフトウェアの障害と脆弱性の包括的なリストを管理するシスコバグ追跡システムへのゲートウェイです。BST は、製品とソフトウェアに関する詳細な障害情報を提供します。

未解決のバグ

表 62: 未解決のバグ

CDETS ID 番号	説明
CSCvr12826	ダッシュボードにログインできず、タイプエラーがスローされ、大文字は機能していない
CSCvq31873	LIVE : Webex チームの URL オプションとエンゲージメントルールのメールオプションを取得できない
CSCvr21932	RBAC : V3 SNMP バージョンを使用してコントローラを作成できない (コントローラの作成に失敗)
CSCvq83680	RBAC : 特定の場所にアクセスできる管理ユーザーは、ダッシュボードにログインできない。
CSCvq83686	広告ブロッカーが有効になっていると、ダッシュボードを起動できない。
CSCvr22232	パスワードの有効期限が近づくと、ユーザーはパスワードを変更できなくなる
CSCvq99869	ポータル : アセットを含むポータルをコピーすると、新しく作成されたポータルにアセットが追加されない。
CSCvp96608	セットアップ ウィジェット インポート コントローラの数 Spaces コネクタに対して正しくない。
CSCvq09339	コントローラのバージョンは、WLC で設定された実際のバージョンから変更される。
CSCvq79945	RBAC : ライセンスタイプのロゴはクリック可能ですが、クリックしても何も起こらない。
CSCvq79930	RBAC : トークンの有効期限が切れている場合、アクティベーションリンクをクリックすると、「ユーザーをアクティベートできませんでした」がスローされる。
CSCvq41890	RBAC : ACM ユーザーにログインすると、最初に CP にリダイレクトされ、次に ACM ページが表示される。
CSCvq24076	Right Now : ロケーション階層を変更すると、既存の関連するカウンタがクリアされない。
CSCvp57525	ロケーション分析 : 滞留時間の値が小さい場合、滞留時間内訳チャートで滞留時間範囲 % が重複している

CDETS ID 番号	説明
CSCvr23534	訪問開始時に SSID 情報を受信せず、後から受信した場合、訪問者数が正しくない。

修正されたバグ

表 63: 修正されたバグ

CDETS ID 番号	説明
CSCvp46851	小売業：散布図にカーソルを置くと、ツールチップに複数のポインターがあった。
CSCvr12782	基本サブスクリプションアカウントの WLC Direct ウィジェットのトークンを表示できない。



第 47 章

2019 年 7 月

- [Cisco Spaces の概要](#) (219 ページ)
- [新機能 : 7 月 19 日](#) (221 ページ)
- [機能強化 : 7 月 19 日](#) (222 ページ)
- [不具合](#) (223 ページ)

Cisco Spaces の概要

Cisco Spaces は、既存のワイヤレスや IoT (BLE) インフラストラクチャを活用して、実用的な情報を提供し、Space に組み込まれたアプリケーションでビジネスの成果を推進する強力なロケーション サービス プラットフォームです。

Cisco Spaces からの情報には次が含まれます。

- **Location Analytics** は、時間や位置によるロケーションデータの多角的な分析を行い、ネットワークに接続しているユーザーの行動をより詳細に可視化する機能を提供します。
- **Right Now** レポートは、物理的スペース内のリアルタイムの訪問者数 (Wi-Fi に接続されているデバイスで識別) 、およびこの数を履歴平均と比較する方法を提供します。Right Now レポートでは、使用されている認証方法に基づいて、1人のユーザーに属する複数のデバイスを検出し、それらのデバイスを1人の訪問者としてカウントできます。
- **Business Insights** は、人々がお客様の物理拠点に訪れる頻度と、お客様の事業所に滞在する時間を測定する機能を提供します。このデータは、すべてのロケーションにわたり、月単位で比較評価されます。また、ロケーションのパフォーマンスを経時的、グループ別、または業界別に比較評価する機能も用意されています。
- **Impact Analysis** は、現地イベント、キャンペーン、およびレイアウトの変更が行動に及ぼす影響を測定する機能を提供します。ツールを使用してイベントを作成し、費やした時間と頻度への影響の前、後、および最中などの特定のタイムラインに基づいて、このイベントの影響を測定するのは簡単です。

Cisco Spaces アプリケーションには、キャプティブポータル、ロケーションペルソナ、エンゲージメントなどのカスタマーエクスペリエンス管理アプリが含まれており、物理的な場所にいる顧客とリアルタイムでつながることができます。追加のアプリケーションには、アセットト

ラッキングアプリ、IoT サービス（Bluetooth Low Energy（BLE））を管理および設定するためのサービスマネージャ、およびこのデータを抽出して関連付けるか、他のエンタープライズシステムに統合する場合のオープン API フレームワークも含まれます。

Cisco Spaces は、さまざまなロケーションベースのテクノロジーやインテリジェンスを通じて各種のサービスを利用できる単一のダッシュボードインターフェイスを備えています。Cisco Spaces では、お客様の物理的なビジネスロケーションへの訪問者につながり、関係を深めることもできます。ワークスペース、小売、製造、サービス業、医療、教育、金融など、さまざまな業種のビジネスを対象としています。Cisco Spaces のアセットラッキングアプリケーションは、お客様施設内の資産を監視および管理するためのソリューションを提供します。Cisco Spaces には、これらの知見をアクションに変えるためのさまざまなツールキット、アプリ、および API が用意されています。

Cisco Spaces では、パートナープログラムを通じて、さまざまな業種にわたるさまざまなパートナーアプリケーションにアクセスできます。

Cisco Spaces は、Cisco Catalyst、Cisco AireOS、および Cisco Meraki インフラストラクチャと互換性があります。

上記のサービスに加えて、Cisco Spaces アプリの範囲は、世界的なパンデミックである COVID-19 によって生じるビジネス要件を満たすために拡張されました。拡張機能は既存のアプリケーションに基づいて構築されており、COVID-19 の特定の要件を満たすために新しいアプリケーションが追加されています。Impact Analytics、Location Analytics、Behaviour Metrics、Right Now などのアプリの拡張機能を使用すると、ビジネス拠点に及ぼす COVID-19 の影響を分析し、適切なアクションを実行できます。たとえば、現在の場所のデバイス密度に基づいてルールを作成し、その場所にいる人の数が特定の数または密度（人/エリア）を超えた場合に自動的に通知されるようにすることができます。Location Analytics アプリには、エグゼクティブサマリーレポートを組織内の同僚と共有する機能が追加されました。さらに、個人/グループの場所を対象とした COVID-19 ベースの傾向分析を行動メトリクスアプリを使用して実行できるようになり、特定のビジネス拠点を組織全体および特定の業種のビジネス拠点と比較できます。

Cisco Spaces では、影響を受けるデバイスのロケーション履歴とデバイス近接履歴をすばやく確認できる新しい Proximity Reporting アプリが追加されました。ユーザー ID または MAC アドレスを入力するだけで、過去 14 日間の建物内のデバイスの位置と、他のデバイスの近接性に関するレポートが生成されます。このレポートは、共有機能を使用してエクスポートまたは共有できます。同様に、検出と位置特定アプリには、デバイスを特定の数にクラスタ化して、ソーシャルディスタンスのガイドラインに違反している可能性のある領域を確認して報告する機能が追加されました。

このリリースの主な機能は次のとおりです。

- Cisco Spaces ユーザーのプロファイルの詳細を追加および表示できるようにプロビジョニング。
- Cisco Spaces に新しいライセンスタイプ [Extend] を追加。
- 新しいアプリ、Cisco Spaces : シスコのワイヤレス インフラストラクチャを使用して IoT デバイスを要求、管理、および監視できるようにする IoT サービス。
- [SMS with Link Verification] 認証のオプトインサポート。

- ロケーション名にカーソルを合わせると [More Actions] メニューが表示されるようにロケーション階層を拡張。
- アクセスポイントのコントローラ IP アドレスを表示するようにプロビジョニング。
- 非実用的なエントリを避けるために、場所に定義できる総面積の値を制限。
- [SEE] ライセンスの下で検出と位置特定アプリを表示。
- ロールを使用した Map Services および DNASpaces への独立したアクセス権の提供をサポート。
- パートナーダッシュボードの利用規約を更新。

新機能 : 7 月 19 日

Cisco Spaces ダッシュボード

Cisco Spaces ダッシュボードに、次の新機能が追加されました。

Cisco CMX-CMX ゾーンをサポート

Cisco Spaces ダッシュボードでは、[Cisco CMX] に追加された CMX ゾーンの入ポートをサポートするようになりました。CMX ゾーンはフロアの下に追加できます。

CMX ゾーンには X、Y 座標のみがあり、それらに関連付けられたアクセスポイントはありません。

[Add CMX Zone] オプションを使用して、CMX ゾーンを手動でインポートできるようになりました。

Cisco Spaces ダッシュボードの [Location Hierarchy] ウィンドウで、フロアの [More Actions] メニューで新しいオプション [Add CMX Zone] を使用できるようになりました。

Map Services : CMX ゾーンをサポート

Cisco Spaces ダッシュボードは、[Map Services] の CMX ゾーンサポートを提供するようになりました。[Setup] > [Map Services] に追加された CMX ゾーンは、Cisco Spaces のロケーション階層にインポートできるようになりました。

CMX ゾーンには X、Y 座標のみがあり、それらに関連付けられたアクセスポイントはありません。

Cisco Spaces の既存のロケーションについては、この CMX ゾーンがサポートされる前に [Map Services] で CMX ゾーンが作成された場合、その CMX ゾーンは同期中に自動的にインポートされません。[Add CMX Zone] オプションを使用して、ロケーション階層に手動で追加する必要があります。追加すると、この特定の CMX ゾーンに対して行われたすべての更新が自動的に同期されます。この CMX ゾーンをサポート後に [Map Services] に追加されたすべての CMX ゾーンは、Cisco Spaces のロケーション階層に自動的にインポートされます。

Cisco Spaces ダッシュボードの [Location Hierarchy] ウィンドウで、フロアの [More Actions] メニューで新しいオプション [Add CMX Zone] を使用できるようになりました。

WLC Direct Connect の Map Services

Wireless Controller Cloud Connect を介して接続された Cisco AireOS のお客様は、Cisco Spaces ダッシュボードの [Setup] > [Map Services] オプションを使用してロケーションをインポートできるようになりました。この機能により、Cisco Prime で定義されているのと同じ階層構造 (Campus-Building-Floor) でロケーションをインポートできます。以前は、ワイヤレスクラウドコネクタを介して接続された Cisco AireOS のお客様は、ワイヤレスコントローラの IP とアクセスポイントのみをロケーションとしてインポートできました。

[Map Services] 機能を使用するには、[CMX Prime] から必要なロケーションをダウンロードしてから、それらを [Map Services] オプションにインポートする必要があります。次に、これらのロケーションをロケーション階層にインポートできます。この機能をサポートするために、[Add a Wireless Network] ウィンドウで、[WLC Direct Connect] の 2 つの個別のオプションである [Access Point Prefix] と [Map Services] を使用できるようになりました。

Network Sync サーバー : CMX ゾーンをサポート

Cisco Spaces ネットワーク同期サーバーは、CMX ゾーン同期をサポートするようになりました。このサポートは、[Cisco CMX] および [Map Services] に追加された CMX ゾーンで利用できます。

Network Sync サーバーは、[Cisco CMX] または [Map Services] で行われた変更に基づいて、ロケーション階層内の CMX ゾーンを追加、更新、および削除します。

ただし、Cisco Spaces の既存のロケーションについては、この CMX ゾーンがサポートされる前に [Map Services] で CMX ゾーンが作成された場合、その CMX ゾーンは同期中に自動的にインポートされません。[Add CMX Zone] オプションを使用して、ロケーション階層に手動で追加する必要があります。追加すると、この特定の CMX ゾーンに対して行われたすべての更新が自動的に同期されます。また、以前にバックエンドから追加された CMX ゾーンは、[Map Services] の変更に基づいて更新または削除されます。

機能強化 : 7 月 19 日

Cisco Spaces ダッシュボード

Cisco Spaces ダッシュボードに次の変更が加えられました。

ライセンス除外セキュリティプライアンス

ネットワークの同期中に、Cisco Spaces ライセンスのアクセスポイントをカウントするときに、セキュリティプライアンスが除外されるようになりました。以前は、セキュリティプライアンスもアクセスポイントと一緒にカウントされていたため、特定のライセンスで許可されているすべてのアクセスポイントを使用することはできませんでした。

行動メトリクス

[Behavior Metrics] レポートに次の変更が加えられました。

- 選択した期間に特定のチャートまたはグラフのデータがない場合、グラフは淡色表示になり、「選択した期間に使用できるデータがありません」というラベルがチャートに表示されます。以前は、データが利用できない場合、「レポートデータが利用できません」というラベルが赤で表示されていました。
- サブブランドのデータが定義されていない場合、サブブランドのグラフはレポートで淡色表示されます。また、「ブランドを作成していません」というラベルがチャートに表示されます。以前は、サブブランドのデータがない場合、「レポートデータが利用できません」というラベルが赤で表示されていました。

SSID : 独立した削除のサポート

Cisco Spaces では、SSID が Meraki などのワイヤレスネットワークから削除されていない場合でも、SSID を削除できるようになりました。この機能強化により、ネットワーク同期の遅延中に不要な SSID を削除できます。

不具合

不具合では、Cisco Spaces アプリケーションでの予期しない動作について説明します。「解決済みの不具合」と「未解決の不具合」では、このリリースの不具合を示します。

各不具合について、次の情報が提供されます。

- 識別子：各不具合には、一意の識別子 (ID) が割り当てられます。識別子は CSCxxNNNN というパターンで、x は任意の文字 (a ~ z)、N は任意の数字 (0 ~ 9) です。これらの ID は、セキュリティアドバイザリ、フィールド通知、その他のシスコのサポートドキュメントなど、シスコのマニュアルでよく使用されます。Technical Assistance Center (TAC) エンジニアまたはその他のシスコのスタッフからも、特定の不具合の ID が提供されます。
- 説明：不具合が発生したときに観察された内容の説明。

ここでは、次の内容について説明します。

シスコバグ検索ツール

[シスコバグ検索ツール](#) (BST) は、シスコ製品とソフトウェアの障害と脆弱性の包括的なリストを管理するシスコバグ追跡システムへのゲートウェイです。BST は、製品とソフトウェアに関する詳細な障害情報を提供します。

未解決のバグ

表 64: 未解決のバグ

CDETS ID 番号	説明
CSCvp46851	散布図にカーソルを置くと、ツールチップに複数のポインターがあった。

修正されたバグ

表 65: 修正されたバグ

CDETS ID 番号	説明
CSCvp28767	同じ名前の AP が 2 つある場合、1 つの AP Mac のみを提供する LocationDistribution API 応答。
CSCvo00172	累積統計：ロケーション数と AP 数が一致しない
CSCvo19097	ロケーションを削除した後、訪問者、Locupdate、および訪問データが N/A と表示される



第 48 章

1.4

- [Cisco Spaces の概要 \(225 ページ\)](#)
- [リリース 1.4 の新機能 \(226 ページ\)](#)
- [リリース 1.4 の新機能 \(228 ページ\)](#)
- [リリース 1.4 の機能強化 \(231 ページ\)](#)
- [不具合 \(232 ページ\)](#)

Cisco Spaces の概要

Cisco Spaces は、物理的なビジネス拠点で訪問者とつながり、連携できるようにするマルチチャネル エンゲージメント プラットフォームです。小売、製造、サービス業、医療、教育、金融など、さまざまな業種のビジネスを対象としています。Cisco Spaces は、施設内の資産を監視および管理するためのソリューションも提供します。Cisco Spaces は、これらの情報を実行に移すためのさまざまなツールキット、アプリ、および API を提供します。

このリリースの主な機能は次のとおりです。

- ロケーションアクセスのレポートを提供する新しいアプリ、Location Analytics (Beta)。
- アクセスコードを使用してインターネット プロビジョニングを管理するための新機能、[Access Code Manager] ユーザーロール。
- 利用可能なライセンスに基づいてグループ化されたアプリ。
- ワイヤレスネットワークを設定するために、新しい Cisco Spaces ユーザーを [Setup] ウィンドウにリダイレクトできるようにするためのプロビジョニング。
- Cisco Spaces ダッシュボードバナーに、ライセンスタイプと Cisco ロゴが表示されます。
- デジタル化統計のツールヒント。
- サイドメニューバーの展開/折りたたみ機能。
- OpenRoaming アプリのアイコンによるサンプルデータの表示
- DCloud アプリケーションでシングルサインオンに対応。
- Meraki API 3.0 に対応。

- キャプティブポータル認証で、送信される SMS に追加情報を追加できるように対応。
- 郵便番号と CPF コードではデフォルトの国コードに対応。
- 指紋認証でのセキュリティ強化。
- キャプチャされたデバイスの詳細に基づくデバイス分類。

リリース 1.4 の新機能

Cisco Spaces ダッシュボード

Cisco Spaces ダッシュボードに、次の新機能が追加されました。

アクセスコードマネージャ

Cisco Spaces では、新しいユーザーロールである **Access Code Manager** を提供するようになりました。このユーザーロールにより、アクセスコードを使用してビジネス構内のインターネットプロビジョニングを制御できます。さまざまなロケーション用のアクセスコードを作成し、そのアクセスコードを使用してこれらのロケーションのインターネットアクセスを制限できます。つまり、顧客は、そのロケーション用に設定されたアクセスコードを入力した後でのみインターネットにアクセスできます。

Cisco Spaces では、作成したアクセスコードを顧客と共有することができます。アクセスコードの有効期間を指定できます。アクセスコードに単一のコード値を持たせる、またはコード値を毎週や毎月変更するように設定できます。アクセスコードを使用して、顧客がインターネットにアクセスできる時間を定義できます。Cisco Spaces では、アクセスコードのダウンロードおよびアップロードの帯域幅制限など、帯域幅制限を設定することもできます。

1つのロケーションに複数のアクセスコードを定義できます。たとえば、プラチナメンバーにのみ高速インターネットを提供する場合、最大帯域幅を持つアクセスコードを作成し、限られた帯域幅を持つアクセスコードを別に作成できます。その後、顧客のタイプに基づいてアクセスコードを共有できます。

Location Analytics (Beta)

Cisco Spaces は、新しいアプリである **Location Analytics** を提供するようになりました。このアプリを使用すると、ロケーション訪問者のレポートを表示できます。このレポートでは、従業員の訪問もカウントされます。デフォルトでは、ルートロケーションのレポートが表示されません。デフォルトの日付範囲は、2019年1月1日から今日までです。2019年1月1日より前のデータのレポートを生成することはできません。レポートでは、次の情報を表示できます。

- **[Visitors]** : 指定の期間におけるフィルタ処理されたロケーションへの訪問者の総数を表示します。**[New Visits]** と **[Repeat Visitors]** の数とパーセンテージが別個に表示されます。また、指定の期間における各日の訪問者数を示すグラフも表示されます。

- **[Visits]** : 指定の期間におけるフィルタ処理されたロケーションへの訪問の総数を表示します。**[New Visits]** と **[Repeat Visits]** の数とパーセンテージが別個に表示されます。また、指定の期間における各日の訪問数を示すグラフも表示されます。
- **[Dwell Time]** : 指定された期間中にフィルタ処理されたロケーションでの平均滞在時間を表示します。**[New Visits]** と **[Repeat Visits]** の平均滞在時間とパーセンテージが別個に表示されます。訪問者の平均滞在時間を日ごとに表示するグラフも表示されます。
- **滞在時間の内訳** : フィルタ処理されたロケーションと期間における、さまざまな滞在時間範囲内での合計訪問数を表示します。たとえば、0～5分のカウントは、フィルタ処理されたロケーションで0～5分間継続した訪問の合計数を表します。

ロケーション、日付、SSID でレポートをフィルタリングできます。

さまざまなフィルタを備えたウィジェットを使用して、カスタムレポートを作成できます。ACT (高度) サブスクリプションのお客様は、ウィジェットですべてのフィルタ (ロケーション、SSID、時間範囲、および訪問範囲) を適用できます。(ベース) サブスクリプションのお客様は、場所、SSID、および訪問範囲フィルタの適用が制限されていることに留意してください。

ライセンスに基づいて表示されるアプリ

[Home] ウィンドウで、Cisco Spaces アプリは、利用可能なライセンスに基づいてグループ化されます。

アプリは次のようにグループ化されます。

- **[See (Base)]** : アプリの行動メトリクス、OpenRoaming、およびロケーション分析は、このライセンスタイプの下にリストされます
- **[ACT (Advanced)]** : キャプティブポータル、エンゲージメント、ロケーションペルソナ、Operational Insights、BLE Manager、Location SDK、および検出と位置特定アプリがこのライセンスタイプの下にリストされています。
- **[EXTEND]** : パートナーアプリは、このライセンスタイプの下にリストされます



(注) すべてのタイプのライセンスの場合、すべてのアプリが [Home] ウィンドウに一覧表示されますが、アカウントのライセンスタイプに基づいてのみ有効になります。

高度なライセンスタイプの場合、下位のライセンスタイプにグループ化されたアプリを使用できます。

新しい Cisco Spaces アカウントの別のバナー

ワイヤレスネットワークが設定されていない新しい Cisco Spaces アカウントの場合、ダッシュボードのホームページバナーが表示され、ダッシュボードの上部に次のメッセージが表示されます。

「まだワイヤレスネットワークに接続されていません。ここをクリックしてワイヤレスネットワークを接続しますCisco Spaces。」

[Click Here] リンクをクリックすると、ワイヤレスネットワークを設定できる [Setup] ウィンドウが表示されます。

Cisco Spaces ホームページのライセンスアイコン

Cisco Spaces アカウントのライセンスタイプがホームページに表示されるようになりました。Cisco Spaces ダッシュボードにログインすると、ウィンドウの左上にある Cisco ロゴの隣にライセンスタイプが表示されます。

デジタル化統計のツールチップ

Cisco Spaces ダッシュボードのホームページに表示されるデジタル化統計値のツールチップが提供されます。

サイドメニューバーの展開/折りたたみ機能

Cisco Spaces ダッシュボードでは、サイドメニューバーを折りたたんで幅広いビューを表示できるようになりました。これは、キャプティブポータルなどのアプリ内のものを含む、すべてのサイドメニューバーに適用されます。3本の平行線の付いた新しいアイコンがサイドメニューバーの上に表示され、それを使用して展開または折りたたむことができます。デフォルトでは、サイドメニューバーは展開された状態になります。

OpenRoaming アプリ

OpenRoaming アイコンは、OpenRoaming アプリに関する簡単なアイデアを提供する静的データを表示できるようになりました。

SSO ログインのサポート

Cisco Spaces では、Cisco dCloud ユーザーのシングルサインオンをサポートするようになりました。dCloudアプリケーションにすでにログインしている場合は、再度ログインしなくても、Cisco Spaces ダッシュボードに直接アクセスできます。

リリース 1.4 の新機能

Cisco Spaces ダッシュボード

Cisco Spaces ダッシュボードに、次の新機能が追加されました。

アクセスコードマネージャ

Cisco Spaces では、新しいユーザーロールである Access Code Manager を提供するようになりました。このユーザーロールにより、アクセスコードを使用してビジネス構内のインターネットプロビジョニングを制御できます。さまざまなロケーション用のアクセスコードを作成し、そのアクセスコードを使用してこれらのロケーションのインターネットアクセスを制限できま

す。つまり、顧客は、そのロケーション用に設定されたアクセスコードを入力した後でのみインターネットにアクセスできます。

Cisco Spaces では、作成したアクセスコードを顧客と共有することができます。アクセスコードの有効期間を指定できます。アクセスコードに単一のコード値を持たせる、またはコード値を毎週や毎月変更するように設定できます。アクセスコードを使用して、顧客がインターネットにアクセスできる時間を定義できます。Cisco Spaces では、アクセスコードのダウンロードおよびアップロードの帯域幅制限など、帯域幅制限を設定することもできます。

1つのロケーションに複数のアクセスコードを定義できます。たとえば、プラチナメンバーにのみ高速インターネットを提供する場合、最大帯域幅を持つアクセスコードを作成し、限られた帯域幅を持つアクセスコードを別に作成できます。その後、顧客のタイプに基づいてアクセスコードを共有できます。

Location Analytics (Beta)

Cisco Spaces は、新しいアプリである **Location Analytics** を提供するようになりました。このアプリを使用すると、ロケーション訪問者のレポートを表示できます。このレポートでは、従業員の訪問もカウントされます。デフォルトでは、ルートロケーションのレポートが表示されます。デフォルトの日付範囲は、2019年1月1日から今日までです。2019年1月1日より前のデータのレポートを生成することはできません。レポートでは、次の情報を表示できます。

- **[Visitors]** : 指定の期間におけるフィルタ処理されたロケーションへの訪問者の総数を表示します。**[New Visits]** と **[Repeat Visitors]** の数とパーセンテージが別個に表示されます。また、指定の期間における各日の訪問者数を示すグラフも表示されます。
- **[Visits]** : 指定の期間におけるフィルタ処理されたロケーションへの訪問の総数を表示します。**[New Visits]** と **[Repeat Visits]** の数とパーセンテージが別個に表示されます。また、指定の期間における各日の訪問数を示すグラフも表示されます。
- **[Dwell Time]** : 指定された期間中にフィルタ処理されたロケーションでの平均滞在時間を表示します。**[New Visits]** と **[Repeat Visits]** の平均滞在時間とパーセンテージが別個に表示されます。訪問者の平均滞在時間を日ごとに表示するグラフも表示されます。
- **滞在時間の内訳** : フィルタ処理されたロケーションと期間における、さまざまな滞在時間範囲内での合計訪問数を表示します。たとえば、0～5分のカウントは、フィルタ処理されたロケーションで0～5分間継続した訪問の合計数を表します。

ロケーション、日付、SSID でレポートをフィルタリングできます。

さまざまなフィルタを備えたウィジェットを使用して、カスタムレポートを作成できます。ACT (高度) サブスクリプションのお客様は、ウィジェットですべてのフィルタ (ロケーション、SSID、時間範囲、および訪問範囲) を適用できます。(ベース) サブスクリプションのお客様は、場所、SSID、および訪問範囲フィルタの適用が制限されていることに留意してください。

ライセンスに基づいて表示されるアプリ

[Home] ウィンドウで、Cisco Spaces アプリは、利用可能なライセンスに基づいてグループ化されます。

アプリは次のようにグループ化されます。

- [See (Base)] : アプリの行動メトリクス、OpenRoaming、およびロケーション分析は、このライセンスタイプの下にリストされます
- [ACT (Advanced)] : キャプティブポータル、エンゲージメント、ロケーションペルソナ、Operational Insights、BLE Manager、Location SDK、および検出と位置特定アプリがこのライセンスタイプの下にリストされています。
- [EXTEND] : パートナーアプリは、このライセンスタイプの下にリストされます



(注) すべてのタイプのライセンスの場合、すべてのアプリが [Home] ウィンドウに一覧表示されますが、アカウントのライセンスタイプに基づいてのみ有効になります。

高度なライセンスタイプの場合、下位のライセンスタイプにグループ化されたアプリを使用できます。

新しい Cisco Spaces アカウントの別のバナー

ワイヤレスネットワークが設定されていない新しい Cisco Spaces アカウントの場合、ダッシュボードのホームページバナーが表示され、ダッシュボードの上部に次のメッセージが表示されます。

「まだワイヤレスネットワークに接続されていません。ここをクリックしてワイヤレスネットワークを接続しますCisco Spaces。」

[Click Here] リンクをクリックすると、ワイヤレスネットワークを設定できる [Setup] ウィンドウが表示されます。

Cisco Spaces ホームページのライセンスアイコン

Cisco Spaces アカウントのライセンスタイプがホームページに表示されるようになりました。Cisco Spaces ダッシュボードにログインすると、ウィンドウの左上にある Cisco ロゴの隣にライセンスタイプが表示されます。

デジタル化統計のツールチップ

Cisco Spaces ダッシュボードのホームページに表示されるデジタル化統計値のツールチップが提供されます。

サイドメニューバーの展開/折りたたみ機能

Cisco Spaces ダッシュボードでは、サイドメニューバーを折りたたんで幅広いビューを表示できるようになりました。これは、キャプティブポータルなどのアプリ内のものを含む、すべてのサイドメニューバーに適用されます。3本の平行線の付いた新しいアイコンがサイドメニューバーの上に表示され、それを使用して展開または折りたたむことができます。デフォルトでは、サイドメニューバーは展開された状態になります。

OpenRoaming アプリ

OpenRoaming アイコンは、OpenRoaming アプリに関する簡単なアイデアを提供する静的データを表示できるようになりました。

SSO ログインのサポート

Cisco Spaces では、Cisco dCloud ユーザーのシングルサインオンをサポートするようになりました。dCloud アプリケーションにすでにログインしている場合は、再度ログインしなくても、Cisco Spaces ダッシュボードに直接アクセスできます。

Cisco Spaces ランタイム

Cisco Spaces ランタイムに、次の新機能が追加されました。

SMS への追加情報の追加のサポート

キャプティブポータル認証のプロセスの一部として送信されるソフト SMS およびハード SMS では、SMS ゲートウェイに渡す必要のある追加情報を含めることができます。たとえば、英語以外の言語で SMS を顧客に送信する場合、SMS ゲートウェイに送信される SMS にその情報を含めることができるようになりました。

リリース 1.4 の機能強化

Cisco Spaces ダッシュボード

Cisco Spaces ダッシュボードに次の変更が加えられました。

Meraki API 3.0 サポートロケーション レシーバ

Cisco Spaces は、Meraki API バージョン 3.0 でのデータの受信と処理をサポートするようになりました。

Cisco Spaces ランタイム

Cisco Spaces ランタイムに次の変更が加えられました。

CPF と郵便番号のデフォルトの国サポート

データキャプチャフォームのフィールドとして郵便番号または CPF が追加されると、Cisco Spaces は、その国のロケールに固有の入力フィールドのプレースホルダーと形式を表示しようとしています。顧客は、ポータルの構成時に郵便番号/CPF のデフォルトの国を選択できるため、国の検出に失敗した場合、選択した国に基づいてフィールドの形式とプレースホルダーが表示されます。



- (注) 現在、郵便番号または CPF のデフォルトの国選択は、ダッシュボードから行うことはできません。同じ設定については、Cisco Spaces サポートにお問い合わせください。CPF はブラジルのみ表示されます。

指紋認証のセキュリティ強化

Soft SMS 認証の一環として実行される指紋認証は、高度なエンコード技術に移行することにより、より安全になりました。

デバイスの分類

Cisco Spaces は、キャプチャされたデバイスの詳細に基づいてデバイスを分類するように拡張されました。デバイス OS、OS バージョン、モデル、デバイスタイプ、製造元などの情報は、サブスクライバーの詳細の一部としてキャプチャされます。

不具合

不具合では、Cisco Spaces アプリケーションでの予期しない動作について説明します。「解決済みの不具合」と「未解決の不具合」では、このリリースの不具合を示します。

各不具合について、次の情報が提供されます。

- 識別子：各不具合には、一意の識別子 (ID) が割り当てられます。識別子は CSCxxNNNNN というパターンで、 x は任意の文字 (a ~ z)、 N は任意の数字 (0 ~ 9) です。これらの ID は、セキュリティアドバイザリ、フィールド通知、その他のシスコのサポートドキュメントなど、シスコのマニュアルでよく使用されます。Technical Assistance Center (TAC) エンジニアまたはその他のシスコのスタッフからも、特定の不具合の ID が提供されます。
- 説明：不具合が発生したときに観察された内容の説明。

ここでは、次の内容について説明します。

シスコバグ検索ツール

[シスコバグ検索ツール \(BST\)](#) は、シスコ製品とソフトウェアの障害と脆弱性の包括的なリストを管理するシスコバグ追跡システムへのゲートウェイです。BST は、製品とソフトウェアに関する詳細な障害情報を提供します。

未解決のバグ：リリース 1.4

表 66: 未解決のバグ

CDETS ID 番号	説明
CSCvp46851	散布図にカーソルを置くと、ツールチップに複数のポインターがあった。
CSCvo00172	累積統計：ロケーション数と AP 数が一致しない
CSCvo19097	ロケーションを削除した後、訪問者、Locupdate、および訪問データが N/A と表示される

修正されたバグ：リリース 1.4

このリリースで修正されたバグはありません。



第 49 章

1.3

- [Cisco Spaces の概要 \(235 ページ\)](#)
- [リリース 1.3 の新機能 \(235 ページ\)](#)
- [リリース 1.3 の機能強化 \(237 ページ\)](#)
- [不具合 \(238 ページ\)](#)

Cisco Spaces の概要

Cisco Spaces は、物理的なビジネス拠点で訪問者とつながり、連携できるようにするマルチチャネルエンゲージメントプラットフォームです。小売、製造、サービス業、医療、教育、金融など、さまざまな業種のビジネスを対象としています。Cisco Spaces は、施設内の資産を監視および管理するためのソリューションも提供します。Cisco Spaces は、これらの情報を実行に移すためのさまざまなツールキット、アプリ、および API を提供します。

このリリースの主な機能は次のとおりです。

- 従業員やその他のリソースに関する役立つ情報を得るための、Workspaces の行動メトリクス。
- Cisco CMX テザリングの AP 同期サポート。
- エンタープライズ キャプティブ ポータルのサポート (ランタイム)。
- サブスクリイバー管理 (ランタイム) のリセット API のセキュリティが強化されました。
- 適切なナビゲーション (ランタイム) を持つ視覚障がい者向けのアクセシビリティサポート。

リリース 1.3 の新機能

Cisco Spaces ダッシュボード

Cisco Spaces ダッシュボードに、次の新機能が追加されました。

[Workspaces] 分野 (行動メトリクス)

行動メトリクス機能は、新しい分野「Workspace」を提供できるようになりました。Workspace 分野を使用すると、従業員や、オフィス敷地内の訪問者などのその他のリソースに関する情報を得ることができます。

Workspace の行動メトリクスセクションは、他の分野とは異なります。次の情報が含まれます。

コア指標

就業時間：従業員の就業時間。

Workday Presence：従業員が施設内で費やした就業日の割合。

Workday Density：ワークスペース内の従業員の密度。

Occupany Rate：規定工数に対する実工数の割合。

上記のすべてのタイプのレポートでは、ロケーション全体のデータと主要な場所のデータを含む個別のグラフが提供されます。

診断

入社時間：従業員の平均入社時間。ロケーション全体および主要なロケーションでの入社時間の傾向が表示されます。

退社時間：従業員の平均退社時間。ロケーション全体および主要なロケーションでの退出時間の傾向が表示されます。

入社時間分布：さまざまな入社時間範囲に該当する従業員の数。

退社時間の分布：さまざまな退社時間範囲に該当する従業員の数。

従業員の滞在 (時間別)：1 日のさまざまな時間帯にその拠点に滞在する従業員の数。

訪問者の滞在 (時間別)：1 日のさまざまな時間帯にその拠点に滞在する訪問者の数。

従業員の滞在 (曜日)：週のさまざまな曜日にその拠点に滞在する従業員の数。

訪問者の滞在 (曜日)：週のさまざまな曜日にその拠点に滞在する訪問者の数。

訪問者指数 (訪問者数)：従業員の割合としての訪問者。ロケーション全体の訪問者インデックスと、主要なロケーションの訪問者インデックスについて、個別のグラフが表示されます。

CMX テザリングの AP 同期サポート

Cisco Spaces ネットワーク同期サーバーは、CMX テザリングの AP 同期をサポートするようになりました。CMX テザリング ([Add a Wireless Network] オプションで [CMX On Prem] を使用) の場合、Cisco Prime で AP に加えられた変更は、Cisco Spaces のロケーション階層で更新されるようになりました。AP の変更を同期するには、次のいずれかを実行します。

- Cisco CMX On-Prem で、[SYSTEM] をクリックします。表示されるダッシュボードで、[Settings] > [Controllers and Maps Setup] > [Import] を選択します。表示されるウィンドウで、Cisco Prime のユーザー名、パスワード、および IP アドレスを入力します。次に [Import Controllers and Maps] をクリックして、最新のマップ変更を取得します。[Save] をクリックします。

- Cisco Prime から更新されたマップをダウンロードし、Cisco CMX On-Prem にアップロードします。
- Cisco Prime から更新されたマップをダウンロードし、Cisco Spaces の [Map Services] にアップロードします。

Cisco Spaces ランタイム

Cisco Spaces ランタイムに、次の新機能が追加されました。

エンタープライズ キャプティブ ポータルに対応するようになりました。

Cisco Spaces はエンタープライズ キャプティブ ポータルに対応するようになりました。このサポートにより、Wi-Fi に接続されているデバイスで、外部で開発されたキャプティブポータル（Cisco Spaces を使用して開発されたものではない）を使用できるようになります。現在、この機能はダッシュボードでサポートされていません。エンタープライズ キャプティブ ポータルを設定するには、Cisco Spaces サポートチームに連絡する必要があります。

リリース 1.3 の機能強化

Cisco Spaces ランタイム

Cisco Spaces ランタイムに次の変更が加えられました。

Subscriber API のリセット

Cisco Spaces の顧客がサブスクリバを削除できるようにする Reset Subscriber API は、より安全になりました。Reset API では、顧客名は顧客コードに置き換えられ、サブスクリバの詳細の外部操作を回避します。顧客コードは、内部 API を使用して生成できます。



(注) お客様コードがテナント ID、お客様 ID とは異なります。

視覚障がい者向けのアクセシビリティ

Cisco Spaces の機能が強化され、視覚障がいを持つ人々がキャプティブポータルとオンボーディングプロセスに完全にアクセスできるようになりました。キャプティブポータルの Web コンテンツ、およびオンボーディングプロセス中のナビゲーションでは、視覚障がい者のアクセシビリティをサポートするようになりました。

不具合

不具合では、Cisco Spaces アプリケーションでの予期しない動作について説明します。「解決済みの不具合」と「未解決の不具合」では、このリリースの不具合を示します。

各不具合について、次の情報が提供されます。

- 識別子：各不具合には、一意の識別子（ID）が割り当てられます。識別子は CSCxxNNNN というパターンで、*x* は任意の文字（a～z）、*N* は任意の数字（0～9）です。これらの ID は、セキュリティアドバイザリ、フィールド通知、その他のシスコのサポートドキュメントなど、シスコのマニュアルでよく使用されます。Technical Assistance Center（TAC）エンジニアまたはその他のシスコのスタッフからも、特定の不具合の ID が提供されます。
- 説明：不具合が発生したときに観察された内容の説明。

ここでは、次の内容について説明します。

シスコバグ検索ツール

シスコバグ検索ツール（BST）は、シスコ製品とソフトウェアの障害と脆弱性の包括的なリストを管理するシスコバグ追跡システムへのゲートウェイです。BST は、製品とソフトウェアに関する詳細な障害情報を提供します。

未解決のバグ：リリース 1.3

表 67: 未解決のバグ

CDETS ID 番号	説明
CSCvp46851	散布図にカーソルを置くと、ツールチップに複数のポインターがあった。
CSCvo00172	累積統計：ロケーション数と AP 数が一致しない
CSCvo19097	ロケーションを削除した後、訪問者、Locupdate、および訪問データが N/A と表示される

修正されたバグ：リリース 1.3

このリリースで修正されたバグはありません。



第 50 章

1.2

- [Cisco Spaces の概要 \(239 ページ\)](#)
- [リリース 1.2 の新機能 \(240 ページ\)](#)
- [リリース 1.2 の機能強化 \(241 ページ\)](#)
- [不具合 \(242 ページ\)](#)

Cisco Spaces の概要

Cisco Spaces は、物理的なビジネス拠点で訪問者とつながり、連携できるようにするマルチチャネルエンゲージメントプラットフォームです。小売、製造、サービス業、医療、教育、金融、エンタープライズワークスペースなど、さまざまな業種のビジネスを対象としています。Cisco Spaces は、施設内の資産を監視および管理するためのソリューションも提供します。Cisco Spaces は、これらの情報を実行に移すためのさまざまなツールキット、アプリ、および API を提供します。

このリリースの主な機能は次のとおりです。

- ワイヤレスネットワークを簡単に接続および設定するための新しいセットアップ機能が追加されました。
- Cisco Spaces コネクタと CMX テザリングの設定プロセスを更新しました。
- 分離されたコアメトリックと診断メトリックを備えた行動メトリクス。
- デバイスプロパティによる強化されたソフト SMS 指紋検証。
- ネットワークロケーションを Cisco Spaces ロケーション階層にインポートできるように、Cisco Meraki で自動更新通知 URL をプロビジョニングしました。
- アカウントのロックを回避するために、ネットワーク同期中に Cisco Meraki への無効なログイン試行を制限しました。

リリース 1.2 の新機能

Cisco Spaces ダッシュボードに、次の新機能が追加されました。

設定

Cisco Spaces とワイヤレスネットワーク間の接続を容易にし、ワイヤレスネットワークに必要な設定を行うために、Cisco Spaces は新しいセットアップ（セットアップ v2）フローを提供するようになりました。新しいセットアップには、Cisco Spaces を Cisco AireOS または Cisco Meraki に接続するためのプロビジョニングがあります。選択したワイヤレスネットワークに基づいて、特定のネットワークに接続できるさまざまな方法が表示されます。特定の方法を選択すると、その方法で接続するための手順が構成手順とともに表示されます。

Cisco Spaces ダッシュボードで、[Setup]>[Wireless Network] を選択すると、[Connect your wireless Network] ウィンドウで、新しいボタン [Add New] が表示されます。このボタンを使用して、特定の方法の構成手順を取得できます。たとえば、Cisco Spaces コネクタを使用して Cisco Spaces を Cisco AireOS に接続するとします。そのためには、[Add New] ボタンをクリックし、[Cisco AireOS/Catalyst] の [Select] をクリックします。次に、[Via Spaces Connector] の [Select] をクリックします。この方法を使用するための前提条件が表示されます。[Customize Setup] をクリックします。[Connect your wireless network] ウィンドウで新しいバー [Connect via Spaces Connector] が表示されるようになりました。バーの右端にあるドロップ矢印をクリックして、この方法の構成手順を表示します。[Create a new token]、[Add Controllers]、[Import Controllers] などの構成に必要なステップは、対応するステップで利用できます。

Cisco Spaces コネクタと CMX テザリング

[Cisco Spaces] ダッシュボードでは、[CMX Connector] と [Spaces Connector] のオプションは、[Setup] で直接使用できなくなりました。コネクタを設定するための新しいオプション [Wireless Networks] が [Setup] に追加されました。

[Connect your wireless network] ウィンドウの [Add New] ボタンを使用すると、[Cisco Spaces Connector] および [CMX Tethering] の構成手順を表示できます。

追加すると、選択したワイヤレスネットワークと方法に対応するバーが [Connect your wireless Network] ウィンドウに表示されます。[Cisco Spaces Connector] の場合、[Connect via Spaces Connector] バーが表示されます。構成手順のステップ 2 で提供された [Create a new token] を使用してトークンを作成でき、ステップ 3 で提供された [Add Controllers] を使用してワイヤレスコントローラを追加できます。その後、ステップ 4 で提供された [Import Controllers] を使用してワイヤレスコントローラをインポートできます。

CMX テザリングの場合、[Connect via CMX Tethering] バーが表示されます。ステップ 2 で提供された [Create New Token] を使用してトークンを作成でき、Cisco CMX でトークンを設定した後、ステップ 3 で提供された [Add CMX] を使用して Cisco CMX ノードをロケーション階層に追加できます。

行動メトリクス

行動メトリクス機能が強化され、コアメトリクスと影響要因を個別に表示するようになりました。現在表示されているレポートタブは、[Behavior Metrics]、[WiFi Adoption]、および [Right Now] です。[Business Metrics] タブの名前が [Behavior Metrics] に変更されました。ウィンドウの左端に表示されていたレポートタブが、ウィンドウの上部に表示されるようになりました。デフォルトでは、[Behavior Metrics] レポートタブが表示されるようになりました。

[Behavior Metrics] タブには、次のセクションが含まれます。

パフォーマンスベンチマーク：ピアに関連するコアメトリクスのパフォーマンス

このセクションには、ロケーション間の訪問時間、主要なロケーションへの訪問時間、サブブランドの訪問時間、ロケーション間の訪問頻度とともに訪問時間の分布、主要なロケーションへの訪問頻度、サブブランドの訪問頻度、および訪問頻度の分布が表示されます。

診断：コアメトリクスに影響を与える要因、またはコアメトリクスの影響を受ける要因

このセクションには、訪問数による訪問期間、ロケーション全体のリピーター訪問者と訪問の最新性、主要なロケーションのリピーター訪問者と訪問の最新性、サブブランドのリピーター訪問者と訪問の最新性に関するグラフが表示されます。また、時間帯別訪問分布と曜日別訪問分布が表示されます。店舗の規模と訪問時間、店舗の規模と訪問回数など、店舗の規模が訪問に与える影響を示すグラフも表示されます。

ネットワークロケーションのインポート中の自動更新通知 URL

ワイヤレスネットワークが Cisco Meraki の場合、Meraki ネットワークロケーションをロケーション階層にインポートすると、通知 URL が Cisco Meraki で自動的に設定されるようになりました。以前は、ロケーションの更新のために Cisco Meraki で通知 URL を手動で設定する必要がありますがありました。



(注) このサポートは、Meraki API キーを使用して追加された Meraki ネットワークには適用されません。

リリース 1.2 の機能強化

このリリースでは、Cisco Spaces に次の機能強化が加えられました。

Cisco Spaces ダッシュボード

Cisco Spaces ダッシュボードに次の変更が加えられました。

行動メトリクス

[Behavior Metrics] タブのリピーターチャートでは、ツールヒントが更新されました。

Meraki の無効なログイン試行に対する制限

Cisco Spaces がネットワーク同期のために Cisco Meraki に自動的に接続する場合、偽のログイン情報によるログイン試行は 1 回に制限されるようになりました。特定の Meraki アカウントの認証情報に変更が加えられた場合、ログインの試行は通常失敗します。この機能強化により、誤ったログイン試行が原因で Cisco Meraki アカウントがロックされるのを回避できます。

Cisco Spaces ランタイム

Cisco Spaces ランタイムに次の変更が加えられました。

Soft SMS 指紋認証

Soft SMS 指紋認証をより安全にするために、携帯電話番号のみに基づく認証プロセスが拡張され、ブラウザプロパティとして使用できる「ハードウェアの同時実行性」や「deviceMemory」などのデバイスプロパティが含まれるようになりました。そのため、認証要求が開始されたデバイスとは異なるデバイスから指紋認証が行われた場合、顧客は指紋認証を完了するために確認を求められます。

不具合

不具合では、Cisco Spaces アプリケーションでの予期しない動作について説明します。「解決済みの不具合」と「未解決の不具合」では、このリリースの不具合を示します。

各不具合について、次の情報が提供されます。

- 識別子：各不具合には、一意の識別子 (ID) が割り当てられます。識別子は CSCxxNNNN というパターンで、*x* は任意の文字 (a ~ z)、*N* は任意の数字 (0 ~ 9) です。これらの ID は、セキュリティアドバイザリ、フィールド通知、その他のシスコのサポートドキュメントなど、シスコのマニュアルでよく使用されます。Technical Assistance Center (TAC) エンジニアまたはその他のシスコのスタッフからも、特定の不具合の ID が提供されます。
- 説明：不具合が発生したときに観察された内容の説明。

ここでは、次の内容について説明します。

シスコバグ検索ツール

[シスコバグ検索ツール](#) (BST) は、シスコ製品とソフトウェアの障害と脆弱性の包括的なリストを管理するシスコバグ追跡システムへのゲートウェイです。BST は、製品とソフトウェアに関する詳細な障害情報を提供します。

未解決のバグ：リリース 1.2

表 68: 未解決のバグ

CDETS ID 番号	説明
CSCvp46851	散布図にカーソルを置くと、ツールチップに複数のポインターがあった。
CSCvo00172	累積統計：ロケーション数と AP 数が一致しない
CSCvo19097	ロケーションを削除した後、訪問者、Locupdate、および訪問データが N/A と表示される

修正されたバグ：リリース 1.2

表 69: 修正されたバグ

CDETS ID 番号	説明
CSCvo05264	ロケーション階層とネットワーク設定ページでワイヤレスネットワーク名が異なって表示される



第 51 章

1.1

- [Cisco Spaces の概要 \(245 ページ\)](#)
- [リリース 1.1 の新機能 \(245 ページ\)](#)
- [リリース 1.1 の機能強化 \(247 ページ\)](#)
- [不具合 \(248 ページ\)](#)

Cisco Spaces の概要

Cisco Spaces は、物理的なビジネス拠点で訪問者をつながり、連携できるようにするマルチチャネルエンゲージメントプラットフォームです。小売、製造、サービス業、医療、教育、金融、エンタープライズワークスペースなど、さまざまな業種のビジネスを対象としています。Cisco Spaces は、施設内の資産を監視および管理するためのソリューションも提供します。Cisco Spaces は、ビジネス向けの情報を提供し、これらの情報を実行に移すためのさまざまなツールキット、アプリ、および API を提供します。

このリリースの主な機能は次のとおりです。

- Cisco Spaces と統合された複数のアプリを使用しているお客様向けに、Cisco Spaces へのアクセスを自動プロビジョニングします。
- 行動メトリクスレポートの業界、国、州、および支店のベンチマーク。
- ネットワークロケーションの地理的詳細の表示。
- Cisco Spaces ダッシュボードの Operational Insights、Location SDK、BLE Manager などの統合アプリへの自動ログインのプロビジョニング。
- [Team] オプションの新しい Cisco Spaces ユーザーロール、インストーラ。
- パスワード更新通知を送信できるようにするためのプロビジョニング。

リリース 1.1 の新機能

Cisco Spaces ダッシュボードに、次の新機能が追加されました。

Cisco Spaces への自動プロビジョニングアクセス

お客様が Cisco Spaces に統合された複数のアプリにアクセスしている場合、そのお客様は Cisco Spaces ダッシュボードへのアクセスが自動プロビジョニングされます。このようなお客様は、所有するアプリに使用されているのと同じログイン情報を使用して、Cisco Spaces ダッシュボードにログインできます。

Cisco Spaces と統合されているアプリは次のとおりです。

- Operation Insights
- BLE Manager
- ロケーション分析
- ロケーション SDK
- 検出と位置特定

これらのアプリの内の1つにしかアクセスできない場合、そのアプリのログイン情報を使用して Cisco Spaces にログインしようとする、その特定のアプリのダッシュボードにリダイレクトされます。

行動メトリクスのベンチマーク

[Behavior Metrics] オプションで、レポートに業界、国、州、ブランドのベンチマークを表示できるようになりました。ロケーションのメタデータを定義することにより、国、州、およびブランドのベンチマークの下のロケーションにタグ付けできます。

[Industry Benchmark]：企業が属する業界の平均値を表示します。たとえば、小売業の場合、訪問時間の分布グラフには、小売業の平均訪問時間が表示されます。業界ベンチマークの平均値は、Cisco Spaces をインストールした他のクライアントから取得したデータに限定されています。

[Country Benchmark]：特定の国でタグ付けされたロケーションの平均値を表示します。たとえば、タグとして「米国」を選択すると、平均訪問時間グラフには米国に対応するバーが表示されます。これは、米国でタグ付けされたすべてのロケーションの平均訪問時間です。国タグに関連付けられたロケーションの総数も表示されます。特定の国のタグの下にあるロケーションが他のタグに関連付けられている場合、平均訪問時間などの一部のグラフでは、そのタグの平均値も表示されます。

[State Benchmark]：特定の州でタグ付けされたロケーションの平均値を表示します。[state] タグを選択すると、一部のレポートでは2つのバーが追加でグラフに表示されます。1つは州名と共に平均値を表示し、もう1つは州内のロケーションの総数と平均値を表示します。たとえば、平均訪問時間のグラフなどです。

[Brand Benchmark]：ブランド名の平均値を表示します。ブランド名は、特定の州のロケーションのメタデータとしてのみ使用できます。ブランドを選択すると、平均訪問時間などの一部のグラフでは、ブランドがタグ付けされている州の平均値も表示されます。



- (注)
- 国、州、ブランドのベンチマークは、特定の顧客のデータに基づいて表示されます。
 - ブランドのレポートをフィルタリングする場合、そのブランドに関連付けられていない州名をフィルタリングしないでください。
 - 2つのブランドのレポートを同時にフィルタリングしないでください。

ネットワークロケーションの地理的位置

ネットワークロケーションについては、国、州、都市、住所など、そのロケーションの地理的な詳細が Cisco Spaces ダッシュボードに表示されるようになりました。地理的な場所の詳細は、ネットワークの同期中に取得されます。最初の AP の地理的な詳細は、ネットワークロケーションとして考慮されます。

[Location Hierarchy] ウィンドウのネットワークロケーションの [More Actions] メニューで、[Locations Info] オプションをクリックすると、そのネットワークロケーションの地理ロケーションの詳細が表示されます。この情報は、ネットワークレベルにおけるロケーションについてのみ表示されます。



- (注) これは、Cisco Meraki で Cisco Spaces を使用している場合にのみ適用されます。

リリース 1.1 の機能強化

Cisco Spaces ダッシュボードに次の変更が加えられました。

アプリへの自動ログイン

Cisco Spaces では、Cisco Spaces ダッシュボードで使用可能な次のアプリへの自動ログインに対応するようになりました。

- Operation Insights
- ロケーション SDK
- 検出と位置特定

インストララ ロール

新しい Cisco Spaces のユーザーロールであるインストララが、[Team] オプションで利用できるようになりました。

このロールのユーザーは、次の Cisco Spaces の基本機能にのみアクセスできます。

- 設定

- SSID
- コネクタ
- 無線ネットワーク
- 行動メトリクス

パスワードの有効期限切れの通知

Cisco Spaces では、パスワードの有効期限を顧客に通知するように機能強化されました。Cisco Spaces ダッシュボードにログインすると、パスワードの有効期限が 10 日先の場合、パスワードが期限切れになることを示すダイアログボックスが表示されます。ダイアログボックスには、[Change Password] ボタンと [Do it later] ボタンが含まれています。[Change Password] ボタンをクリックすると、[Change Password] ウィンドウにリダイレクトされます。パスワードを変更するには、古いパスワードと新しいパスワードを入力する必要があります。

不具合

不具合では、Cisco Spaces アプリケーションでの予期しない動作について説明します。「解決済みの不具合」と「未解決の不具合」では、このリリースの不具合を示します。

各不具合について、次の情報が提供されます。

- 識別子：各不具合には、一意の識別子（ID）が割り当てられます。識別子は CSCxxNNNN というパターンで、*x* は任意の文字（a～z）、*N* は任意の数字（0～9）です。これらの ID は、セキュリティアドバイザリ、フィールド通知、その他のシスコのサポートドキュメントなど、シスコのマニュアルでよく使用されます。Technical Assistance Center（TAC）エンジニアまたはその他のシスコのスタッフからも、特定の不具合の ID が提供されます。
- 説明：不具合が発生したときに観察された内容の説明。

ここでは、次の内容について説明します。

シスコバグ検索ツール

シスコバグ検索ツール（BST）は、シスコ製品とソフトウェアの障害と脆弱性の包括的なリストを管理するシスコバグ追跡システムへのゲートウェイです。BST は、製品とソフトウェアに関する詳細な障害情報を提供します。

未解決のバグ：リリース 1.1

表 70: 未解決のバグ

CDETS ID 番号	説明
CSCvo19097	<p>ロケーションがロケーション階層から削除または変更された場合、訪問者数、訪問回数、およびロケーションの更新数における変更は、[Digitization Stats] セクションでは更新されません。ロケーション名とロケーション数は [Right Now] レポートでも更新されません。たとえば、[Right Now] レポートに表示される上位の場所が影響を受けます。</p>
CSCvo05264	<p>次の 2 つのウィンドウにリストされているネットワークタイプは一致しておらず、混乱を招く可能性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco Spaces ダッシュボードで、[Location Hierarchy] を選択し、ルートロケーションの [More Actions] アイコンをクリックして、[Add a Wireless Network] をクリックします。表示される [Add a Wireless Network] ウィンドウで、ネットワークの種類が [Add a Wireless Network] ドロップダウンリストに表示されます。 • Cisco Spaces ダッシュボードで、[Setup] > [Wireless Networks] を選択し、[Get Started] ボタンをクリックしてから、ルートロケーションの右端にあるアイコンをクリックします。ネットワークの種類は、[Network Setup] ウィンドウに一覧表示されます。 <p>理想的には、ネットワークタイプはウィンドウ全体で一貫している必要があります。</p>
CSCvo19301	<p>[Wireless Network] ウィンドウの [Deployment Prerequisites] 領域で、さまざまなワイヤレスネットワークの指示へのリンクが正しく配置されています。</p>
CSCvo00172	<p>ロケーション階層に新しく追加されたロケーションは、[Digitization Stats] セクションですぐには更新されません。そのため、[Location Hierarchy] ウィンドウと [Digitization Status] セクションのロケーションカウントが一致しません。</p> <p>同様に、AP の場合もカウントが一致しません。</p>

修正されたバグ：リリース 1.1

表 71: 修正されたバグ

CDETS ID 番号	説明
CSCvp11522	<p>Cisco Spaces のユーザーインターフェイスには、次の変更が加えられました。</p> <ul style="list-style-type: none"> • すべての製品において DNA Spaces を Cisco Spaces に名前変更しました。 • Cisco Spaces のユーザー招待メール <ul style="list-style-type: none"> • [About DNA Spaces] リンクを削除しました。 • [Product Updates] リンクを削除しました。 • 著作権年を更新しました。 • ログインページ <ul style="list-style-type: none"> • [Product Updates] リンクを削除しました。 • [Learn More] リンクを更新しました。 • ホームページ <ul style="list-style-type: none"> • [Active APs] ウィンドウの [Close] ボタンを削除しました。 • BLE Manager と検出と位置特定アプリのステータスを [Beta] に変更しました。 • エンゲージメントアプリ <ul style="list-style-type: none"> • [Via Cisco Webex Team] から [Via Cisco Webex Teams] に名前が変更されました。 • チーム (Team) <p>現在 Cisco Spaces でサポートされていない次のユーザーロールが削除されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Portal Designer • Location Manager • アクセスコードマネージャ • レポートニングアナリスト

CDETS ID 番号	説明
CSCvo49148	<p>Cisco Spaces では、アカウント管理者がどのような場合でも電子メール ID を指定してアカウントをアクティブ化できるようになりました。以前は、電子メール ID は大文字と小文字が区別され、別の大文字と小文字のいずれかの文字が言及されている場合、アクティブ化することができませんでした。</p> <p>また、Cisco Spaces ユーザーは、いつでも電子メール ID を指定してアカウントをアクティブ化できるようになりました。以前は、ユーザーを招待するためにアカウント管理者によって指定された電子メール ID は大文字と小文字が区別され、電子メール ID のいずれかの文字が別の大文字と小文字で言及されている場合、招待されたユーザーはアカウントをアクティブ化できませんでした。</p>
CSCvo09309	<p>行動メトリクスレポートのWiFi採用セクションでは、SSIDでクリックされたとインターネットプロビジョニング済みのカウントが同じ場合、概要セクションのラインバーが直線のバーとして表示されます。</p>
CSCvo31524	<p>Meraki のロケーションが Meraki API キーを使用してインポートされている場合、SSID をインポートした後、SSID の [Delete] ボタンが表示されませんでした。現在、そのような SSID に対して [Delete] ボタンが表示されています。</p>
CSCvo22915	<p>Cisco Spaces に追加された Cisco Spaces コネクタの名前を編集できるようになりました。以前は、[Edit] オプションで Cisco Spaces コネクタの名前を編集できませんでした。</p>
CSCvo59773	<p>[Wireless Networks] ウィンドウの [Deployment Prerequisites] の Cisco Spaces コネクタの設定手順で、OVA リンクが期待どおりに機能していませんでした。これで、リンクは適切な Web ページにリダイレクトされます。</p>

CDETS ID 番号	説明
CSCvp18798	<p>Cisco Spaces には、ナビゲーションに関する次の問題があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Team] ウィンドウで [Refresh] ボタンをクリックすると、カーソルは回転し続けますが、[Team] ウィンドウは表示されません。 • Cisco Spaces ダッシュボードから次のいずれかのアプリにアクセスし、前のウィンドウに移動すると、予期したウィンドウが表示されません。 <ul style="list-style-type: none"> • Operation Insights • BLE Manager • ロケーション分析 • ロケーション SDK • 検出と位置特定 <p>これでこれらのナビゲーションの問題は解決されました</p>
Cisco Spaces ランタイム	
CSCvo97772	<p>[Inline No Authentication] キャプティブポータルを編集して [Data Capture] フォームを追加した場合、既に認証を完了しているレポートユーザーは、キャプティブポータルをロードした後に先に進むことができませんでした。これで、新規ユーザーとレポートユーザーの両方が、データキャプチャフォームを表示するためにさらに進むことができます。</p>
CSCvp13861	<p>Cisco Spaces は、Internet Explorer 11.0 のキャプティブポータル認証をサポートするようになりました。以前は、ブラウザが Internet Explorer 11.0 の場合、キャプティブポータル認証は行われませんでした。</p>
CSCvn82672	<p>Cisco Spaces ログインに無効なログイン情報を入力した後、正しい入力情報を使用してログインしようとする、ログインできず、「Session Expired」というメッセージが表示されます。</p>
CSCvo17285	<p>Cisco Meraki の場合、[Wireless Network Status] ウィンドウで、ロケーションがロケーションロゴの近くに表示されるように左揃えされていません。</p>
CSCvo18918	<p>[Digitization Stats] セクションでは、訪問者の数、ロケーションの更新、訪問数が小数で表示されます。たとえば、96.0399999999 です。これは、合計カウントが 1000 未満の場合に発生します。</p>
CSCvo17280	<p>Cisco Meraki の場合、[Wireless Network Status] ウィンドウで、あるロケーションの [Expand-Collapse] ボタンをクリックした後、別のネットワークタブに移動してウィンドウに戻ると、[Expand-Collapse] ボタンは展開された状態が表示されますが、ロケーションは表示されません。</p>



第 52 章

1.0

- [Cisco Spaces の概要 \(253 ページ\)](#)
- [Cisco Spaces の機能 \(254 ページ\)](#)
- [不具合 \(262 ページ\)](#)

Cisco Spaces の概要

Cisco Spaces は、物理的なビジネス拠点で訪問者をつなぎ、連携できるようにするマルチチャネルエンゲージメントプラットフォームです。小売、製造、サービス業、医療、教育、金融、エンタープライズワークスペースなど、さまざまな業種のビジネスを対象としています。Cisco Spaces は、施設内の資産を監視および管理するためのソリューションも提供します。Cisco Spaces は、ビジネス向けの情報を提供し、これらの情報を実行に移すためのさまざまなツールキット、アプリ、および API を提供します。

このリリースの主な機能は次のとおりです。

- 訪問者の関与、アセット、およびリソースを管理するための共通プラットフォーム。
- 1 つの設定セクションですべてのプラットフォーム設定の完了が可能。
- SSID に接続している顧客へのプロモーションやオファーの表示をサポート。
- ルールを使用した、ロケーション、タグ、訪問頻度、滞在時間などに基づく、顧客に対する個別の、またはグループとしてのターゲティングをサポート。
- 複数のワイヤレスネットワークとの同時連携をサポート。
- ビジネスパフォーマンスを表示し、業界の同業他社のパフォーマンスと比較できるようにプロビジョニング。
- キャプティブポータルを作成し、ルールに基づいて顧客に表示するためのアプリ。
- 顧客がお客様の事業施設内にいるときに顧客に通知を送信するアプリ。
- 顧客がお客様の事業施設の近くにいるときに従業員に知らせるアプリ。
- 顧客をグループ化し、タグを作成するアプリ。

- Operational Insights にログインするためのアプリ。
- サードパーティのパートナーアプリを追加するためのプロビジョニング。
- ワイヤレスネットワークと同じ構造でのロケーション階層のインポートをサポート。
- さまざまな権限とロケーションアクセス権を持つ Cisco Spaces ユーザーを作成するためのプロビジョニング。
- Cisco Spaces とそのアプリおよび遅延のパフォーマンスステータスを監視するためのプロビジョニング。

Cisco Spaces の機能

Cisco Spaces は、次の機能で構成されています。

デジタル化に関する統計情報

Cisco Spaces ダッシュボードの [Home] ページでは、次の累積統計値がページの上部に表示されます。

- [Locations] : さまざまなワイヤレスネットワーク用に Cisco Spaces で設定されたネットワークロケーションの合計。
- [Access Points] : Cisco Spaces に追加された AP の総数。
- [Location Updates] : Cisco Spaces の導入日以降にワイヤレスネットワークから受信したロケーションアップデートの総数。
- [Square Foot] : Cisco Spaces が占有するビジネス拠点の総平方フィート面積。
- [Visitors] : Cisco Spaces の導入日以降、貴社のビジネス拠点を訪れたユニークビジターの総数。
- [Visits] : Cisco Spaces の導入日以降にビジネス拠点で発生した訪問の総数（ユニークビジターの繰り返しの訪問を含む）。

アプリ

Cisco Spaces は、キャプティブポータル作成、顧客への通知の送信、タグを使用した顧客のグループ化、アセットの監視、ビジネスパフォーマンスの評価など、さまざまなタスクを実行できるさまざまなタスク指向のアプリを提供します。

一般的な Cisco Spaces アプリは次のとおりです。

- 行動メトリクス
- キャプティブポータル
- エンゲージメント

- ロケーションペルソナ
- 運用に関するインサイト
- パートナーアプリ

行動メトリクス

行動メトリクスアプリを使用すると、ビジネスのパフォーマンスについての知見を提供するさまざまなレポートを表示できます。デフォルトでは、レポートには Cisco Spaces をインストールした日からのデータが含まれます。レポートは、アクセスできるすべてのロケーションについて表示されます。特定の場所と月のレポートを表示するようにフィルタ処理できます。タグに基づいてレポートをフィルタ処理することもできます。

Cisco Spaces のインストール後、最初のレポートが表示されるまでに 1 ヶ月かかります。この期間中、サンプルレポートを表示できます。この期間中に [My Data] オプションに切り替えることで、レポートがどのように構成されているかを確認することもできます。レポートの準備ができれば、通知が送信されます。

レポートから特定の場所を除外する場合は、ロケーション階層でその場所の [ExcludeOutlier] メタデータを定義します。ロケーションの [ExcludeOutlier] メタデータ値が [True] に設定されている場合、そのロケーションは、上位または下位 3 つのロケーションや重要なロケーションなどのベンチマークを定義するために考慮されません。また、平均訪問時間と平方フィートあたりの平均訪問時間を含む行動メトリクスのすべてのグラフから除外されます。[ExcludeOutlier] メタデータ値を将来の日付として設定することにより、レポートからロケーションを一時的に除外できます。その後、その場所は指定された日付までレポートに含まれません。

行動メトリクスアプリは、次の種類のレポートで構成されています。

- **[WiFi Adoption]** : このレポートは、ビジネス拠点での Wi-Fi 導入の指標を提供します。ビジネス拠点を訪れた訪問者数、Wi-Fi への接続を試みた訪問者数、および Wi-Fi に正常に接続できた訪問者数が表示されます。このレポートには、インテント率（接続を試みたデバイス数に対するアクセス総数の比率）、獲得率（接続を試みたデバイスと正常に接続されたデバイスの比率）、リピーター訪問者数、および AP 密度も表示されます。レポートには、1 日のさまざまな時間帯と曜日の Wi-Fi 接続分布が表示されます。
- **[Business Metrics (Retail Metrics)]** : このレポートは、訪問者が施設内で費やした時間、訪問頻度、日時および曜日別の訪問の分布、リピーター訪問者と新規訪問者の集中度、訪問期間のさまざまな範囲に属する訪問の割合、施設の面積と訪問者が費やした時間との相関関係などの情報を提供します。これらの情報により、ビジネスを分析し、適切なタイミングで顧客に連絡することができます。
- **[Right Now]** : Right Now レポートには、現在貴社のロケーションにいる訪問者の詳細が表示されます。このレポートには、現在の訪問者数と、新規訪問者と再訪問者の合計数が表示されます。また、現在の訪問者の性別比率、プロフィール、所属するタグ、訪問時間、および過去 30 日間の現在の訪問者による訪問回数も表示されます。現在の訪問者の位置別分布は、マップとリストビューで表示されます。

Right Now レポートのパスシブ期間は 10 分です。したがって、訪問者は、その訪問者のパスシブ期間が経過するまで、Right Now レポートに表示されます。たとえば、あるロケーションにいる訪問者が 1 階から 2 階に移動する場合、その訪問者は 1 階と 2 階の両方に表示されます。1 階の場合、訪問者数はパスシブ期間が終了した後にのみ更新されます。

キャプティブポータル

キャプティブポータルアプリを使用すると、キャプティブポータルを作成して表示できます。このアプリには次のオプションがあります。

- **[Portal]** : キャプティブポータルアプリの **[Portal]** オプションを使用すると、キャプティブポータルを作成できます。キャプティブポータルは、SSID に接続したときに顧客に表示されるユーザーインターフェイスです。このアプリは、ブランド名、会社のロゴ、アプリ、マップ、ビデオ、プロモーションなどのさまざまな機能をキャプティブポータルに追加するためのポータルモジュールを提供します。顧客モジュールをポータルに追加し、カスタムプロトコルを使用して URL にリンクすることもできます。さまざまなデバイスでキャプティブポータルをプレビューできます。必要に応じて、ポータルモジュールを並べ替えることができます。Cisco Spaces では、ポータルスタイルシートを編集し、画像などのアセットを追加して、それらをスタイルシートで使用することができます。キャプティブポータルでは、インターネットプロビジョニングの前にエンドユーザーが完了する必要がある必要な認証タイプを設定できます。Cisco Spaces は、さまざまな認証タイプのサンプル キャプティブポータルを提供しています。これらのサンプルポータルを使用して、要件に応じてカスタマイズできます。
- **[Captive Portal Rule]** : **[Captive Portal Rule]** オプションを使用すると、キャプティブポータルルールを作成できます。キャプティブポータルルールを使用して、次のタスクを実行できます。
 - キャプティブポータルの表示および SSID に接続している顧客のインターネットプロビジョニングを管理します。キャプティブポータルの表示、直接インターネットアクセスのプロビジョニング、またはキャプティブポータルルールを使用したインターネットアクセスの拒否を設定できます。
 - タグを作成するか、または既存のタグを変更します。
 - 外部 API へのキャプティブポータルにサインインする顧客の詳細を送信します。
- **[Reports]** : キャプティブポータルアプリは、次のタイプのレポートを提供します。
 - **[Device Onboarding]** : **[Device Onboarding]** レポートは、SSID に接続されたデバイスに関する情報を提供します。
 - **[Customer Acquisition]** : **[Customer Acquisition]** レポートは指定された期間中に選択したロケーションから新たに識別された固有の顧客と、識別された顧客から収集されたデータ（個人データおよび人口統計データ）に関する情報を提供します。
- **[SSID]** : キャプティブポータルアプリの **[SSID]** オプションを使用すると、ワイヤレスネットワークから SSID をインポートできます。**[Meraki Network Sync Status]** リンクには、各

Meraki ネットワークで最後に同期が行われた時刻と、次の同期の所要時間が表示されます。

- [Settings] : [Settings] オプションでは、アプリや SMS ゲートウェイなどの Cisco Spaces サポート機能を設定できます。
 - [SMS] : このセクションでは、SMS 認証および SMS 通知用の SMS ゲートウェイを設定できます。
 - [Social Apps] : このセクションでは、ソーシャル認証用のソーシャルアプリを設定できます。Facebook、Linked In および Twitter のアプリケーションを設定できます。

エンゲージメント

Cisco Spaces は、Cisco Spaces に対応した施設内にいる顧客を識別する WiFi ビーコンとして機能可能であり、定義されたエンゲージメントルールに基づいて顧客とビジネスユーザーに通知を送信できます。

エンゲージメントアプリを使用すると、顧客が事業所の近くにいるときに顧客に通知を送信するためのエンゲージメントルールを簡単に作成できます。顧客は、以前にビジネス施設から購入したユーザー、見込み購入者、または Wi-Fi に少なくとも 1 回接続したことがある訪問者です。また、従業員などのビジネスユーザーまたは API エンドポイントに対して通知を送信するようにエンゲージメントルールを設定することもできます。たとえば、カスタマーケア担当者が顧客に付加価値サービスを提供できるように、権限のある顧客が構内に入るとカスタマーケア担当者に通知するエンゲージメントルールを設定できます。

エンゲージメントルールごとに、その特定のルールのパフォーマンスを表示するレポートを表示できます。

顧客の Wi-Fi への接続、または BLE ビーコンへの接近に基づいて通知を送信するように設定できます。

次のモードを使用して、顧客に通知を送信できます。

- SMS
- 電子メール
- アプリの通知
- Bluetooth Low Energy (BLE) 通知

次のモードを使用して、従業員に通知を送信できます。

- Cisco Webex Teams
- SMS
- 電子メール
- トリガー API

ロケーションペルソナ

ロケーションペルソナアプリを使用すると、顧客のグループでタグを作成できます。タグを使用して類似の顧客を分類でき、これらのタグを [Captive Portal Rule] などのルールで使用して、顧客のグループにルールを適用できます。複数のタグの下に顧客をグループ化できます。

タグを作成するだけでなく、ロケーションペルソナアプリを使用して、既存のタグに顧客を追加したり、既存のタグから特定の顧客を削除したりできます。

タグを作成するときに、既存のタグを使用して、選択したロケーションの顧客をフィルタリングできます。たとえば、ロケーション A とロケーション B のタグを作成するときに Android ユーザに限定したい場合、iOS のタグを削除するタグフィルタを使用できます。

ロケーションペルソナルールごとに、その特定のルールのパフォーマンスを表示するレポートを表示できます。

運用に関するインサイト

Operational Insights アプリにより、アセットの監視、およびアセット、センサー、アラートシステム、および運用ワークフローのパフォーマンス最適化が可能になります。このアプリでは、タグとセンサーが一定量提供され、接続運用を継続的に統合、監視、および管理できます。クラウドベースのインターフェースを使用して、各資産のプロファイル、カテゴリ、および所有者を定義できます。ビジネスルールを確立して、資産とセンサーのワークフローおよび求められる動作範囲を定義できます。**Operational Insights** アプリは、**Advanced** ライセンスパッケージを持つ Cisco Spaces のお客様が利用できます。

パートナーアプリ

Cisco Spaces Partner App Center を使用すると、パートナーは Cisco Spaces によってキャプチャされたデータを使用して Cisco Spaces を拡張し、独自の製品とソリューションを構築できます。Cisco Spaces パートナーは、Cisco Spaces Partner App Center でアプリケーションを利用できるようにすることができます。Cisco Spaces と統合されたパートナーアプリは、Cisco Spaces ダッシュボードの [Partner Apps] エリアに表示されます。

ロケーション階層

[Location Hierarchy] オプションを使用して、Cisco Spaces でビジネスロケーションを定義できます。ワイヤレスネットワークでロケーションが定義されている構造と同じ構造でロケーションをインポートできます。**エンゲージメント**、**キャプティブポータル**、**ロケーションペルソナ**などのアプリは、定義されたロケーション階層によって異なります。Cisco Spaces はユニバーサルアカウントを提供しており、複数のワイヤレスネットワークのロケーションをロケーション階層に追加できます。

Cisco Spaces のお客様にはそれぞれデフォルトのお客様名（ルート名）が提供され、このお客様名は Cisco Spaces ロケーション階層のルートロケーションとして機能します。

Cisco Meraki ネットワークのロケーション階層は、次の順序になります。

1. Meraki 組織
2. ネットワーク

3. フロアー
4. アクセス ポイント

Cisco CMX を使用した Cisco Unified Wireless Network のロケーション階層は、次の順序になります。

1. CMX ノード
2. キャンパス
3. ネットワーク
4. フロアー
5. アクセス ポイント

シスコワイヤレスコントローラを使用した Cisco Unified Wireless Network (Cisco CMX をインストールしていない) のロケーション階層は次のとおりです。

このワイヤレスネットワークを使用すると、その下にネットワークを持つ Cisco ワイヤレスコントローラをインポートできます。ネットワークは、同様の命名規則の AP を使用して作成されます。Cisco Wireless Controller のインポート時に選択されなかったネットワークの AP、およびどのネットワークにもグループ化されていない AP は、[未設定]として分類されます。ロケーション階層では、このワイヤレスネットワークのゾーンを作成できます。

さらに、ロケーション階層では、ロケーションのグループを作成できます。メタデータを使用してロケーションをグループ化することもできます。Cisco Spaces ルールでこれらのグループとメタデータを使用して、グループ内のすべてのロケーションに同じルールを適用するか、同じメタデータで同じルールを適用できます。また、場所ごとに、名前、住所、都市、州、国などの地理的位置情報を追加することもできます。

ロケーション階層内でロケーション数、アクセスポイント数、BLE ビーコン数、近接ルール数、および任意のロケーションのユーザー数を表示できます。各場所のこれらのカウントは、その特定の場所に対して累積的に表示されます。

ロケーション階層に追加できる AP は、保有する Cisco Spaces ライセンスのタイプによって異なります。

モニタリングとサポート

[Monitoring] オプションでは、Cisco Spaces とそのアプリのパフォーマンスステータスを監視できます。すべてのロケーションが接続されているかどうか、過去 60 日間に停止されたロケーションの更新数、パートナーシップとエンタープライズ統合の詳細、Cisco Spaces アプリ、パートナーアプリ、エンタープライズアプリを含むすべてのタイプのアプリのステータスなどの詳細が表示されます。また、さまざまな Cisco Spaces の遅延と異常のステータスも表示されます。

[Support] オプションを使用すると、顧客が提起したチケットを管理できます。Freshdesk で発生したチケットを Cisco Spaces の [Support] ウィンドウに取得できます。

チーム

[Team] オプションを使用すると、Cisco Spaces ユーザーを作成できます。各ユーザーの権限とロケーションをロールに基づいて制限できます。

Cisco Spaces は、Cisco Spaces ユーザーに次のタイプの権限を提供します。

- [Account Admin] : このユーザーには、Cisco Spaces ダッシュボードでの完全な管理権限があります。
- [Admin] : このユーザーには、特定のロケーションのユーザーの管理を除くすべての権限が付与されています。たとえば、管理者ユーザーは、Cisco Spaces に参加するようユーザーを招待できません。
- [Portal Designer] : このユーザーには、ポータル上の Cisco Spaces のポータル機能へのアクセス権のみが付与されています。
- [AccessCode Manager] : このユーザーには、アクセス権が付与されているロケーションのアクセスコードを作成および管理するアクセス権のみが付与されています。
- [Location Manager] : このユーザーは、アクセス権が付与されているロケーションのポータル、ロケーションのメタデータ、およびレポートへのアクセス権のみが付与されています。ワイヤレスネットワークが CUWN の場合、このロールは適用されません。
- [Read Only Access] : このユーザーには、指定されたロケーションの Cisco Spaces ダッシュボードを表示するアクセス権のみが付与されています。つまり、このユーザーは Cisco Spaces の設定を編集できません。
- [Reporting Analyst] : このユーザーには、アクセス権が付与されているロケーションの Cisco Spaces レポートへのアクセス権のみが付与されています。



(注) このリリースでは、**アカウント管理者**と**管理者**権限のみが有効になっています。アカウント管理者ユーザーは、アカウントをアクティブ化するために利用規約に同意する必要があります。

設定

[Setup] オプションを使用すると、Cisco Spaces を使用するために必要なすべての基本的なセットアップを実行できます。

- 無線ネットワーク
- Cisco Spaces のコネクタ

無線ネットワーク

- [Status] : このセクションには、さまざまなアプリのアクティブステータスと、アクティブなアプリの割合が表示されます。ネットワークの総数も表示されます。

- [Wireless Networks] : このセクションの [Add New] ボタンを使用すると、Meraki や Cisco Unified Wireless Network などのワイヤレスネットワークを Cisco Spaces に追加できます。Cisco Spaces は、次のワイヤレスネットワークをサポートしています。
 - **Cisco Meraki** : このネットワークには [Cisco Meraki] オプションを使用できます。
 - **Cisco CMX と Cisco Unified Wireless Network** : このネットワークには [Cisco CUWN-CMX] オプションを使用できます。
 - **Cisco ワイヤレスコントローラを使用した Cisco Unified Wireless Network (Cisco CMX なし)** : このネットワークには [Cisco CUWN-WLC] オプションを使用できます。
Cisco ワイヤレスコントローラと Cisco Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラの両方が Cisco Unified Wireless Network でサポートされています。
複数のワイヤレス ネットワークを Cisco Spaces に追加できます。ただし、顧客アカウントの作成時に指定したワイヤレスネットワークがベースネットワークになります。
- [Deployment Prerequisites] : このセクションでは、Cisco Spaces とワイヤレスネットワーク間の接続を確立するための手順が記載された Cisco Spaces Setup Guide を提供します。Cisco Spaces の使用を開始する前に、これらのセットアップを完了して、Cisco Spaces とワイヤレスネットワーク間の通信を確立する必要があります。選択したワイヤレスネットワークに基づいて、そのネットワークの詳細な手順が表示されます。

Cisco Spaces のコネクタ

[Spaces Connector] オプションを使用すると、Cisco Spaces コネクタとそれに関連付けられたワイヤレスコントローラを追加できます。Cisco Spaces コネクタ機能により、Cisco Spaces は複数のワイヤレスコントローラと効率的に通信できます。また、Cisco Spaces コネクタ機能を使用すると、ワイヤレスコントローラは、クライアント情報を失うことなく、高強度のクライアントデータを Cisco Spaces に正確に送信できます。

ワイヤレス ネットワーク ステータス

[Wireless Network Status] オプションを使用すると、ワイヤレスネットワークの同期ステータスを表示できます。すべてのワイヤレスネットワークの各ネットワークロケーションの同期ステータスを表示できます。

CMX クラウドテザリング

CMX クラウドテザリング機能を使用すると、Cisco CMX でのロケーション更新設定を自動化できます。Cisco Spaces ダッシュボードでは、CMX テザリングのトークンを生成できます。次に、このトークンを Cisco CMX に追加して、通知とレポートに必要なロケーション更新設定を自動化できます。



(注) CMX テザリングは、Cisco CMX バージョン 10.6 以降でサポートされています。

ライセンス情報

[License Information] オプションには、Cisco Spaces ライセンスの詳細が表示されます。Cisco Spaces アカウント名、ライセンスタイプ、ライセンスの有効性、アクセスポイントの制限、および現在使用中のアクセスポイントの総数が表示されます。現在、Cisco Spaces には **Base** および **Advanced** ライセンスパッケージがあります。

不具合

不具合では、Cisco Spaces アプリケーションでの予期しない動作について説明します。「解決済みの不具合」と「未解決の不具合」では、このリリースの不具合を示します。

各不具合について、次の情報が提供されます。

- 識別子：各不具合には、一意の識別子（ID）が割り当てられます。識別子は CSCxxNNNN というパターンで、*x* は任意の文字（a～z）、*N* は任意の数字（0～9）です。これらの ID は、セキュリティアドバイザリ、フィールド通知、その他のシスコのサポートドキュメントなど、シスコのマニュアルでよく使用されます。Technical Assistance Center（TAC）エンジニアまたはその他のシスコのスタッフからも、特定の不具合の ID が提供されます。
- 説明：不具合が発生したときに観察された内容の説明。

ここでは、次の内容について説明します。

シスコバグ検索ツール

シスコバグ検索ツール（BST）は、シスコ製品とソフトウェアの障害と脆弱性の包括的なリストを管理するシスコバグ追跡システムへのゲートウェイです。BSTは、製品とソフトウェアに関する詳細な障害情報を提供します。

未解決のバグ：リリース 1.0

表 72: Cisco Spaces バージョン 1.0 で未解決のバグ

不具合 ID	説明
CSCvo17285	Cisco Meraki の場合、[Wireless Network Status] ウィンドウで、ロケーションがロケーションロゴの近くに表示されるように左揃えされていません。

不具合 ID	説明
CSCvo05264	<p>次の2つのウィンドウにリストされているネットワークタイプは一致しておらず、混乱を招く可能性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco Spaces ダッシュボードで、[Location Hierarchy] を選択し、ルートロケーションの [More Actions] アイコンをクリックして、[Add a Wireless Network] を選択します。表示される [Add a Wireless Network] ウィンドウで、ネットワークの種類が [Add a Wireless Network] ドロップダウンリストに表示されます。 • Cisco Spaces ダッシュボードで、[Setup] > [Wireless Networks] を選択し、[Get Started] ボタンをクリックしてから、ルートロケーションの右端にあるアイコンをクリックします。ネットワークの種類は、[Network Setup] ウィンドウに一覧表示されます。 <p>理想的には、ネットワークタイプはウィンドウ全体で一貫している必要があります。</p>
CSCvo19301	<p>[Wireless Network] ウィンドウの [Deployment Prerequisites] 領域で、さまざまなワイヤレスネットワークの指示へのリンクが正しく配置されていません。</p>
CSCvn82672	<p>Cisco Spaces ログインに無効なログイン情報を入力した後、正しい入力情報を使用してログインしようとする、ログインできず、「Session Expired」というメッセージが表示されます。</p>
CSCvo18918	<p>[Digitization Stats] セクションでは、訪問者の数、ロケーションの更新、訪問数が小数で表示されます。たとえば、96.03999999999999 です。これは、合計カウントが 1000 未満の場合に発生します。</p>

不具合 ID	説明
CSCvo00172	<p>ロケーション階層に新しく追加されたロケーションは、[Digitization Stats] セクションですぐには更新されません。そのため、[Location Hierarchy] ウィンドウと [Digitization Status] セクションのロケーションカウントが一致しません。</p> <p>同様に、AP の場合もカウントが一致しません。</p>
CSCvo17280	<p>Cisco Meraki の場合、[Wireless Network Status] ウィンドウで、あるロケーションの [Expand-Collapse] ボタンをクリックした後、別のネットワークタブに移動してウィンドウに戻ると、[Expand-Collapse] ボタンは展開された状態で表示されますが、ロケーションは表示されません。</p>
CSCvo09309	<p>[Business Metrics] レポートの [WiFi Adoption] オプションで、概要セクションのグラフが期待どおりに水平に表示されません。</p>



付録 **A**

サポート情報

- 関連資料 (265 ページ)
- 通信、サービス、およびその他の情報 (266 ページ)

関連資料

- Cisco Spaces のすべてのユーザーマニュアルは、<https://www.cisco.com/c/en/us/support/wireless/dna-spaces/series.html> [英語] で入手できます。
 - Cisco Spaces データシート
 - Cisco Spaces コンフィギュレーションガイド
 - Cisco Spaces : コネクタリリースノート
 - Guide to Migrating Location Services to Cisco Spaces
 - Cisco Spaces の他のシスコ製品との互換性
 - Cisco Wireless Solutions Software Compatibility Matrix
- 接続のタイプに応じた Cisco Spaces 機能の互換性については、『Cisco Spaces Data Sheet』の「Table 3. Feature compatibility depending on type of connection」を参照してください。
- Cisco Spaces See、Extend、および Act ライセンスに含まれる機能については、次の Web ページの「Table 5. Features included in Cisco Spaces See, Extend, and Act」を参照してください。
<https://www.cisco.com/c/en/us/products/collateral/wireless/dna-spaces/datasheet-c78-741786.html#PlatformArchitectureandfeatures>
- Cisco Spaces へのロケーションサービスの移行については、<https://www.cisco.com/c/en/us/solutions/collateral/enterprise-networks/dna-spaces/guide-c07-744932.html> を参照してください。
- Cisco Spaces と Cisco DNA Center の統合については、次の場所にある『Cisco Spaces Configuration Guide』の「Cisco DNA Center Integration」の章を参照してください。
https://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/solutions/Enterprise/Mobility/DNA-Spaces/cisco-dna-spaces-config/dnaspaces-configuration-guide/m_dnac.html

- Cisco Prime Infrastructure のすべてのユーザーマニュアルは、次の場所で入手できます。
<https://www.cisco.com/c/en/us/support/cloud-systems-management/prime-infrastructure/series.html>
- Cisco DNA Center のすべてのユーザーマニュアルは、次の場所で入手できます。
<https://www.cisco.com/c/en/us/support/cloud-systems-management/dna-center/series.html>
- Cisco Spaces のサポートについては、「サポート」を参照するか、Cisco Spaces のサポートチームにお問い合わせください。

通信、サービス、およびその他の情報

- シスコからタイムリーな関連情報を受け取るには、[Cisco Profile Manager](#) でサインアップしてください。
- 重要な技術によりビジネスに必要な影響を与えるには、[シスコサービス](#) にアクセスしてください。
- サービスリクエストを送信するには、[Cisco Support](#) にアクセスしてください。
- 安全で検証済みのエンタープライズクラスのアプリケーション、製品、ソリューション、およびサービスを探して参照するには、[Cisco DevNet \[英語\]](#) にアクセスしてください。
- 一般的なネットワーキング、トレーニング、認定関連の出版物を入手するには、[Cisco Press](#) にアクセスしてください。
- 特定の製品または製品ファミリの保証情報を探すには、[Cisco Warranty Finder](#) にアクセスしてください。

Cisco バグ検索ツール

[シスコバグ検索ツール \(BST\)](#) は、シスコ製品とソフトウェアの障害と脆弱性の包括的なリストを管理するシスコバグ追跡システムへのゲートウェイです。BSTは、製品とソフトウェアに関する詳細な障害情報を提供します。

マニュアルに関するフィードバック

シスコのテクニカルドキュメントに関するフィードバックを提供するには、それぞれのオンラインドキュメントの右側のペインにあるフィードバックフォームを使用してください。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。